

第6回

# CAMPUS LIFE

キャンパスライフ

大学院生生活実態調査報告書

# ま え が き

大学院学生実態調査も第6回となりました。この調査は、本学大学院生の生活実態や要望を調査することで、福利厚生等並びに修学指導における課題を把握し、本学における大学院教育全般の改善を図る目的で2年ごとに行われてきています。平成28年11月に7教育部の修士・博士前期及び博士・博士後期の学生全員（1,480人）にアンケート調査を実施しました（回収率60%）。その結果が纏まりましたので報告致します。

本報告書は、調査の概要、続いて調査項目①家族・住居・通学、②収入・支出、③健康状態、④学生生活上の問題点、⑤修学状況、⑥進路選択・就職について、総計80問の質問により調査（日本語と英語）し、各質問項目について分析結果とデータを示しています。更にこの調査から得られた各教育部の現状と課題並びに総括と提言を記載しております。

本調査からは、本学大学院生の生活の実態がよく分かります。例えば前期課程学生のほぼ半数がアルバイトをしていること、主な悩みは「就職や進路」、「勉強」であること、この悩み事を相談するのは友人や家族が多いこと、交通事故にも34%の大学院生が遭遇していること、指導教員とのコミュニケーションは「充分とれている」、「ある程度とれている」大学院生が84%、「あまりとれていない」、「全くとれていない」は16%であること、また海外渡航が少ない（70%は入学後なし）が国際学会での発表は修士で24%、博士で41%あることなど、これから本学の大学院教育の改善・改革を進める上で貴重なデータが得られています。

大学院教育に関して文部科学省は、平成17年度より「新時代の大学院教育」、平成23年度には、「グローバル化社会の大学院教育」を謳い、その充実と改革を進めてきています。本学については、各大学院教育部において、グローバル人材を育成するため、英語講義の開設や英語コース等の充実を図っています。

一方で教育システムの充実と同様に学生を取り巻く環境を整備することが、研究活動を支える必要条件と考えられます。グローバル化に伴い世界各国からの留学生も増加しており、大学には多様なサービスが求められる時代となっています。多くの言語文化を背景にする学生が集うことから各々への対応が必要です。また、社会人学生への支援の充実も欠かすことができません。大学院での学びには、奨学金などの経済的支援、就労支援等、生活基盤の安定が必要条件となり、学業に専念することが可能となります。

研究活動上の関わりでは教員に伝えられていないデータも含まれており、さらなる支援のための手がかりとして、活用していただければと存じます。

最後になりますが、本学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室の委員の先生方および学務部職員の方々には、アンケート項目の設定、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中精力的に遂行して頂き、早期に報告書を作成して頂きました。本年度の本調査に関われた教職員の皆様に深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただきました沢山の大学院生の皆様にもこの場を借りて深く感謝いたします。

平成29年3月

徳島大学理事（教育担当）

高石喜久

# 目 次

まえがき	1
<b>序 章 大学院生生活実態調査の概要</b>	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	5
6 回答票の回収状況	5
7 図中の％表示	5
8 前期課程・後期課程	5
9 教育部等の略語表示	5
附表 「平成28年度学生生活実態調査票」(日本人学生用)	8
附表 「2016 STUDENT LIFE SURVEY」(外国人留学生用)	16
<b>第1章 本調査の対象者について</b>	28
1-1 出身地	28
1-2 最終学歴	29
1-3 社会人大学院生と留学生	30
<b>第2章 家族・住居・通学について</b>	32
2-1 家庭の年間所得	32
2-2 住居区分	33
2-3 住居費	34
2-4 配偶者や子供の有無	35
2-5 通学方法	36
2-6 通学時間	37
<b>第3章 収入・支出について</b>	39
3-1 1か月の平均収入額	39
3-2 親等からの援助額	40
3-3 1か月の平均支出額(授業料支出は除く)	41
3-4 奨学金	42
3-5 アルバイト	43
3-6 アルバイト従事時間数	44
3-7 アルバイトの目的	45
3-8 アルバイト収入金額	46
3-9 アルバイトにおけるトラブル	47
<b>第4章 健康状態について</b>	49
4-1 睡眠時間	49
4-2 気になる症状	50
4-3 症状の内容	50

4-4	主な悩みと不安	51
4-5	相談相手	52
4-6	現在の精神状態	53
4-7	喫煙	54
4-8	飲酒	55
4-9	保健管理・総合相談センターの認識	55
<b>第5章</b>	<b>学生生活上の問題点について</b>	<b>57</b>
5-1	迷惑行為	57
5-2	総合相談部門（学生相談室）の利用	59
5-3	犯罪被害・交通事故・違法薬物使用	61
5-4	大学事務室の対応	64
<b>第6章</b>	<b>修学状況について</b>	<b>66</b>
6-1	教育理念・方針と教育に対する満足度	66
6-2	本学を選んだ理由と目的	69
6-3	研究活動と研究指導	74
6-4	研究環境と所属大学院に対する満足度	79
6-5	図書館の利用状況	82
6-6	海外渡航の経験と英会話	84
6-7	日本語会話	88
6-8	学習への取組みと本学の教育への期待	91
<b>第7章</b>	<b>進路選択・就職について</b>	<b>95</b>
7-1	後期課程への進学意思	95
7-2	進学希望先	96
7-3	就職希望職種	97
7-4	進路選択の要件	99
7-5	進路選択の情報入手手段	101
7-6	キャリア支援室の利用状況	102
7-7	就職に関する大学への要望	104
<b>第8章</b>	<b>教育部の現状と課題</b>	<b>109</b>
8-1	総合科学教育部	109
8-2	医科学教育部	110
8-3	口腔科学教育部	117
8-4	薬科学教育部	119
8-5	栄養生命科学教育部	122
8-6	保健科学教育部	126
8-7	先端技術科学教育部	131
特記	留学生の現状と課題	134
<b>第9章</b>	<b>総括と提言</b>	<b>136</b>
	あとがき	138

# 序章 大学院生生活実態調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、本学大学院生の生活の実態や要望を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

## 2. 調査の組織

この調査は、徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室の委員及び協力者が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
委員長	滝口祥令	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	堤和博	大学院総合科学研究部	教授
委員	鶴尾吉宏	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	松山美和	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	上月康則	大学院理工学研究部	教授
委員	金成海	大学院総合科学研究部	教授
委員	井崎ゆみ子	大学院医歯薬学研究部	准教授
協力者	山本真由美	大学院総合科学研究部	教授
協力者	大淵朗	大学院理工学研究部	教授
協力者	高橋章	大学院医歯薬学研究部	教授
協力者	奥田紀久子	大学院医歯薬学研究部	教授
協力者	赤坂和哉	大学院医歯薬学研究部	講師
協力者	井ノ崎敦子	大学院医歯薬学研究部	講師
協力者	藤原朝洋	大学院医歯薬学研究部	助教

## 3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学大学院修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程に在学する学生全員1,480人（平成28年11月1日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各教育部の学務（教務）係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークカード）を回収した。

## 4. 調査の時期

この調査は、平成28年11月1日から11月11日まで実施し、11月1日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を11月14日までとした。

## 5. 調査の内容

調査項目は、大学院生の生活全般を把握できるように精選した。

## 6. 回答票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者1,480人のうち回答数は891人で、回収率は60%であった。教育部・専攻別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

## 7. 図中の%表示

端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

## 8. 前期課程・後期課程

報告書中では、修士課程と博士前期課程を合わせて前期課程、博士後期課程と4年生博士課程(医・歯・薬)を合わせて後期課程と表現した。

## 9. 教育部等の略語表示

本報告書中、教育部名等を以下のとおり略語で記載する。

総合科学教育部	→	総合科学
医科学教育部	→	医科学
口腔科学教育部	→	口腔科学
薬科学教育部	→	薬科学
栄養生命科学教育部	→	栄養生命科学
保健科学教育部	→	保健科学
先端技術科学教育部	→	先端技術科学
第1回大学院生生活実態調査(平成17年度実施)	→	第1回調査
第2回大学院生生活実態調査(平成20年度実施)	→	第2回調査
第3回大学院生生活実態調査(平成22年度実施)	→	第3回調査
第4回大学院生生活実態調査(平成24年度実施)	→	第4回調査
第5回大学院生生活実態調査(平成26年度実施)	→	第5回調査



〈学年別〉

課 程	学 年	全 体		回 収 率 全 体 (%)
		対象者数 (人)	回 収 数 (人)	
修士・博士前期課程	1 年	458	330	72.1
	2 年	513	346	67.4
	小 計	971	676	69.6
博士・博士後期課程	1 年	118	63	53.4
	2 年	133	71	53.4
	3 年	166	50	30.1
	4 年	92	31	33.7
	小 計	509	215	42.2
	合 計	1,480	891	60.2

〈男女別〉

課 程	教 育 部 名	回 収 率 (%)		
		男	女	計
修士・博士前期課程	総 合 科 学 教 育 部	42.6	52.5	47.1
	医 科 学 教 育 部	75.0	85.7	80.0
	口 腔 科 学 教 育 部	100.0	41.7	46.2
	薬 科 学 教 育 部	87.5	83.3	85.7
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	66.7	85.4	82.5
	保 健 科 学 教 育 部	40.0	60.5	55.2
	先 端 技 術 科 学 教 育 部	70.8	75.4	71.2
	小 計	69.3	70.5	69.6
博士・博士後期課程	総 合 科 学 教 育 部	16.7	14.3	15.4
	医 科 学 教 育 部	28.5	47.8	34.8
	口 腔 科 学 教 育 部	48.1	50.0	49.2
	薬 科 学 教 育 部	83.3	61.5	76.7
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	53.8	34.6	41.0
	保 健 科 学 教 育 部	0.0	23.5	22.2
	先 端 技 術 科 学 教 育 部	45.0	45.5	45.0
	小 計	41.5	43.5	42.2
	合 計	60.8	58.8	60.2



# 平成28年度 学生生活実態調査

平成28年11月  
徳島大学

## お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成28年11月1日現在、本学に在学する大学院学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

**〔調査実施期間 11月1日(火)～11月11日(金)〕**

**回答用紙（マークカード）の提出期限は、11月14日(月)です。**

**所属教育部の学務（教務）係へ提出してください。**

## 回答記入上の注意事項

- 1 平成28年11月1日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号をHBの黒鉛筆で塗りつぶして回答してください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けています。質問中、回答用紙（マークカード）の裏面に記入する必要がある場合は、質問番号とその内容を記入してください。

また、大学内における学生生活全般について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。

# 学生生活実態調査票（大学院）

## A. 基本的事項について

### 1 【全員】所属教育部はどこですか。

1. 総合科学教育部
2. 医科学教育部
3. 口腔科学教育部
4. 薬科学教育部
5. 栄養生命科学教育部
6. 保健科学教育部
7. 先端技術科学教育部

### 2 【全員】専攻はどこですか。

- |           |                   |             |                  |                |
|-----------|-------------------|-------------|------------------|----------------|
| 総合科学教育部   | [ 1. 地域科学専攻       | 2. 臨床心理学専攻] |                  |                |
| 医科学教育部    | [ 1. 医科学専攻        | 2. 医学専攻     | 3. プロテオミクス医科学専攻] |                |
| 口腔科学教育部   | [ 1. 口腔科学専攻       | 2. 口腔保健学専攻] |                  |                |
| 薬科学教育部    | [ 1. 創薬科学専攻       | 2. 医療生命薬学専攻 | 3. 薬学専攻]         |                |
| 栄養生命科学教育部 | [ 1. 人間栄養科学専攻]    |             |                  |                |
| 保健科学教育部   | [ 1. 保健学専攻]       |             |                  |                |
| 先端技術科学教育部 | [ 1. 知的力学システム工学専攻 | 2. 環境創生工学専攻 | 3. 物質生命システム工学専攻  | 4. システム創生工学専攻] |

### 3 【全員】何年生ですか。

1. 修士・博士前期課程1年生
2. 修士・博士前期課程2年生
3. 博士後期課程1年生
4. 博士後期課程2年生
5. 博士後期課程3年生
6. 博士課程1年生
7. 博士課程2年生
8. 博士課程3年生
9. 博士課程4年生

### 4 【全員】性別はどちらですか。

1. 男
2. 女

### 5 【全員】出身地はどこですか。

1. 徳島県
2. 四国（徳島県以外）
3. 九州
4. 中国
5. 近畿
6. 中部（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）
7. 関東（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
8. 東北
9. 北海道

### 6 【全員】現在所属している教育部に進学する前の最終学歴はどこですか。

1. 徳島大学
2. 徳島大学以外の国内の大学
3. 高等専門学校の専攻科
4. 外国の大学
5. 徳島大学大学院修士・博士前期課程
6. 徳島大学大学院以外の国内の大学院
7. 外国の大学院

### 7 【全員】社会人または留学生ですか。

1. 社会人大学院生
2. 留学生
3. どちらでもない

## B. 家族・住居・通学について

### 8 【全員】あなたの家庭の年収（税込み）はおよそどれくらいですか。

1. 250万円未満
2. 250～500万円未満
3. 500～750万円未満
4. 750～1,000万円未満
5. 1,000～1,500万円未満
6. 1,500万円以上

### 9 【全員】あなたの住居区分はどれですか。

1. 自宅（家族と同居）
2. アパート・マンション（家族と別居）
3. 国際交流会館
4. 間借り
5. 親戚・知人宅
6. その他

### 10 【国際交流会館及び日亜会館留学生宿舍入居者を除く自宅外通学者】1か月の家賃（電気代，ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3万円～4万円未満
3. 4万円～5万円未満
4. 5万円～6万円未満
5. 6万円～7万円未満
6. 7万円～8万円未満
7. 8万円～9万円未満
8. 9万円～10万円未満
9. 10万円以上

- 11 【全員】あなたには現在、生計を共にしている配偶者・子供がいますか。
1. 配偶者なし、子供なし
  2. 配偶者なし、子供あり
  3. 配偶者あり、子供なし
  4. 配偶者あり、子供あり
- 12 【問11で「2」「4」を選んだ方】授業や研究をしているとき、子供の世話は誰がみていますか。(複数回答可)
1. 配偶者
  2. 親や親戚
  3. 保育施設にあずける
  4. 小学校等の学校に通っている
  5. その他
- (注：要望事項があれば、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号12とともに書いてください)
- 13 【全員】あなたの主な通学方法は何か。
1. 徒歩
  2. 自転車
  3. バイク(原付自転車・自動二輪)
  4. 自動車
  5. バス・JR
- 14 【全員】通学時間はどれですか。
1. 15分未満
  2. 15分～30分未満
  3. 30分～1時間未満
  4. 1時間～2時間未満
  5. 2時間以上

### C. 収入・支出について

- 15 【全員】あなたの1か月の平均収入額(親等からの援助を除く)はいくらですか。
1. 3万円未満
  2. 3～5万円未満
  3. 5～7万円未満
  4. 7～10万円未満
  5. 10～15万円未満
  6. 15～20万円未満
  7. 20～25万円未満
  8. 25～30万円未満
  9. 30万円以上
- 16 【全員】親等からの援助はいくらありますか。
1. 全くない
  2. 3万円未満
  3. 3～5万円未満
  4. 5～7万円未満
  5. 7～10万円未満
  6. 10～15万円未満
  7. 15～20万円未満
  8. 20万円以上
- 17 【全員】あなたの1か月の平均支出額(授業料支出は除く)はいくらですか。
1. 3万円未満
  2. 3～5万円未満
  3. 5～7万円未満
  4. 7～10万円未満
  5. 10～15万円未満
  6. 15～20万円未満
  7. 20～25万円未満
  8. 25～30万円未満
  9. 30万円以上
- 18 【全員】奨学金を受けることを希望しますか。
1. 現在受給中であるが、更に希望する
  2. 現在受給していないが、希望する
  3. 現在受給していないし、希望もしない
- 19 【全員】現在、アルバイトをしていますか。
1. はい
  2. いいえ
- 20 【問19で「1」を選んだ方】①1週間の従事時間は平均何時間ですか。(移動に要する時間も含む)
1. 5時間未満
  2. 5～10時間未満
  3. 10～15時間未満
  4. 15～20時間未満
  5. 20～25時間未満
  6. 25時間以上
- 21 【問19で「1」を選んだ方】②アルバイトは主にどのような目的でしていますか。(複数回答可)
1. 生活費や学費のため
  2. 学会参加のため
  3. レジャー・旅行費のため
  4. 日常の娯楽・嗜好品等購入のため
  5. 高額商品(パソコン、バイク、自動車等)購入のため
  6. 社会体験のため
  7. その他
- 22 【問19で「1」を選んだ方】③あなたのアルバイトによる収入(1か月平均)はいくらですか。
1. 3万円未満
  2. 3～5万円未満
  3. 5～7万円未満
  4. 7～10万円未満
  5. 10～15万円未満
  6. 15万円以上
- 23 【問19で「1」を選んだ方】④アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。(複数回答可)
1. ない
  2. 給料の不払い
  3. 給料が契約より低かった
  4. 客とのトラブル
  5. 解雇
  6. 雇用者との意見の不一致
  7. 事故・ケガ
  8. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号23とその内容を書いてください)

## D. 健康状態について

24 【全員】1日の睡眠時間は平均何時間ぐらいですか。(休日を除く)

1. 4時間未満 2. 4～6時間未満 3. 6～8時間未満 4. 8～10時間未満 5. 10時間以上

25 【全員】現在気になる身体症状はありますか。

1. ない 2. 時々ある 3. 常にある

26 【問25で「3」を選んだ方】気になる症状は何ですか。(複数回答可)

1. 頭痛 2. 腹痛・嘔気 3. 下痢・便秘 4. 動悸・不整脈 5. めまい・立ちくらみ  
6. 咳・痰 7. 生理痛・生理不順 8. アトピー・アレルギー 9. 不眠 10. その他

27 【全員】現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。(複数回答可)

1. ない 2. 経済状態 3. 勉強 4. 交友・異性関係 5. 身体的不調  
6. 家族関係 7. 自分の性格 8. 就職や進路 9. 生き甲斐や目標 10. その他

28 【全員】悩み事は誰に相談しますか。(複数回答可)

1. 友人 2. 家族 3. 教員 4. 総合相談部門(学生相談室)  
5. 保健管理部門 6. 学務(教務)係 7. 1～6以外の人 8. 誰にもしない

29 【全員】現在の精神状態はどうですか。

1. 充実している 2. 気分は普通 3. いらいらする 4. なんとなく不安  
5. 落ち込みやすい 6. やる気がでない 7. その他

30 【全員】喫煙しますか。

1. 喫煙しない 2. ときどき喫煙する 3. 毎日喫煙する 4. 過去に喫煙していたが、現在はしない

31 【全員】飲酒をしますか。

1. 飲酒はしない 2. たまに飲酒する 3. 1週間に1～2日飲酒する  
4. 1週間に3～4日飲酒する 5. 1週間に5日以上飲酒する

32 【全員】保健管理・総合相談センター保健管理部門を利用したことがありますか。(複数回答可)

1. 健康診断のために行ったことがある  
2. 健康診断以外(診療, 相談, 健康機器の利用, 証明書作成など)で利用したことがある  
3. 保健管理・総合相談センター保健管理部門があることを知らなかった  
4. 保健管理・総合相談センター保健管理部門は知っているが、行ったことがない

## E. 学生生活上の問題点

33 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、迷惑行為を受けたことがありますか。(複数回答可)

1. 受けたことはない 2. 悪徳商法に引っかかった 3. いたずら電話を受けた  
4. ストーカーにあった 5. 大学内でセクハラを受けた 6. 大学内でアカハラを受けた  
7. 飲酒を強要された 8. インターネットによる誹謗・中傷を受けた  
9. カルトのような集団への勧誘を受けた  
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号33とその内容を書いてください)

セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)とは

相手を不快にさせる性的な言動を行い、それに対する反応によって学習・研究上で一定の不利益を与えたり、精神的な苦痛などを与えること。

アカハラ(アカデミック・ハラスメント)とは

大学などで、指導教員が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。

34 【問33で「5」を選んだ方】誰に相談しましたか。(複数回答可)

1. 友人 2. 家族 3. 教員 4. 総合相談部門(学生相談室)  
5. 学務(教務)係 6. 1～5以外の人 7. 誰にもしない

35 【問33で「6」を選んだ方】誰に相談しましたか。(複数回答可)

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 総合相談部門 (学生相談室)
5. 学務 (教務) 係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

36 【全員】保健管理・総合相談センター総合相談部門 (学生相談室) を利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 総合相談部門 (学生相談室) があるのは知っているが、利用したことがない
3. 総合相談部門 (学生相談室) を知らない

37 【問36で「1」を選んだ方】総合相談部門 (学生相談室) を利用して対応はどうでしたか。

1. 満足である
  2. どちらかといえば満足である
  3. どちらかといえば不満足である
  4. 不満足である
- (注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号37とその理由を書いてください)

38 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、盗難 (盗み)、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。(複数回答可)

1. 被害に遭ったことがない
2. 盗難 (盗み) に遭ったことがある
3. 強盗に遭ったことがある
4. 傷害に遭ったことがある
5. 痴漢に遭ったことがある
6. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号38とその内容を書いてください)

39 【全員】あなたは、交通事故の被害者または加害者になったことがありますか。

1. 被害者・加害者の両方になったことがある
2. 被害者になったことがある
3. 加害者になったことがある
4. 被害者・加害者両方ともなかったことがない

40 【全員】大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物を使用したことがありますか。

1. ある
2. ない

41 【全員】大学事務室の対応に満足していますか。

1. 満足している
  2. どちらかといえば満足である
  3. どちらかといえば不満足である
  4. 不満足である
- (注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号41とその理由を書いてください)

## F. 修学状況

42 【全員】所属する教育部の教育理念や教育方針を知っていますか。

1. 良く知っている
2. だいたい知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

43 【問42で「1」「2」を選んだ方】上記の教育部の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか。

1. 思う
2. 思わない

44 【全員】あなたは学位の授与 (修了) に至るまでの教育課程について満足していますか。

1. 満足している
  2. どちらかといえば満足している
  3. どちらかといえば不満足である
  4. 不満足である
- (注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号44とその理由を書いてください)

45 【徳島大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

46 【他大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

47 【全員】あなたが現在所属する大学院に入学した主な理由は何ですか。(複数回答可)

1. 出身大学だから
2. 希望する研究分野があるから
3. 指導教員に勧められたから
4. 地元の大学だから
5. 就職等将来を考慮して
6. 研究環境が整っているため
7. 希望する就職先がなかったから
8. 継続して修学するため
9. 先輩や友人に勧められて
10. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号47とその内容を書いてください)

- 48 【全員】大学院で勉学することにより、あなたの目指すものは何ですか。
1. 高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人
  2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者
  3. 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員
  4. 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人
  5. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号48とその内容を書いてください）
- 49 【全員】あなたは、あなたが受講している授業の内容や進め方について満足していますか。
1. 満足している
  2. どちらかといえば満足している
  3. どちらかといえば不満足である
  4. 不満足である
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号49とその理由を書いてください）
- 50 【全員】授業以外の自分で行う研究活動は週何時間ですか。
1. 30分未満
  2. 30分～90分未満
  3. 90分～5時間未満
  4. 5～10時間未満
  5. 10～20時間未満
  6. 20～40時間未満
  7. 40～60時間未満
  8. 60時間以上
- 51 【全員】研究の直接の指導教員は誰ですか。
1. 教授
  2. 准教授
  3. 講師
  4. 助教
  5. その他
- 52 【全員】指導教員から週何時間ぐらい研究指導を受けていますか。
1. 30分未満
  2. 30～90分未満
  3. 90分～5時間未満
  4. 5～10時間未満
  5. 10時間以上
- 53 【全員】あなたは研究指導の内容や進め方について満足していますか。
1. 満足している
  2. どちらかといえば満足している
  3. どちらかといえば不満足である
  4. 不満足である
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号53とその理由を書いてください）
- 54 【全員】あなたは修士（博士）論文の研究テーマに満足していますか。
1. 満足している
  2. どちらかといえば満足している
  3. どちらかといえば不満足である
  4. 不満足である
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号54とその理由を書いてください）
- 55 【全員】指導教員とコミュニケーションがとれていると思いますか。
1. 充分とれている
  2. ある程度とれている
  3. あまりとれていない
  4. まったくとれていない
- 56 【全員】大学院に相応しいレベルでの教育が行われていると思いますか。
1. 充分に行われている
  2. ある程度行われている
  3. あまり行われていない
  4. 全く行われていない
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号56とその理由を書いてください）
- 57 【全員】現在の研究環境についての満足度はどの程度ですか。
1. 満足している
  2. どちらかといえば満足している
  3. どちらかといえば不満足である
  4. 不満足である
- 58 【問57で「3」「4」を選んだ方】その理由はどれですか。（複数回答可）
1. 施設・設備
  2. 研究費用
  3. 研究時間
  4. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号58とその内容を書いてください）
- 59 【全員】あなたは所属している教育部・専攻に全体として満足していますか。
1. 満足している
  2. どちらかといえば満足している
  3. どちらかといえば不満足である
  4. 不満足である
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号59とその理由を書いてください）
- 60 【全員】図書館をどのくらいの頻度で利用しますか。
1. ほぼ毎日利用している
  2. 1週間に2～3回くらい利用する
  3. 1週間に1回程度利用する
  4. 2週間に1回程度利用する
  5. 1か月に1回程度利用する
  6. 半年に1回程度利用する
  7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である
- 61 【全員】電子ジャーナルやデータベース等をどのくらいの頻度で利用しますか。
1. ほぼ毎日利用している
  2. 1週間に2～3回くらい利用する
  3. 1週間に1回程度利用する
  4. 2週間に1回程度利用する
  5. 1か月に1回程度利用する
  6. 半年に1回程度利用する
  7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である

- 62 【全員】図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対する満足度はどの程度ですか。  
1. 満足している 2. どちらかといえば満足している 3. どちらかといえば不満足である 4. 不満足である  
(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号62とその理由を書いてください)
- 63 【全員】現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか。  
1. よく学習している 2. かなりしている 3. あまりしていない 4. 全然していない
- 64 【全員】入学後、海外渡航をしたことがありますか。  
1. ない 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回以上
- 65 【問64で「1」以外を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか。(複数回答可)  
1. 留学 2. 語学研修 3. 学会参加 4. 学術調査 5. 社会活動 6. 観光  
7. 一時帰国 8. その他
- 66 【日本人の方】国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか。  
1. 海外の国際学会で口頭発表したことがある 2. 海外の国際学会でポスター発表したことがある  
3. 国内の国際学会で口頭発表したことがある 4. 国内の国際学会でポスター発表したことがある  
5. 国際学会で研究発表をしたことはない
- 67 【日本人の方】英会話ほどの程度できますか。  
1. 専門用語を使った会話ができる 2. 日常会話ができる 3. なんとか日常会話ができる  
4. あまりできない 5. できない
- 68 【日本人の方】語学力を高めるために何をしていますか。(複数回答可)  
1. 英会話等の学校に通っている 2. ラジオ・テレビの英会話番組で学習している  
3. TOEIC, TOEFL 等を受験する 4. 外国語の新聞、雑誌を購読している  
5. 外国のラジオ、テレビを視聴している 6. つとめて外国人と英語でコミュニケーションする  
7. 何もしていない
- 69 【留学生の方】日本語会話はどの程度できますか。  
1. 専門用語を使った会話ができる 2. 日常会話ができる 3. なんとか日常会話ができる  
4. あまりできない 5. できない
- 70 【留学生の方】徳島大学が開講する日本語コースを受講していますか。  
1. 受講している 2. 以前受講したことがある 3. 今後受講する予定である 4. 受講の予定はない
- 71 【問70で「1」「2」を選んだ方】日本語コースの満足度はどの程度ですか。  
1. 満足している 2. どちらかといえば満足している 3. どちらかといえば不満足である 4. 不満足である  
(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号71とその理由を書いてください)
- 72 【全員】あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか。(複数回答可)  
1. 統合的な学習課題を体系的に履修するコース 2. 複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導  
3. 企業等での長期間の実践的なインターンシップ 4. 高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会  
5. 産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究 6. 個々の教員の教育・研究指導能力の向上  
7. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号72とその内容を書いてください)  
8. 特にない
- 73 【全員】本学は国際化への対応について積極的であると思いますか。  
1. 非常に積極的であると思う 2. どちらかといえば積極的であると思う  
3. どちらかといえば積極的とは思わない 4. 積極的とは思わない  
(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号73とその理由を書いてください)

## G. 進路選択・就職について

74 【修士・博士前期課程の方】博士（後期）課程への進学を考えていますか。

1. 進学したい（進学予定者を含む）
2. 奨学金等の経済的支援があれば進学したい
3. 就職したい
4. 未定

75 【問74で「1」「2」を選んだ方】それは本学ですか，他大学ですか。

1. 本学
2. 他大学
3. 未定

76 【問74で「3」「4」を選んだ方及び博士後期・博士課程の方】希望職種は何ですか。（複数回答可）

1. 大学・官公庁の教育・研究職
2. 1以外の公務員
3. 技術職
4. 事務職
5. 企業等の研究職
6. 教育職
7. マスコミ関係
8. 専門職（医師等）
9. 既に就職している
10. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号76とその内容を書いてください）

77 【全員】進路選択で重視するものは何ですか。（3個以内で回答）

1. 収入
2. 就職先の将来性・安定性
3. 社会的評価
4. 能力を発揮できること
5. 勤務地の地理的条件
6. 先端技術を駆使しているところ
7. 経営方針
8. 企業規模
9. 転勤・異動の有無
10. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号77とその内容を書いてください）

78 【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。（複数回答可）

1. 指導教員
2. 就職担当教員
3. 就職相談員
4. 先輩・知人
5. 直接会社に照会
6. 就職情報誌・新聞・マスコミ
7. 家族等
8. 大学内資料
9. Web・インターネット
10. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号78とその内容を書いてください）

79 【全員】本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。

1. 現在も利用している
2. 以前に利用したことがある
3. 利用したことがない

80 【全員】就職に関して大学に要望することはありますか。（複数回答可）

1. 就職情報誌など就職関係書籍の充実
2. 面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実
3. 公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実
4. 企業説明会の内容充実
5. 就職ガイダンスの充実
6. 求人企業の開拓
7. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号80とその内容を書いてください）

【その他ご意見・ご要望等があれば回答用紙の裏面の自由記入欄に「意見・要望等」と記し  
具体的に記載してください】

ご協力ありがとうございました



# 2016 STUDENT LIFE SURVEY

November 2016  
Tokushima University

The purpose of this survey is to grasp the general life conditions of the students studying in UT. The collected data will be used to improve welfare facilities and to develop more effective educational support system for students.

This is an anonymous survey administered to all students enrolled at Tokushima University as of November 1, 2016. The collected information shall not be used for any other purposes, and your honest responses to the questions will be highly appreciated.

It may take considerable time to answer all the questions, but please understand the purpose and benefits. Your cooperation is greatly appreciated.

[Survey Period: November 1 – 11]

Answer sheets (computer-scored answer sheets) must be submitted no later than November 14 (Mon.) at the School Affairs Section (Educational Affairs Section) of the graduate school you belong to.

## NOTES

1. Please answer questions as of November 1, 2016.
2. Optical answer sheet (computer-scored answer sheet) is used for this survey. Please choose one answer for each question and fill out the numbered blanks using HB pencils. Note that some questions allow multiple answers.
3. Some questions are administered to only certain respondents. Answer questions that are applicable to you.
4. For the questions that require written answers, use the back of the answer sheet with the number of the question and the specifics.  
You may also write comments or requests regarding school life on the back of the answer sheet (if any).

# STUDENT LIFE CONDITIONS SURVEY (GRADUATE SCHOOL)

## A. BASIC INFORMATION

### 1. 【Subject: ALL】

Which Graduate School do you belong to?

1. Graduate School of Integrated Arts and Sciences
2. Graduate School of Medical Sciences
3. Graduate School of Oral Sciences
4. Graduate School of Pharmaceutical Sciences
5. Graduate School of Nutrition and Bioscience
6. Graduate School of Health Sciences
7. Graduate School of Advanced Technology and Science

### 2. 【Subject: ALL】

What do you major in?

Graduate School of Integrated Arts and Sciences

1. Regional Sciences
2. Clinical Psychology

Graduate School of Medical Sciences

1. Medical Science
2. Medicine
3. Proteomics Medical Sciences

Graduate School of Oral Sciences

1. Oral Science
2. Oral Health Science

Graduate School of Pharmaceutical Sciences

1. Pharmaceutical Chemistry (Pharmaceutical Sciences)
2. Pharmaceutical Life Sciences
3. Pharmacy

Graduate School of Nutrition and Bioscience

1. Human Nutrition

Graduate School of Health Sciences

1. Health Sciences

Graduate School of Advanced Technology and Science

1. Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering
2. Earth and Life Environmental Engineering
3. Life and Materials Systems Engineering
4. Systems Innovation Engineering

### 3. 【Subject: ALL】

What grade are you in?

1. First year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
2. Second year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
3. First year in the second program of the Doctoral Course
4. Second year in the second program of the Doctoral Course
5. Third year in the second program of the Doctoral Course
6. First year of the Doctoral Course
7. Second year of the Doctoral Course
8. Third year of the Doctoral Course
9. Fourth year of the Doctoral Course

### 4. 【Subject: ALL】

What is your gender?

1. Male
2. Female

5. 【Subject: ALL】

Where are you originally from?

1. Tokushima Prefecture
2. Shikoku Region (other than Tokushima)
3. Kyushu Region
4. Chugoku Region
5. Kinki Region
6. Chubu Region (Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Yamanashi, Nagano, Gifu, Shizuoka, Aichi)
7. Kanto Region (Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa)
8. Tohoku Region
9. Hokkaido
10. Other than Japan (Write your country on the back of your answer sheet)

6. 【Subject: ALL】

What is your academic history prior to the enrollment in the current graduate school?

1. Tokushima University
2. University in Japan other than Tokushima University
3. Advanced Course of a Technical College (Koutou-senmon Gakkou) in Japan
4. University abroad
5. Master's Course/first program of Doctoral Course of Tokushima University
6. Graduate School in Japan other than Tokushima University
7. Graduate School abroad

7. 【Subject: ALL】

Are you a working student or a foreign student?

1. Student working outside of the campus
2. Foreign student
3. Neither

**B. FAMILY, LIVING CONDITION, COMMUTING**

8. 【Subject: ALL】

How much is the annual income (including tax) of your family?

1. Less than ¥2,500,000
2. ¥2,500,000 – 4,999,999
3. ¥5,000,000 – 7,499,999
4. ¥7,500,000 – 9,999,999
5. ¥10,000,000 – 14,999,999
6. More than ¥15,000,000

9. 【Subject: ALL】

What is your housing condition?

1. Family home (living with family)
2. Apartment (Not living with family)
3. International House of Tokushima University
4. Boarding house
5. Home of a relative/acquaintance
6. Others

10. 【Subject: All excluding International House/Nichia Kaikan International House residents】

How much is the monthly rent for your housing (excluding electricity, gas, or other utilities)?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 39,999
3. ¥40,000 – 49,999
4. ¥50,000 – 59,999
5. ¥60,000 – 69,999
6. ¥70,000 – 79,999
7. ¥80,000 – 89,999
8. ¥90,000 – 99,999
9. More than ¥100,000

11. 【Subject: ALL】

Do you have a spouse or child(ren) living with you?

1. No spouse or child
2. No spouse, but have child(ren)
3. Have a spouse, but no child
4. Have a spouse and child(ren)

12. 【Subject: Those who chose (2) or (4) for Q11】

Who takes care of your child(ren) while you are attending a class or doing research? (Multiple answers allowed)

1. Spouse
2. Your or spouse's parent(s)/relative(s)
3. Daycare facility
4. School (elementary school, etc.)
5. Others

(Note: If you have any requests for the University, use the back of the answer sheet to write the number of this question (12) and the specifics.)

13. 【Subject: ALL】

How do you usually commute to the university?

1. By walking
2. By bicycle
3. By motorcycle (motor scooter, two-wheeled motor vehicle)
4. By car
5. By bus/JR

14. 【Subject: ALL】

How long does it take to commute to the university?

1. Less than 15 minutes
2. 15 – less than 30 minutes
3. 30 minutes – less than 1 hour
4. 1 – less than 2 hours
5. More than 2 hours

**C. INCOME / EXPENDITURE**

15. 【Subject: ALL】

How much is your average monthly income (excluding financial assistance from parents)?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 49,999
3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999
5. ¥100,000 – 149,999
6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999
8. ¥250,000 – 299,999
9. More than ¥300,000

16. 【Subject: ALL】

How much is the average amount of financial assistance from your parents?

1. None
2. Less than ¥30,000
3. ¥30,000 – 49,999
4. ¥50,000 – 69,999
5. ¥70,000 – 99,999
6. ¥100,000 – 149,999
7. ¥150,000 – 199,999
8. More than ¥200,000

17. 【Subject: ALL】

① How much is the average monthly expenditure (excluding tuition)?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 49,999
3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999
5. ¥100,000 – 149,999
6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999
8. ¥250,000 – 299,999
9. More than ¥300,000

18. 【Subject: ALL】

Do you wish to receive a scholarship?

1. Yes. I am currently receiving a scholarship and wish to continue it.
2. Yes. I am NOT currently receiving any scholarship but wish to receive one.
3. No. I am NOT currently receiving any scholarship and do not wish to receive any.

19. 【Subject: ALL】

Do you have a part-time job?

1. Yes
2. No

20. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

① How much is the average weekly work hours (including commuting time)?

1. Less than 5 hours
2. 5 – less than 10 hours
3. 10 – less than 15 hours
4. 15 – less than 20 hours
5. 20 – less than 25 hours
6. More than 25 hours

21. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

② What is the purpose of having a part-time job?

1. For living expenses or tuitions
2. To attend academic conferences
3. For leisure/travel
4. For daily leisure (ex. favorite food or beverages, etc.)
5. To purchase expensive products (PC, motorcycle, car, etc.)
6. To gain social experiences
7. Others

22. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

③ How much is the average monthly income from your part-time job?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 49,999
3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999
5. ¥100,000 – 149,999
6. More than ¥150,000

23. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

④ Have you experienced any difficulties with your part-time job?

1. No
2. Unpaid salary
3. Paid less than agreed in contract
4. Trouble with customer(s)
5. Termination of employment
6. Disagreement with employer
7. Accident/injury
8. Others (use the back of the answer sheet to write the number of this question (23) and the specifics)

**D. HEALTH CONDITIONS**

24. 【Subject: ALL】

How long do you sleep per day (excluding weekends and holidays)?

1. Less than 4 hours
2. 4 – less than 6 hours
3. 6 – less than 8 hours
4. 8 – less than 10 hours
5. More than 10 hours

25. 【Subject: ALL】

Are there any physical conditions you are concerned about?

1. Yes
2. Sometimes
3. Constantly

26. 【Subject: Those who chose (3) for Q25】

What is/are the symptom(s)? (Multiple answers allowed)

1. Headache
2. Stomachache/ nausea
3. Dizziness/ light headedness
4. Palpitation/irregular heartbeat
5. Diarrhea/ constipation
6. Coughs/sputum
7. Menstrual cramps/ menstrual irregularities
8. Atopy/allergy
9. Insomnia
10. Others

27. 【Subject: ALL】

Do you have any other concerns or worries? If any, what is/are the main concern(s)? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Financial concerns
3. Research and Study
4. Friends/relationships
5. Poor physical condition
6. Family relation
7. Own personality
8. Future career
9. Motivation or purpose in life
10. Others

28. 【Subject: ALL】

Who do you usually consult concerns or worries? (Multiple answers allowed)

1. Friend(s)
2. Family
3. Teacher/professor
4. Student and Staff Counseling Division
5. Health Service Division
6. Section of Academic Affairs in your Department/Faculty
7. Those other than 1 – 6
8. Nobody

29. 【Subject: ALL】

What is your current emotional state?

1. Fulfilled
2. Normal
3. Irritated
4. Anxious for no apparent reason
5. Easily depressed
6. Low energy
7. Others

30. **【Subject: ALL】**

Do you smoke?

- 1. Never
- 2. Sometimes
- 3. Everyday
- 4. Smoked in the past but not anymore

31. **【Subject: ALL】**

Do you drink alcoholic beverages?

- 1. No
- 2. Sometimes
- 3. 1-2 times a week
- 4. 3-4 times a week
- 5. More than 5 times a week

32. **【Subject: ALL】**

Have you ever visited the Health Service Division ? (Multiple answers allowed)

- 1. Yes, I have visited there for health check-ups
- 2. Yes, I have visited there for reasons other than health check-ups (examination, consultation, healthcare equipment, issuance of certificate, etc.)
- 3. No, I have never visited there, since I have never heard of the facility.
- 4. No, I have never been there, though I have heard of the facility.

**E. ISSUES CONCERNING YOUR STUDENT LIFE**

33. **【Subject: ALL】**

Have you ever been a victim of any nuisance since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

- 1. No
- 2. Yes, I have been a victim of an illegal business practice.
- 3. Yes, I have received an obscene phone call.
- 4. Yes, I have been a stalking victim.
- 5. Yes, I have experiences sexual harassment on campus.
- 6. Yes, I have experienced academic harassment on campus.
- 7. Yes, I have been forced to drink alcohol.
- 8. Yes, I have been defamed on the internet.
- 9. Cult-like group recruitment
- 10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (33) and the specifics.)

<p><b>SEXUAL HARASSMENT:</b></p> <p>It involves physical, verbal, or nonverbal behavior of a sexual nature in which a person may suffer certain disadvantage in academic/research conditions or emotional distress due to his or her response to the harassment.</p>	<p><b>ACADEMIC HARASSMENT:</b></p> <p>It refers to the continuous use of power by a teacher/professor to harass a student in academic and research situations, including disturbance to one's study or research activities.</p>
--	---

34. **【Subject: Those who chose (5) for Q33】**

Have you consulted someone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- 1. Friend
- 2. Family
- 3. Teacher/professor
- 4. Student and Staff Counseling Division
- 5. School Affairs (Educational Affairs) Section
- 6. Those other than 1-5
- 7. Nobody

35. **【Subject: Those who chose (6) for Q33】**

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- 1. Friend
- 2. Family
- 3. Teacher/professor
- 4. Student and Staff Counseling Division
- 5. School Affairs (Educational Affairs) Section
- 6. Those other than 1-5
- 7. Nobody

**36. 【Subject: ALL】**

Have you ever visited Student and Staff Counseling Division?

1. Yes
2. No. I have never been there although I have heard of the facility.
3. No. I have never heard of such facility.

**37. 【Subject: Those who chose (1) for Q36】**

How was the service at the Student and Staff Counseling Division?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfying
4. Unsatisfying

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (37) and the specific reasons.)

**38. 【Subject: ALL】**

Have you ever been a victim of a crime, such as theft, burglary, assault, or sexual molestation since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes. I have been a victim of theft.
3. Yes. I have been a victim of burglary.
4. Yes. I have been a victim of assault.
5. Yes. I have been a victim of sexual molestation.
6. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (38) and the specifics.)

**39. 【Subject: ALL】**

Have you ever been a victim or a cause of a road accident?

1. I have been both a victim and a cause.
2. I have been a victim.
3. I have been a cause.
4. I have never been either a victim or a cause.

**40. 【Subject: ALL】**

Have you ever used any illegal drug(s) such as marijuana or methamphetamine?

1. Yes
2. No

**41. 【Subject: ALL】**

How would you rate the service of the administration office of Tokushima University?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (41) and the specific reasons.)

**F. EDUCATION ENVIRONMENT**

**42. 【Subject: ALL】**

Are you familiar with the educational philosophies or policies of your graduate school?

1. Very familiar
2. Moderately familiar
3. Slightly unfamiliar
4. Unfamiliar

**43. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q42】**

Do you think the education you are receiving reflects the philosophies or policies of your graduate school?

1. Yes
2. No

**44. 【Subject: ALL】**

How would you rate the curriculums of your graduate school?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactor
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (44) and the specific reasons.)

45. **【Subject: Graduates of Tokushima University】**

Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

46. **【Subject: Graduates of universities other than Tokushima University】**

Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

47. **【Subject: ALL】**

What is (are) the reason(s) you chose the graduate school you are currently enrolled in? (Multiple answers allowed)

Because:

1. I am a graduate of Tokushima University.
2. the field that meets my interests is available.
3. it was recommended by the previous professor.
4. it is in my hometown.
5. the field is open to relatively wide range of career opportunities.
6. it has a well-developed research environment.
7. there were no jobs available that suited my preferences at that time.
8. I wanted to continue my education.
9. it was recommended by an experienced person or friend.
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (47) and the specifics.)

48. **【Subject: ALL】**

What do you hope to achieve through the education of the graduate school?

1. To be a highly-specialized professional with advanced knowledge and skills
2. To be a researcher with creativity and ability for research and development
3. To be a college professor with strong capability for research and education
4. To work as a sophisticated, intelligent member of society who can lead the knowledge-based society
5. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (48) and the specifics.)

49. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the classes you are attending?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (49) and the specific reasons.)

50. **【Subject: ALL】**

What is the average amount of hours spent for self research per week?

1. Less than 30 minutes
2. 30 – less than 90 minutes
3. 90 minutes – less than 5 hours
4. 5 – less than 10 hours
5. 10 – less than 20 hours
6. 20 – less than 40 hours
7. 40 – less than 60 hours
8. More than 60 hours

51. **【Subject: ALL】**

Who provides guidance to you throughout your research?

1. Professor
2. Associate Professor
3. Lecturer
4. Assistant Professor
5. Others

52. **【Subject: ALL】**

How long do you receive guidance from the person you answered in Question 51?

1. Less than 30 minutes per week
2. 30 – less than 90 minutes per week
3. 90 minutes – less than 5 hours per week
4. 5 – less than 10 hours per week
5. More than 10 hours per week



**53. 【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the research guidance?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (53) and the specific reasons.)

**54. 【Subject: ALL】**

Are you satisfied with the research thesis for your Master's (Doctoral) Degree?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (54) and the specific reasons.)

**55. 【Subject: ALL】**

How is the communication between you and your instructor?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

**56. 【Subject: ALL】**

Do you think the level of the guidance you are receiving is appropriate for graduate school?

1. Highly appropriate
2. Moderately appropriate
3. Minimally appropriate
4. Not appropriate

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (56) and the specific reasons.)

**57. 【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the research environment?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

**58. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q57】**

What is (are) the reason(s)? (Multiple answers allowed)

1. Facility/equipment
2. Research funding
3. Research time

4. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (58) and the specific reasons.)

**59. 【Subject: ALL】**

How would you rate your overall satisfaction with the graduate school you belong to?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (59) and the specific reasons.)

**60. 【Subject: ALL】**

How often do you visit the library?

1. Almost everyday
2. 2-3 times a week
3. Once a week
4. Once in two weeks
5. Once a month
6. Once in six month
7. Once a year or less

**61. 【Subject: ALL】**

How often do you use electronic journal and data base ?

1. Almost everyday
2. 2-3 times a week
3. Once a week
4. Once in two weeks
5. Once a month
6. Once in six month
7. Once a year or less

62. 【Subject: ALL】

How would you rate your satisfaction with the library services(facilities,books,magazines,and electronic journal)?

1. Satisfied
2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (62) and the specific reasons.)

63. 【Subject: ALL】

How would you rate your efforts for your study/research as a graduate school student?

1. Very high
2. High
3. Low
4. No effort

64. 【Subject: ALL】

Have you ever been abroad (other than Japan) since the enrollment in the current graduate school?

1. No
2. Once
3. Twice
4. Three times
5. More than four times

65. 【Those who chose (2), (3), (4), or (5) for Q64】

What was the purpose of the travel abroad? (Multiple answers allowed)

1. To study
2. To learn language
3. To attend academic conference
4. For academic research
5. For social activities
6. Sightseeing
7. Returning home temporarily
8. Others

66. 【Subject: JAPANESE students】

Have you ever made a presentation at an international academic conference?

1. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held abroad.
2. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held abroad.
3. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held in Japan.
4. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held in Japan.
5. No, I have never made a presentation at an international academic conference.

67. 【Subject: JAPANESE students】

How is your English conversational skill?

1. I can communicate in English using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in English.
3. I can somewhat communicate in English.
4. I can scarcely communicate in English.
5. I cannot communicate in English at all.

68. 【Subject: JAPANESE students】

Are you making any efforts to improve your language skills? (Multiple answers allowed)

1. Attending a language school.
2. Learning through language programs on radio/TV.
3. Taking language tests regularly (TOEIC, TOEFL, etc.)
4. Subscribing newspapers/magazines written in foreign language.
5. Watching/listening to TV/radio programs in foreign language.
6. Trying to communicate with foreigners using English.
7. Not making any particular efforts.

69. 【Subject: FOREIGN students】

How is your Japanese conversational skill?

1. I can communicate in Japanese using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in Japanese.
3. I can somewhat communicate in Japanese.
4. I can scarcely communicate in Japanese.
5. I cannot communicate in Japanese at all.

**70. 【Subject: FOREIGN students】**

Are you taking the Japanese Courses provided by Tokushima University?

1. Yes, I am currently taking the Japanese course.
2. Not currently, but I used to take the Japanese course.
3. Not currently, but I am planning to take the Japanese course.
4. No, and I am not planning to take the Japanese course in the future.

**71. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q70】**

How would you rate your satisfaction with the Japanese Course of Tokushima University?

1. Satisfied
2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (71) and the specific reasons.)

**72. 【Subject: ALL】**

For the sake of your future, what do you expect from the education of Tokushima University?

1. Courses with comprehensive and systematic educational themes.
2. Education and research guidance from more than one teachers/professors to gain different perspectives.
3. Practical and long-term internship programs at companies and organizations.
4. Opportunities for education and research at other high-level graduate schools.
5. Proactive cooperation and joint researches with industries or communities.
6. Improvement in the educational/instructional capabilities of each teacher/instructor.
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (72) and the specifics.)
8. No particular expectations

**73. 【Subject: ALL】**

How would you rate the efforts of Tokushima University in responding to the trend of internationalization?

1. Very high
2. Relatively high
3. Relatively low
4. Very low

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (73) and the specific reasons.)

**G. FUTURE CAREER**

**74. 【Those who are currently in the Master's Course/first program of the Doctoral Course】**

Are you planning to advance to the Doctoral Course (second program)?

1. Yes (If you are already accepted, choose this answer.)
2. Yes, only if I could receive a financial support, such as a scholarship.
3. I would like to seek an employment.
4. Not decided yet.

**75. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q74】**

Where are you planning to receive the education?

1. Tokushima University
2. Other university
3. Not decided yet.

**76. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q74 / Those who are currently enrolled in the Doctoral Course/second program of the Doctoral Course】**

What kind of career do you hope to pursue?

1. Educator/researcher at a university, government or other public offices
2. Government employee other than answer (1)
3. Technical career
4. Administrative career
5. Corporate researcher
6. Educator
7. Media
8. Professional career (medical practitioner, etc.)
9. Currently employed
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (76) and the specifics.)

77. 【Subject: ALL】

What do you place the most value on when choosing a career? (Choose up to three items.)

1. Income
2. Potential and stability of the employer
3. Social recognition/evaluation
4. That I can demonstrate my full potential and skills
5. Geographic condition
6. Whether or not the state-of-the-art technologies are used
7. Managerial policies
8. Business size
9. Possibility of transfer or relocation
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (77) and the specifics.)

78. 【Subject: ALL】

What is (are) the method(s) you use to access information on future career? (Multiple answers allowed)

1. Teacher/instructor
2. Occupational assistant teacher/instructor
3. Occupational counselor
4. Older students/friends
5. Direct inquiry to the companies/schools
6. Job information magazine/newspapers/media
7. Family
8. Information available at the university
9. Web/Internet
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (78) and the specifics.)

79. 【Subject: ALL】

Have you ever used Career Support Room of Tokushima University ?

1. Yes, I am currently using the facility.
2. Yes, I have used the facility in the past.
3. No

80. 【Subject: ALL】

Do you have any requests for Tokushima University regarding future career? (Multiple answers allowed)

1. Enhancement of books/documents, such as career information magazines
2. Enhancement of practical support for interview practice or resume development
3. Enhancement of support for examination preparation, i.e., workshops for civil service employee exam, teacher certification exam, etc.
4. Improvement of the contents of corporate orientation programs
5. Enhancement of the employment guidance
6. Identifying companies with job openings
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (80) and the specifics.)

〔 If you have any other comment or request, use the back of the answer sheet to write “COMMENTS/  
REQUESTS” and the specifics. 〕

Thank you for your cooperation.

# 第1章 本調査の対象者について

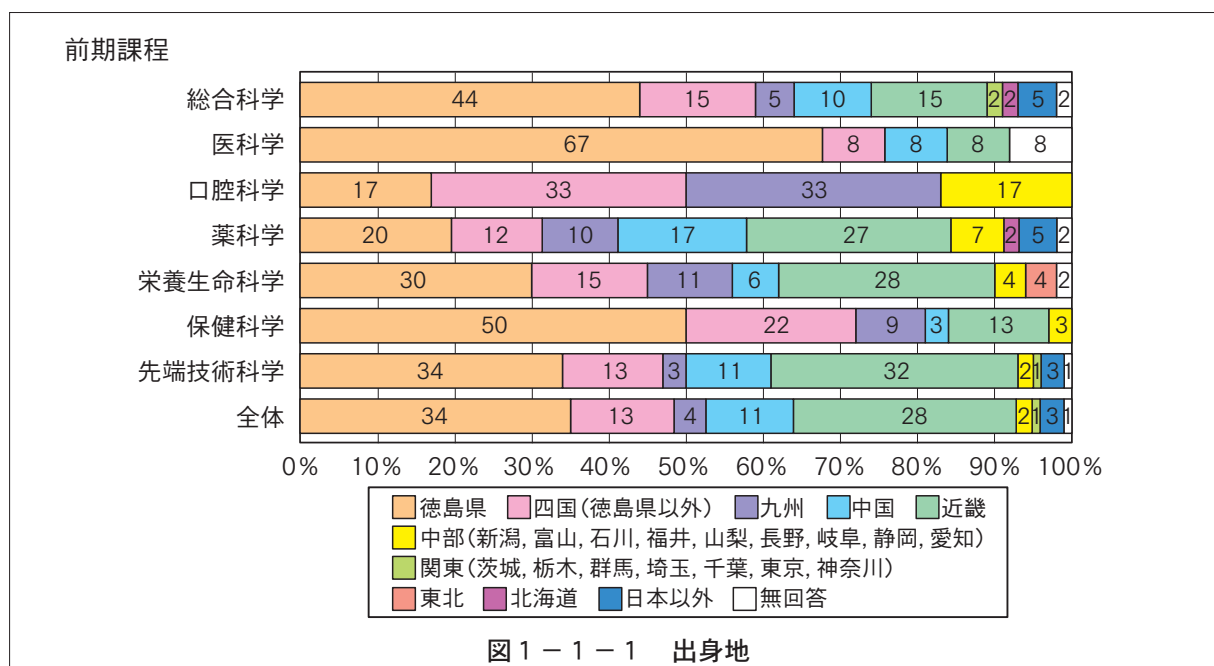
本調査は、本学大学院の総合科学，医科学，口腔科学，薬科学，栄養生命科学，保健科学，先端技術科学の7教育部の前期課程に在籍する971名，および後期課程に在籍する509名の計1,480名を対象とした。

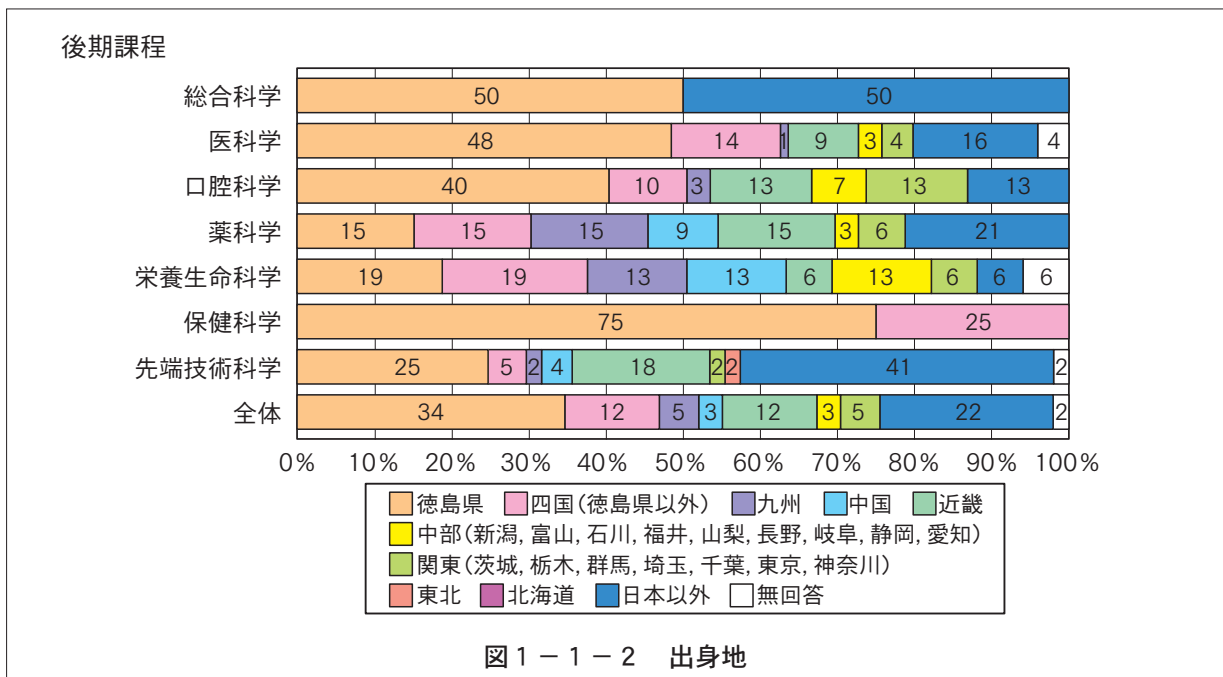
回答数は，前期課程で676，後期課程で215，計891であった。回収率は前期課程が70%，後期課程が42%，全体では60%であった。教育部ごとの回収率をみると，前期課程で46%から86%，後期課程で15%から77%と特に後期課程で差が大きかった。中で，総合科学と口腔科学の回収率に低さがやや目につく。また，学年ごとの回収率では，後期課程3年・4年の回収率の低さが目立つ。このような傾向は，調査結果の解釈の際に注意が必要である。なお，男女間における回収率には大きな差はみられなかった。

## 1-1 出身地 (図1-1-1, 図1-1-2)

最初出身地を見る。前期課程では徳島県(34%)，近畿(28%)，徳島県以外の四国(13%)と地元および近県出身者の割合が高い。これは，例年通りの結果であった。徳島県出身者の割合についてさらにみておくと，全体では第5回調査とほぼ同じであった。教育部別では，総合科学と医科学の増加と薬科学の減少がやや目立つ。第4回調査から加わった口腔科学が75%から第5回調査では22%に減少したが，今回も17%であった。なお，回答した留学生のうち，日本以外を出身地と回答したのは51%であった。

後期課程においても前期課程と同様に近県出身者の割合は高い。また，日本以外を出身地と回答した留学生は82%であり，前期課程とかなりの差をみせている。

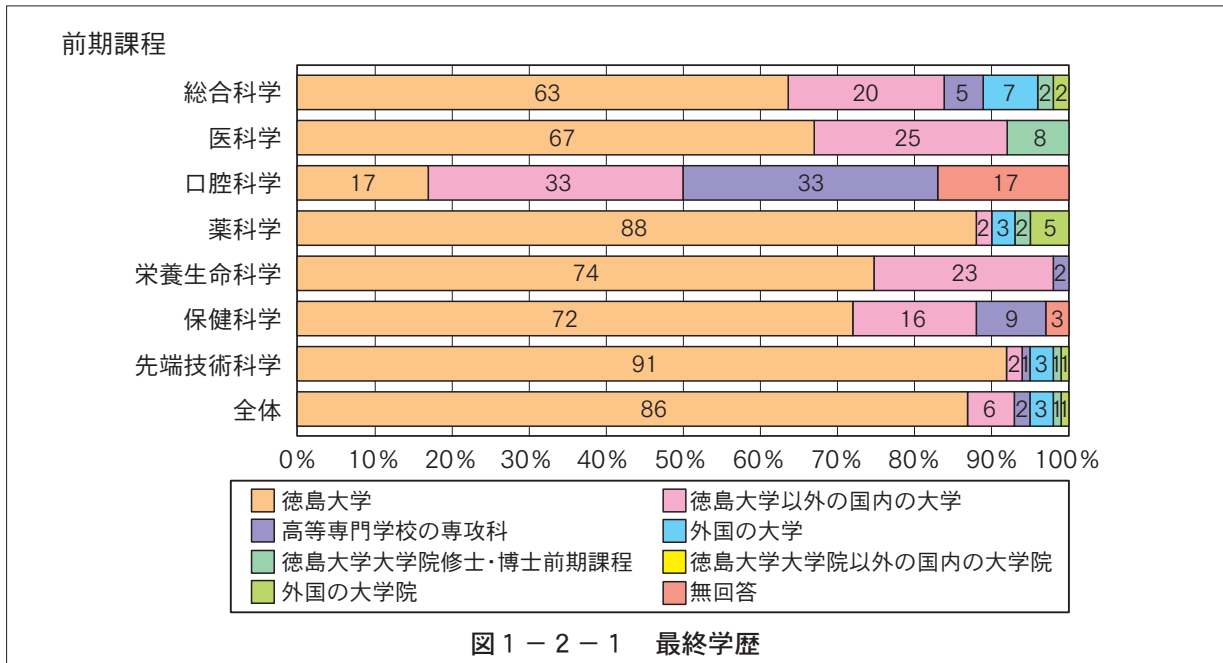


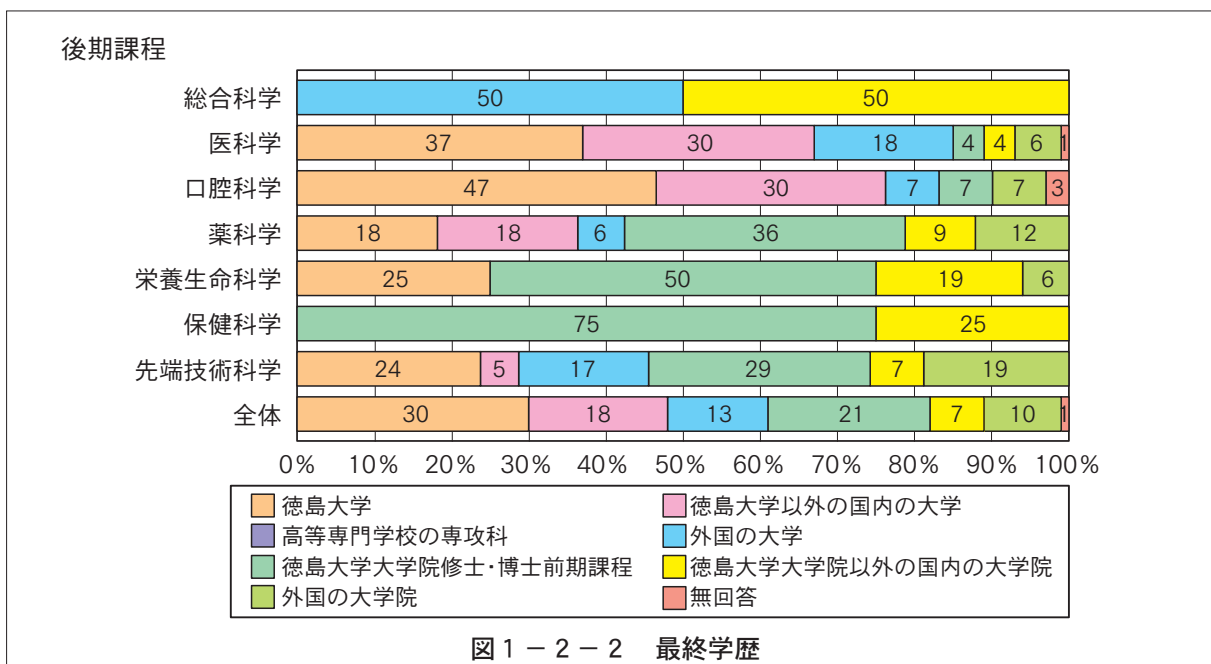


## 1 - 2 最終学歴 (図 1 - 2 - 1, 図 1 - 2 - 2)

次に出身大学（大学院）についてみる。前期課程では、例年同様の全体で86%が本学出身者であったが、教育部により、大多数が本学出身者であったところと、半数程度乃至はそれ以下のところに分かれた。特に口腔科学は第5回調査の33%よりさらに17%に減少しており、目立った低さを示している。一方、外国の大学（大学院）の出身者は4%であった。

後期課程における徳島大学および徳島大学大学院修士・博士前期課程出身者は、第4回調査以来、63%、50%、51%と推移している。外国の大学（大学院）の出身者は23%であった。

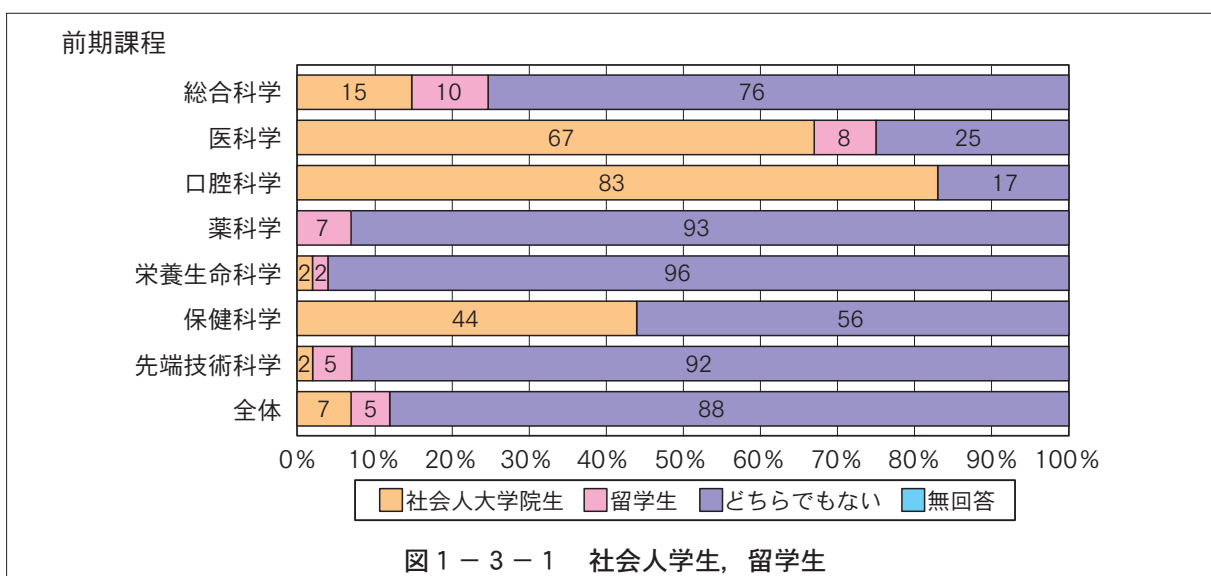




### 1 - 3 社会人大学院生と留学生 (図 1 - 3 - 1, 図 1 - 3 - 2)

社会人からみる。前期課程においては、全体の 7% は第 5 回調査とほぼ変化ないが、やはり教育部ごとの違いが大きい。第 5 回調査で増加が指摘された口腔科学、保健科学、総合科学のうち、口腔科学が 67% から 83% と引き続き増加傾向をみせている。また、第 5 回調査で減少した医科学では 67% に増加している。薬科学の社会人は皆無であった。後期課程においては、全体で 30% であり、例年通り前期課程に比べてかなりの高率を示している。中でも保健科学と医学科の高率が目立つ。

留学生の割合は、前期課程で 5%、後期課程で 28% である。留学生のアンケートの回収率は、前期課程は 56%、後期課程では 61% であった。



後期課程

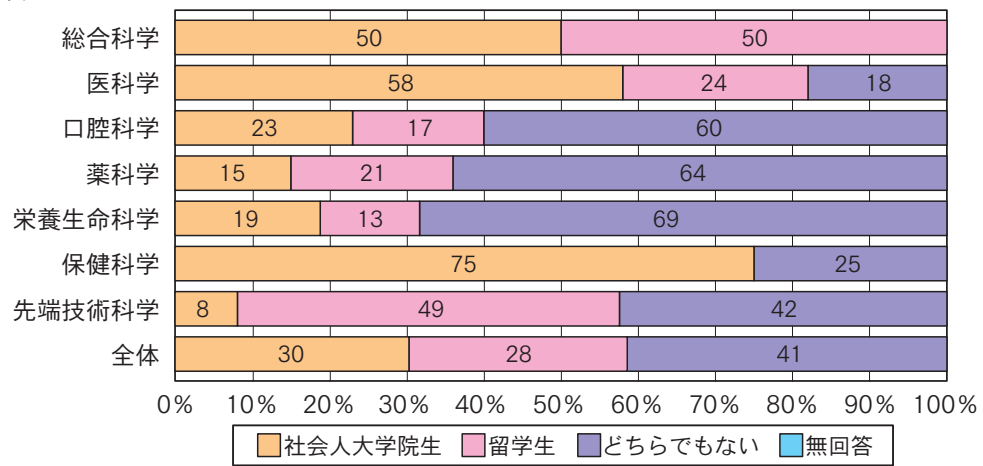


図 1 - 3 - 2 社会人学生, 留学生



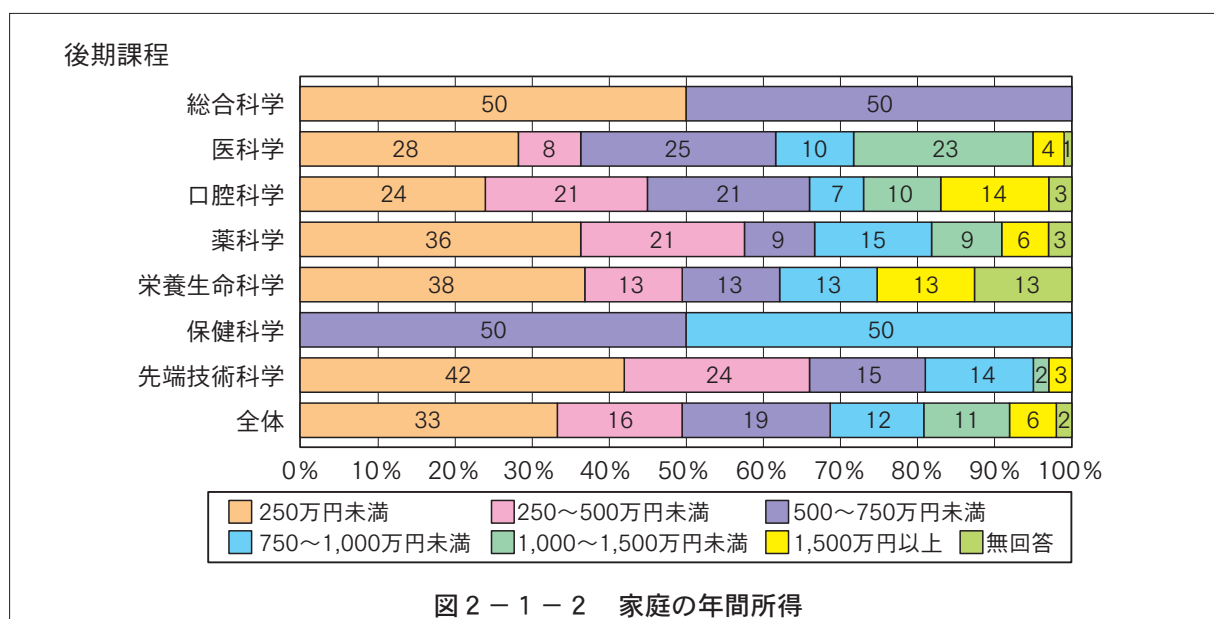
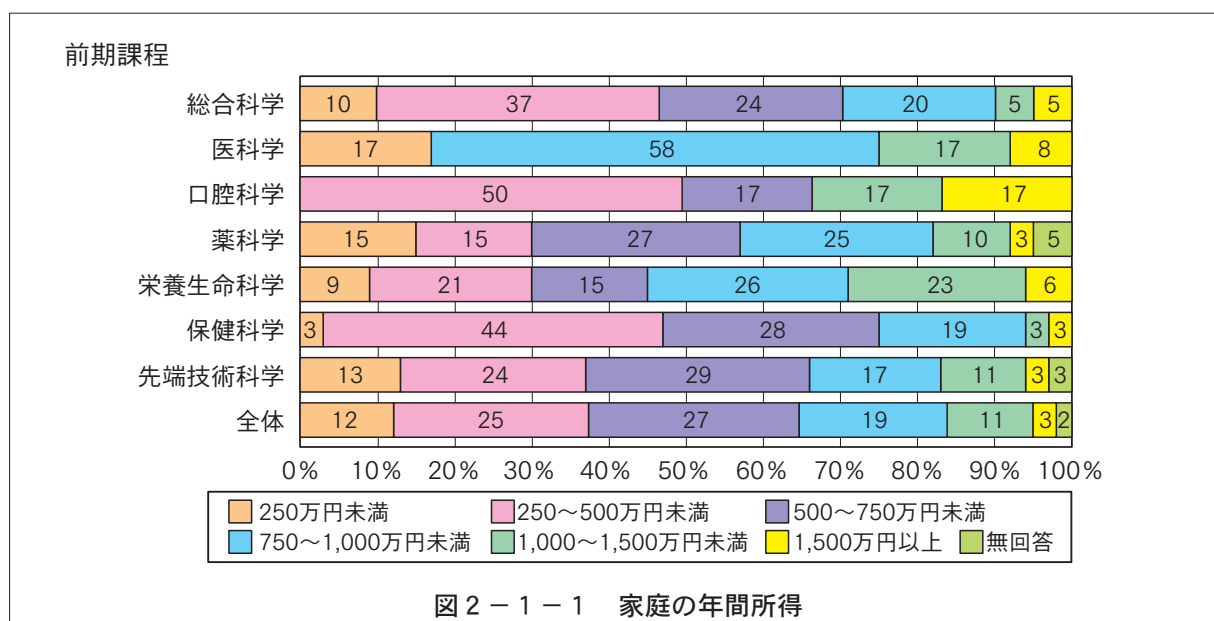
## 第2章 家族・住居・通学について

### 2-1 家庭の年間所得 (図2-1-1, 図2-1-2)

大学院生の年間所得については、全体としては前期及び後期課程ともに平成26年度の第5回調査に比べて、その割合に大きな変化はみられなかった。

前期課程では、年収500万円～750万円未満の割合が27%と最も高く、次いで250万円～500万円未満が25%、さらに750万円～1,000万円未満が19%、1,000万円～1,500万円が11%であった。この割合は、前期課程の大学院生数の71%を占める先端技術科学の割合とほぼ同じであった。

後期課程では、年収250万円未満の割合が33%と最も高く、次いで500万円～750万円が19%、250万円～500万円が16%、750万円～1,000万円が12%、1,000万円～1,500万円が11%であった。年収500万円以上の割合は、前期及び後期課程ともに大部分の教育部で50%以上であったが、後期課程において薬科学では39%、先端技術科学では34%であった。

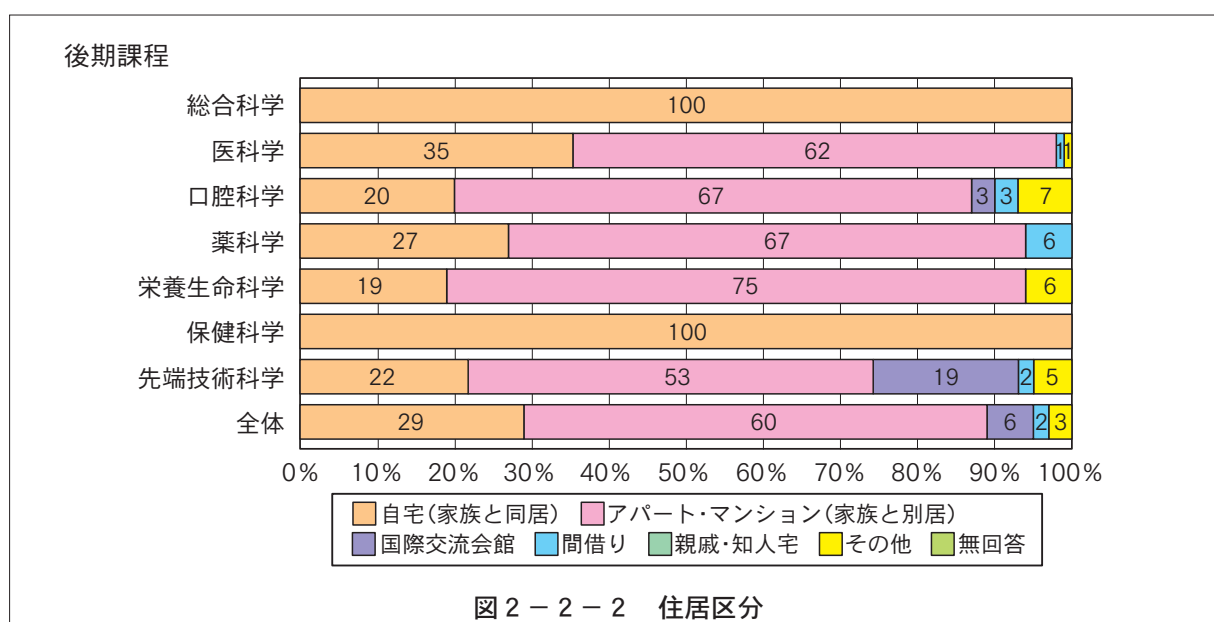
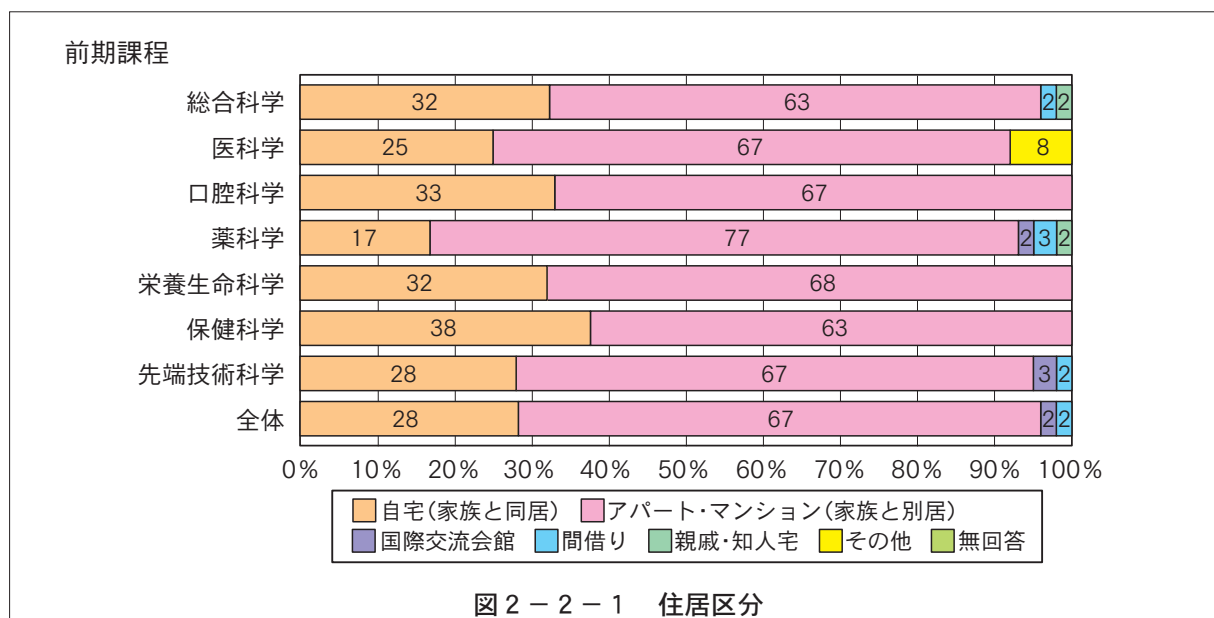


留学生については、年収250万円以下の割合が前期課程では57%、後期課程では75%であった。留学生数の割合が前期課程では4.9%であるが、後期課程では27.9%であるため、後期課程の大学院生の年間所得については、留学生の低所得の割合が影響していると考えられる。

## 2-2 住居区分 (図2-2-1, 図2-2-2)

大学院生の住居区分については、全体としては前期及び後期課程ともに平成26年度の第5回調査とほぼ同様な傾向がみられた。大学院生のうち、約30%は前期及び後期課程ともに自宅から通学しており、約60～70%はアパート・マンションに居住していた。後期課程において、総合科学と保健科学の大学院生は、全員自宅から通学していた。

留学生については、前期課程では6%が自宅、51%がアパート・マンション、31%が国際交流会館に居住していたが、後期課程では21%が自宅、51%がアパート・マンション、20%が国際交流会館に居住していた。後期課程の留学生のうち、総合科学では全員、医科学では47%が自宅に居住していた。



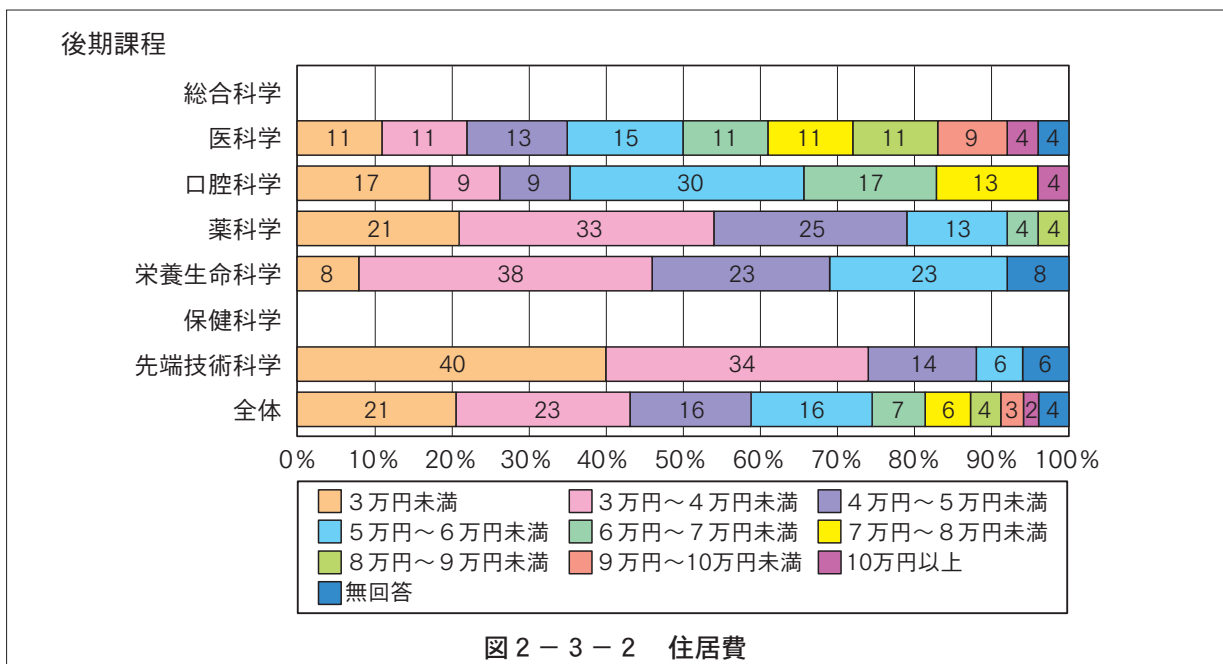
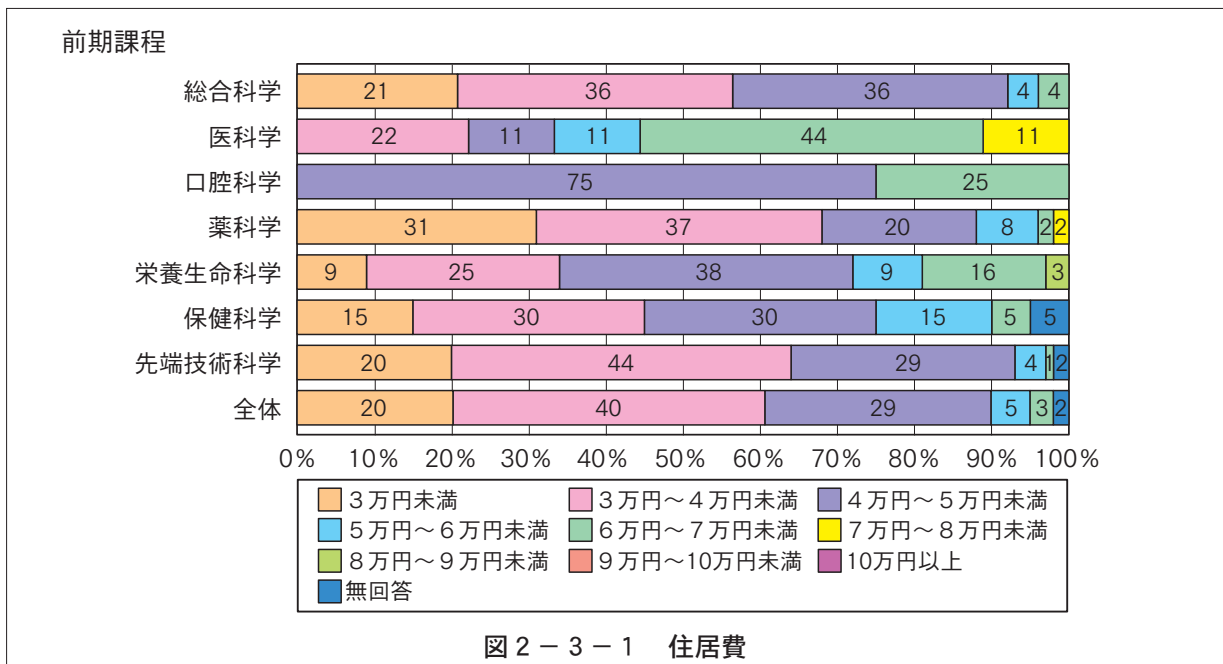
## 2-3 住居費 (図2-3-1, 図2-3-2)

大学院生の住居費については、全体としては前期及び後期課程ともに平成26年度の第5回調査とほぼ同様な傾向がみられた。

前期課程では、3万円～4万円未満が40%、4万円～5万円未満が29%、3万円未満が20%であった。これは前期課程の大学院生数の71%を占める先端技術科学の割合とほぼ同じである。3万円未満の住居費の割合は、医科学と口腔科学ではみられず、4万円～5万円未満の割合が口腔科学で75%と高く、6万円～7万円未満の割合が医科学、口腔科学、栄養科学で他と比べて高かった。

後期課程では、3万円～4万円未満が23%、4万円～5万円未満と5万円～6万円未満が16%、3万円未満が21%であった。後期課程では、3万円未満の住居費の割合が先端技術科学で40%と他の教育部と比べて高かった。

留学生については、全体として居住費は、3万円未満が前期及び後期課程ともに64%であり、3万円

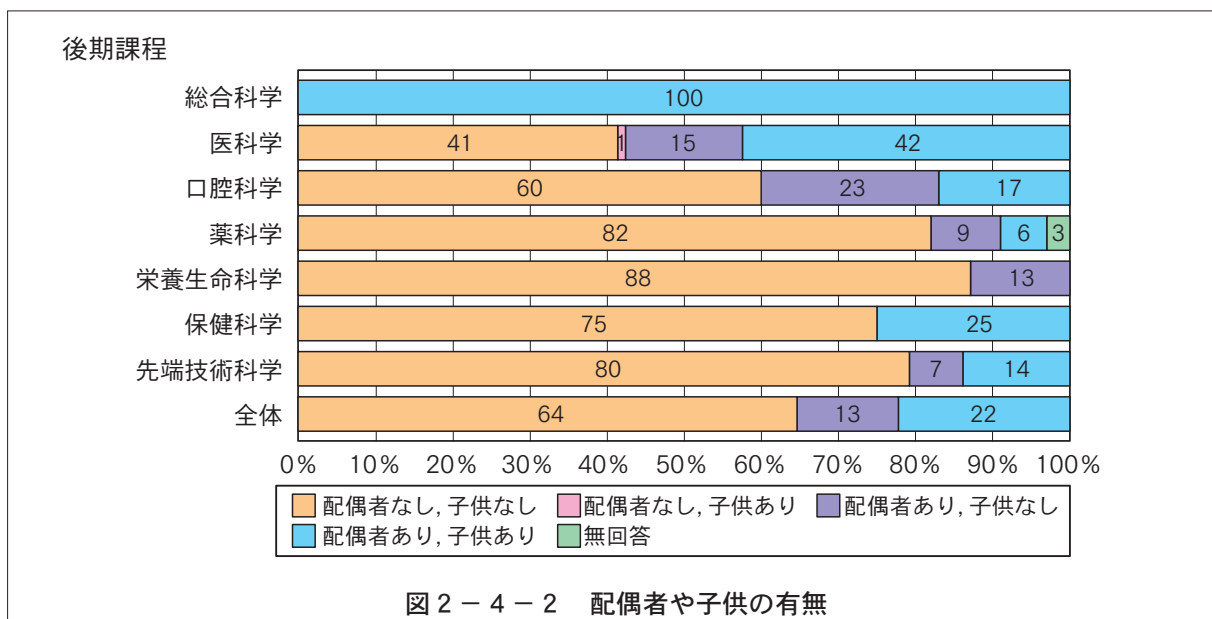
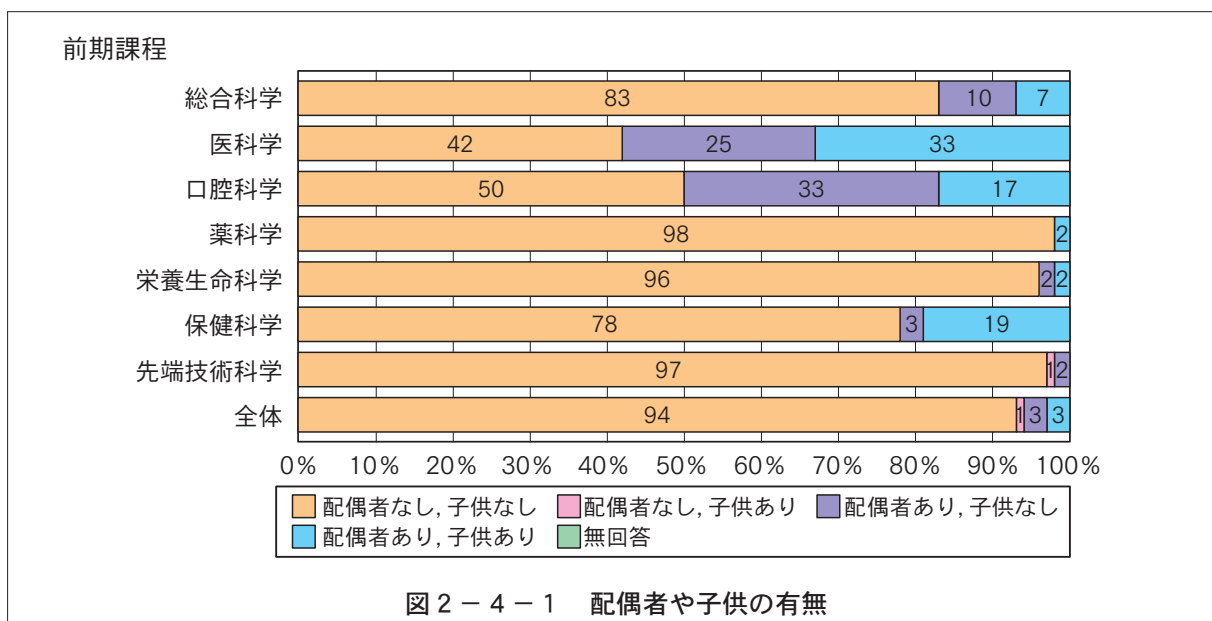


～4万円未満が前期課程で18%，後期課程で28%であった。留学生の半数以上は3万円未満の居住費で生活していた。

## 2-4 配偶者や子供の有無 (図2-4-1～図2-4-4)

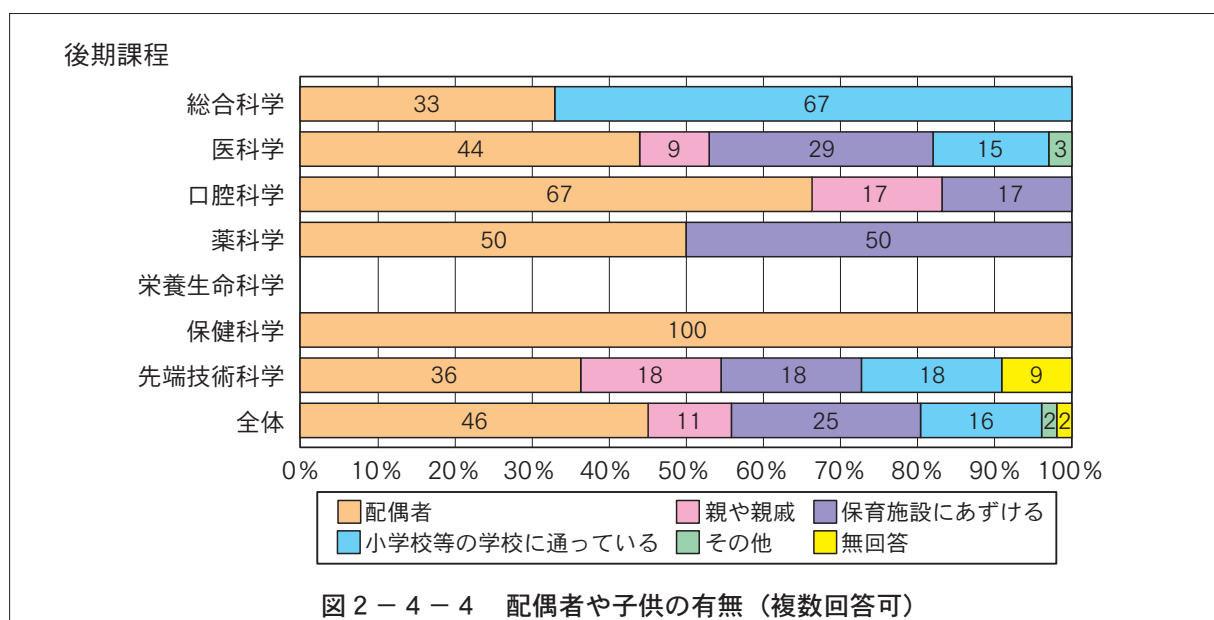
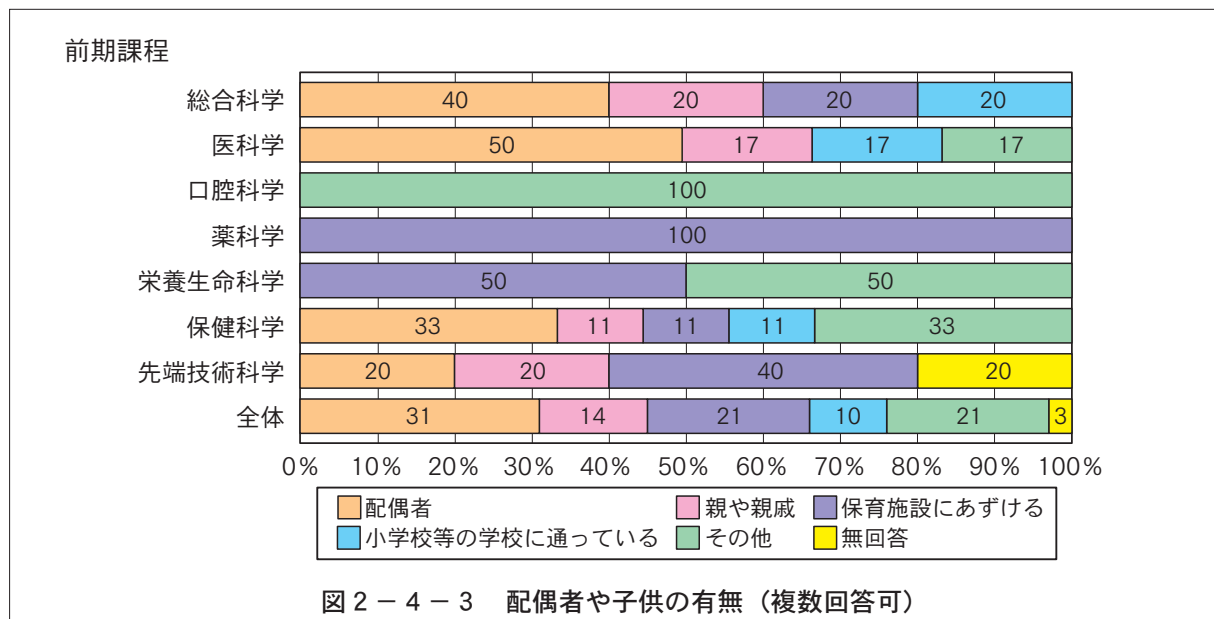
大学院生の配偶者や子供については、全体として配偶者や子供がない割合は、前期課程では94%であり、後期課程では64%であった。配偶者がある割合は、前期課程では医科学と口腔科学で50～60%であり、後期課程では、医科学で約60%，総合科学では人数が少ないものの100%であった。

留学生については、全体として同様な割合がみられ、配偶者や子供がない割合は、前期課程では86%であり、後期課程では64%であった。



子供がある大学院生について、授業や研究をしているときに、子供の世話をしているのは、全体として前期及び後期課程において、配偶者(31%，46%)，親や親戚(14%，11%)，保育所にあずける(21%，25%)であった。留学生については、前期課程では全体として50%が保育施設にあずけるか、あるいはその他(50%)であり、後期課程では44%が保育施設にあずけており、22%が配偶者、6%が

親や親戚が世話をしていた。



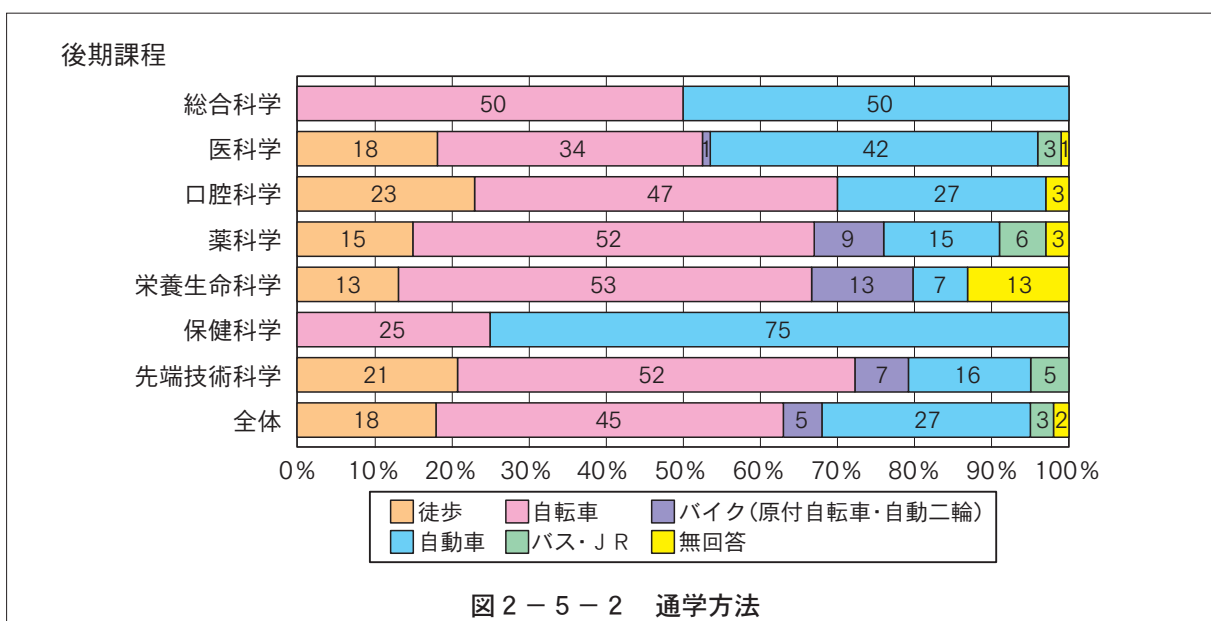
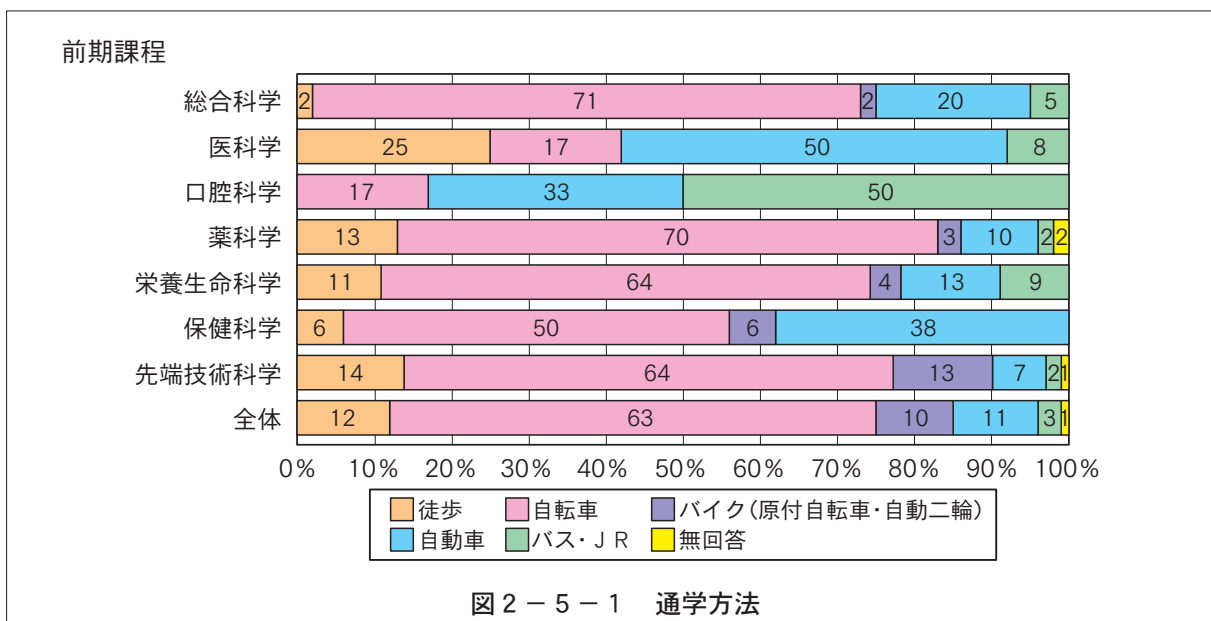
## 2-5 通学方法 (図 2-5-1, 図 2-5-2)

大学院生の通学方法については、全体として平成 26 年度の第 5 回調査の結果とほぼ同様であり、前期及び後期課程ともに、自転車 (63%, 45%) の割合が最も高く、徒歩 (12%, 18%), バイク (原付自転車・自動二輪) (10%, 5%), 自動車 (11%, 27%) であった。

前期課程では、自転車の割合は医科学と口腔科学で 17% と低く、自動車の割合は医科学 (50%), 口腔科学 (33%), 保健科学 (38%) で高く、バス・JR の割合は口腔科学で 50% と高かった。

後期課程では、自転車の割合は保健科学で 25% と低く、徒歩は保健科学ではみられず、自動車の割合は総合科学 (50%), 医科学 (42%), 保健科学 (75%) で高かった。

留学生についても、全体として同じ傾向がみられ、前期及び後期課程ともに、自転車の割合 (83%, 64%) が最も高く、徒歩 (6%, 22%), バイク (原付自転車・自動二輪) (6%, 3%), 自動車 (6%, 7%) であった。



## 2-6 通学時間 (図 2-6-1, 図 2-6-2)

大学院生の通学時間については、全体として平成 26 年度の第 5 回調査の結果とほぼ同様の結果であり、前期及び後期課程ともに、15 分未満 (69%, 54%) の割合が最も高く、次いで 15 分～30 分未満 (16%, 26%), 30 分～1 時間未満 (11%, 13%) であった。

前期課程では、医科学と口腔科学で 15 分未満の割合 (33%, 17%) が低く、医科学では 15 分～30 分未満 (33%) と 30 分～1 時間未満 (33%) の割合が高く、口腔科学では 15 分～30 分未満はみられず、1 時間～2 時間未満 (33%) と 2 時間以上 (33%) の割合が高かった。

後期課程では、総合科学と保健科学で 15 分未満の割合はみられず、15 分～30 分未満 (50%, 50%) と 30 分～1 時間未満 (50%, 25%) の割合が高かった。

留学生についても、全体として同じ傾向がみられ、前期及び後期課程ともに、15 分未満 (57%, 61%) の割合が最も高く、15 分～30 分未満 (20%, 23%), 30 分～1 時間未満 (23%, 15%) であった。

前期課程

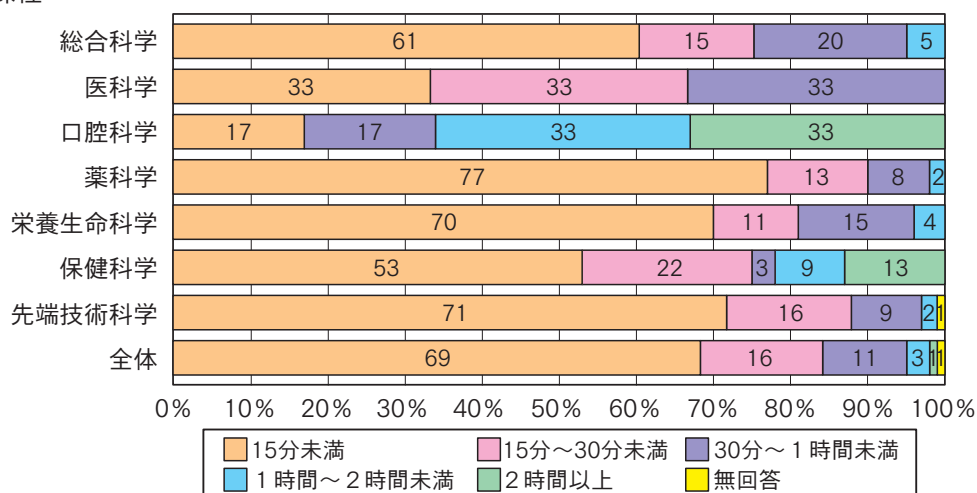


図 2 - 6 - 1 通学時間

後期課程

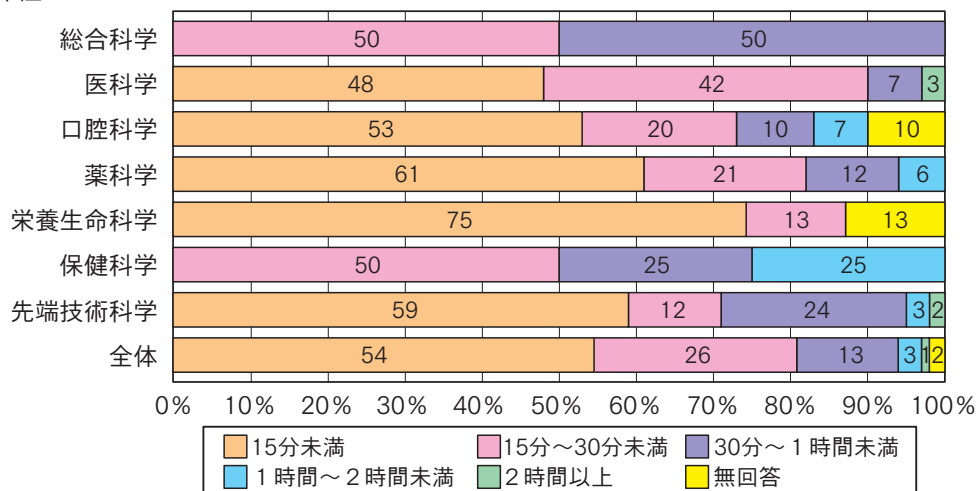
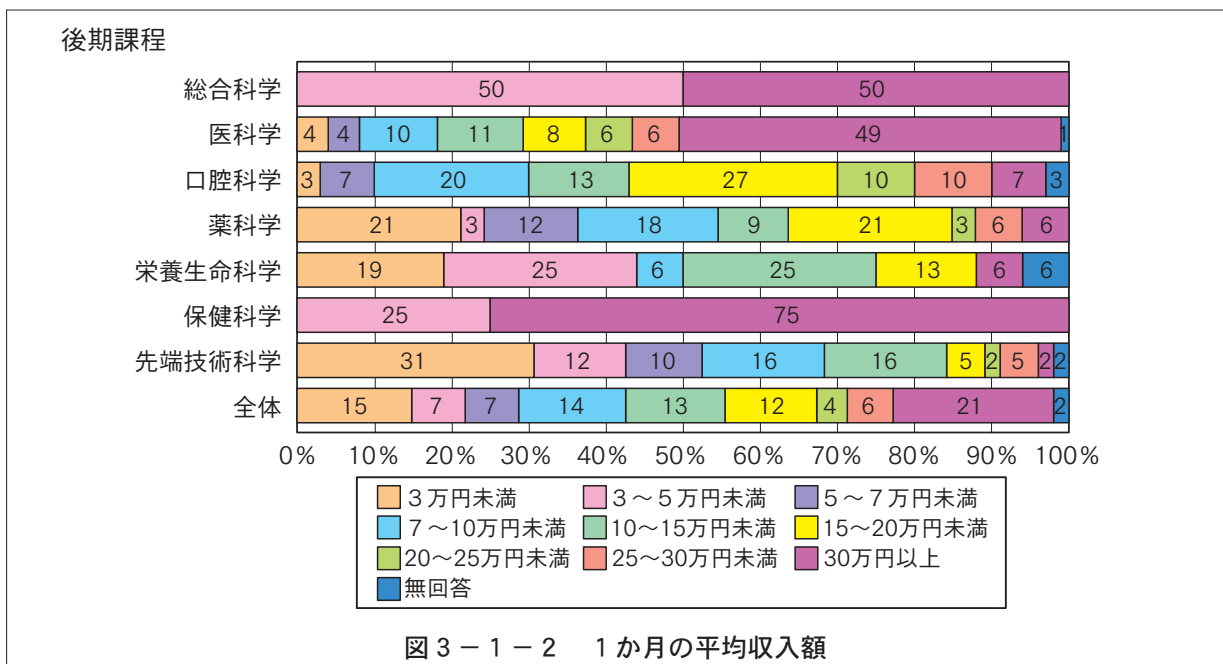
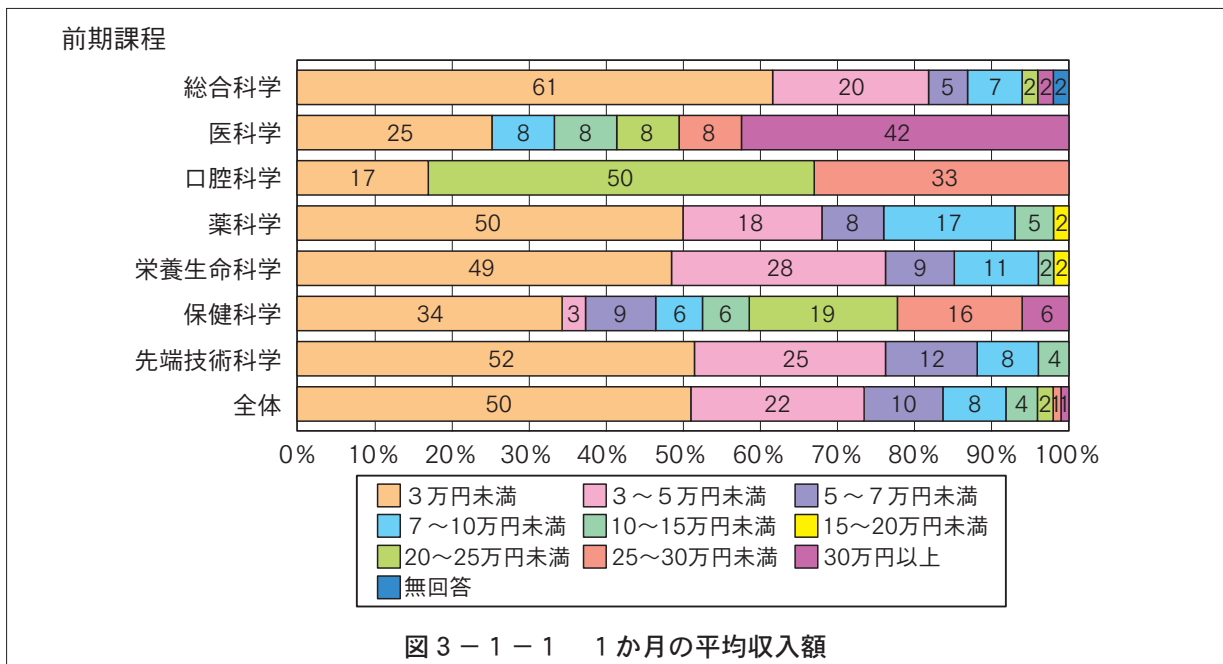


図 2 - 6 - 2 通学時間

# 第3章 収入・支出について

## 3-1 1ヶ月の平均収入額 (図3-1-1, 図3-1-2)

前期課程では、全体の半数は月平均収入額（親等からの援助を除く）が3万円未満、約9割は10万円未満であり、これは第5回の調査結果とほぼ同様である。教育部別にみると、総合科学、薬科学、栄養生命学と先端技術学は類似しており、約半数が3万円未満で、2, 3割が3～5万円未満である。一方、医科学では半数強が、口腔科学では約8割が20万円以上の収入を得ている。保健科学は3分の1が3万円未満である一方、約2割は25万円以上の収入を得ており、ばらつきが大きい。留学生の1か月の平均収入は、約6割は5万円未満、さらに3割弱は3万円未満であり、多くは奨学金等の受給による収入と考えられる。

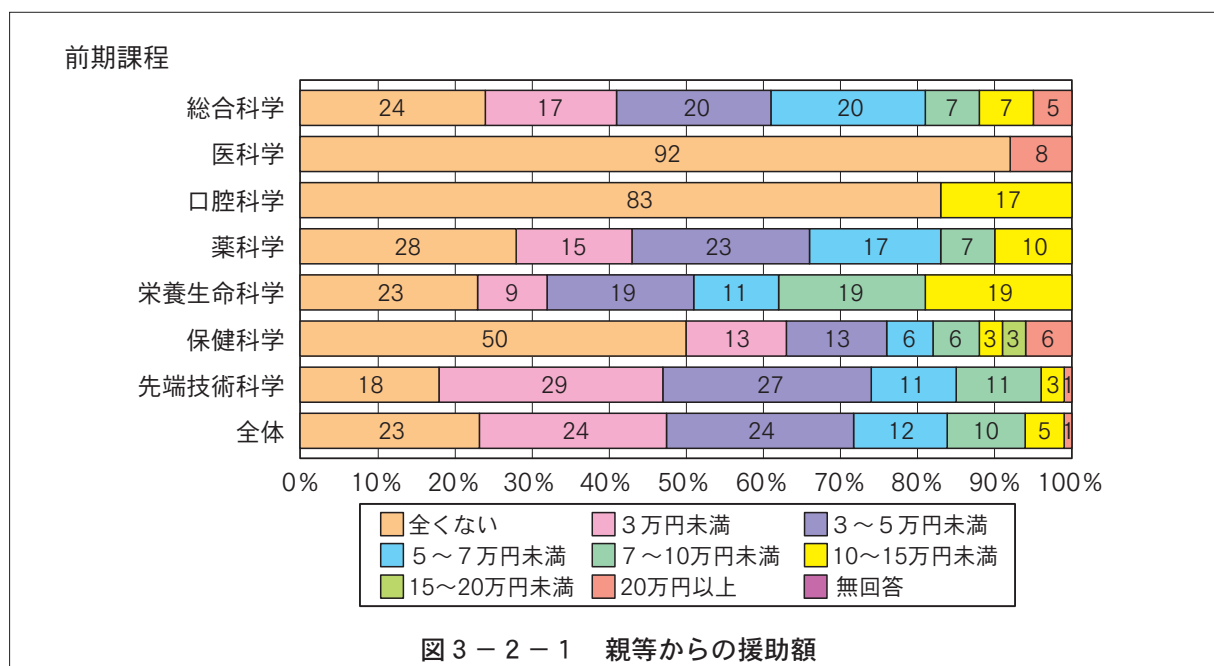




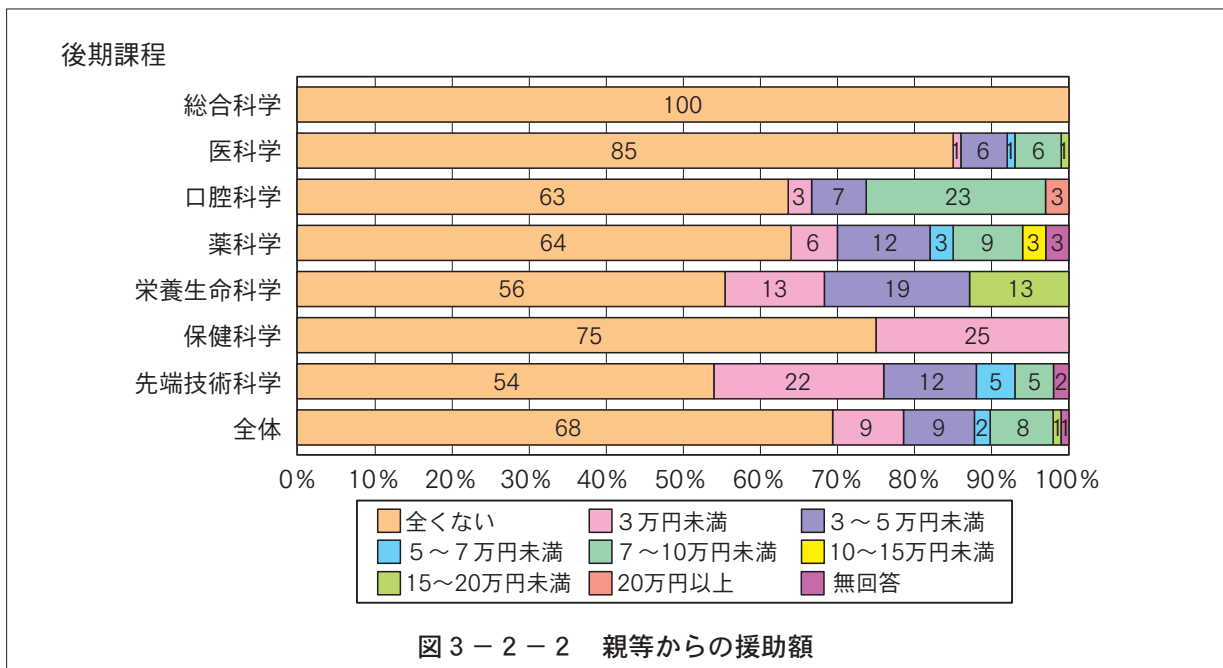
後期課程では1か月の平均収入額のばらつきが大きく、全体の15%が平均収入3万円未満である一方、約2割は30万円以上の収入を得ている。これは第5回の調査結果とほぼ同様である。教育部を比較すると、先端技術科学では7割弱が平均収入10万円未満であり、この割合は第5回調査よりも1割以上増加した。薬科学と栄養生命科学の約半数は収入10万円未満である。保健科学は75%の学生が30万円以上の収入を得ており、第5回調査よりも割合が増加した。医科学では約半数が30万円以上の収入を得ているのに対し、約2割は10万円未満である。口腔科学の3割は10万円未満の収入であり、第5回調査よりも約1割減少した。留学生については全体の約6割が10万円未満、25%が10～15万円未満の収入を得ており、第5回の結果とほぼ同様であった。

### 3-2 親等からの援助額 (図3-2-1, 図3-2-2)

前期課程では、親等からの援助が全くない大学院生は全体の23%であり、第5回調査結果(25%)とほぼ同じである。また、48%は5万円未満の援助額である。教育部によりばらつきがあり、親等からの援助が全くない大学院生の割合は医科学(92%)、口腔科学(83%)、と保健科学(50%)の順で高く、いずれの割合も第5回調査よりも2から25%高い。一方、先端技術科学、栄養生命科学、総合科学と薬科学では親等からの援助が全くない学生の割合は低い(18～28%)。留学生については、全体の37%は親等からの援助が全くない。

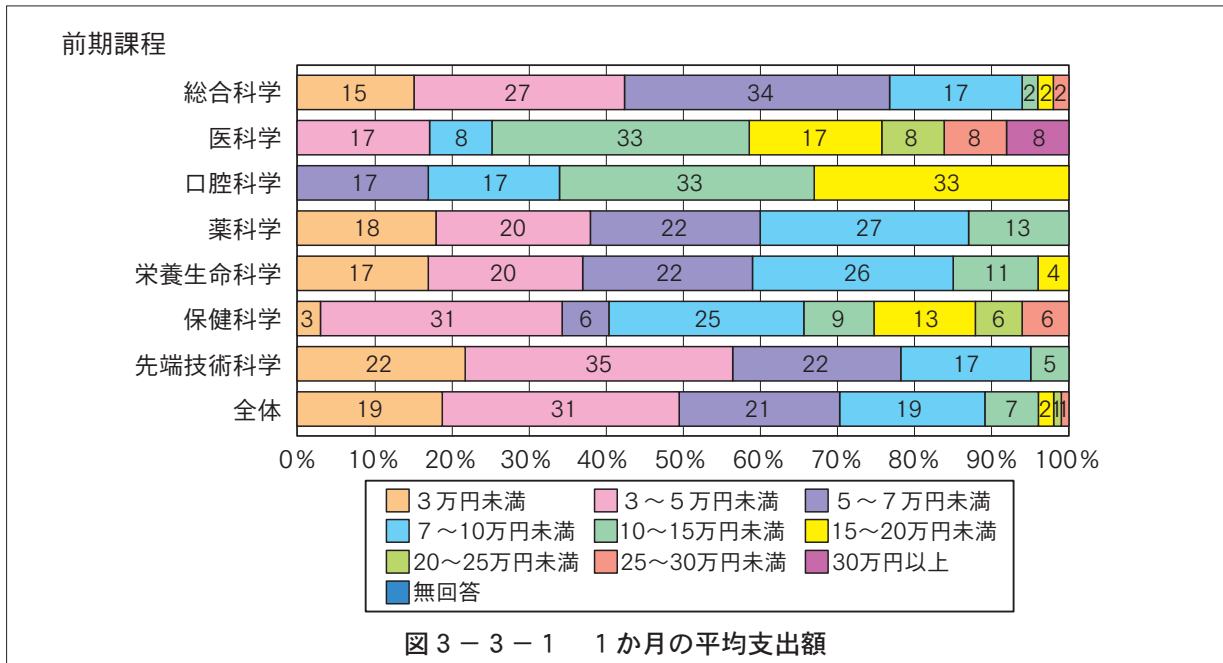


後期課程では、前期課程(23%)と比較して親等からの援助を全く受けていない割合が全体の68%と高く、援助額5万円未満のものは18%であり、収入面での独立傾向が伺える。これは第5回調査の結果と同じ傾向である。一方、援助額10万円以上の大学院生の割合は前期課程(6%)よりも少なく、1%であった。教育部を比較すると、親等からの援助を全く受けていない割合は、総合科学(100%)、医科学(85%)、保健科学(75%)の順で高く、いずれの教育部も後期課程大学院生の半数以上は援助を受けていない。留学生については全体の66%が親等からの援助はなく、24%が5万円未満の援助である。



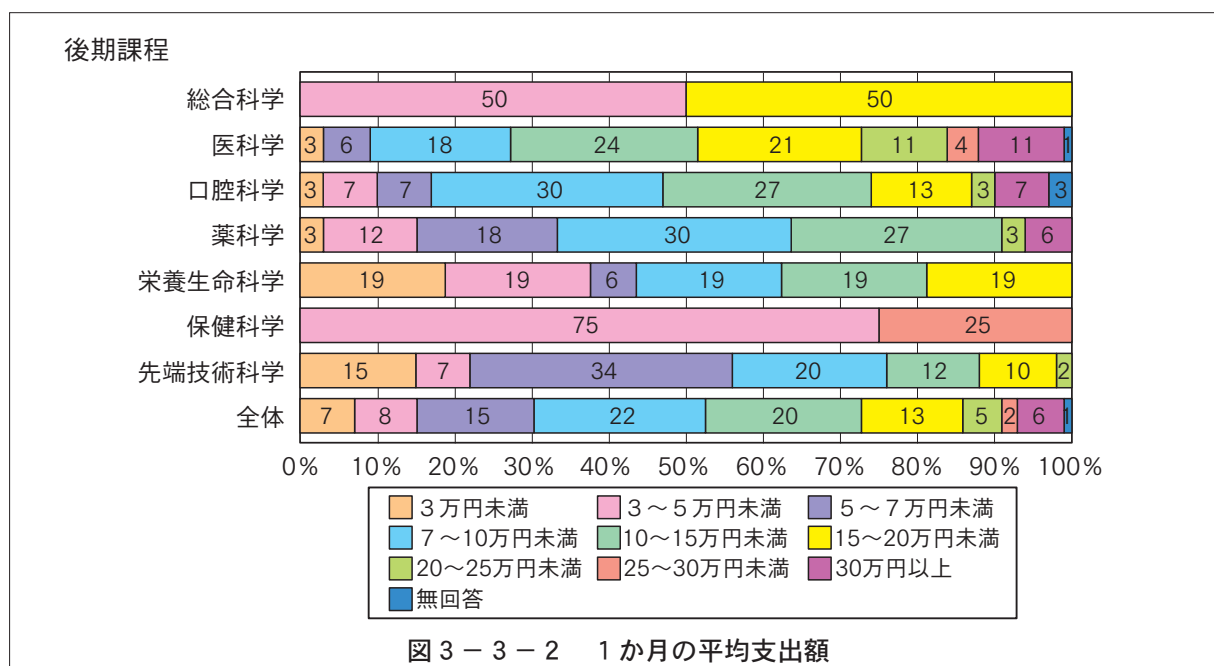
### 3-3 1か月の平均支出額（授業料支出は除く）（図3-3-1, 図3-3-2）

前期課程では、全体の半数が1か月平均5万円未満の支出で、9割が月平均10万円未満の支出で生活をしている。これは第5回調査の結果とほぼ同様である。教育部を比較すると、月平均10万円未満の支出で生活している大学院生の割合は、先端技術科学（95%）、総合科学（94%）、薬科学（87%）、栄養生命科学（85%）、保健科学（65%）の順に高く、医科学（25%）と口腔科学（34%）ではその割合は低い。留学生の86%は月平均支出額10万円未満で生活していて、とくに先端技術科学の留学生の32%は支出を5万円未満に抑えている。これは第5回調査とほぼ同様の結果である。



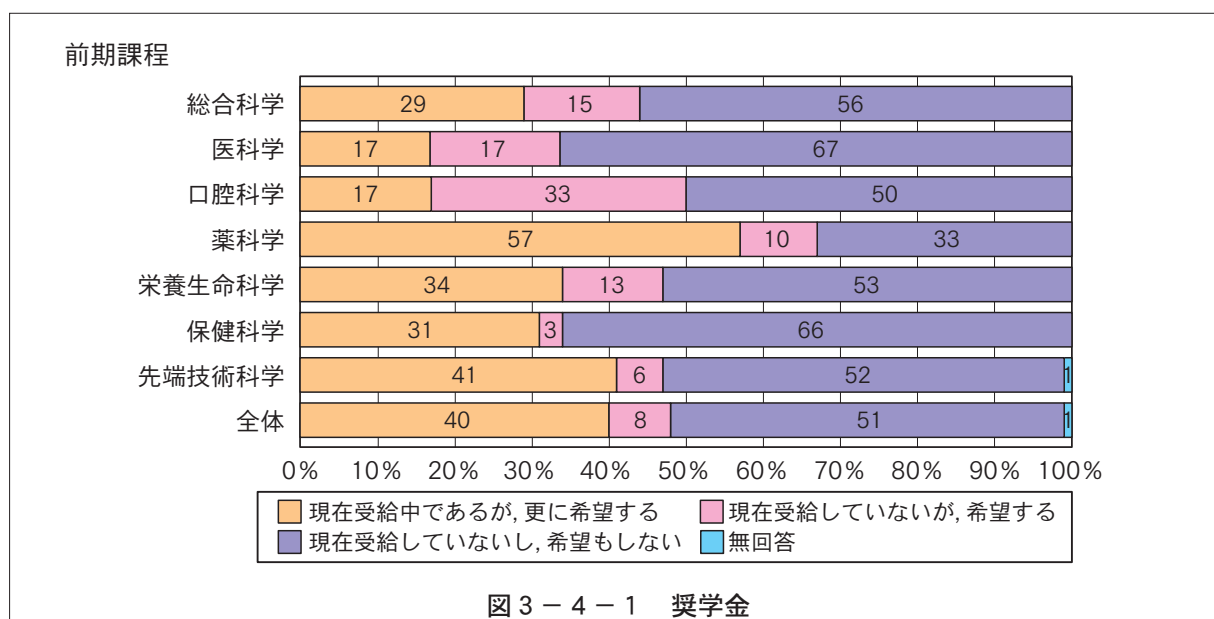
後期課程では、大学院生の52%は月平均10万円未満で生活し、さらに月平均支出額5万円未満である割合は全体の15%であり、第5回調査の結果とほぼ同じである。教育部を比較すると、支出額10万円以上の大学院生の割合は医科学（71%）と口腔科学（50%）で高く、5万円未満の割合は保健科学（75%）

と総合科学（50％）で高い。薬科学，栄養生命科学と先端技術科学では1か月の平均支出額のばらつきが大きい。留学生については，全体の62％の平均支出額は10万円未満である。



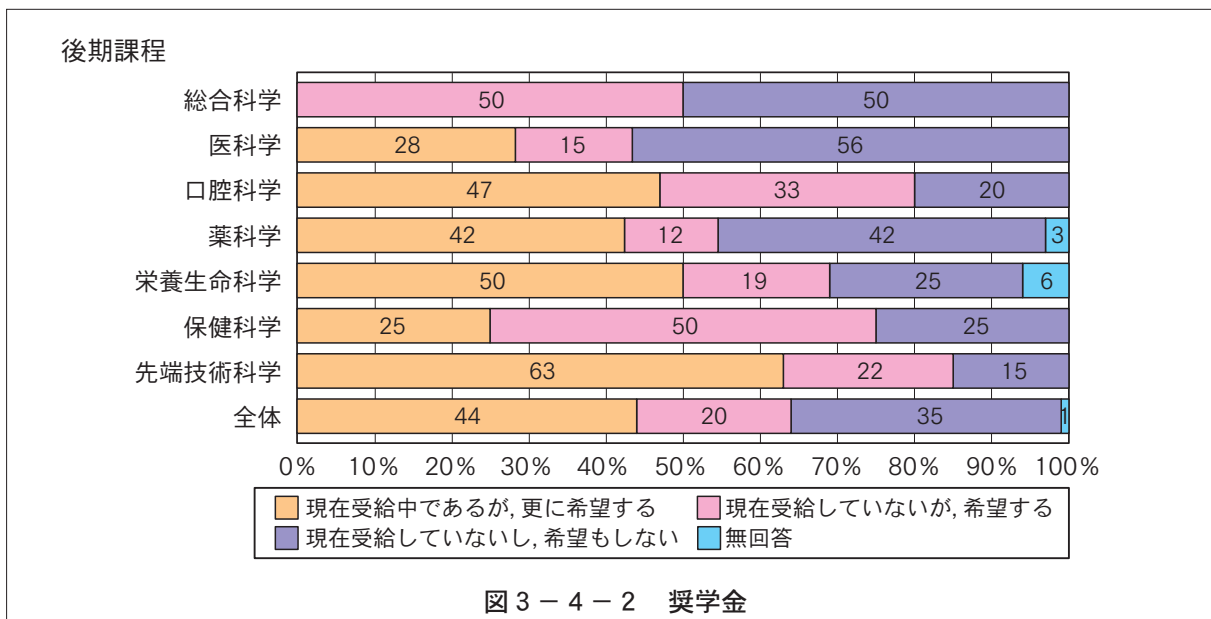
### 3-4 奨学金を受けることを希望しますか (図 3-4-1, 図 3-4-2)

前期課程では，奨学金希望者は全体の48％であり，第5回調査の結果よりも7％減少した。一方，51％は奨学金受給を希望していない。現在の奨学金受給者の割合は薬科学が最も高く（57％），次いで先端技術科学（41％）である。医科学と口腔科学はともに17％と低いが，将来的な受給希望は口腔科学（33％）も医科学（17％）も高い。留学生の97％は奨学金を希望しており，第5回調査の結果よりも増加している。



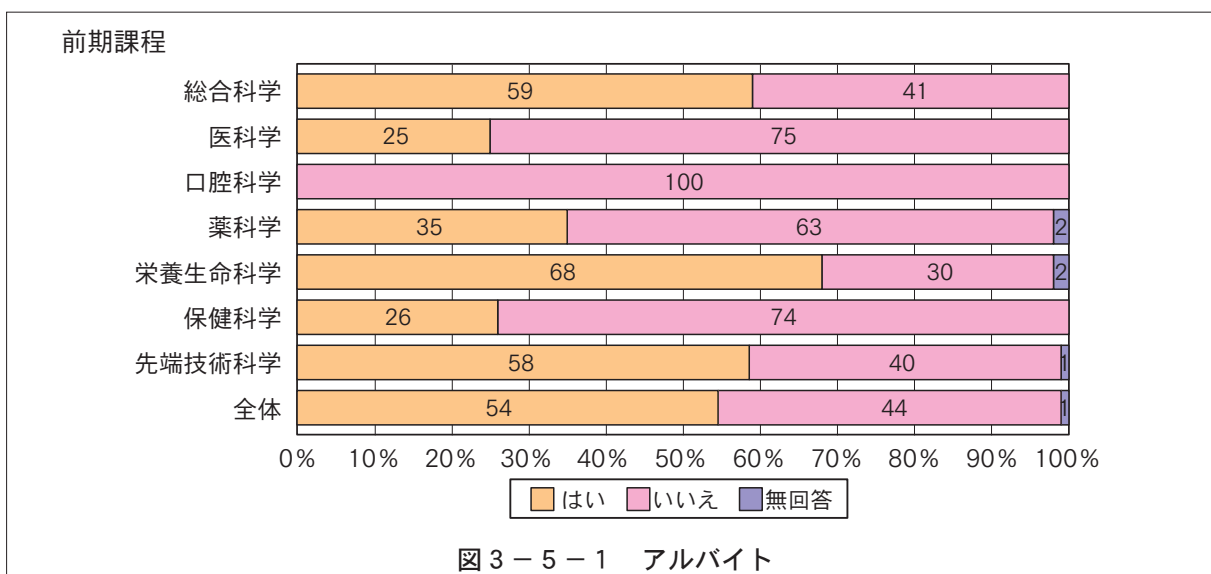
後期課程では，全体として奨学金を希望する割合は前期課程（48％）よりも高く，64％であり，第5回調査の結果とほぼ同じである。教育部を比較すると，奨学金受給の割合は先端技術科学（63％），栄養生命科学（50％），口腔科学（47％）の順に高い。将来的な受給希望の割合は総合科学と保健科学（と

もに50%)、口腔科学(33%)で高い。また、すべての留学生は奨学金受給を希望している。

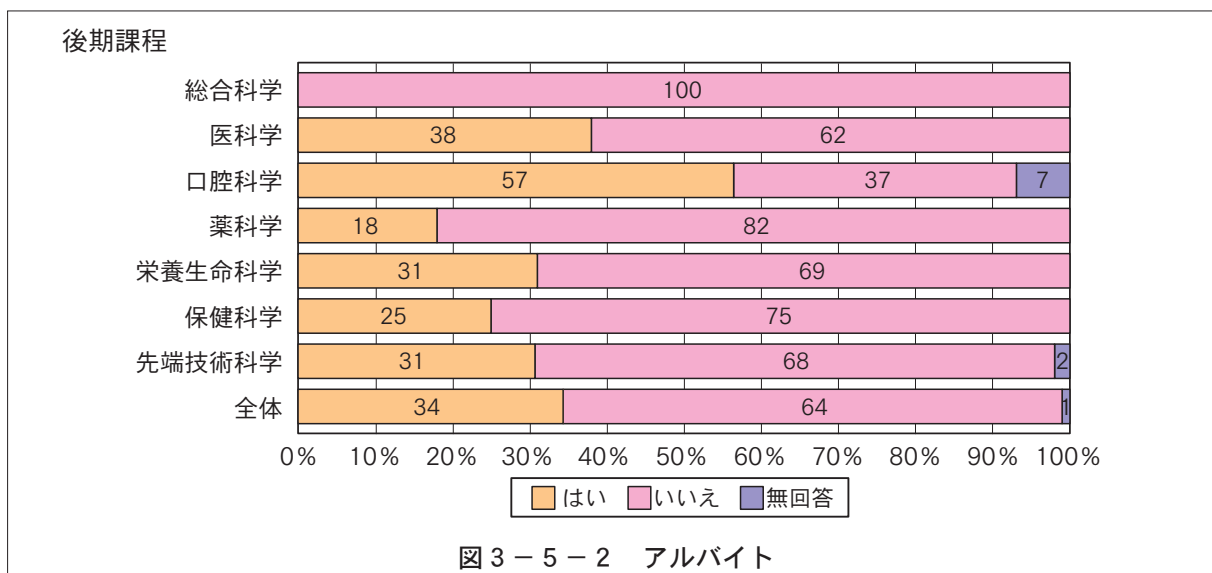


### 3-5 現在、アルバイトをしているか (図 3-5-1, 図 3-5-2)

前期課程では、全体の54%の大学院生がアルバイトをしており、この割合は第4回調査の結果(48%)よりも増加している。教育部で比較すると、アルバイト学生の割合は栄養生命科学(68%)、総合科学(59%)、先端技術科学(58%)の順に高く、保健科学(26%)、医科学(25%)、口腔科学(0%)は低い。留学生の37%がアルバイトをしており、これは第5回調査の結果(38%)とほぼ同じである。

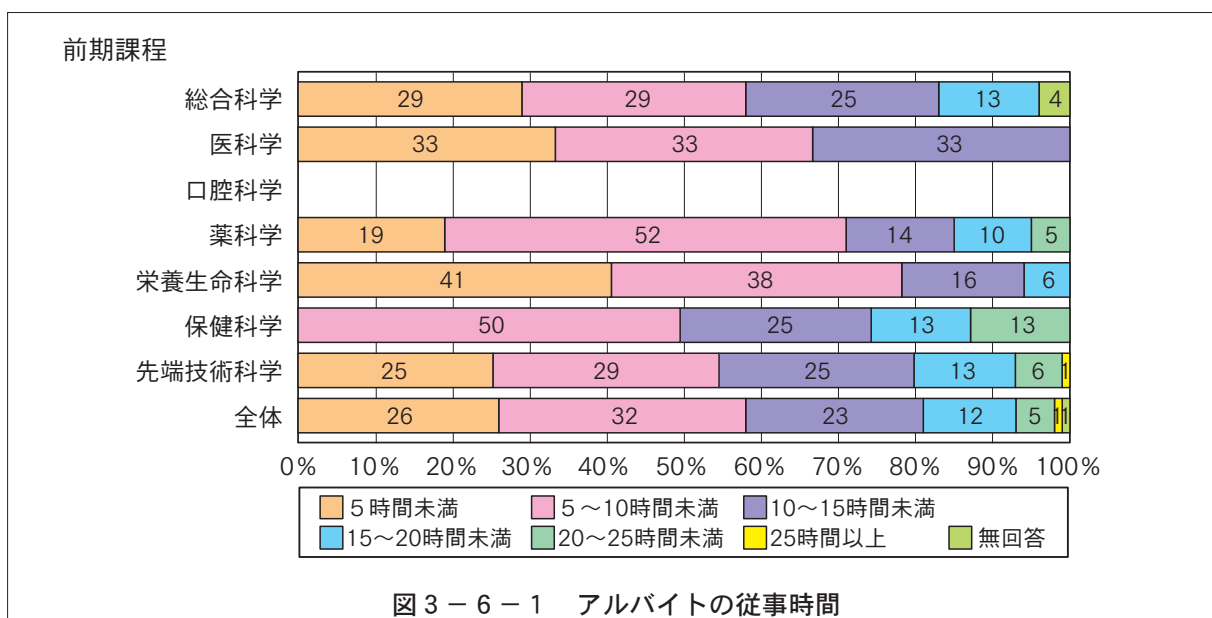


後期課程では、全体として34%の大学院生がアルバイトを行っており、前期課程(54%)と比較すると少ない。教育部別では、総合科学、薬科学、栄養生命科学と先端技術科学では、アルバイトを行っている割合は前期課程よりも後期課程で減少し、医科学と口腔科学では増加し、保健科学はほぼ同じ割合である。教育部を比較すると、アルバイト学生の割合は口腔科学が57%と最も高く、ついで医科学(38%)、栄養生命科学と先端技術科学(ともに31%)である。後期課程の留学生の18%がアルバイトを行い、この割合は第5回調査の結果(22%)よりも4%減少している。

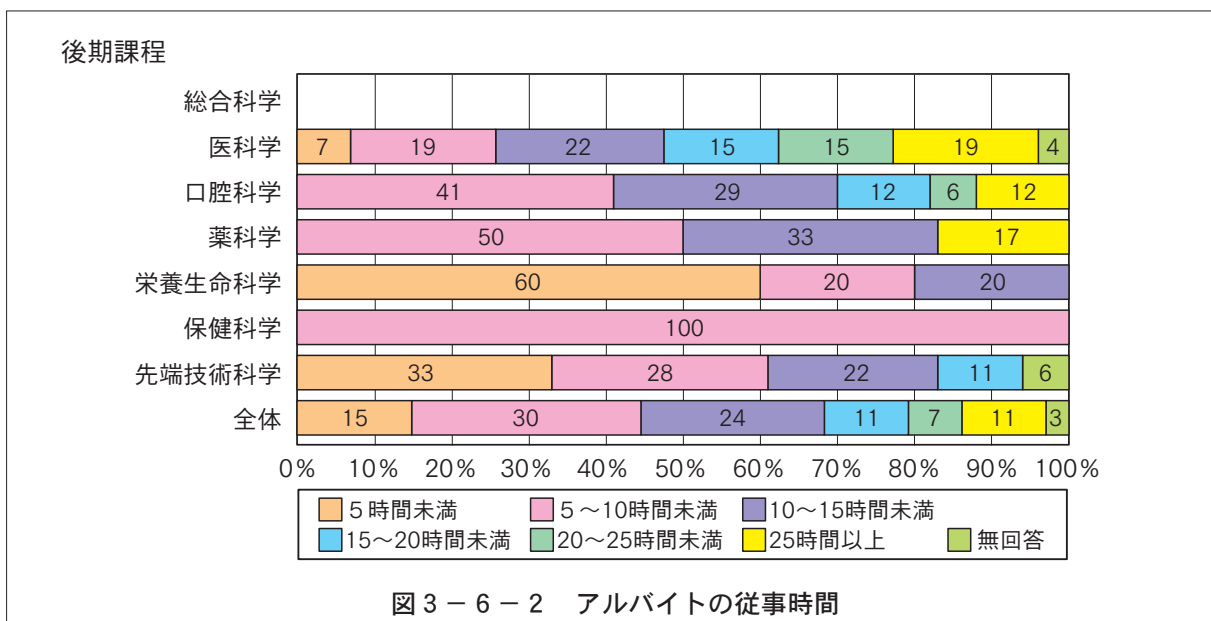


### 3-6 アルバイト従事時間数 (図 3-6-1, 図 3-6-2)

前期課程では、全体の 58% はアルバイト従事時間 10 時間未満であり、41% は 10 時間以上で、そのうち 1% の大学院生は 25 時間以上のアルバイトに従事している。第 5 回調査の結果と比較すると、全体としてアルバイト従事時間は短くなっている。教育部を比較すると、総合科学（無回答を除く）と医科学ではすべて 20 時間未満のアルバイト従事であり、20 時間以上のアルバイト従事学生は保健科学の 13%、先端技術科学の 7% と薬科学の 5% である。そのうち 25 時間以上の従事者の割合は先端技術科学の 1% であり、この割合は第 5 回調査の結果よりも減少している。留学生については、全体の 46% が 10 時間未満のアルバイトを行い、すべて従事時間は 20 時間未満である。

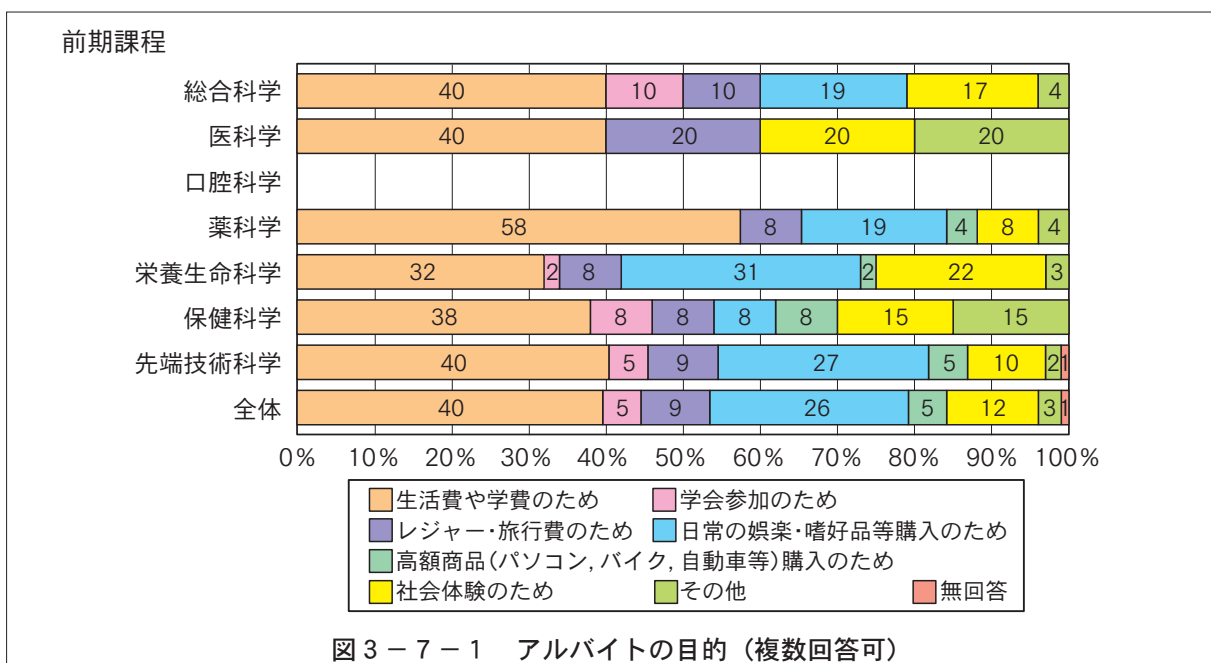


後期課程では、全体としてアルバイト時間 10 時間未満の大学院生の割合は 45% で前期課程（58%）よりも低く、25 時間以上従事している者の割合は 11% と前期課程（1%）よりも高い。教育部を比較すると、栄養生命科学、保健科学と先端技術科学ではすべて 20 時間未満の従事時間であるが、医科学の 34%、口腔科学の 18% と薬科学の 17% は 20 時間以上のアルバイトを行っている。留学生については、すべてが 20 時間未満のアルバイト従事であり、5～10 時間未満の割合が 45% と最も多い。

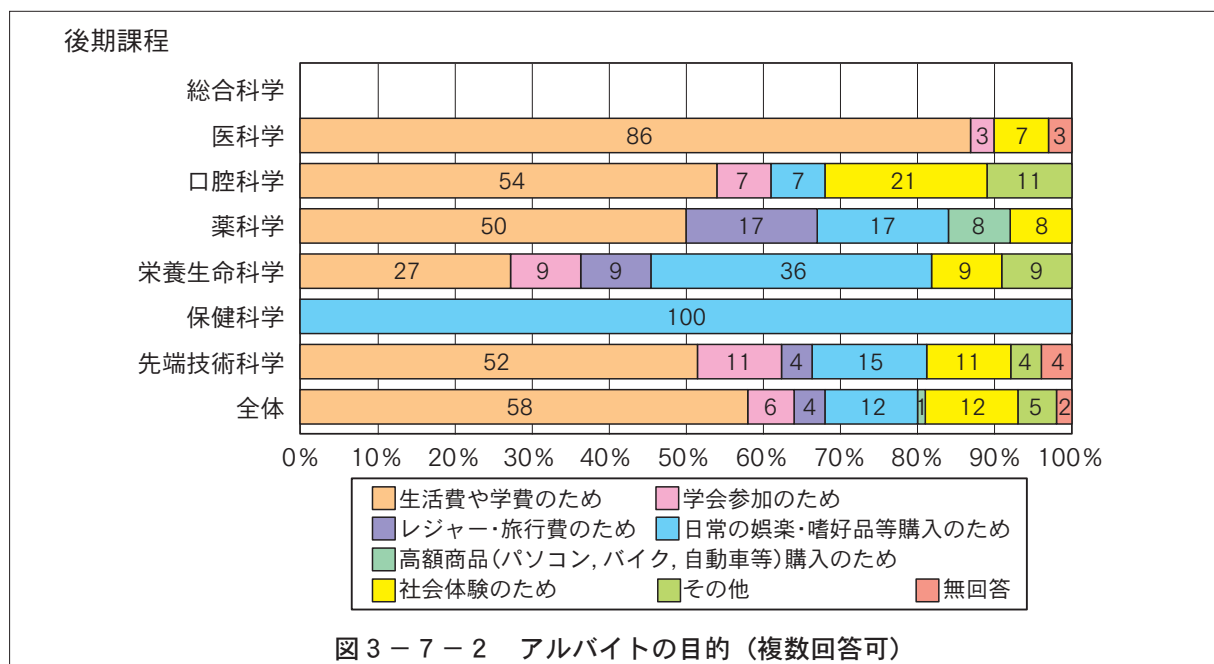


### 3-7 アルバイトの目的 (図 3-7-1, 図 3-7-2)

前期課程では、全体の40%はアルバイトの目的が「生活費や学費のため」であり、これは第5回調査結果と同じである。「学会参加のため」の5%を含めると、45%が大学院生としての生活費捻出のためにアルバイトを行っている。一方、「レジャー・旅行」、「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトは35%であり、第5回調査の結果と同じである。教育部を比較すると、「生活費や学費のため」の割合が最も高いのは薬科学(58%)であり、他はほぼ同等である。「レジャー・旅行」、「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトの割合は栄養生命科学(39%)と先端技術科学(36%)において高い。「高額商品(パソコン、バイク、自動車等)購入のため」のアルバイトはすべての教育部で0~8%と低い。一方、「社会体験のため」のアルバイトと回答した割合は栄養生命科学(22%)と医科学(20%)で高い。留学生については全体の60%が「生活費や学費のため」のアルバイトであり、第5回調査の結果(80%)よりも減少した。



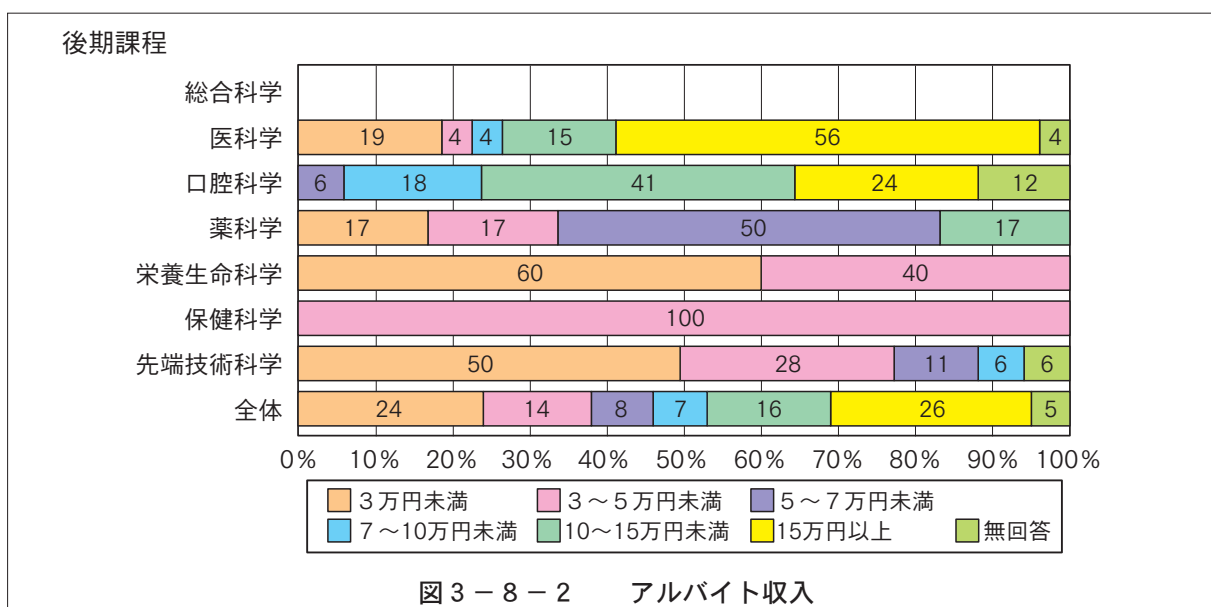
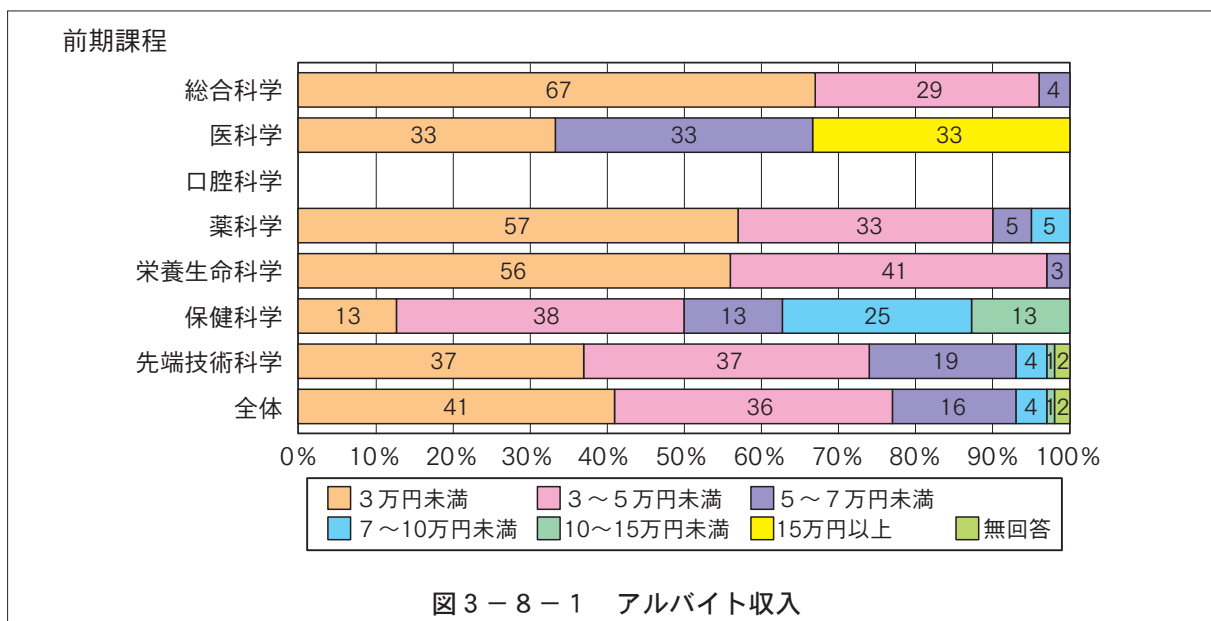
後期課程では、全体の58%のアルバイトの目的は「生活費や学費のため」であり、前期課程（40%）と比較して割合が高い。一方、「レジャー・旅行」、「日常の娯楽など」の交遊費捻出を目的とする割合は16%で、前期課程（35%）と比較してきわめて低い。この傾向は第5回調査の結果と同じである。「社会体験のため」と回答した者は全体の12%で、前期課程と同じであった。教育部を比較すると、「生活費や学費のため」と「学会参加のため」など大学院生としての生活費捻出を目的としている割合は、医科学が89%と最も高く、次いで先端技術科学（63%）、口腔科学（61%）が高い。一方、保健科学は「日常の娯楽など」の割合が100%であり、栄養生命科学も「レジャー・旅行」と「日常の娯楽など」にあてる割合が45%と高い。留学生の67%は「生活費や学費のため」と「学会参加のため」に、20%は「社会体験のため」にアルバイトをしている。



### 3-8 アルバイト収入金額 (図3-8-1, 図3-8-2)

前期課程では、全体の41%が3万円未満の、36%が3～5万円未満の、21%が5万円以上のアルバイト収入があり（無回答を除く）、第5回調査と比較すると収入金額はやや減少している。教育部の比較では、3万円未満のアルバイト収入を得ている割合は総合科学（67%）、薬科学（57%）栄養生命科学（56%）で高い。一方、保健科学の13%は10～15万円未満の、医科学の33%は15万円以上の収入を得ている。留学生はすべて7万円未満の収入であり、第5回調査の結果と同じである。

後期課程では、全体の53%はアルバイト収入が10万円未満であり、42%は10万円以上の収入を得ていて、第5回調査よりも収入は増加している。教育部を比較すると、医科学の71%と口腔科学の65%は10万円以上の収入で、とくに医科学の56%は15万円以上のアルバイト収入を得ている。薬科学の半数は5～7万円未満の、栄養科学と保健科学のすべては5万円未満の収入である。留学生はすべて7万円未満のアルバイト収入である。



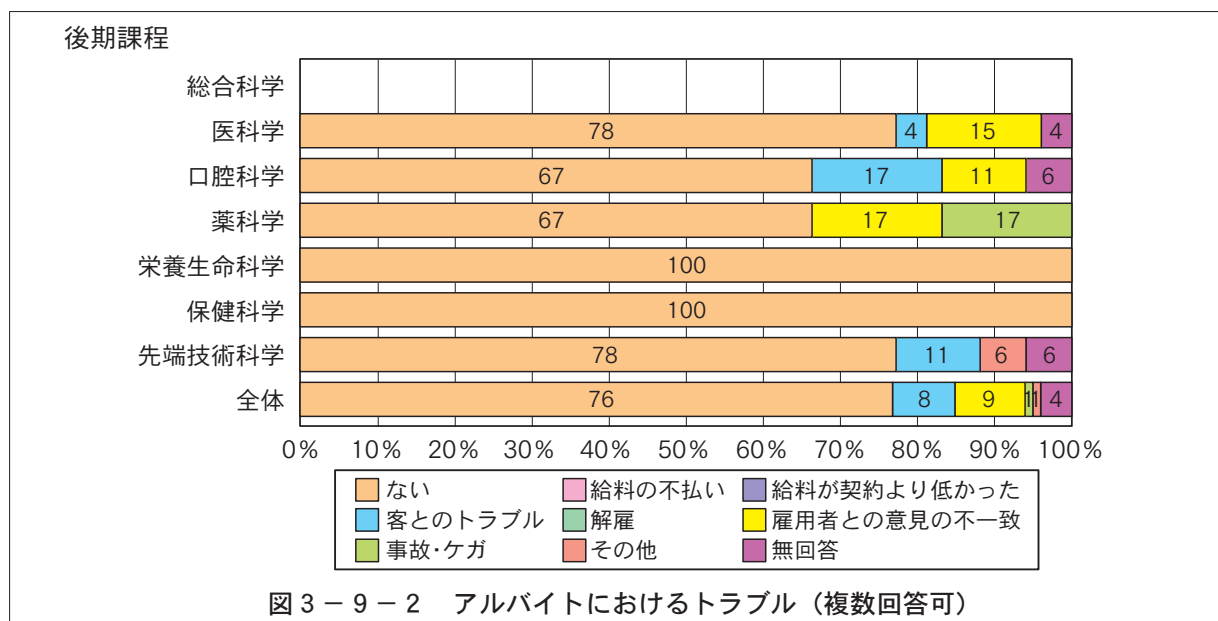
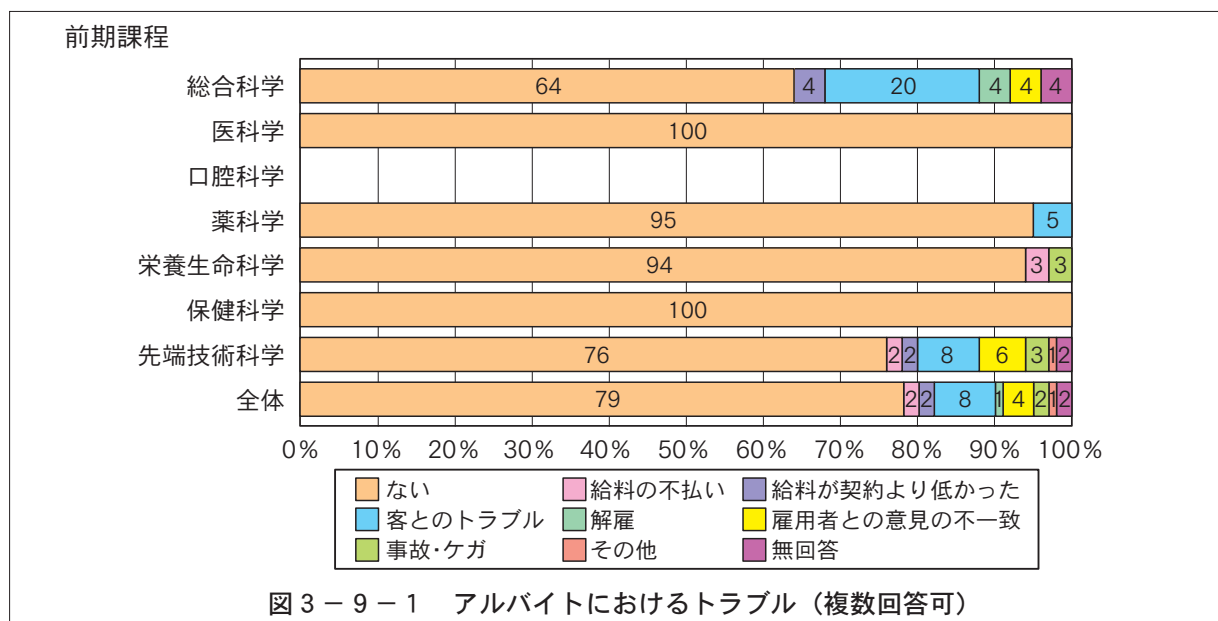
### 3-9 アルバイトにおけるトラブル (図 3-9-1, 図 3-9-2)

前期課程では、全体の79%にはアルバイトにおけるトラブルはみられず、第5回調査の結果(69%)よりも高い。最も多いトラブルは「客とのトラブル」(8%)で、ついで「雇用者との意見の不一致」(4%)である。教育部別では、医科学と保健科学のすべてと、薬科学と栄養生命科学の9割強はアルバイトでトラブルを経験したことがない。総合科学の2割と先端技術科学の8%、薬科学の5%が「客とのトラブル」を、先端技術科学の6%と総合科学の4%が「雇用者との意見の不一致」を、同じく4%と2%は「給料が契約より低かった」を経験している。また、栄養生命科学と先端技術科学の各3%は「事故・ケガ」を経験している。留学生については、15%が「客とのトラブル」を経験し、それ以外はトラブルの経験はない。

後期課程では、全体の76%はアルバイトにおけるトラブルの経験はない。トラブルの内容は「雇用者との意見の不一致」(9%)、「客とのトラブル」(8%)、「事故・ケガ」(1%)、その他(1%)である(無回答を除く)。教育部を比較すると、栄養生命科学と保健科学ではトラブルはない。一方、薬科学の



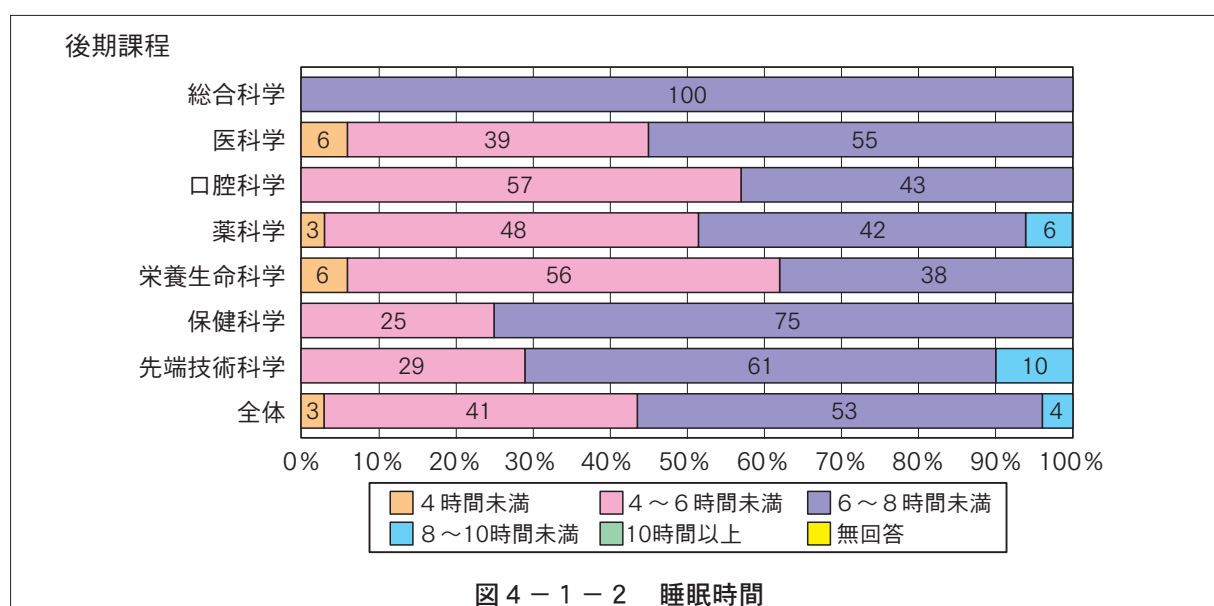
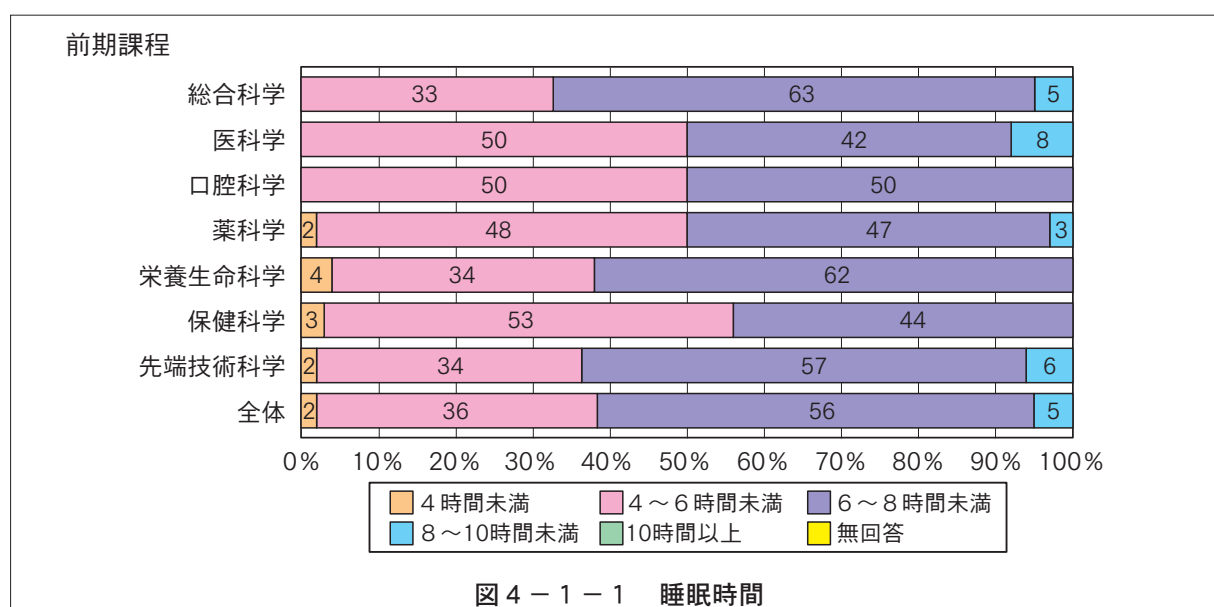
17%と医科学の15%、口腔科学の11%は「雇用主との意見の不一致」を、口腔科学の17%、先端技術科学の11%と総合科学の4%が「客とのトラブル」を、薬科学の17%が「事故・ケガ」を経験している。留学生の82%はアルバイト上のトラブルの経験はないが、各1名（9%）が「客とのトラブル」と「その他」を経験している。



## 第4章 健康状態について

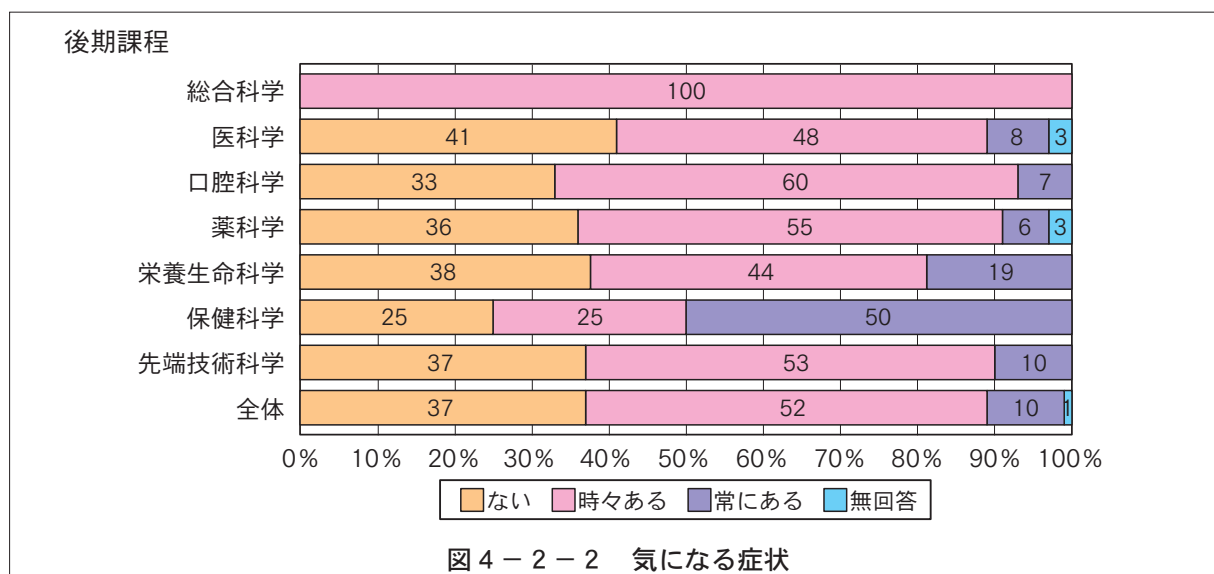
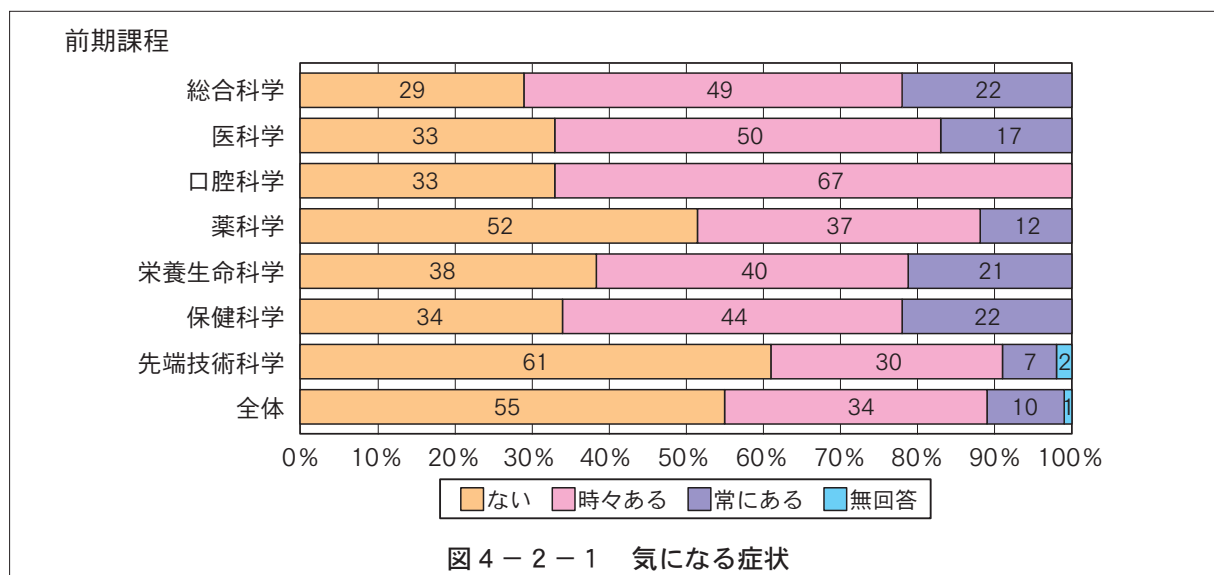
### 4-1 睡眠時間 (図4-1-1, 図4-1-2)

睡眠時間は、前期課程では「4～6時間未満」が36%で第5回調査と比較して4%減、「6～8時間未満」が56%で3%増であったが、後期課程では増減なく、「4～6時間未満」が41%、「6～8時間未満」が53%であった。最も健康的な睡眠時間は一般に7～8時間といわれているため、良好に睡眠を取れている学生が多いと思われる。しかし6時間未満の学生については、睡眠不足に留意が必要である。教育部別に大きな差はないが、保健科学前期課程と、栄養生命科学後期課程で6時間未満の睡眠時間の者の割合がやや多くなっている。なお留学生については前期課程で86%、後期課程で66%が6～8時間の睡眠を確保している。睡眠不足は心身の疲労を招き、活動性の低下や心身の変調、注意力低下による事故などにもつながることが実証されているため、健康・安全管理のために、睡眠時間の確保の必要性を学生本人および指導者も認識しておく必要がある。



## 4-2 気になる症状 (図4-2-1, 図4-2-2)

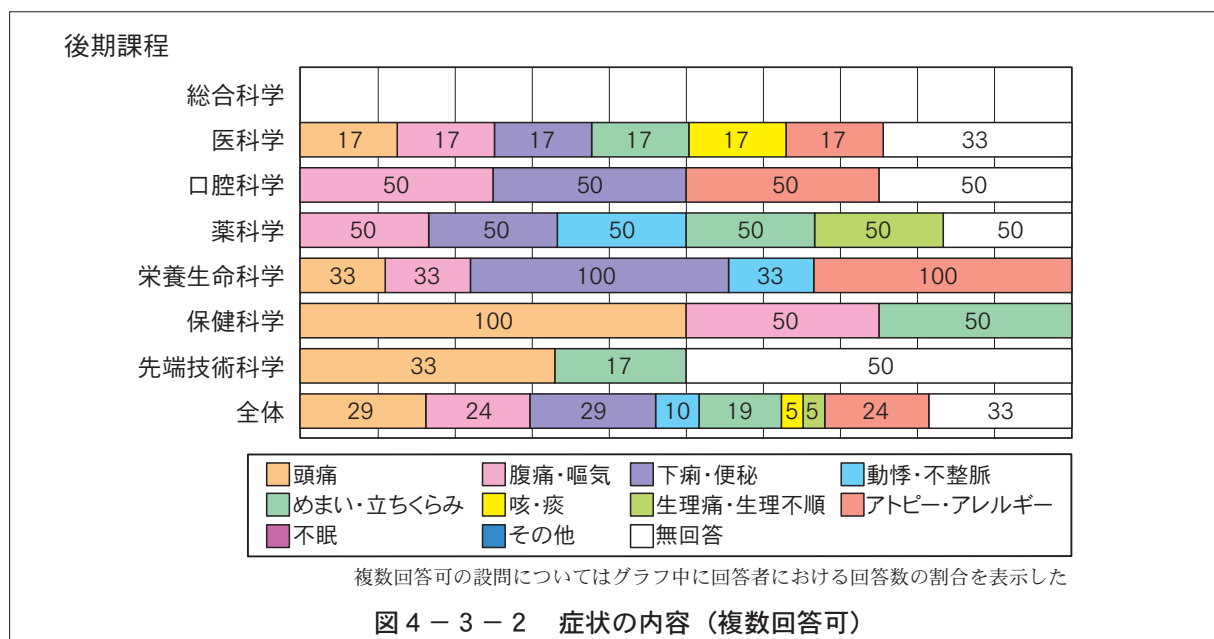
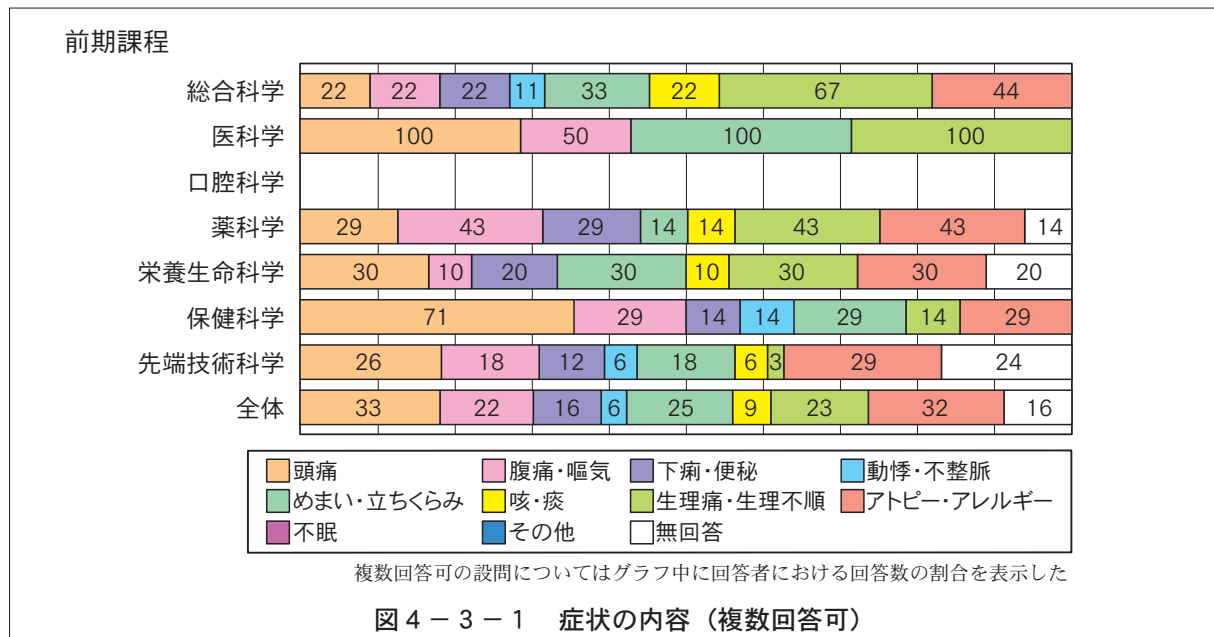
気になる症状が「ある」と答えた学生は、前期課程の44%、後期課程では62%と後期課程の方が多く、また後期課程では第5回調査と比較しても7%増加している。男女別では、気になる症状を持つ学生が、男子で41%、女子で67%と女子に多く、かつ第5回調査より10%増加している。教育部別に見ると、気になる症状が「常にある」とした学生が前期課程の総合科学、栄養生命科学、保健科学で20%を超え、後期課程の保健科学で、50%を超えている。留学生では、前期・後期課程ともに気になる症状が「ある」とした学生はそれぞれ71%、84%に上っており、これまでの調査同様、健康面の問題に対する支援のニーズが高いと思われる。



## 4-3 症状の内容 (図4-3-1, 図4-3-2)

常にある不調としては、前期課程では、頭痛、アトピー・アレルギーが特に多く、後期課程では頭痛、下痢・便秘が多かった。男女別に見ると、男子はアトピー・アレルギー、頭痛が多く、女性は頭痛、月経痛・月経不順、アトピー・アレルギーが多く見られた。なお前回調査までは「その他」が40%程度を占めていたが、今回調査から、アトピー・アレルギーの選択肢を加え、これによって、前回調査まで40%

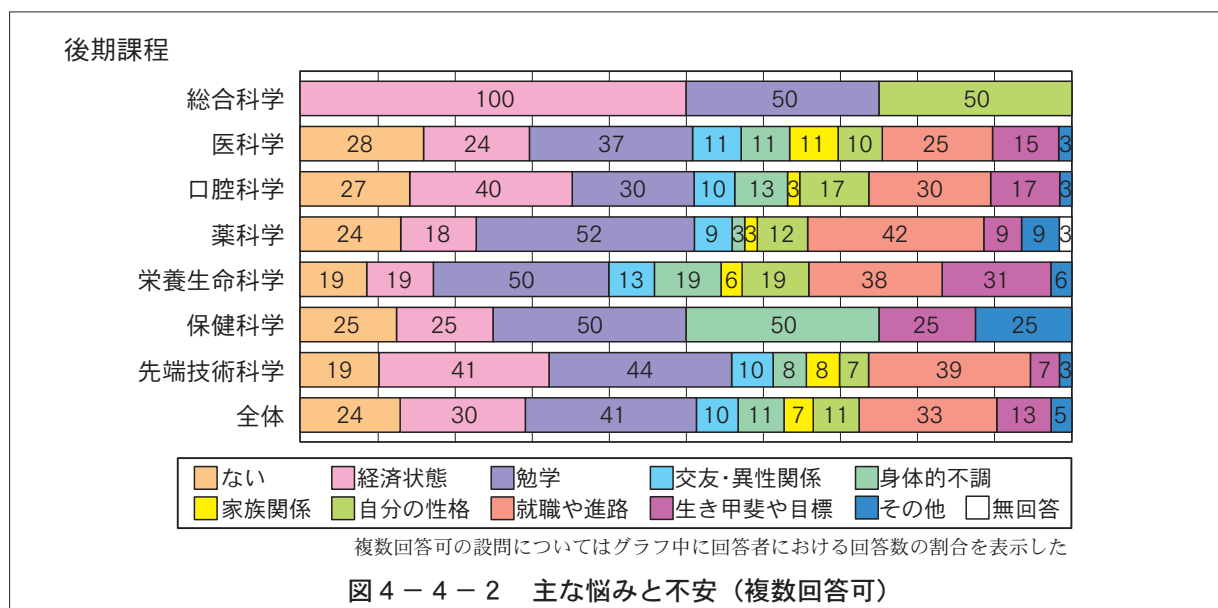
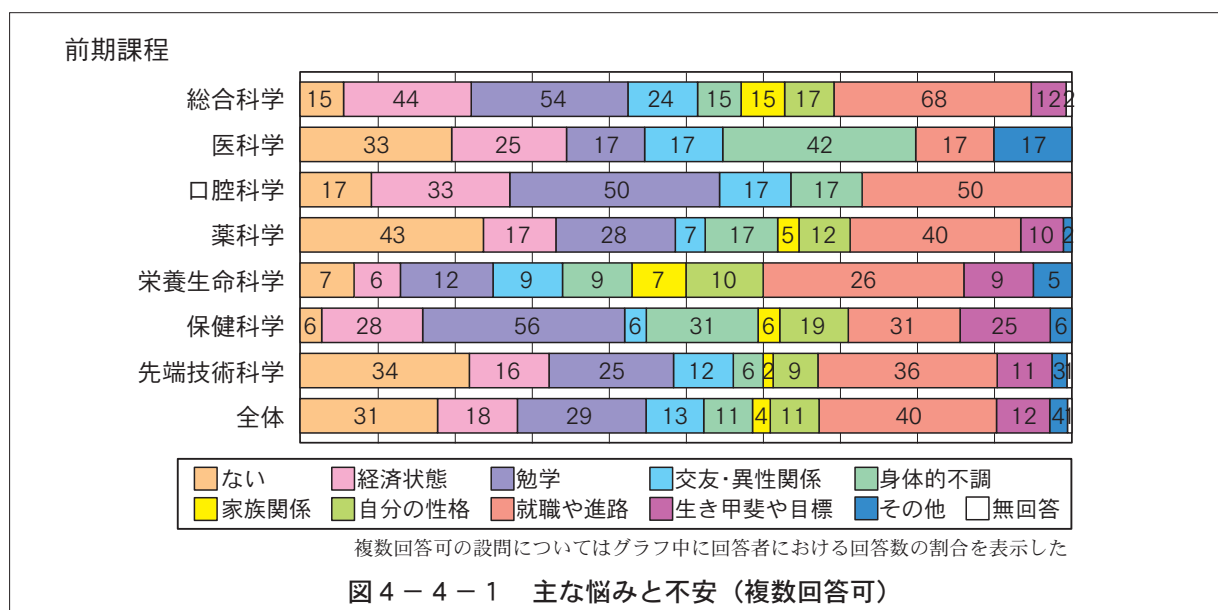
程度を占めていた「その他」のチェックはほとんどなくなっている。全体に、頭痛、アトピー・アレルギー、腹部症状が多く見られており、保健管理部門を活用した健康相談や生活習慣の見直し、医療機関で適切に医療的ケアを受けることなどが求められる。



#### 4-4 主な悩みと不安 (図 4-4-1, 図 4-4-2)

主な悩みや不安は、前期課程では「就職や進路」が最も多く、次いで「勉学」、「経済状態」であり、後期課程では「勉学」、「就職や進路」、「経済状態」の順に多かった。第5回調査までと変わらず、現実的な学生特有の問題を主な悩みとしていた。両課程とも3分の1の学生が、悩みや不安は「ない」としていた。教育部別では、保健科学で前期、後期課程ともに、身体的不調を悩みとしている学生が多い。留学生では悩みや不安が「ない」とした者が前後期とも15%程度で、悩みと不安の内容は、両課程とも「勉学」が最も多く、次いで、前期課程では「就職や進路」、「経済状態」と続き、後期課程では「経済状態」「就職や進路」となっていた。「身体的不調」を悩みに上げた学生は5%と低く、留学生では回答

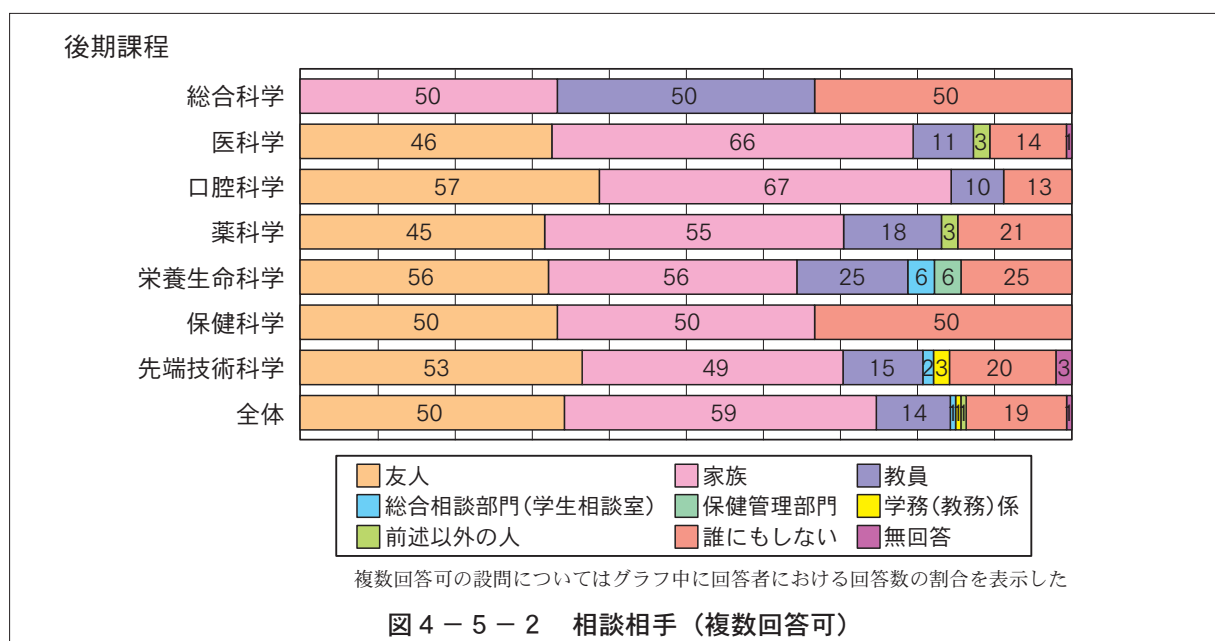
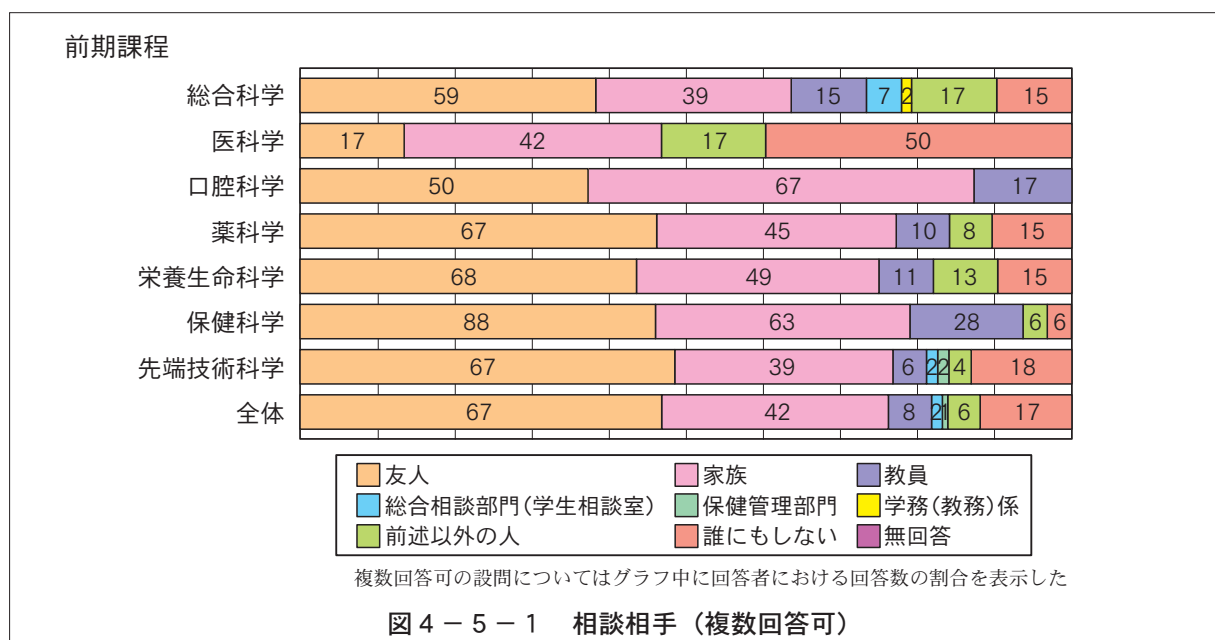
者全体よりも、悩みを持っている率が高く、内容としてはより学生特有の問題を悩んでいる傾向がみられる。



## 4-5 相談相手 (図 4-5-1, 図 4-5-2)

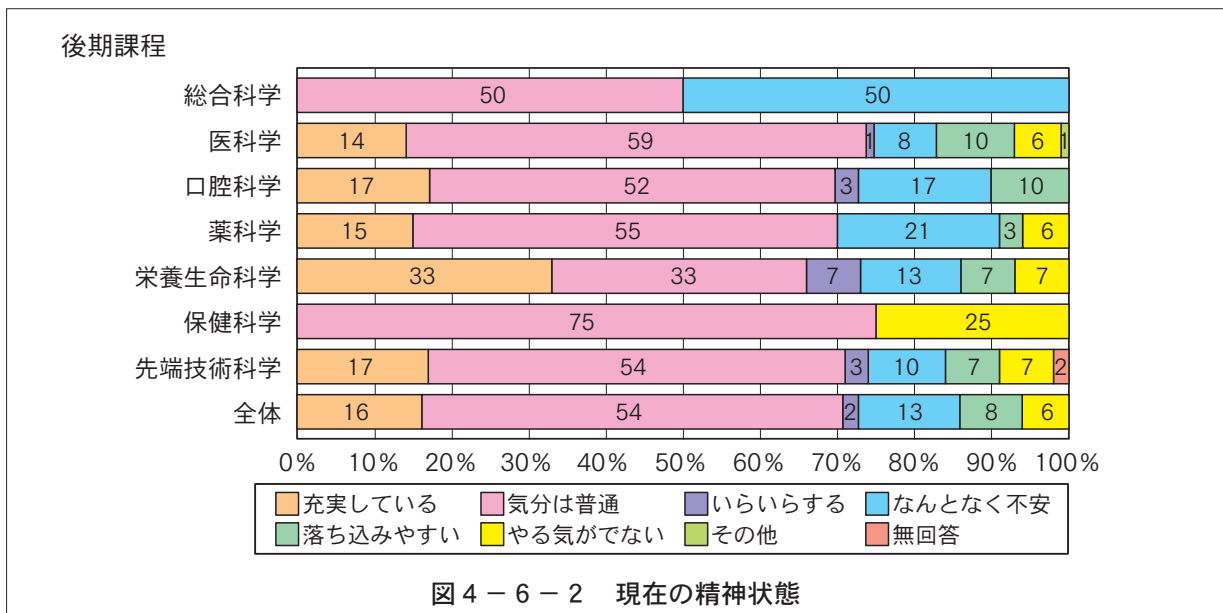
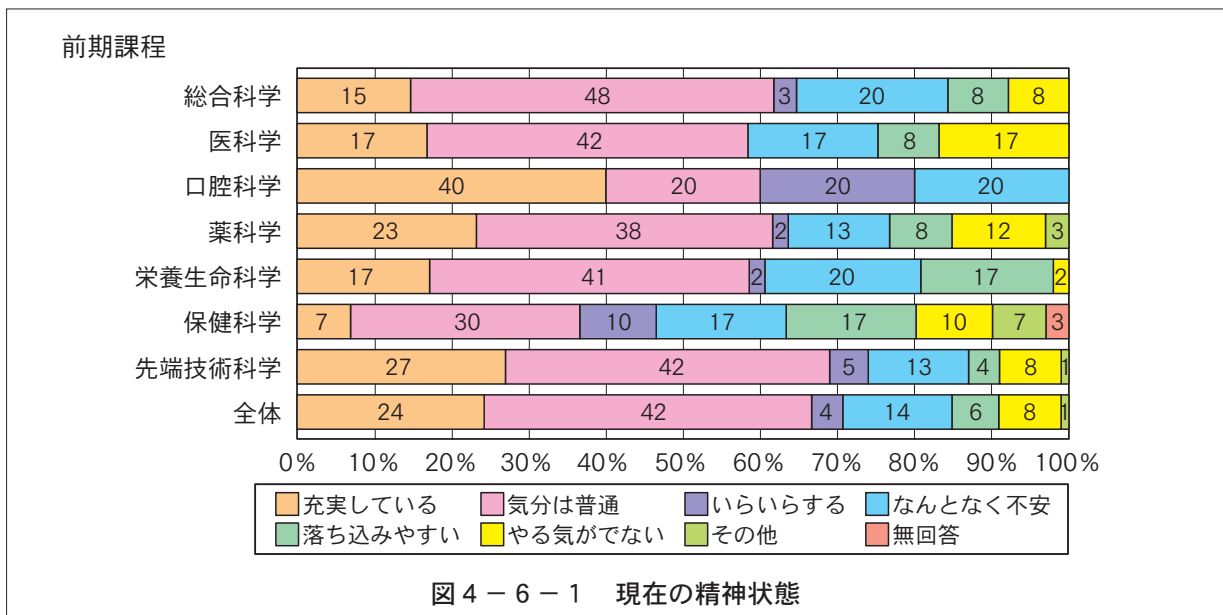
悩み事は、友人や家族に相談する学生が前期・後期課程ともに多く、多くの学生が悩みを最も身近な人に相談することで、悩みや問題への対処を行っていることが推測される。主な悩みが勉学や就職・進路であるものの、教員に相談するとした学生が、前期課程で8%、後期課程で14%と少なめであり、第5回調査とほぼ同様の傾向であった。また悩みを誰にも相談しないという学生が前期課程で17%、後期課程で19%みられた。留学生においては、全体としては同様の傾向であるが、悩みを誰にも相談しないとした学生は11%~13%であり、悩みを1人で抱える傾向は少ないといえる。悩みを誰にも相談しないことについては、自分で問題を解決しようとする傾向か、あるいは相談するという行動自体に違和感をもっている、信頼して相談できる人間関係を欠いている、などの理由が考えられるが、一人で長期間抱えこんだ場合、ストレス耐性が低くなることが危惧される。学生相談室や保健管理部門の利用は第5

回調査までと同様に、合わせて1～2%にとどまっており、より学生が気軽に相談できる場所として利用されることが望まれる。



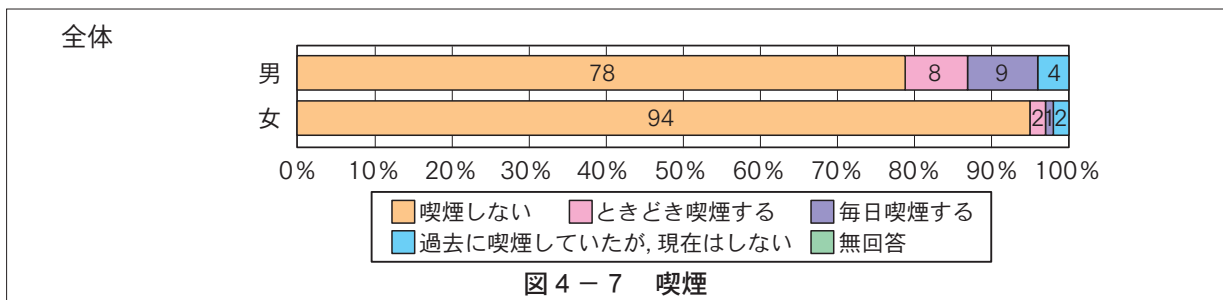
## 4-6 現在の精神状態 (図 4-6-1, 図 4-6-2)

前期・後期課程ともに70%程度の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられる。3割の学生が何らかの精神的不調感を持っており教育部によりそれぞれ違いがあるものの、全体の症状別では「何となく不安」が最も多く、次いで「やる気がでない」が多く、「落ち込みやすい」「いらいらする」も数%ずつ見られ、第5回調査とほぼ同様の傾向であった。落ち込みや意欲を持ってない状態が続くと、院生生活の大きなストレスとなると思われるため、本人は早めに誰かに相談すること、周囲はいつもと違う様子に気付いて本人の話を聴くこと、などが大切である。留学生では何らかの精神的不調感を自覚している学生が約2割で回答者全体より少ない傾向であった。



## 4-7 喫煙 (図 4-7)

「喫煙しない」「過去に喫煙していたが、現在はしていない」を合わせた非喫煙者が男子82%、女子96%で、喫煙率は男子17%、女子3%と第5回調査と同様であった。留学生の男子の喫煙率は22%で3%低下していた。日本の20歳代の喫煙率が男子27%、女子9%（平成28年）であることと比較すると、喫煙率は低く、良い傾向であるといえる。長期間の喫煙習慣はさまざまな有害作用を健康に及ぼすため、



学生時代に喫煙を習慣づけないことが望ましい。

#### 4-8 飲酒 (図4-8)

「飲酒はしない」および「たまに飲酒する」と答えた学生は男子で17%、58%、女子30%、52%であり、男子の75%、女子の82%において飲酒習慣はないとの結果で、第5回調査と変化はなかった。留学生では男子83%、女子96%に飲酒習慣がないとの結果であった。飲酒習慣のある学生のうち、週3～4日以上飲んでいる学生が男子で10%、女子で5%であるが、1回の飲酒量が問題となる。アルコールの適量は1日平均純アルコール20g(日本酒だと1合)と言われている。アルコールの過量摂取が長期間継続すると、アルコール関連健康障害などの酒害につながるため、適量飲酒に留意することが必要である。

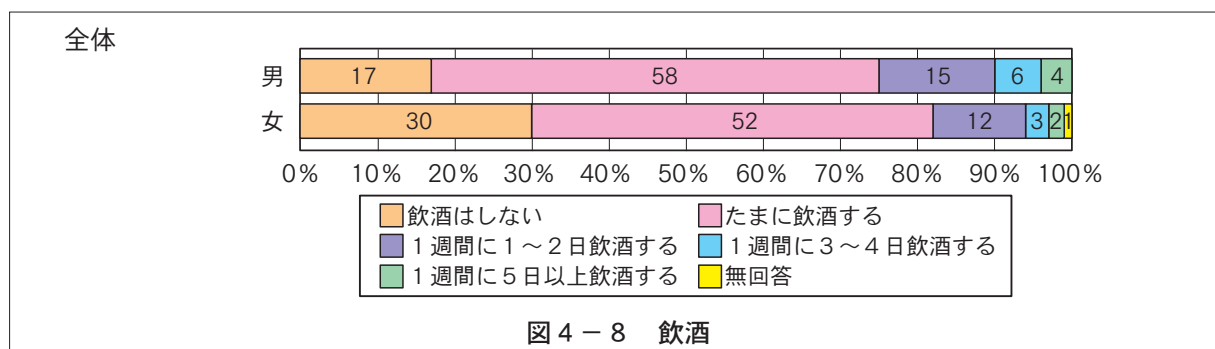


図4-8 飲酒

#### 4-9 保健管理・総合相談センターの認識 (図4-9-1, 図4-9-2)

保健管理・総合相談センターに「健康診断のために行ったことがある」学生は、前期課程で70%、後期課程で73%と、後期課程で第5回調査の39%から大幅に増加し、前期課程との差が減少した。しかし留学生では前期課程40%、後期課程48%と、健康診断の受診が低くなっている。健康診断以外での利用は、前期課程で33%、後期課程19%で第5回調査と同様だった。「保健管理部門があることを知らない

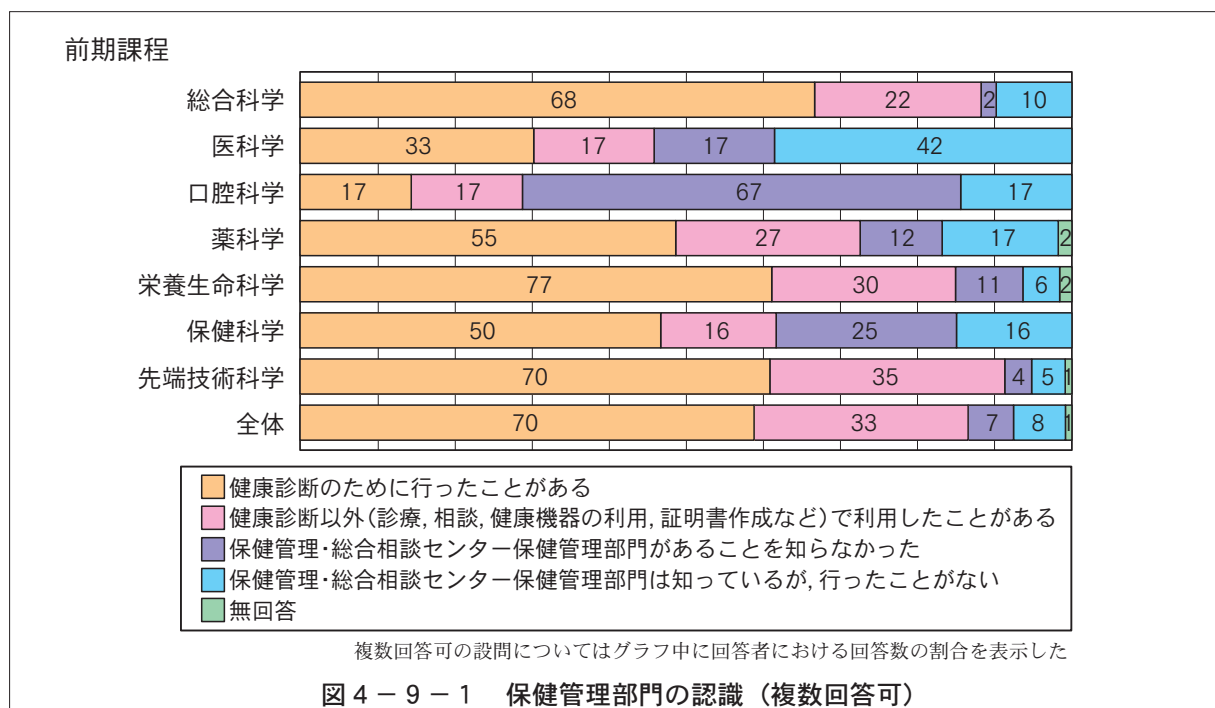
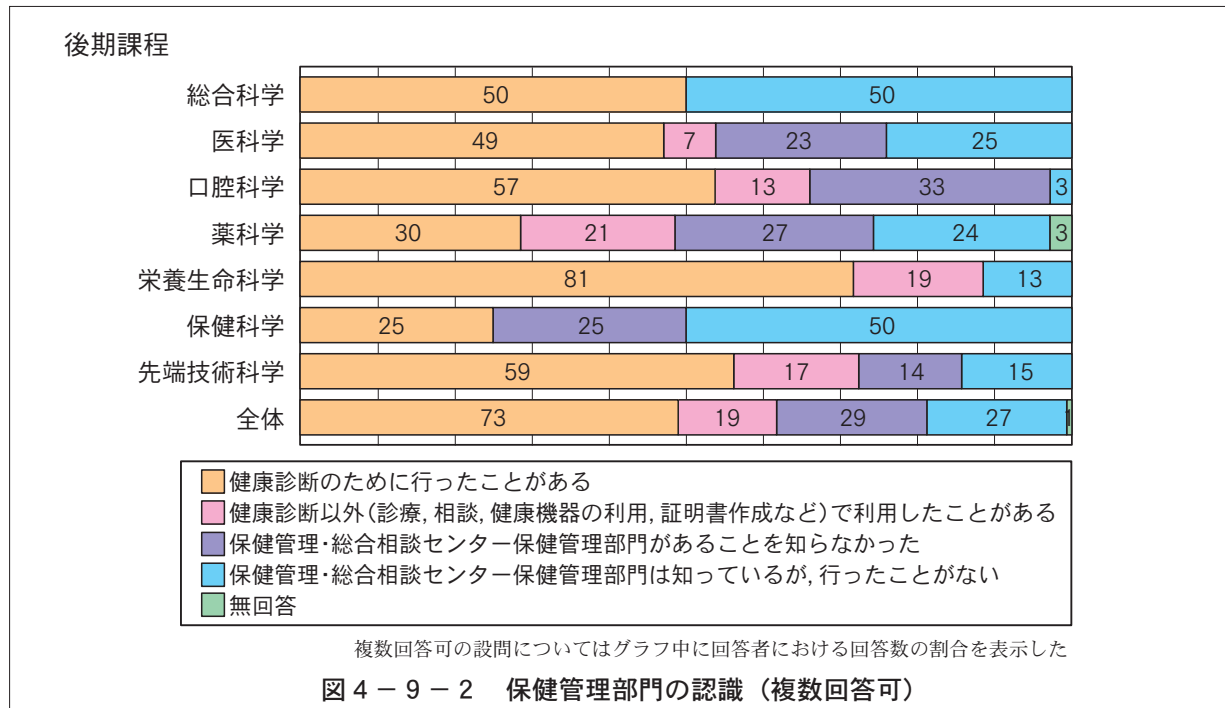


図4-9-1 保健管理部門の認識 (複数回答可)



かった」と回答した学生は前期課程 7%，後期課程 29%であり，これまでの調査同様，後期課程で認識率が低く，留学生でも同じ傾向が見られた。後期課程の健康診断での利用率の上昇は望ましい傾向であるものの，留学生の健康診断受診率を上げていく必要がある。また，保健管理部門の認識について，常三島地区の前期課程の学生における認識率が高いが，その他の学生への周知が課題である。



# 第5章 学生生活上の問題点について

## 5-1 迷惑行為 (図5-1-1～図5-1-6)

図5-1-1と図5-1-2は、迷惑行為を受けた内容を課程別に示したものである。迷惑行為を受けたことがない学生の比率は前期課程83%、後期課程85%であった。留学生では、前期課程で86%、後期課程87%が迷惑行為を受けていないと回答した。多くの学生が迷惑行為を受けていない。受けた迷惑行為としては、前期課程の学生でカルトのような集団への勧誘が4%で一番多く、後期課程ではアカハラが6%で最も多くなっている。留学生では、前期課程、後期課程ともにアカハラが一番多く、それぞれ6%と5%であった。アカハラとカルトのような集団への勧誘といった迷惑行為は、第5回調査から引き続いている。引き続き、適切な予防啓発活動や対応策が望まれる。

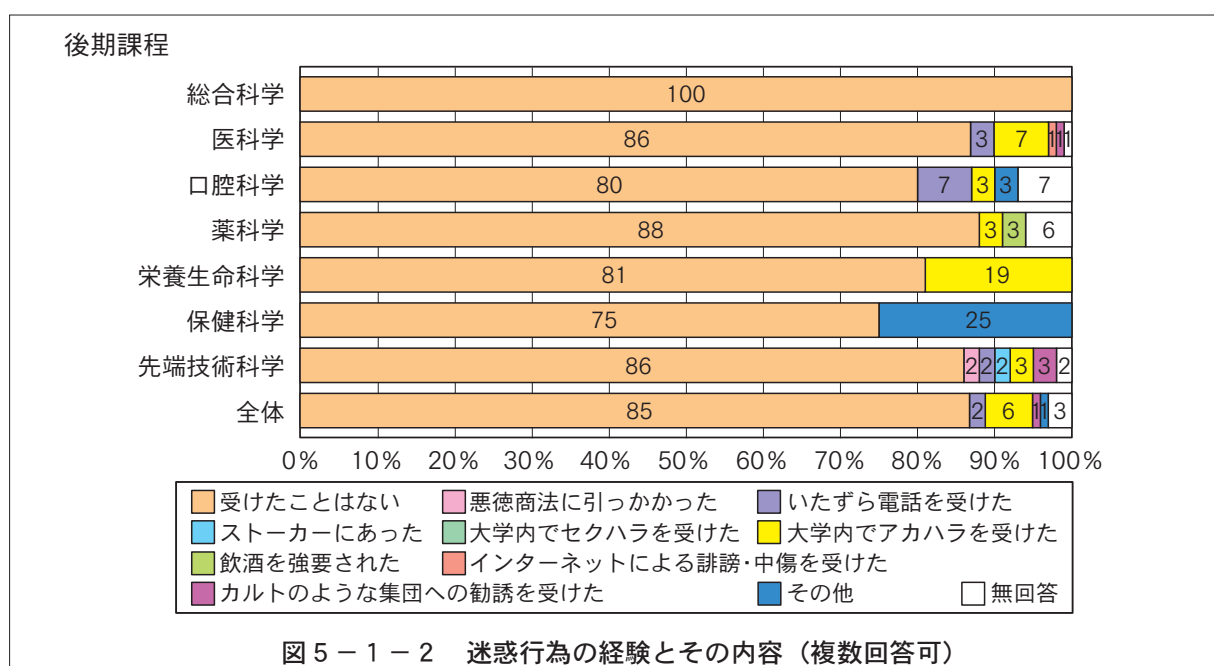
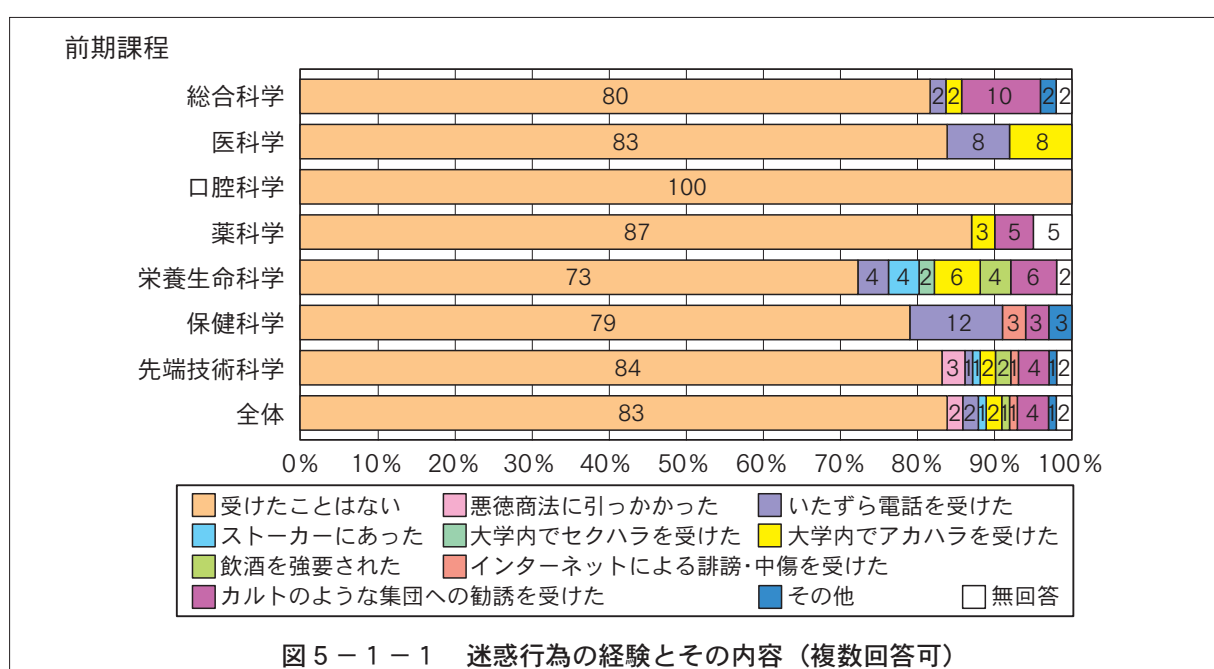


図5-1-3と図5-1-4は、迷惑行為のうち、セクハラを受けた場合にどのような人に相談するのかを課程別に示したものである。第5回調査では前期課程で友人が40%，教員が20%，総合相談部門（学生相談室）が10%で、誰にも相談しない学生も20%いた。後期課程では、友人、家族、教員への相談が各25%だった。今回の調査では、前期課程では家族、総合相談部門（学生相談）、誰にも相談しないが各33%（各1名）で、後期課程および留学生ではセクハラを受けたと回答した者はいなかった。しかしながら、総合相談部門（学生相談）、部局教員や友人を含む多様な対応や支援体制を整えておくことは引き続き肝要と思われる。

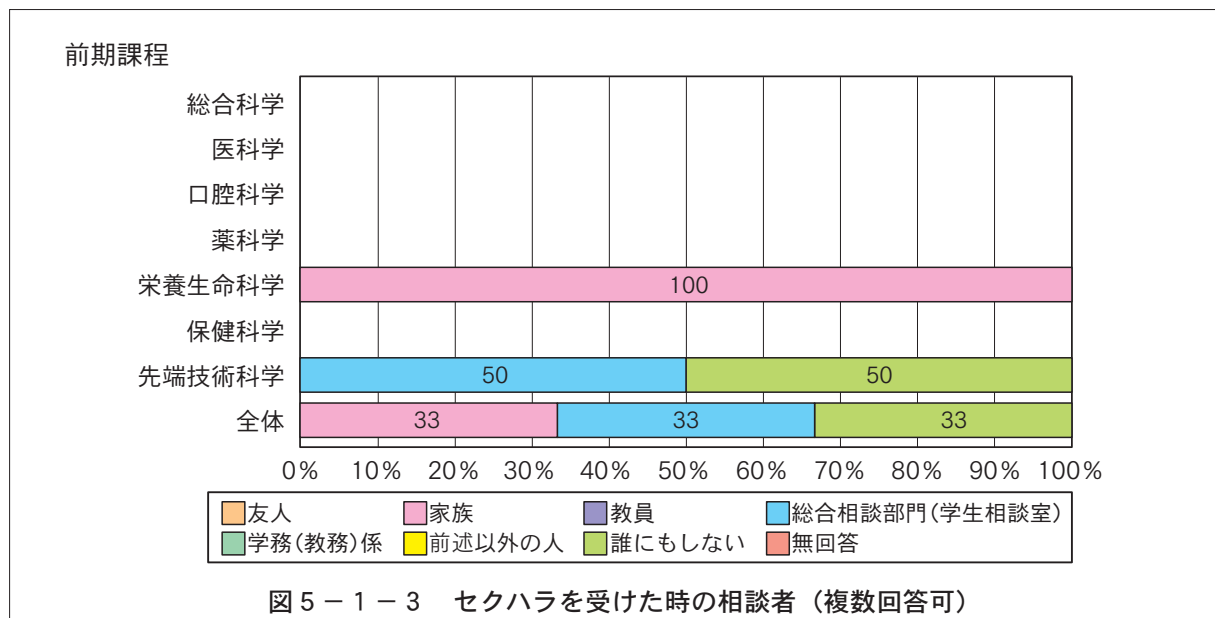


図5-1-3 セクハラを受けた時の相談者（複数回答可）

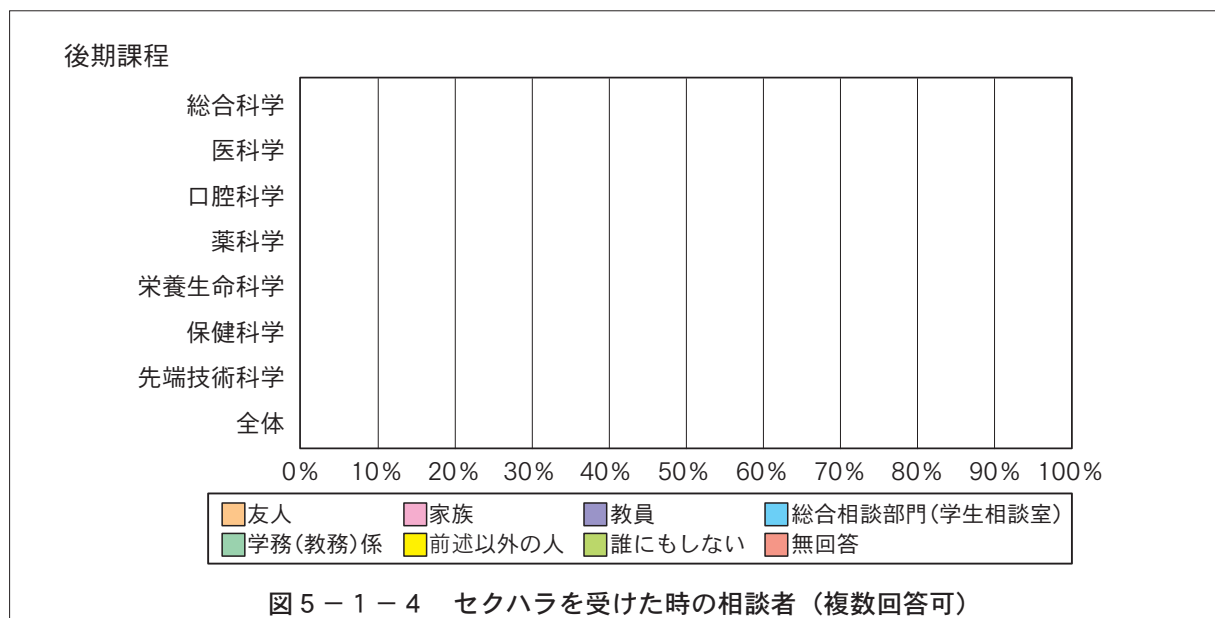
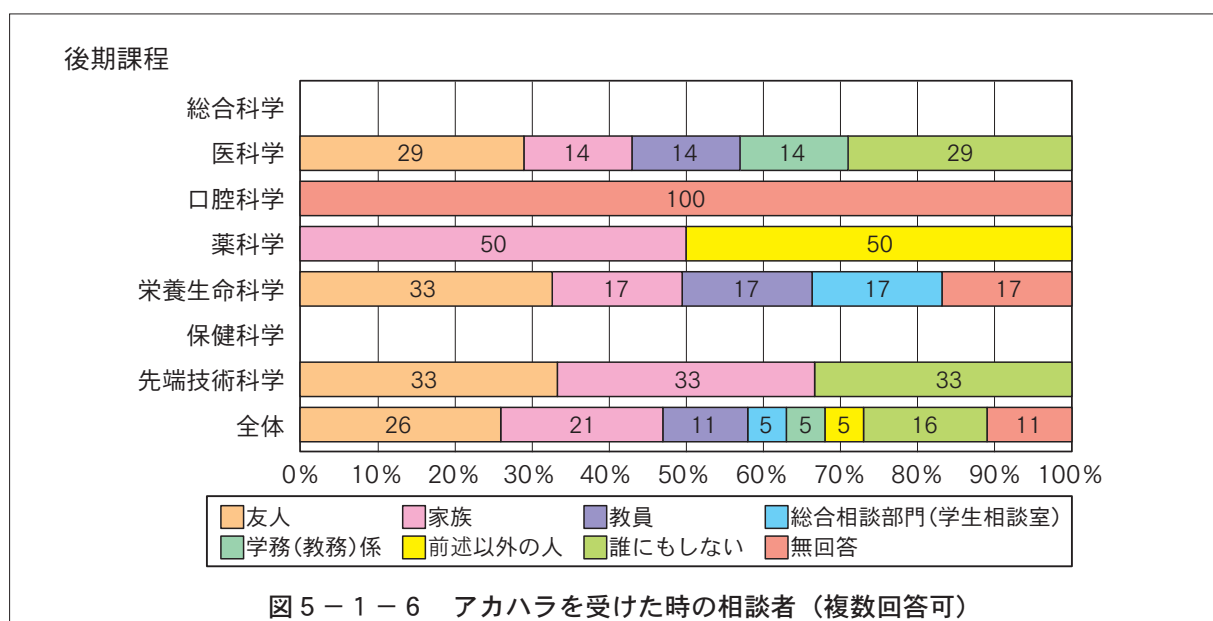
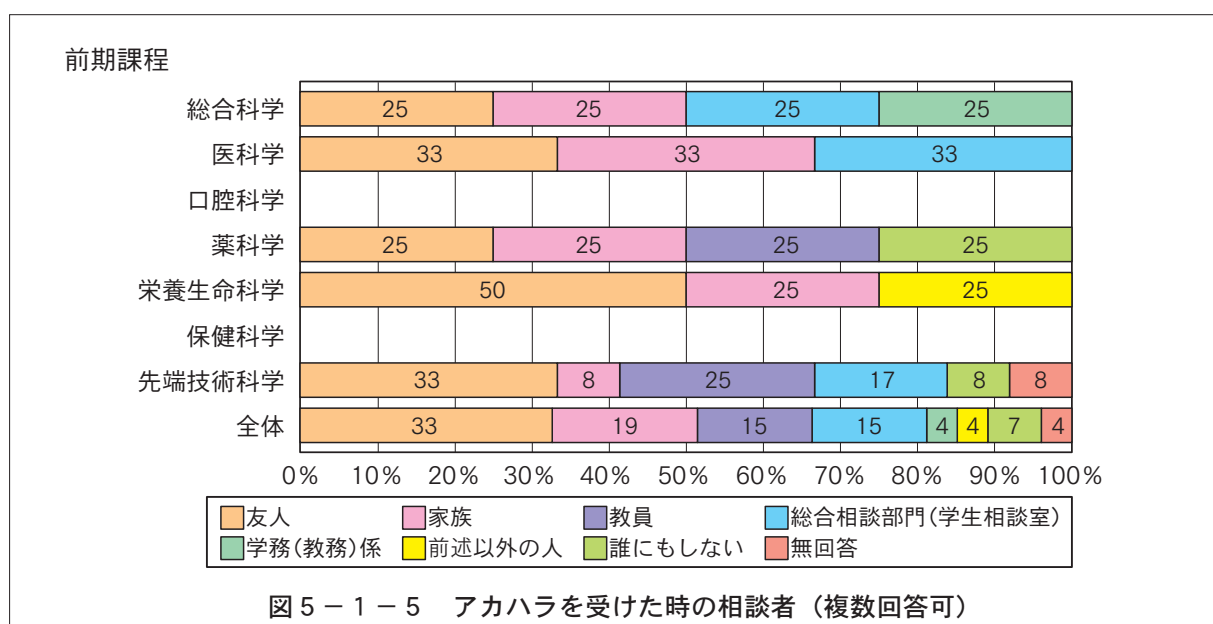


図5-1-4 セクハラを受けた時の相談者（複数回答可）

図5-1-5と図5-1-6は、迷惑行為のうち、アカハラを受けた場合にどのような人に相談するのかを課程別に示したものである。第5回調査では、前期課程で友人と家族への相談が32%と16%，教員と総合相談部門（学生相談）への相談が各11%を占めた。後期課程で友人と教員が各30%，家族が20%であった。今回の調査では、前期課程の学生全体では友人が33%（9名）、家族が19%（5名）、教員と総合相談部門（学生相談）がそれぞれ15%（4名）、誰にも相談しないは7%（2名）であった。留学生では友人と家族に相談するが合わせて60%（3名）であった。後期課程の学生全体では友人と家族を合わせて47%（9名）だったが、留学生は友人と家族を合わせて66%（6名）だった。学生全体

において次に高いのが16%（3名）の誰にも相談しないであるが、留学生の場合は誰にも相談しないは0%であった。セクハラ同様、多様な事例に対応できる支援体制を引き続き充実させておく必要がある。



## 5-2 総合相談部門（学生相談室）の利用（図5-2-1～図5-2-4）

図5-2-1と図5-2-2は、総合相談部門（学生相談室）の利用の有無と認知度を課程別に示したものである。第5回調査では、利用したことがある学生の比率は前期課程で7%、後期課程で3%であったが、今回の調査では、前期課程、後期課程ともに13%と増加している。留学生については利用したことがある学生の比率は前期課程で14%、後期課程で23%であった。また、利用していないが総合相談部門（学生相談室）を知っていると答えた学生と合わせた認知度について、第5回調査では、前期課程で75%、後期課程で59%であったが、今回の調査では前期課程で67%、後期課程で53%とともに低下している。留学生の認知度は、前期課程で63%、後期課程で51%であった。学生全体の利用率は増加しているが、認知度は低下しており、学生への総合相談部門（学生相談室）の周知を促す工夫が必要であると考えられる。

前期課程

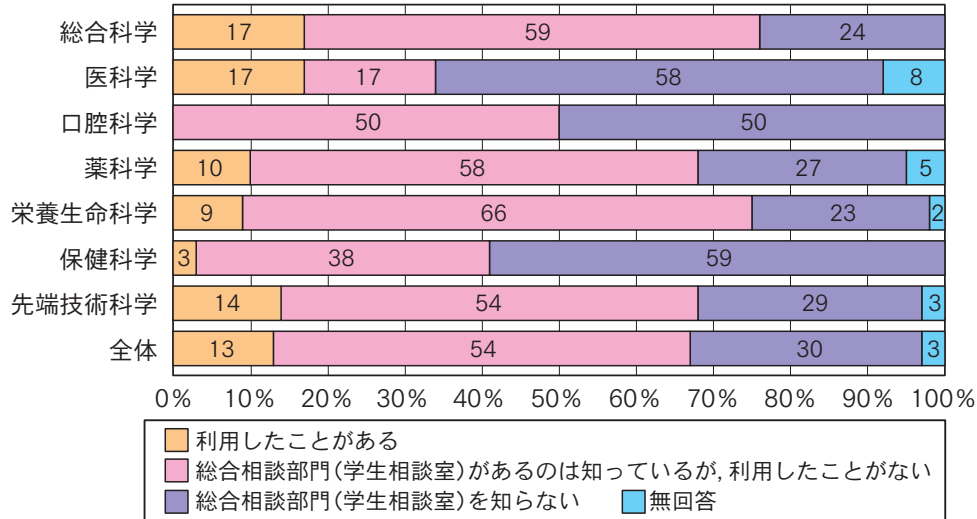


図 5 - 2 - 1 総合相談部門 (学生相談室) の利用の有無と認知度

後期課程

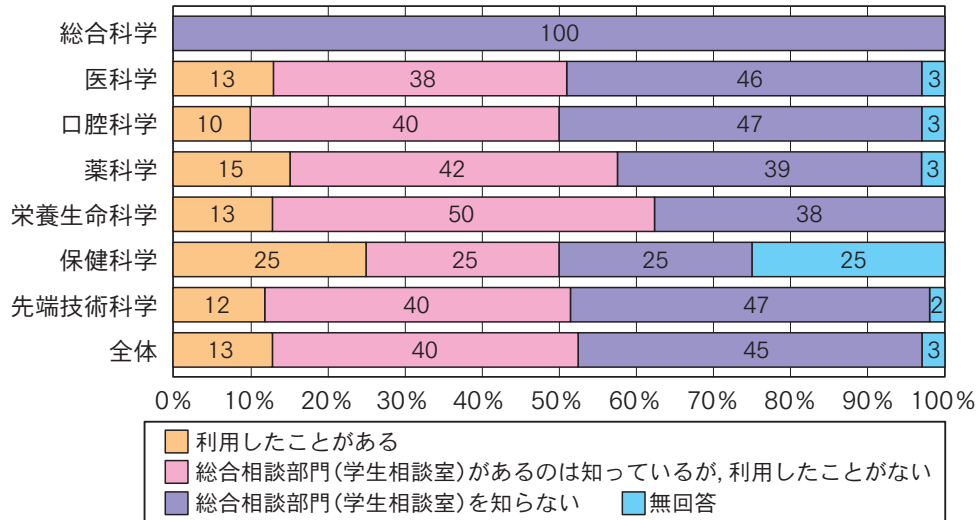


図 5 - 2 - 2 総合相談部門 (学生相談室) の利用の有無と認知度

前期課程

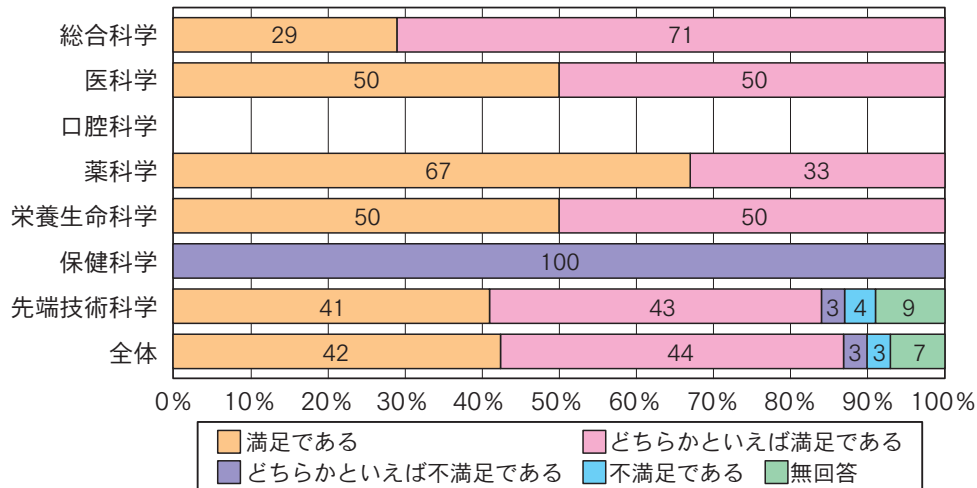


図 5 - 2 - 3 総合相談部門 (学生相談室) 利用後の満足度

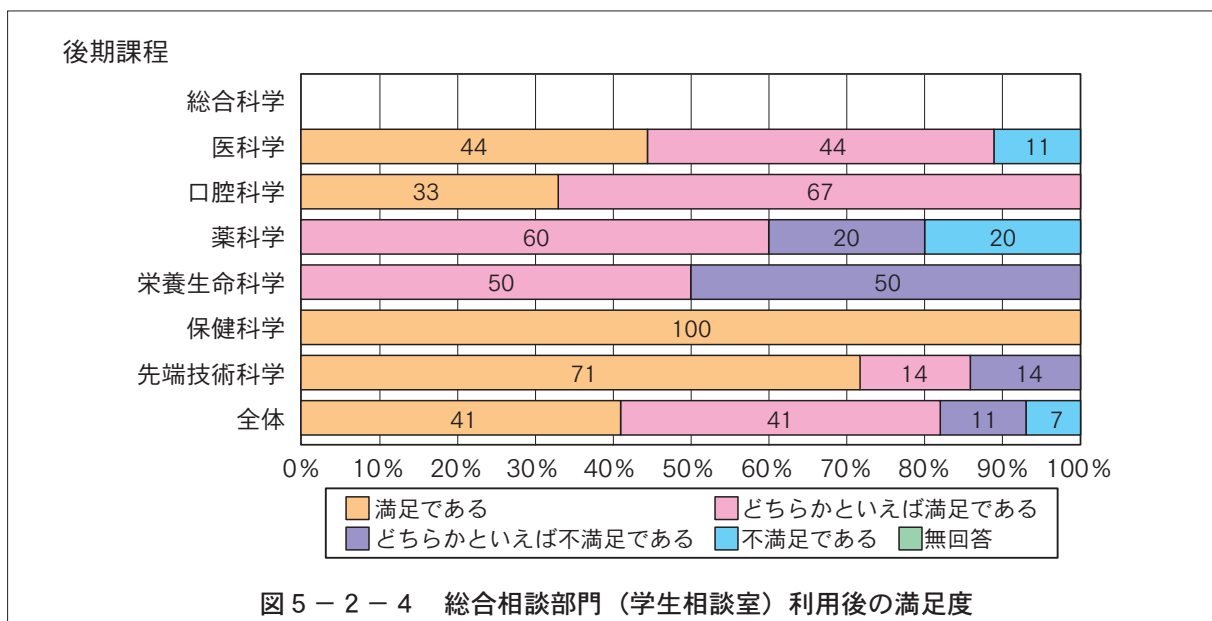
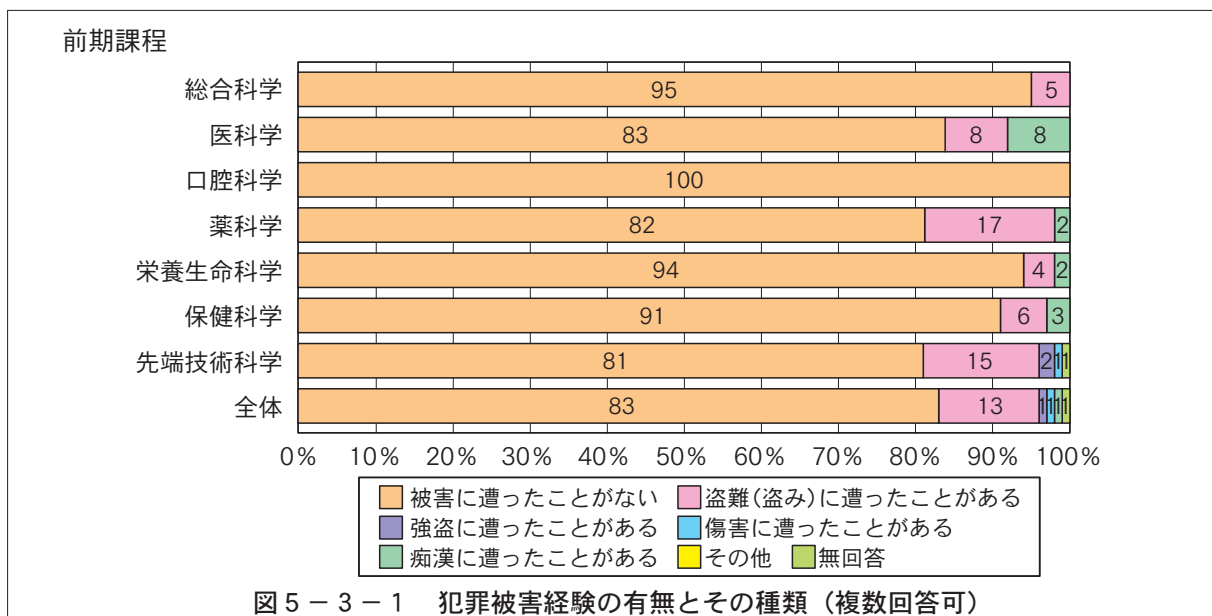
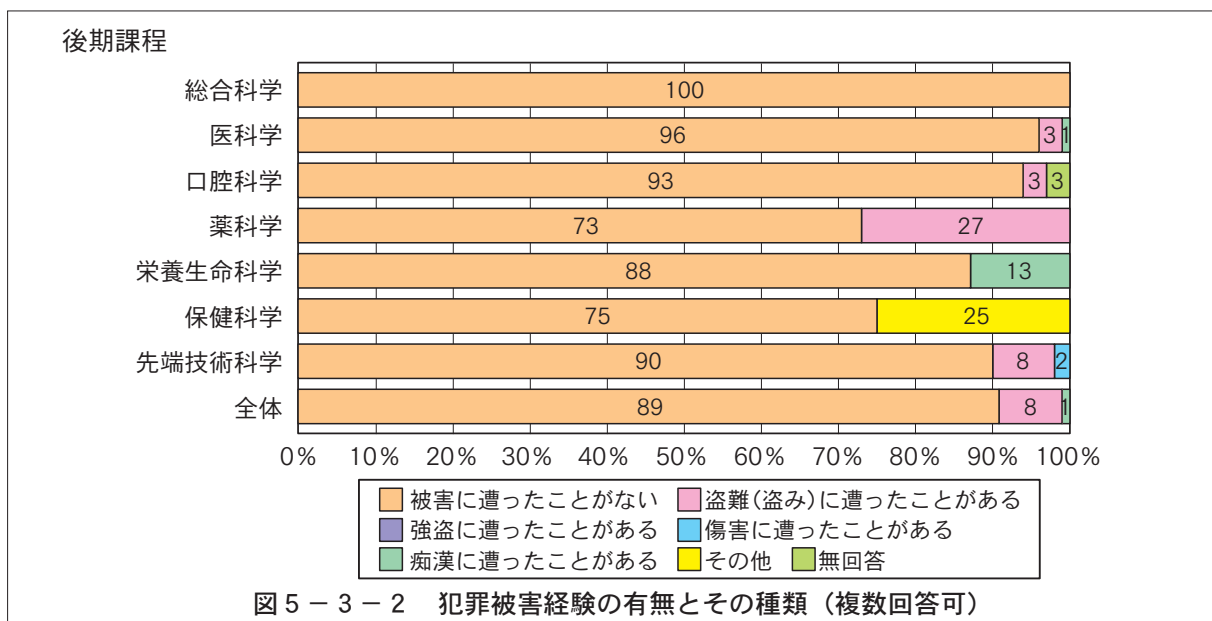


図 5-2-3 と図 5-2-4 は、総合相談部門（学生相談室）の利用後の満足度を課程別に示したものである。第 5 回調査では、「満足である」と「どちらかといえば満足である」との回答を合わせると前期課程で 75%，後期課程では 83%であった。今回の調査は、前期課程で 86%，後期課程で 82%であった。今回の調査では、第 5 回の調査に比べて前期課程の満足度が高く、後期課程の満足度がやや低くなっていた。留学生は、満足であるとどちらかといえば満足であるとの回答を合わせて、前期課程でも後期課程でも 100%であった。今後も総合相談部門（学生相談室）の利用後の満足度を上げるために継続的な努力をしていく必要がある。

### 5-3 犯罪被害・交通事故・違法薬物使用 (図 5-3-1 ~ 図 5-3-6)

図 5-3-1 と図 5-3-2 は、犯罪被害の有無、「有」の場合、どのような経験であったかを課程別に示したものである。第 5 回調査では、被害にあった比率は、前期課程で 17%，後期課程で 6%であった。盗難が前期課程で 14%，後期課程で 5%であり最も多かった。今回の調査は、犯罪被害に遭った比率が、前期課程で 16%，後期課程で 9%であり、後期課程において第 5 回調査よりも若干増加した。ま

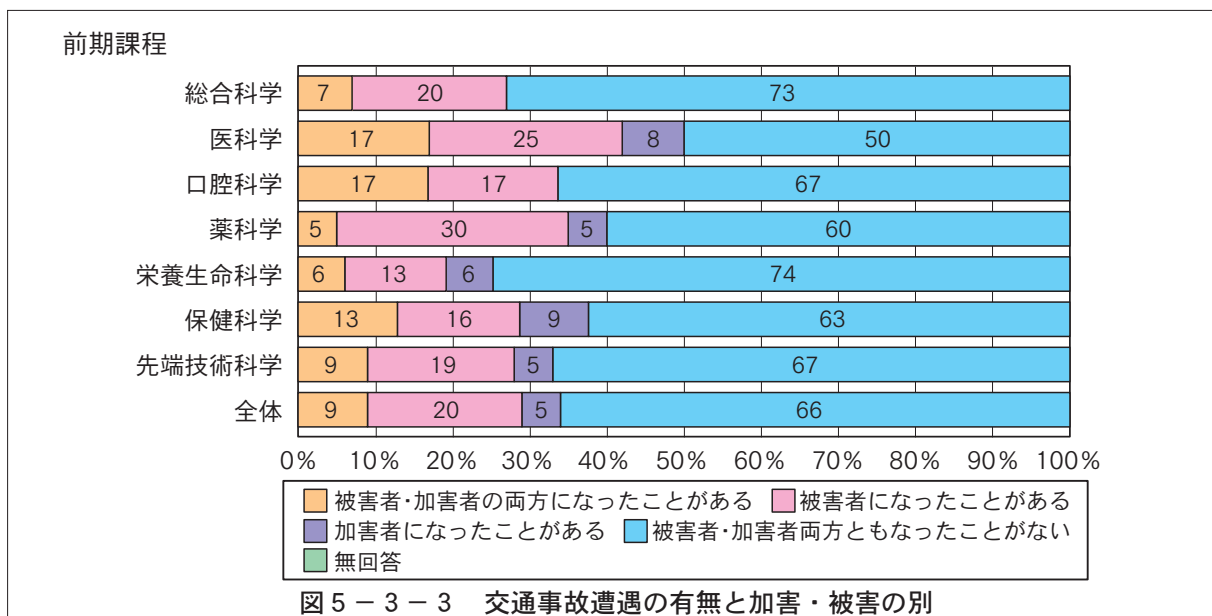


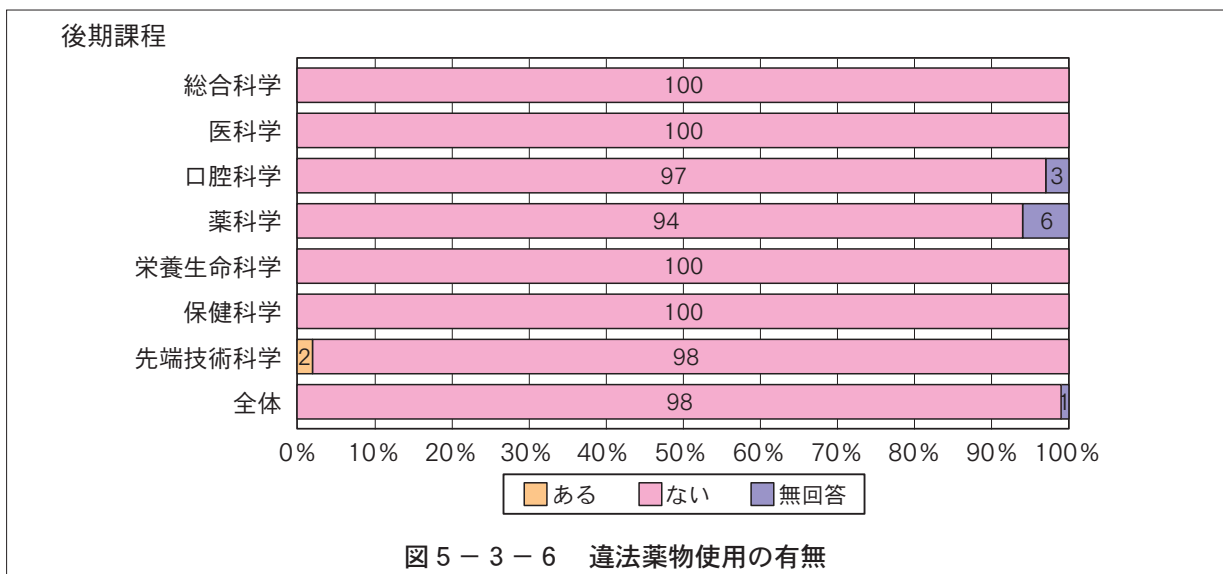
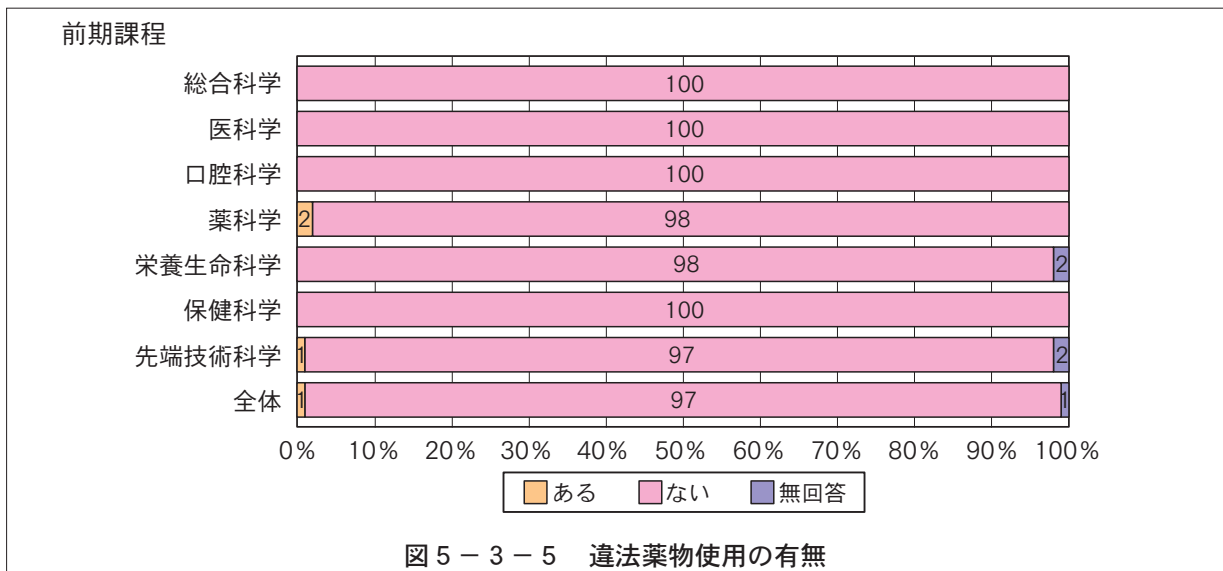
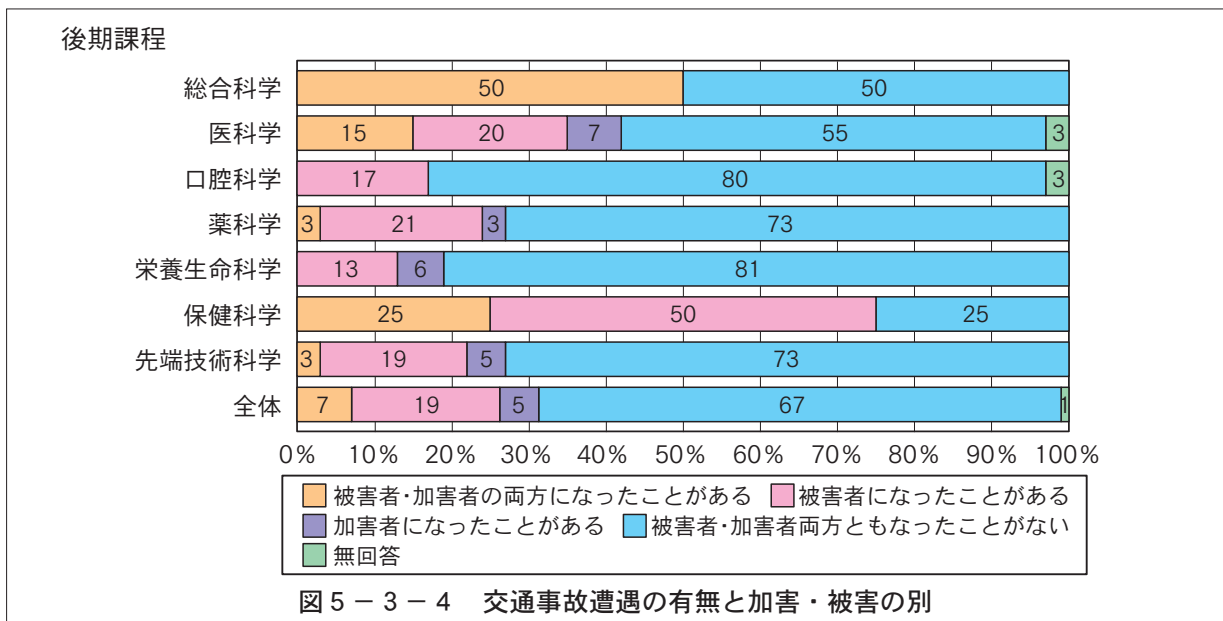


た、被害の中では、盗難が前期課程で13%、後期課程で8%であった。前期課程で傷害1% (男子4名、女子1名)、痴漢1% (男子1名、女子5名)、後期課程で傷害0% (男子1名)、痴漢1% (男子1名、女子2名)の被害があった。

図5-3-3と図5-3-4は、交通事故の有無と加害・被害の別を課程別に示したものである。第5回の調査では、交通事故を経験している比率が前期課程で29%、後期課程で33%であった。今回の調査では、交通事故を経験している比率が前期課程で34%、後期課程で31%であった。第5回調査と比較すると前期課程で若干増加している。留学生の場合は、第5回調査では、前期課程で16%、後期課程で20%となり、今回の調査では前期課程で37%、後期課程で13%となり、留学生の前期課程で2倍以上の増加が見られた。内訳では、被害者になった比率は前期課程23%と後期課程11%、加害者になった比率は前期課程3%と後期課程2%となっており、第5回調査の被害者になった比率は、前期課程26%と後期課程29%、加害者になった比率は前期課程8%と後期課程17%となっており、第5回調査と比べると減少している。自転車同士や自転車と歩行者での事故では被害者のみならず加害者にもなる。引き続き交通道德の啓蒙や交通規則の周知徹底と共に大学内や周辺部の交通環境の充実が望まれる。

図5-3-5と図5-3-6は、違法薬物使用の有無について課程別に示したものである。第5回調





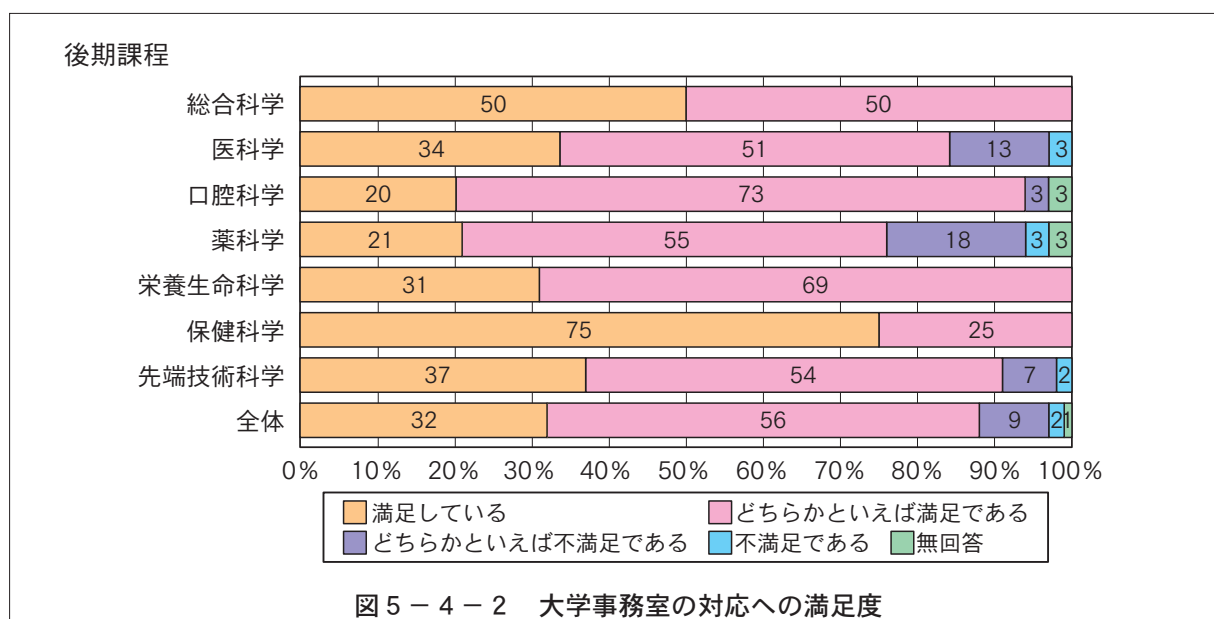
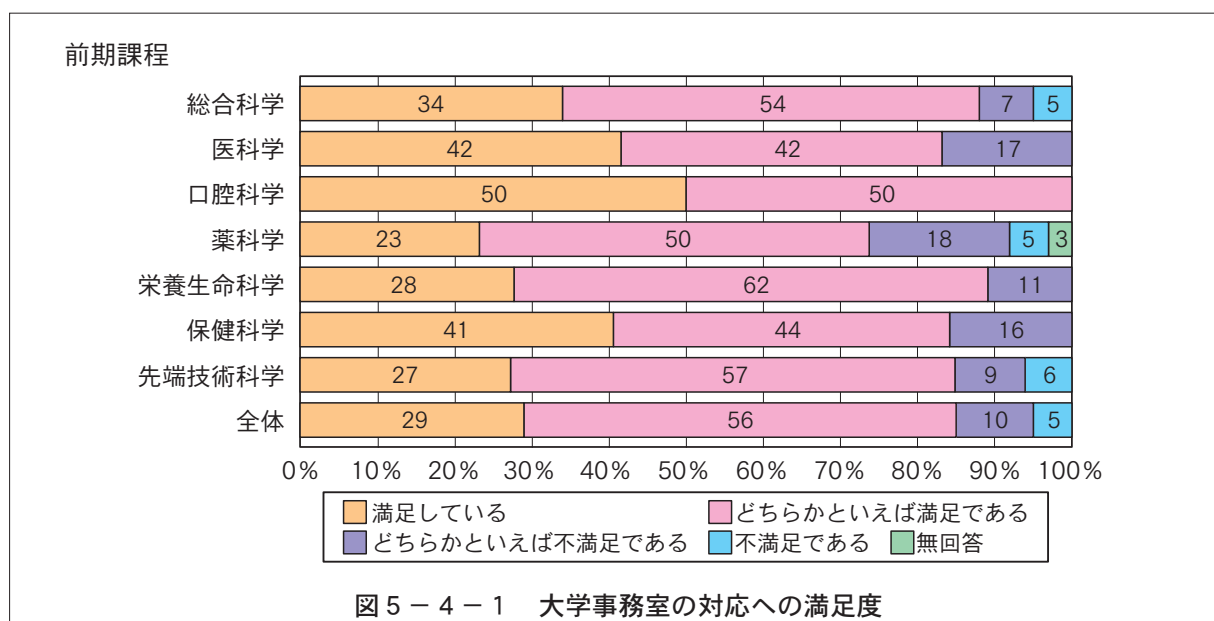
査では、前期課程と後期課程の学生の99%は大麻・覚せい剤を使用した経験がないとの回答であり、留学生では96%の学生が経験なしと答えていた。今回の調査でも第5回調査とほぼ同様、前期課程の学生



全体 97%，後期課程の学生全体 98%，前期課程の留学生 94%，後期課程の留学生 95%は大麻・覚せい剤を使用した経験がないと回答している。前期課程では，薬科学 2%（1名），先端技術科学 1%（7名），先端技術科学のうち留学生 4%（1名）が経験ありと回答していた。後期課程では，先端技術科学 2%（1名），留学生の先端技術科学 3%（1名）が経験ありと回答している。すなわち，後期課程の 1名は，先端技術科学留学生の 1名である。薬物に関する専門知識があるからなのか，ストレスが高いからなのか理由は不明であるが，今後も引き続き，学生による違法薬物使用の撤廃に向け，啓蒙活動を強化する必要がある。

## 5-4 大学事務室の対応 (図5-4-1, 図5-4-2)

図5-4-1と図5-4-2は，大学事務室による対応の満足度を課程別に示したものである。第5回の調査では，「満足している」と「どちらかといえば満足している」と回答している比率が，前期課程で85%，後期課程で88%，留学生では前期課程93%，後期課程94%と高い満足度であった。今回の調査では，「満足している」と「どちらかといえば満足している」と回答している比率が，前期課程で85%，



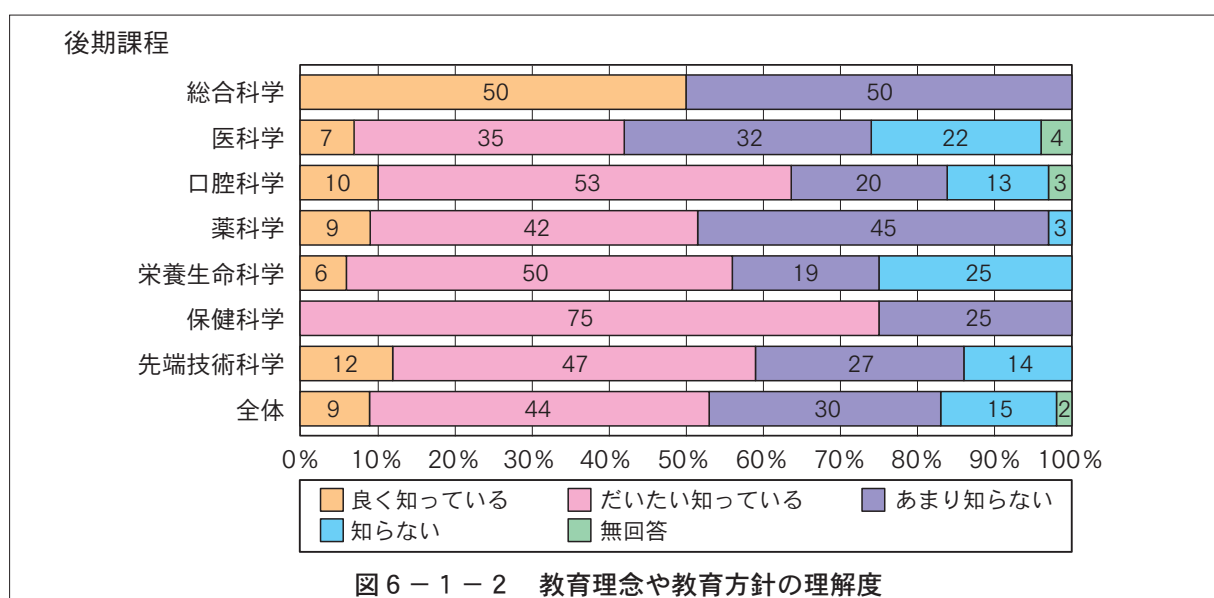
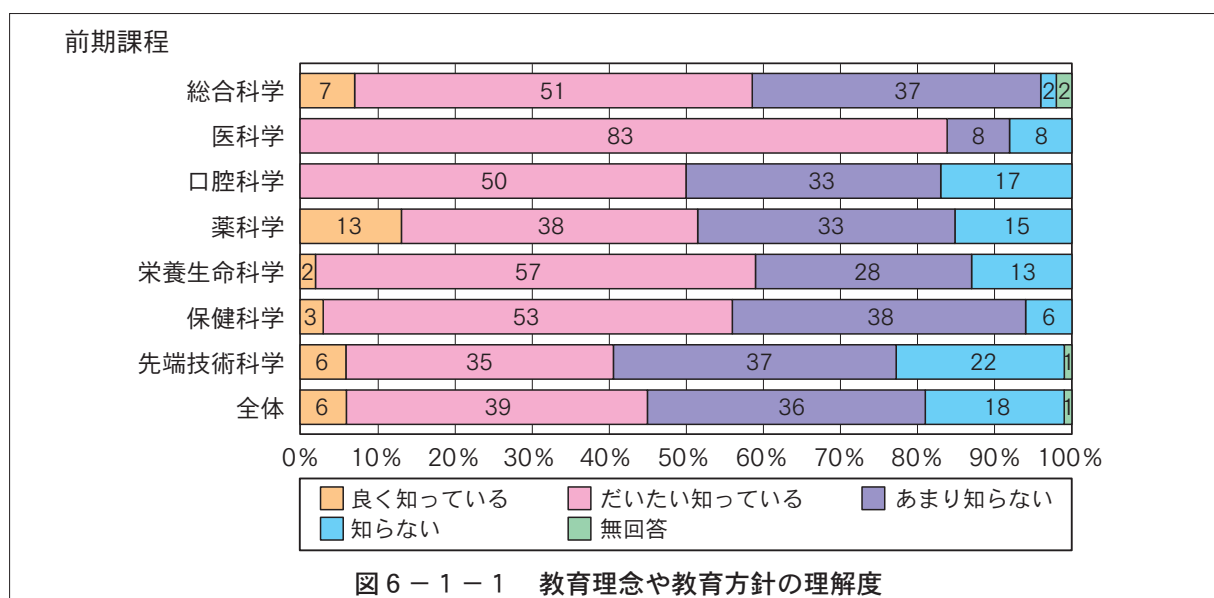
後期課程で88%，留学生では前期課程91%，後期課程92%と高い満足度であった。学生全体も留学生も第5回調査同様，高い満足度であった。また，教育部別にみると，前期課程では，口腔科学の満足度は100%であった。後期課程では，総合科学と栄養生命科学，保健科学で満足度が100%であった。また，前期課程，後期課程ともに薬科学の満足度が他の教育部に比べて低い傾向にある。今回の調査では，学生の満足度に何が影響しているか理由は不明であるが，今後も継続的に学生の満足が得られる対応を行っていく必要がある。

## 第6章 修学状況について

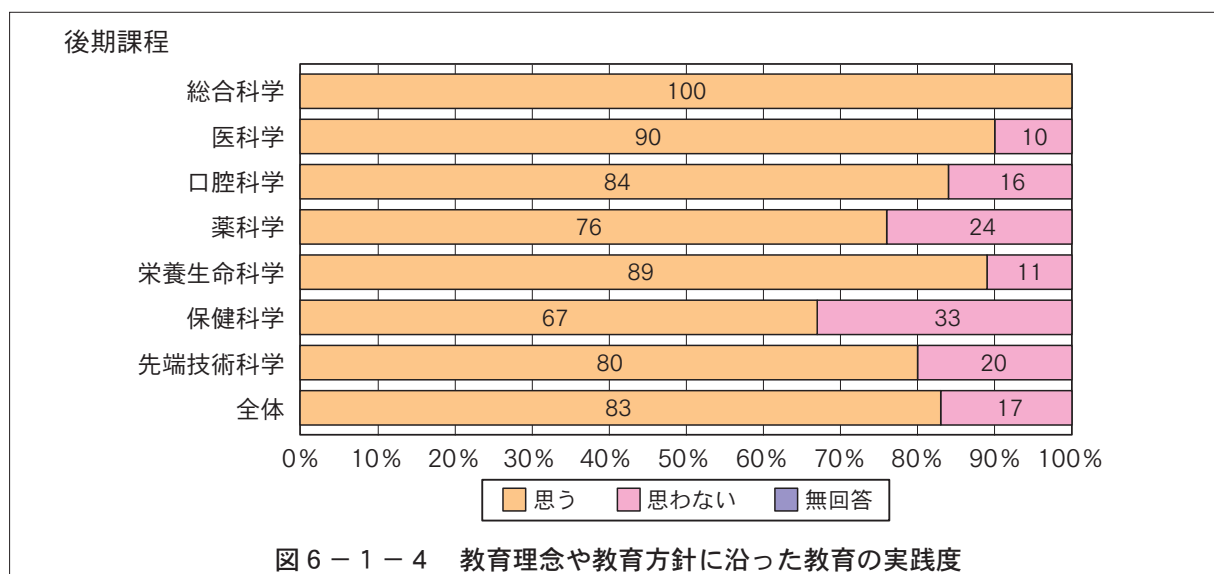
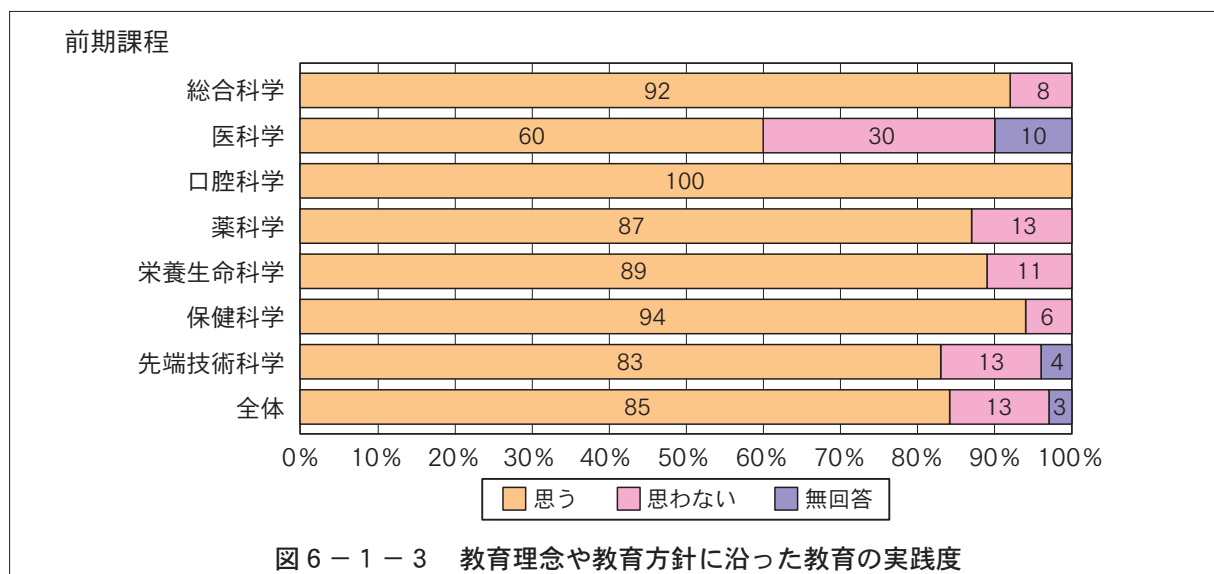
### 6-1 教育理念・方針と教育に対する満足度 (図6-1-1~図6-1-8)

前期課程において、所属する教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は45% (良く知っている: 6%, だいたい知っている: 39%) であり、他の回答 (あまり知らない: 36%, 知らない: 18%) も含め前回の第5回調査と同様の結果であった (図6-1-1)。教育部別に見ると、医科学, 栄養生命, 総合科学, 保健科学, 薬科学, 口腔科学, 先端技術の順となっており、先端技術を除くと概ね6割程度の学生が、教育理念や方針を知っていると判断できる。先端技術では、約4割にとどまり、第4回調査, 第5回調査と変わらない。また、後期課程では、全体として53%の学生が認知しているが、第5回調査と比較すると、7ポイント低下していた (図6-1-2)。留学生については、「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が、前期課程で58%, 後期課程62%であった。

口腔科学と先端技術を除くと、前期課程よりも後期課程の方が、認知度は低くなっており、後期課程においても改めて、教育理念や教育方針を周知する必要がある。



教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では85%、後期課程では83%が「思う」と答えている〔図6-1-3（前期課程）と図6-1-4（後期課程）〕。留学生については、「思う」と回答した割合が、前期課程で95%、後期課程78%であった。



教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は27%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生（63%）と合わせて90%であった（図6-1-5）。一方、「どちらかといえば不満足である」は7%、「不満足である」は2%となっている。特に、口腔科学では、前回の第5回調査同様に、学生全員が満足（満足している：67%、どちらかといえば満足している：33%）していた。後期課程では全体で86%がほぼ満足しており（満足している：28%、どちらかといえば満足している：58%）、「どちらかといえば不満足である」が8%、「不満足である」が4%であった（図6-1-6）。留学生については、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合は、前期課程で94%、後期課程90%であった。

図6-1-7、図6-1-8より、大学院に相応しいレベルの授業が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合は前期課程（充分に行われている：39%、ある程度行われている：54%）、後期課程（充分に行われている：45%、ある程度行われている：49%）ともに90%以上と高くなっている。教育部別に見ると、前期課程では、総合科学、医科学、口腔科学で100%

前期課程

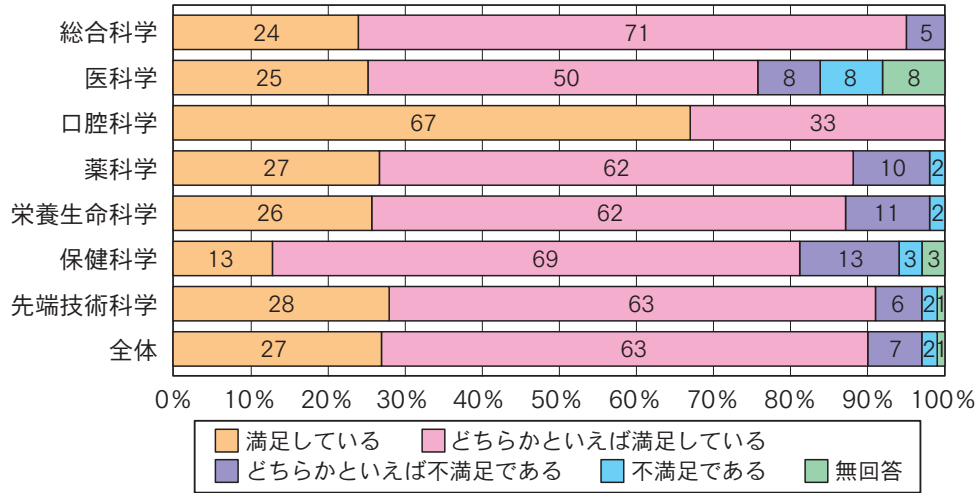


図 6 - 1 - 5 教育課程の満足度

後期課程

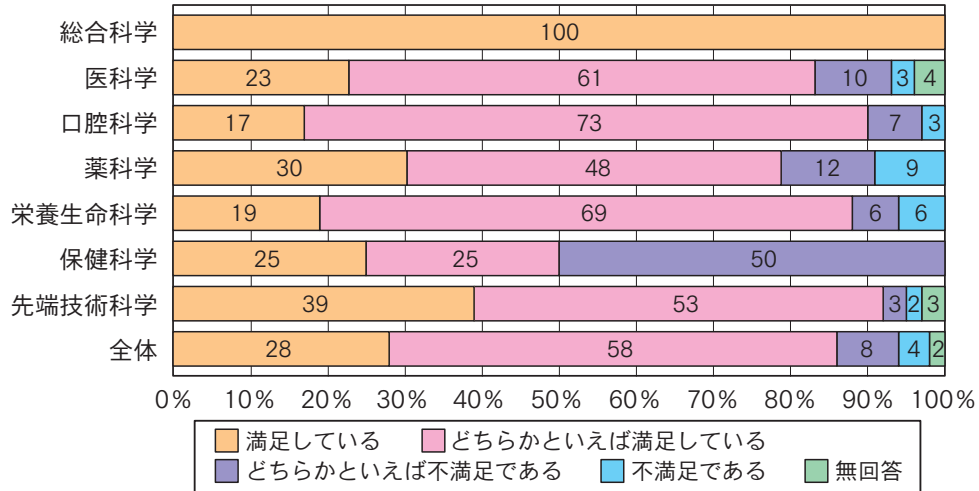


図 6 - 1 - 6 教育課程の満足度

前期課程

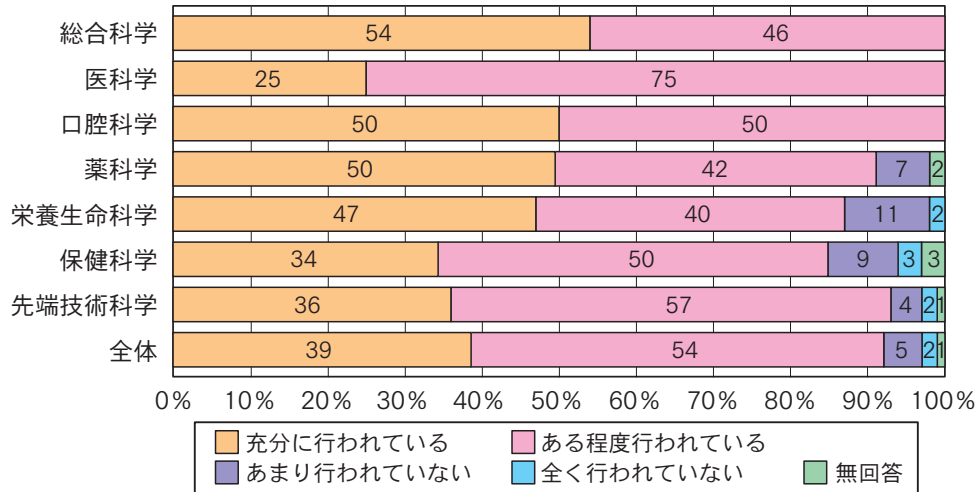
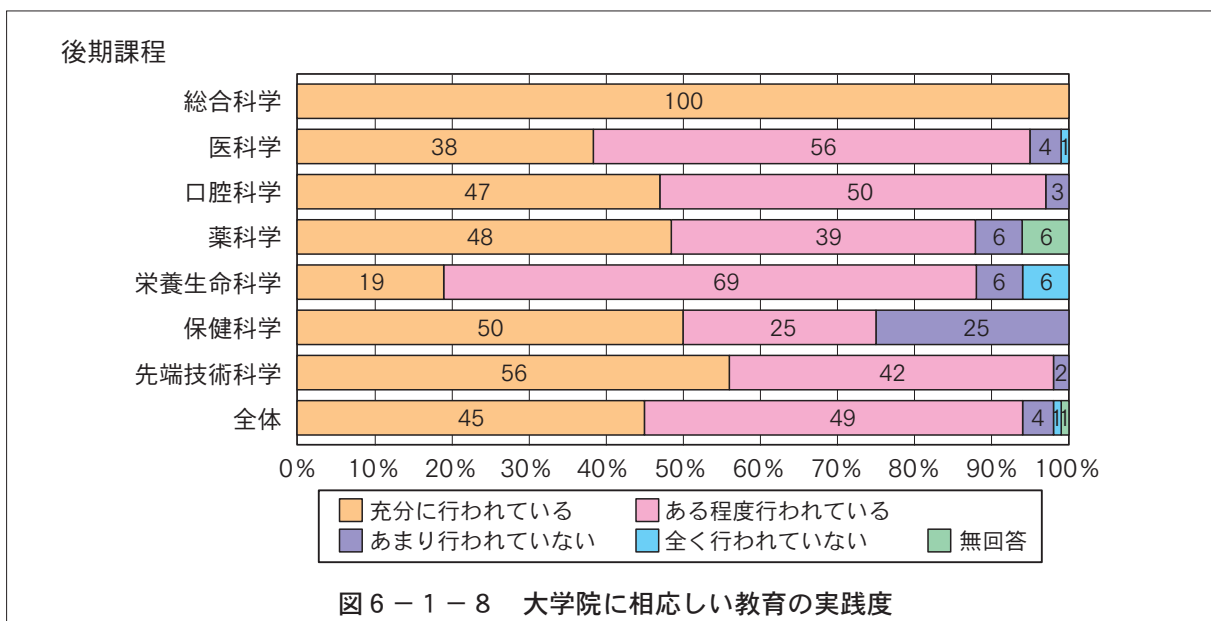


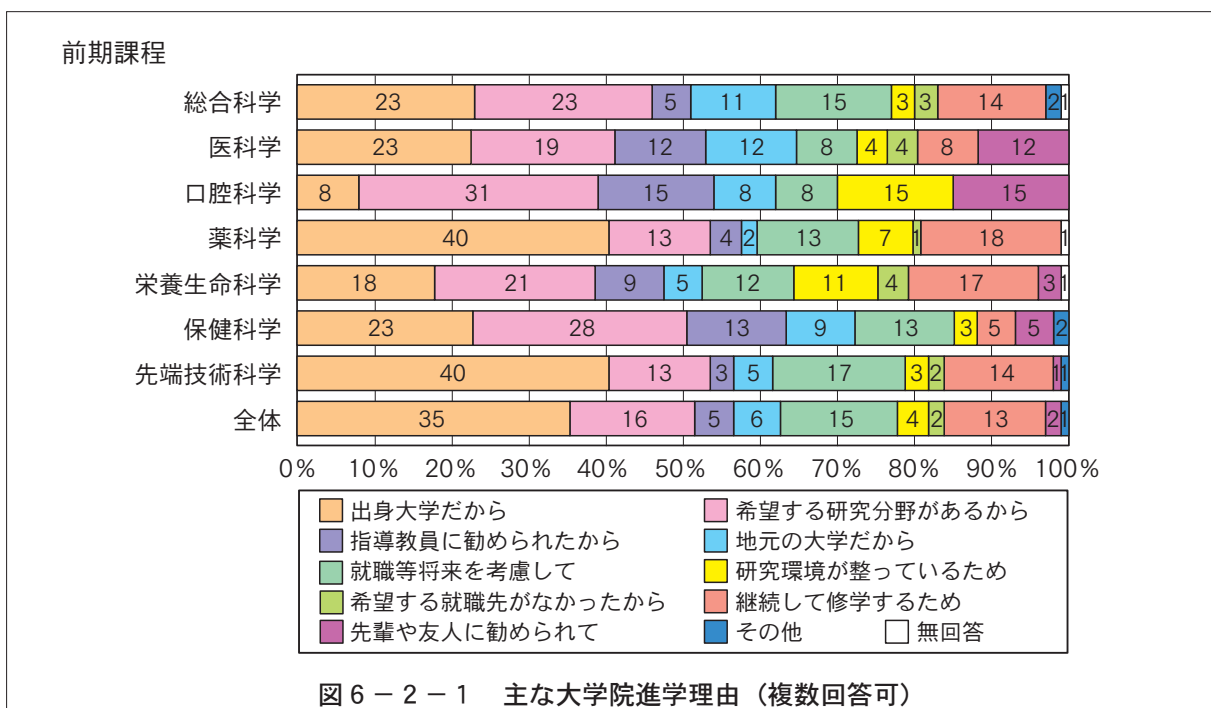
図 6 - 1 - 7 大学院に相応しい教育の実践度



であった。特に医科学、口腔科学は第5回の調査でも100%であった。留学生についても、「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が、前期課程で97%、後期課程92%と前回の第5回調査と同程度であった。

## 6-2 本学を選んだ理由と目的 (図6-2-1~図6-2-10)

前期課程の学生の主な入学理由は、「出身大学だから」が35%、「希望する研究分野があるから」が16%、「就職等将来を考慮して」が15%となっており、第5回調査とほぼ同様の結果であった(図6-2-1)。教育部別に見ると、薬科学と先端技術科学では、「出身大学だから」という理由が40%程度と前回の第5回調査同様に最も多い。また、総合科学、口腔科学、栄養生命科学、保健科学では、「希望する研究分野があるから」という理由が最も多いが、その割合は第5回の調査に比較すると全体に低下している。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」が最も多く前回の第5回調査と同様に24%であった。



次いで、「出身大学だから」が18%となっている（図6-2-2）。また、「指導教員に勧められたから」という回答（13%）は前期課程の学生の回答割合（5%）を大きく上回っている。留学生については、両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合が前期課程：32%，後期課程：27%と最も多かった。

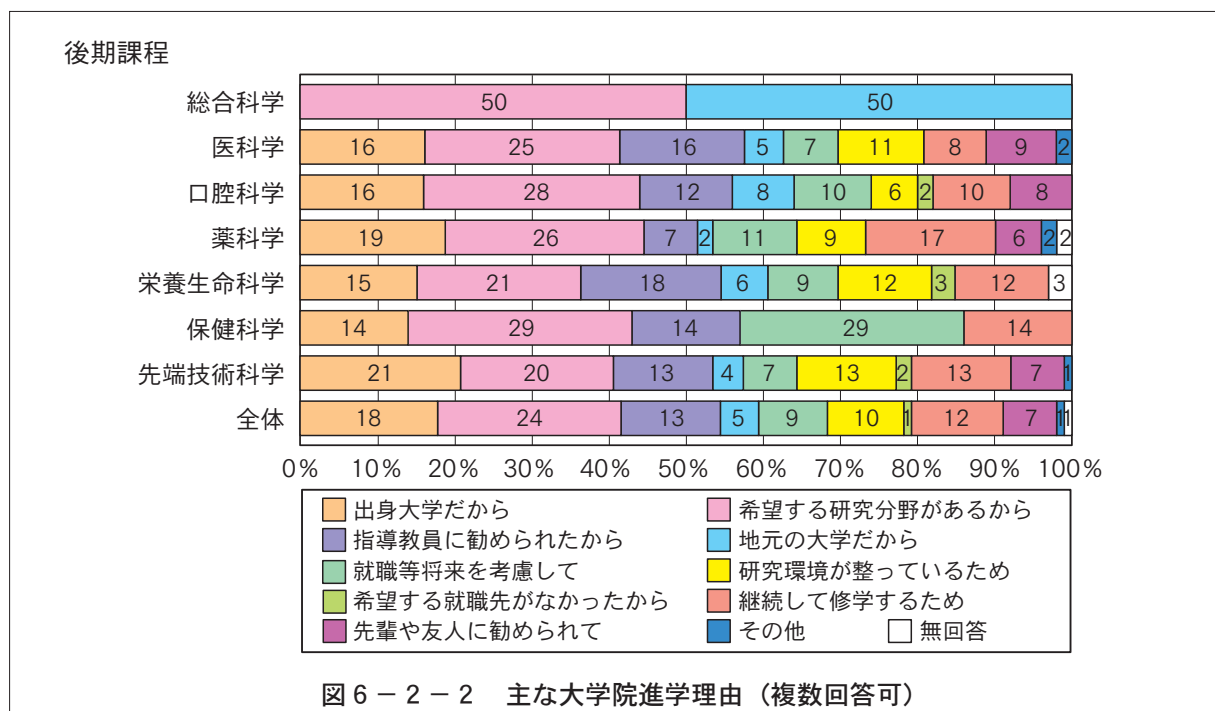


図6-2-2 主な大学院進学理由（複数回答可）

大学院進学に関する調査では、徳島大学卒業生と他大学卒業生に分類して調査を行なった。まず徳島大学卒業生について、「現在所属する大学院が第一志望だった」と回答した前期課程の学生は、全体で87%となっており、「第二志望だった」は7%、「第三志望だった」は2%と、第5回の調査と同じ結果であった（図6-2-3）。教育部別に見ると、医科学は、他教育部と比較して、やや少ないが、それでも78%であった。一方、徳島大学を卒業して後期課程に在籍する学生では85%が「第一志望だった」と回答していた（図6-2-4）。

他大学を卒業した学生については、前期課程に進学した学生の75%が「第一志望だった」と回答しており、第5回の調査（58%）よりも増加していた（図6-2-5）。教育部別に見ると、口腔科学の「第

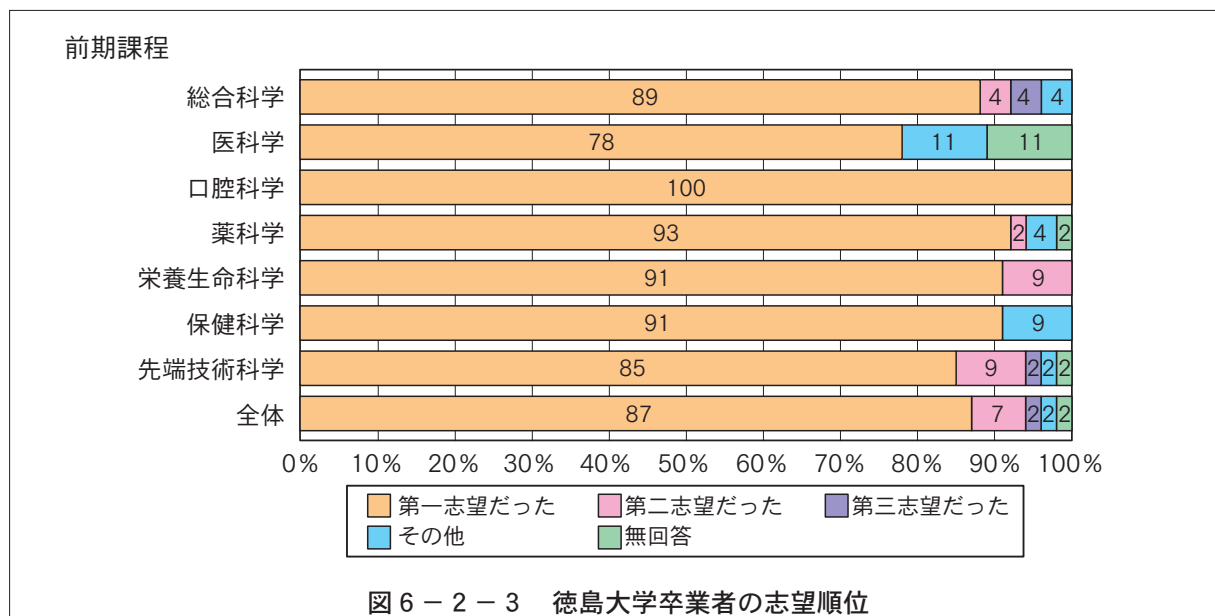


図6-2-3 徳島大学卒業生の志望順位

後期課程

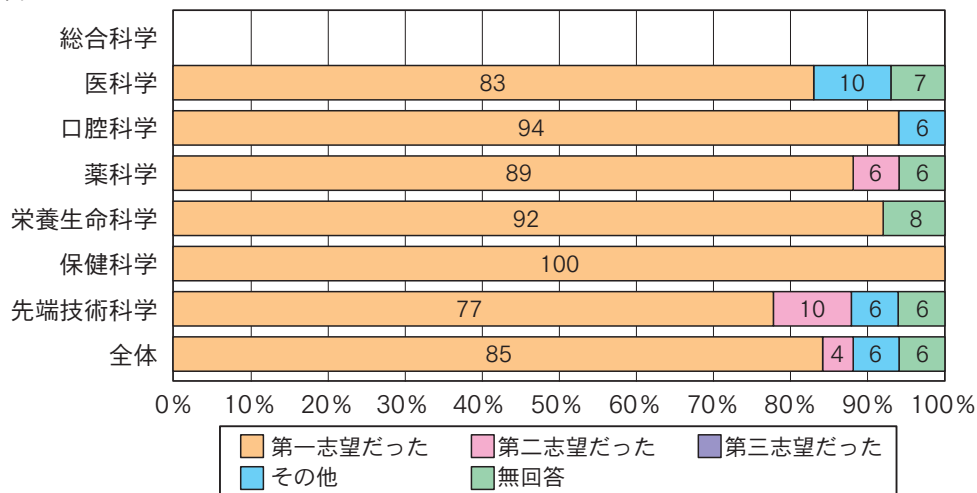


図 6 - 2 - 4 徳島大学卒業者の志望順位

前期課程

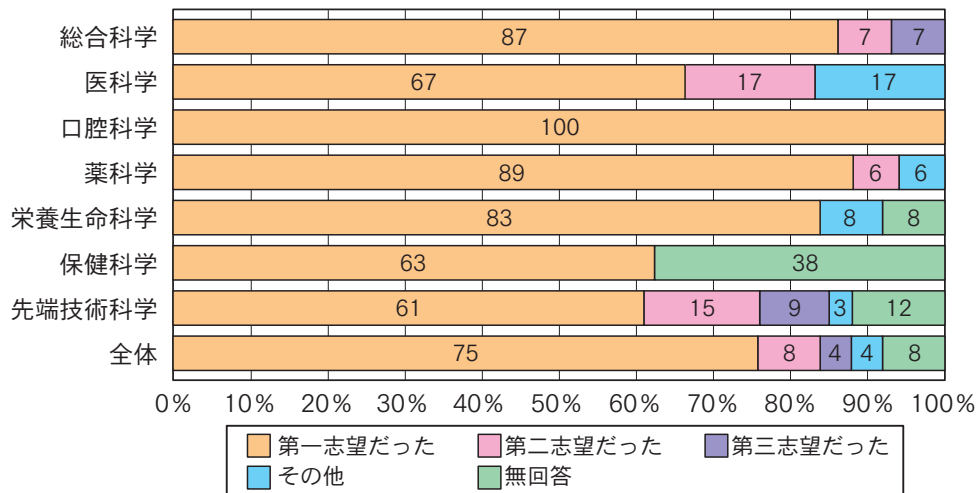


図 6 - 2 - 5 他大学卒業者の志望順位

後期課程

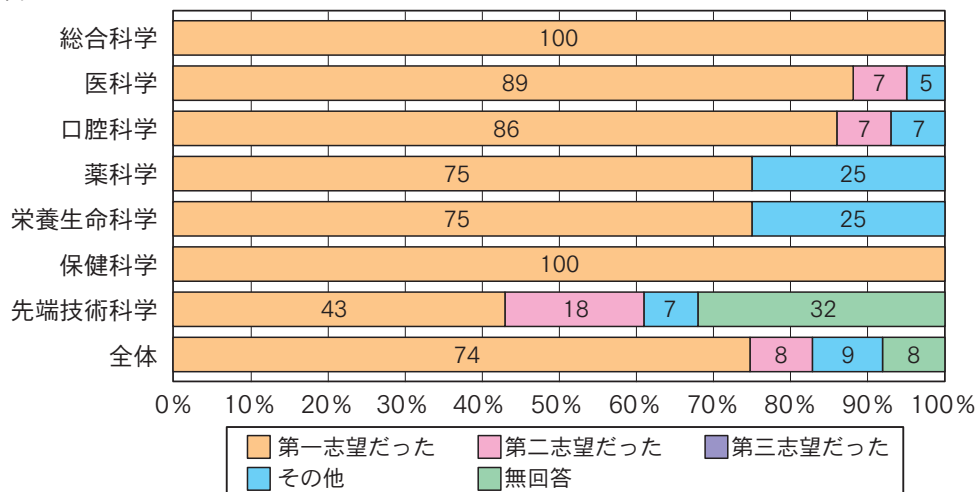
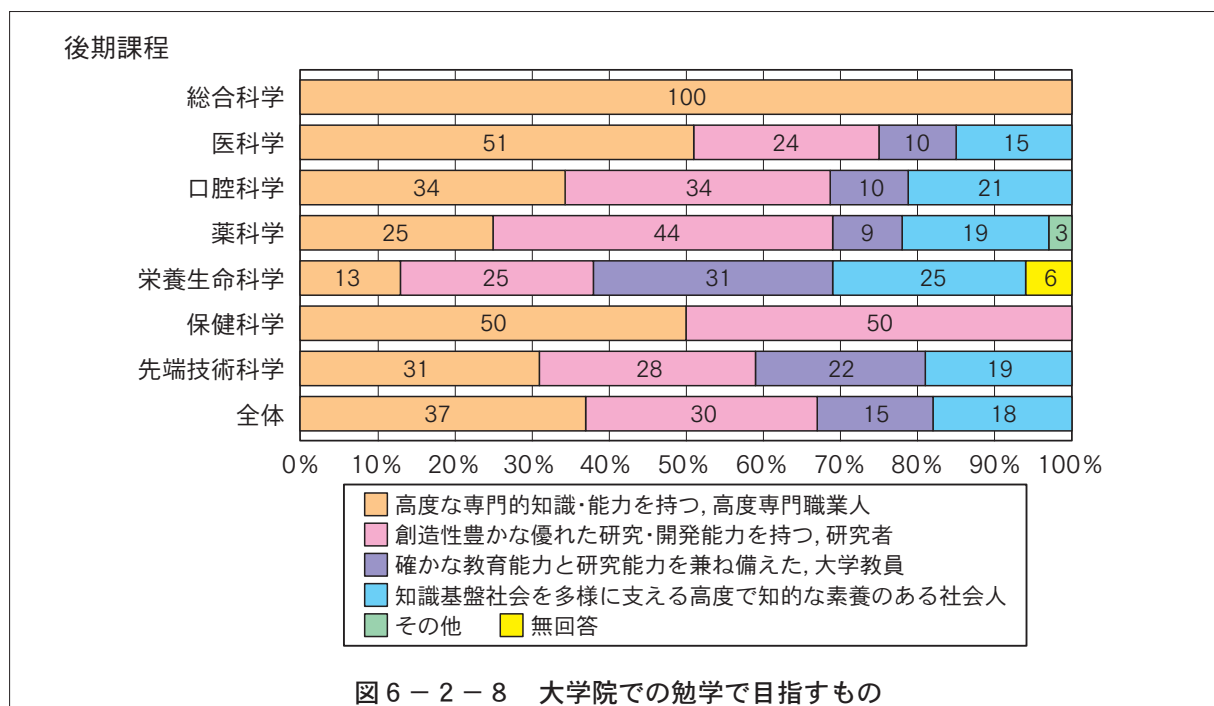
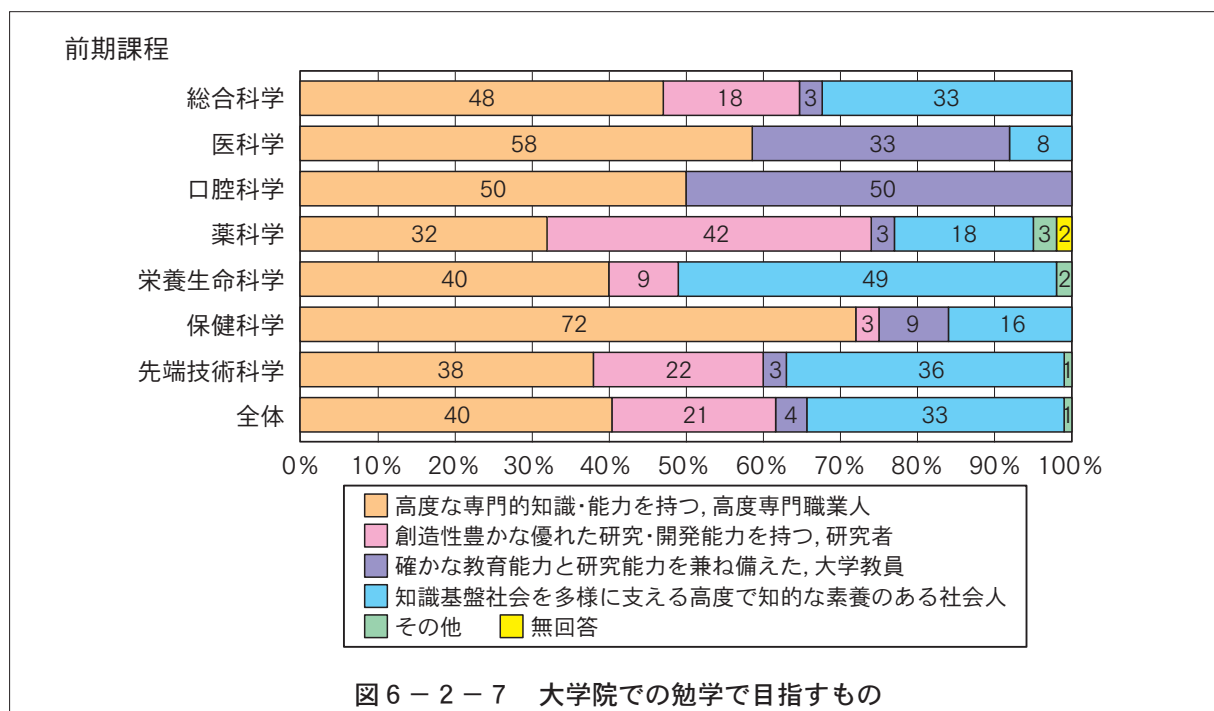


図 6 - 2 - 6 他大学卒業者の志望順位



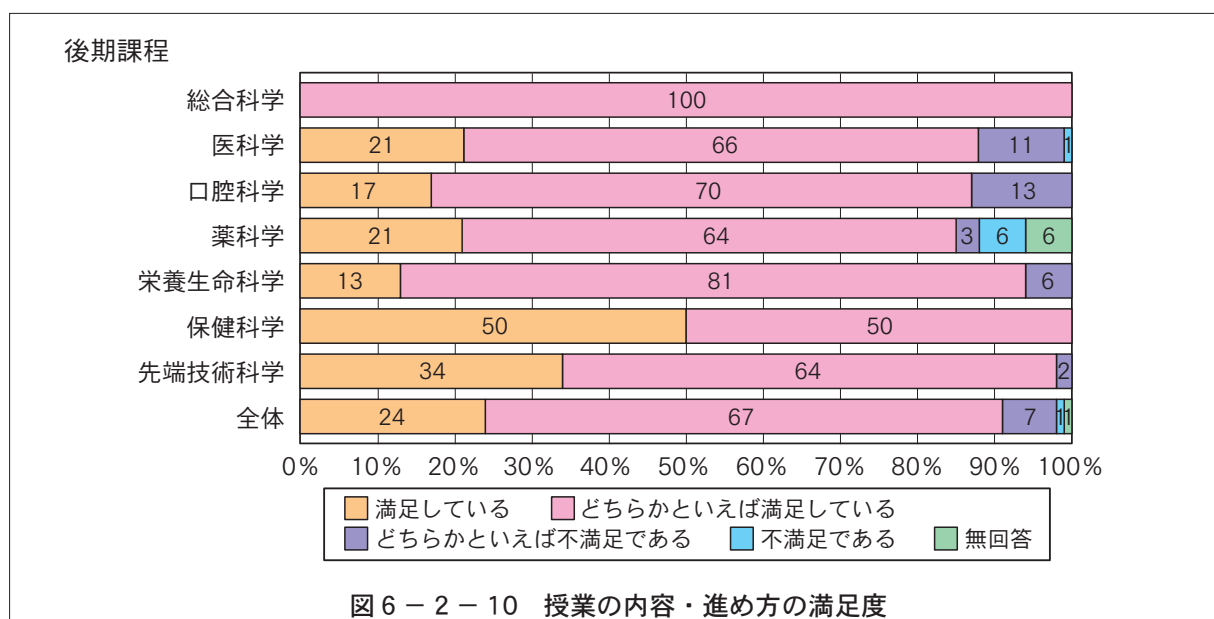
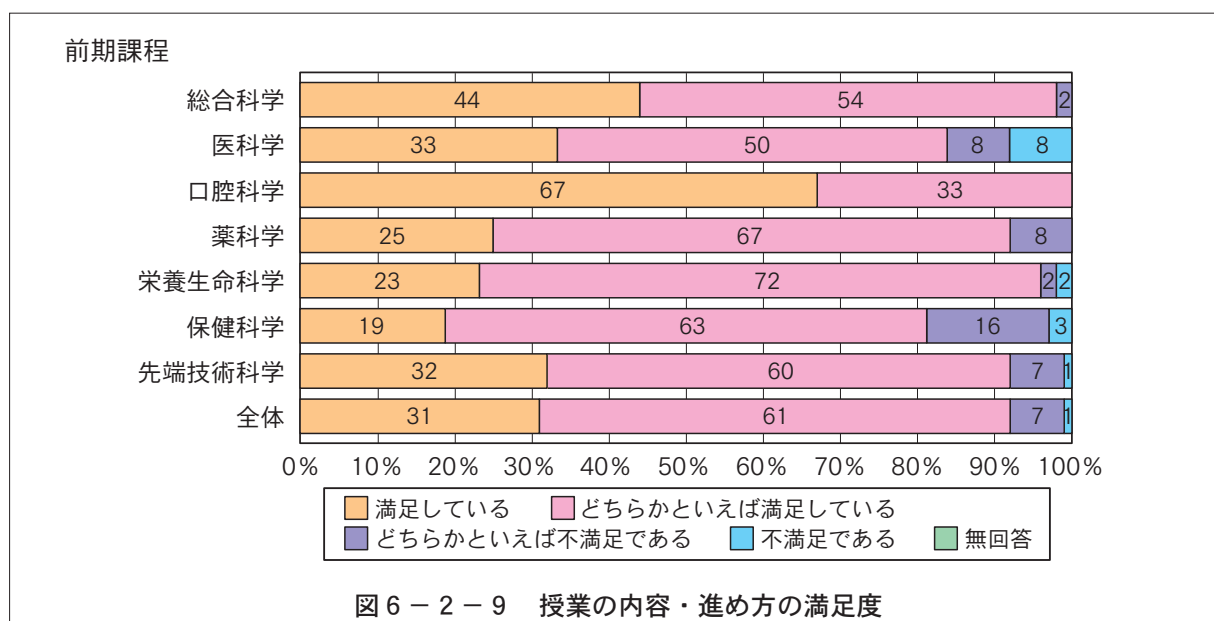
「一志望だった」とした回答の割合は、同大学卒業生の割合と同じ100%であった点は特筆する点である。他大学を卒業して後期課程に在籍する学生については、「第一志望だった」が74%で、先端技術の3割の学生が無回答である点は気がかりである（図6-2-6）。

大学院での勉学で目指すものとして、前期課程では「高度な専門知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生（40%）が最も多く、次いで、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が33%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者」が21%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員」が4%となっており、第5回の調査結果と同じであった（図6-2-7）。教育別に見ると、保健科学（72%）、医科学（58%）では「高度な専門知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生が特に多いのに対し、薬科学（42%）では、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者」を目指す学生が最も多く、学生の意識の違いが現れる結果となった。後期課程



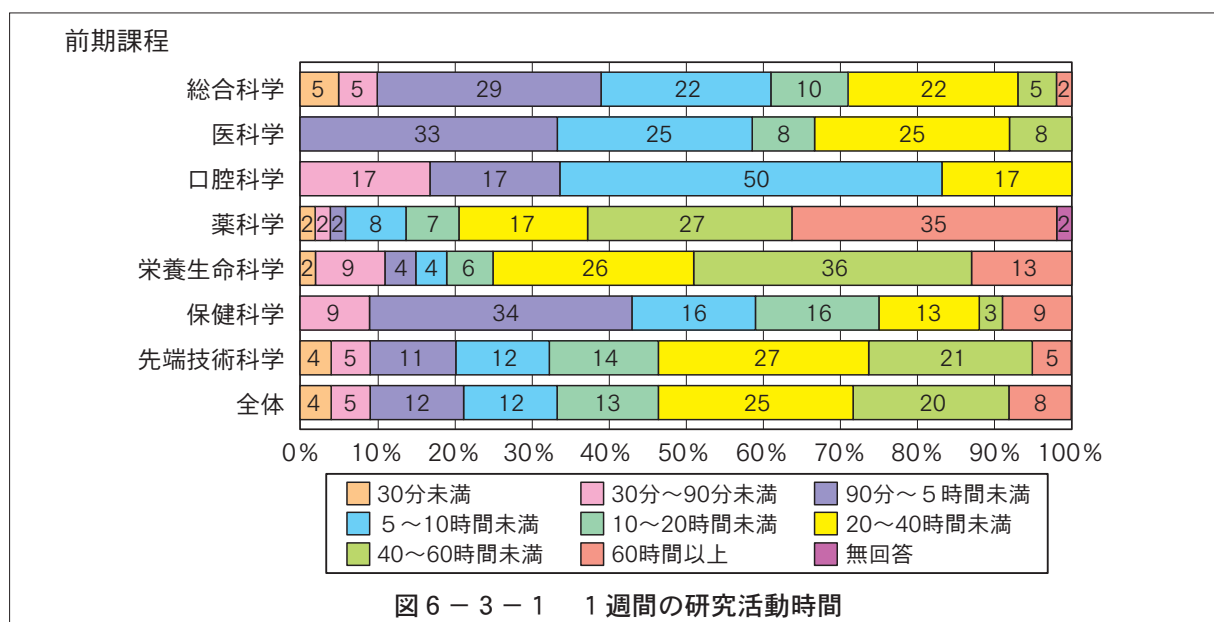
の学生全体では「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」を目指す学生（37%）が最も多く，次いで「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者」が30%，「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が18%となっている（図6-2-8）。「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた，大学教員」を目指す学生の割合は前期課程の4%を大きく上回っている点が特徴で，教育部別に見ると，栄養生命科学では31%と，他教育部と比較しても高くなっていて，留学生については，前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ，高度専門職業人」と「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者」と回答した学生の割合がともに31%と多く，後期課程では「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ，研究者」と回答した学生の割合が36%と最も多かった。

また図6-2-9および図6-2-10に示した授業の内容や進め方に関する満足度については，「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は，前期課程で92%（満足している：31%，どちらかといえば満足している：61%），後期課程でも91%（満足している：24%，どちらかといえば満足している：67%）と授業に高い満足感を感じていることがわかった。教育部別に見ると，前期課程では，口腔科学で100%と全員が満足している一方で，保健科学と医科学の満足度が他教育部と比較して若干低くなっていた。

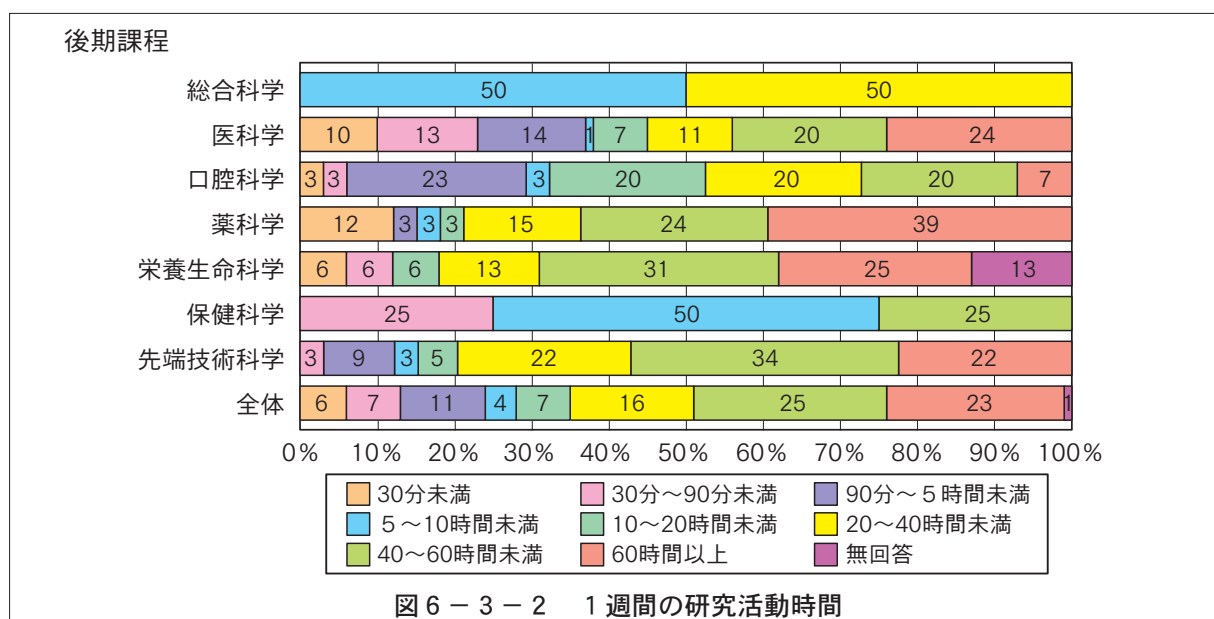


### 6-3 研究活動と研究指導 (図6-3-1～図6-3-12)

前期課程の学生全体での授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間では、「20～40時間未満」との回答(25%)が最も多く、次いで「40～60時間未満」が20%、「10～20時間未満」が13%、「90分～5時間未満」と「5～10時間未満」がともに12%、「60時間以上」が8%、「30～90分未満」と「30分未満」がそれぞれ5%と4%であった(図6-3-1)。すなわち、約半数の学生が週20時間以上の研究活動を行っているとは回答していた。教育部別に見ると、週20時間以上研究活動を行っている割合は、薬科学が最も高く79%、次いで栄養生命科学の75%、先端技術科学の53%と低くなっていた。



一方、後期課程の学生が授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、「40～60時間未満」の25%と「60時間以上」の23%と前期課程の学生よりも多く、また第5回の調査(59%)よりも研究時間は増加している傾向にあった(図6-3-2)。すなわち、64%の学生が週20時間以上研究活動を行っており、特に、週20時間以上研究活動を行っている割合は、栄養生命科学(69%)、薬科学(78%)、先端技術科学(78%)で高くなっていた。留学生については、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程では72%、後期課程では88%であった。



前期課程の学生の研究を直接指導している教員は、「教授」が54%、「准教授」が21%、「講師」が8%、「助教」が14%、「その他」が2%であった（図6-3-3）。後期課程の学生の研究を直接指導しているのは、「教授」が52%、「准教授」が18%、「講師」が11%、「助教」が14%、「その他」が4%であった（図6-3-4）。

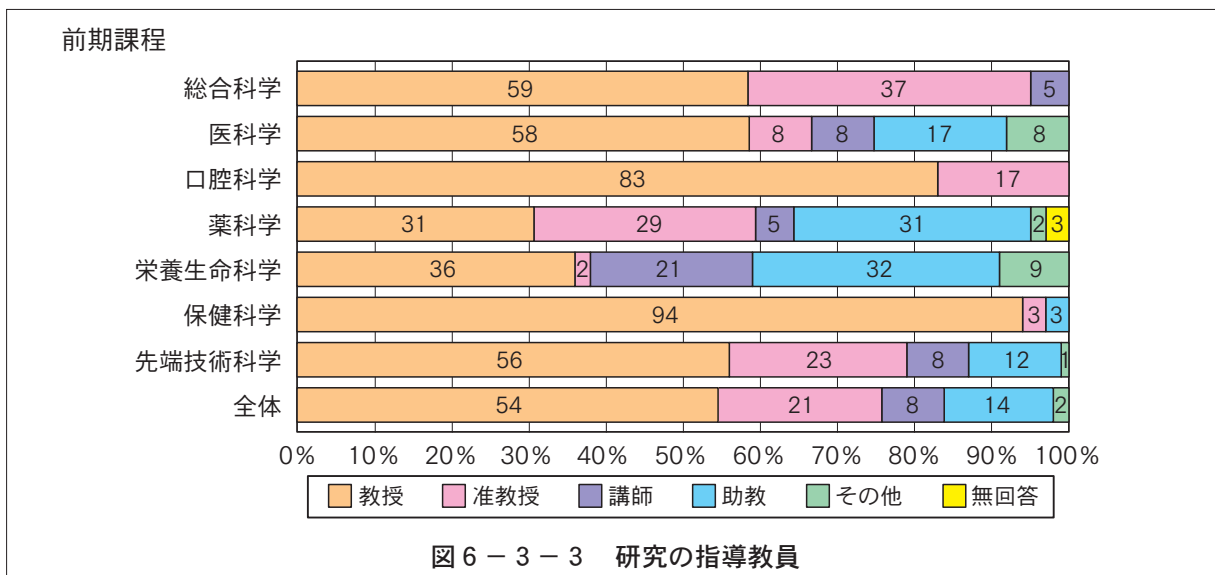


図6-3-3 研究の指導教員

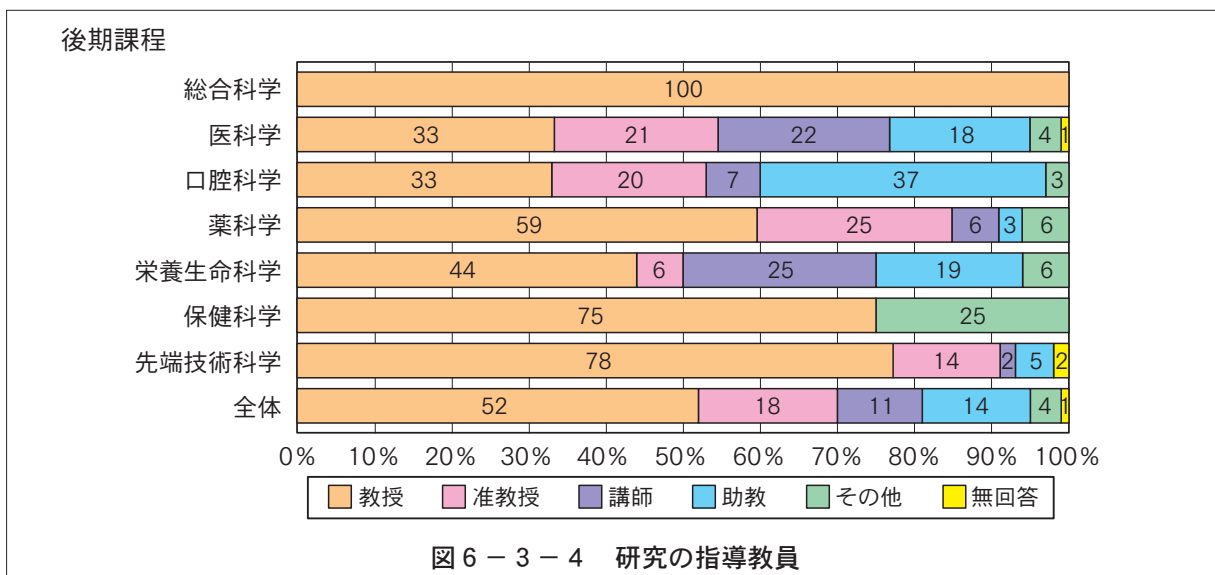
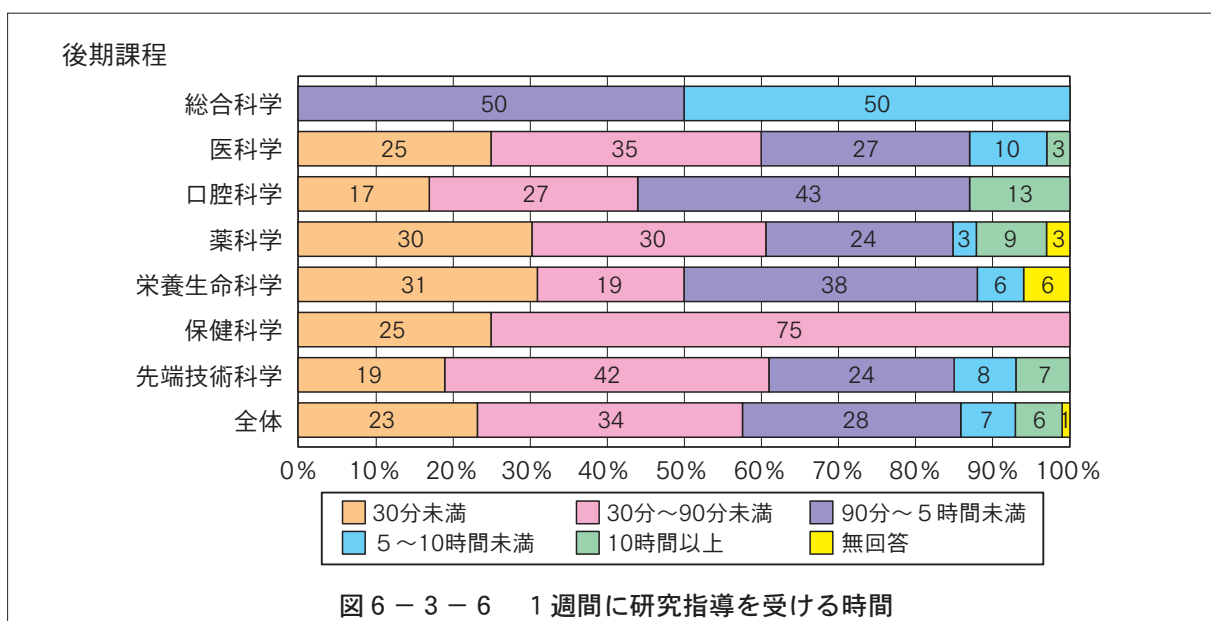
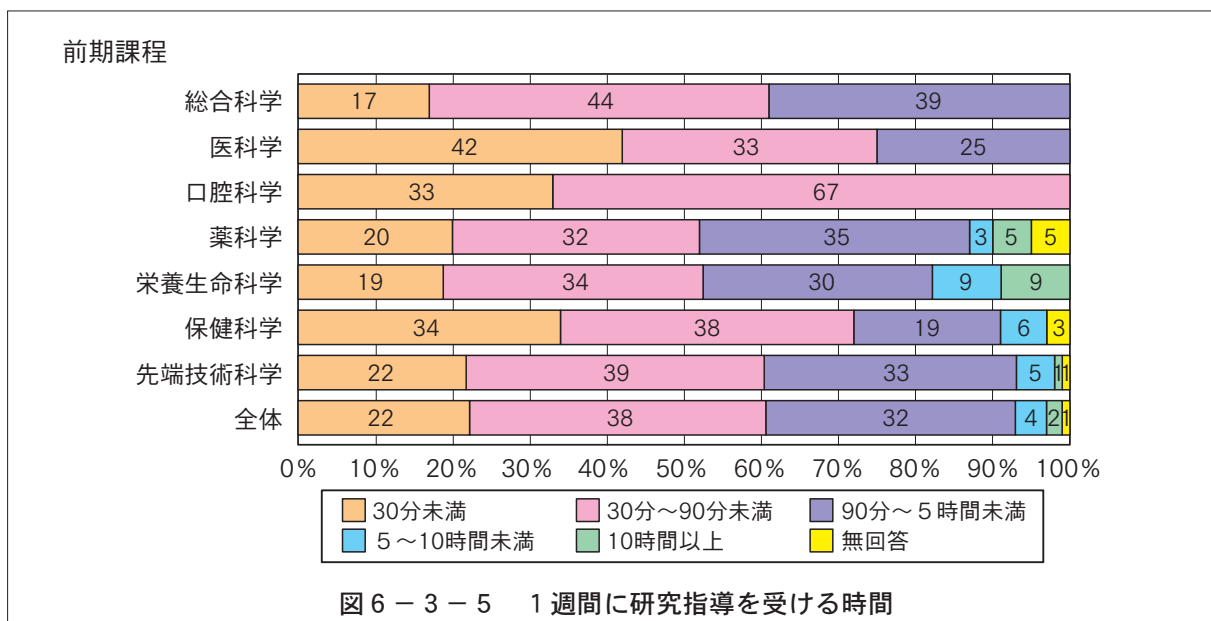


図6-3-4 研究の指導教員

前期課程の学生が指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は、「30～90分未満」が38%と最も多く、以下、「90分～5時間未満」が32%、「30分未満」が22%、「5～10時間未満」が4%、「10時間以上」が2%であった（図6-3-5）。研究指導時間が最も長い教育部は栄養生命科学で、5時間以上の指導を受ける学生が18%あった。後期課程の学生が指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は、「30～90分未満」が34%と最も多く、以下、「90分～5時間未満」が28%、「30分未満」が23%、「5～10時間未満」が7%、「10時間以上」が6%であった（図6-3-6）。研究指導時間が5時間以上の指導を受ける学生は、先端技術科学15%、医科学13%、口腔科学13%、薬科学12%、栄養生命科学6%あった。留学生についても、前期課程、後期課程ともに「30～90分未満」と回答した学生の割合（前期課程：37%、後期課程：41%）が最も多かった。

研究指導の内容や進め方についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が44%で最も多く、以下、「満足している」が43%、「どちらかといえば不満足である」が8%、「不満足である」が4%であった。教育部別に見ると、「満足している」または「どちらかといえ



ば満足している」と回答した学生の割合は、口腔科学で100%、総合科学で97%と高い値を示した（図6-3-7）。後期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が47%で最も多く、以下、「満足している」が43%、「どちらかといえば不満足である」が6%、「不満足である」が3%であった。総合科学は、「満足している」で100%、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は、先端技術科学では97%、次いで口腔科学94%、医科学89%と比較的高い値を示した。（図6-3-8）。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で94%、後期課程92%であった。

設問52の教員による研究指導時間には大きなばらつきが見られたが、指導を受けた学生の満足度は概ね高く、時間の長短ではなく指導内容や密度が重要と判断できる。

修士論文の研究テーマに関する満足度は、「満足している」が最も多く（48%）、以下、「どちらかといえば満足している」が44%、「どちらかといえば不満足である」が5%、「不満足である」が2%と、前回の第5回の調査と比較して、不満足割合は低下している（図6-3-9）。教育部別では、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、医科学では第5回調査に続いて100%であった。博士論文の研究テーマに関する全体の満足度は、「満足している」が最も多く

前期課程

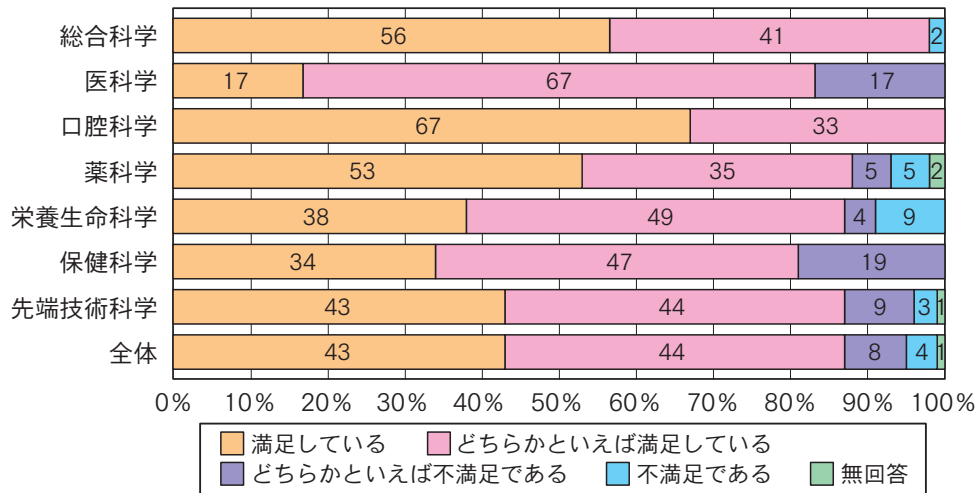


図 6-3-7 研究指導についての満足度

後期課程

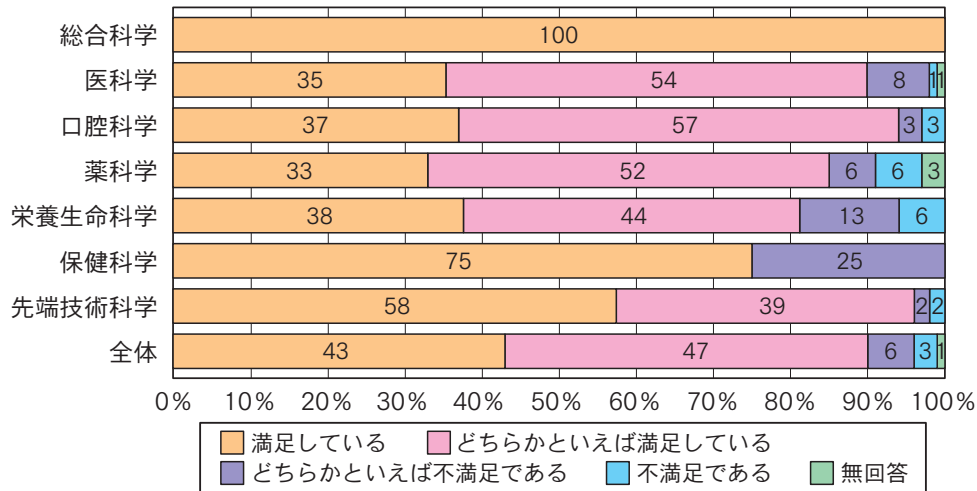


図 6-3-8 研究指導についての満足度

前期課程

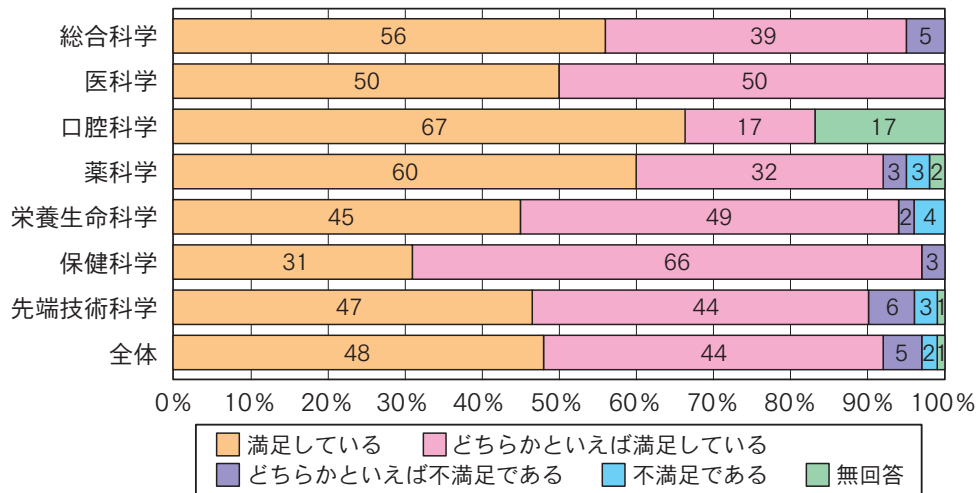


図 6-3-9 修士論文の研究テーマについての満足度

(54%)、以下、「どちらかといえば満足している」が42%、「どちらかといえば不満足である」が2%、「不満足である」が1%であった(図6-3-10)。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で94%、後期課程で97%であった。

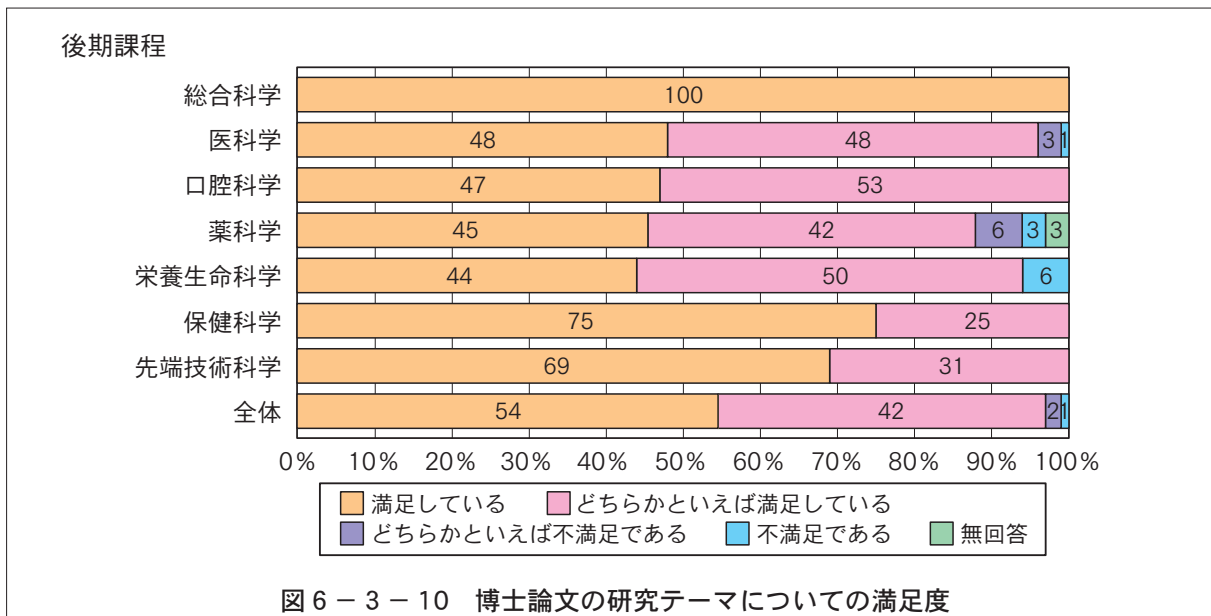


図6-3-10 博士論文の研究テーマについての満足度

指導教員とのコミュニケーションに関する設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」との回答が最も多く(48%)、以下、「充分とれている」が36%、「あまりとれていない」が14%、「まったくとれていない」が2%であった(図6-3-11)。教育部別に見ると、コミュニケーションが「充分とれている」という回答の割合が多いのは、口腔科学で67%と前回の第5回の調査結果(56%)よりも増加し、「ある程度とれている」と回答した学生を加えると全学生(100%)が、指導教員とのコミュニケーションに概ね満足していると回答していた。同設問に対して、後期課程では45%の学生が「充分とれている」と回答しており、以下、「ある程度とれている」が44%、「あまりとれていない」が8%、「まったくとれていない」が2%であった(図6-3-12)。留学生については、「充分とれている」または「ある程度とれている」と回答した学生の割合が、前期課程、後期課程ともに91%であった。

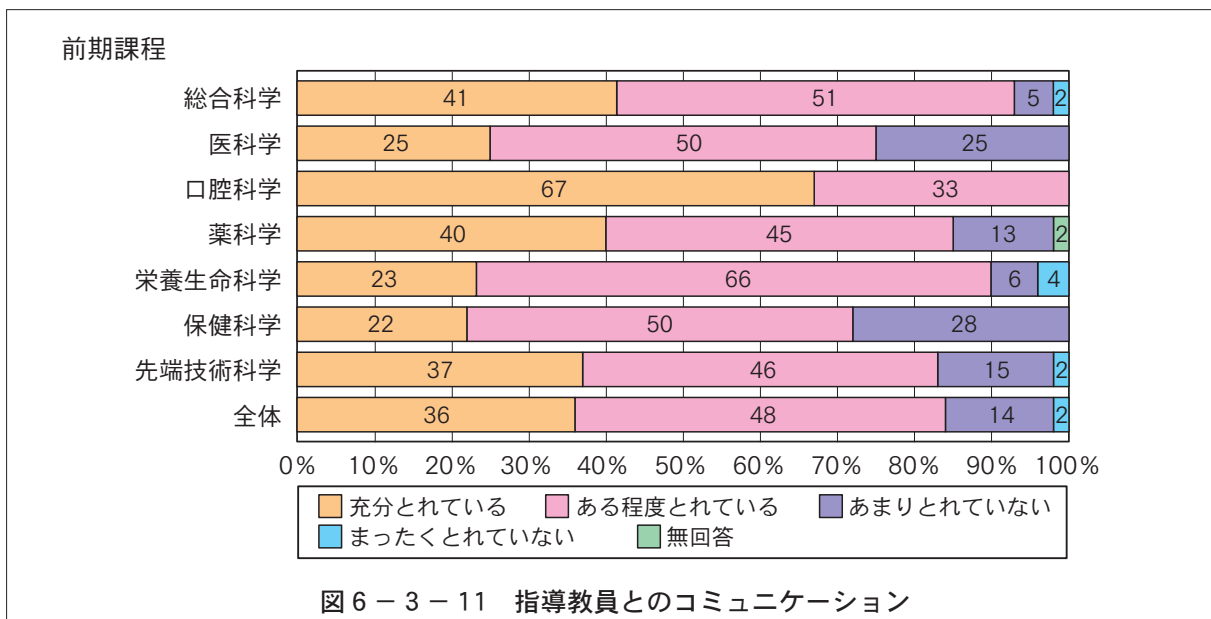
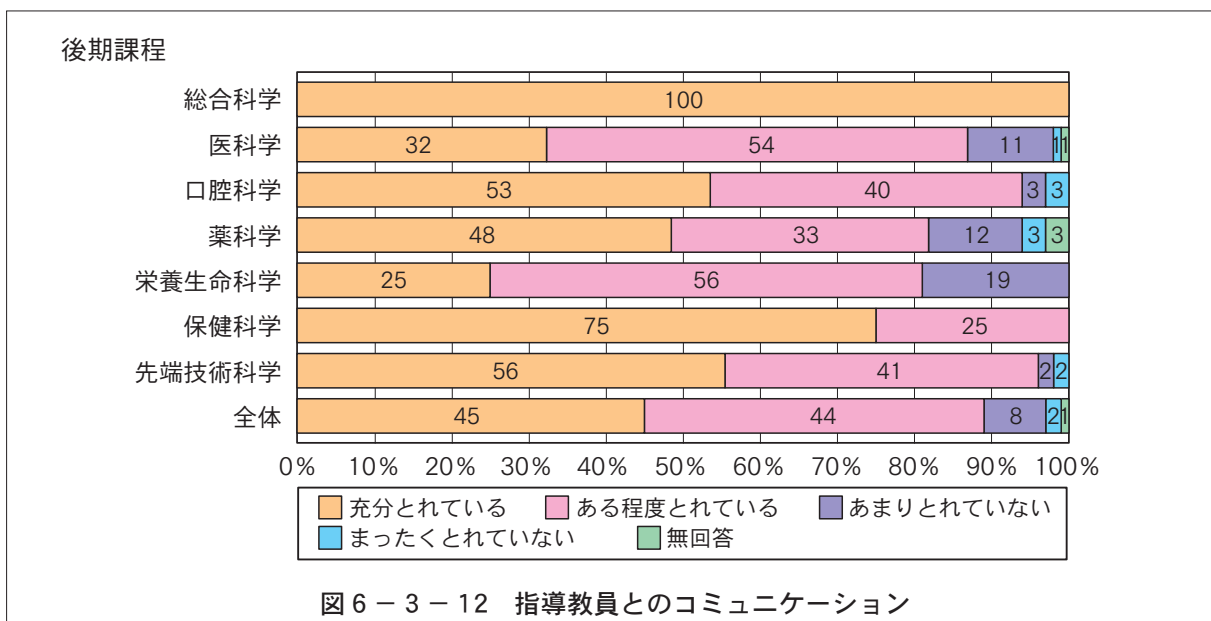


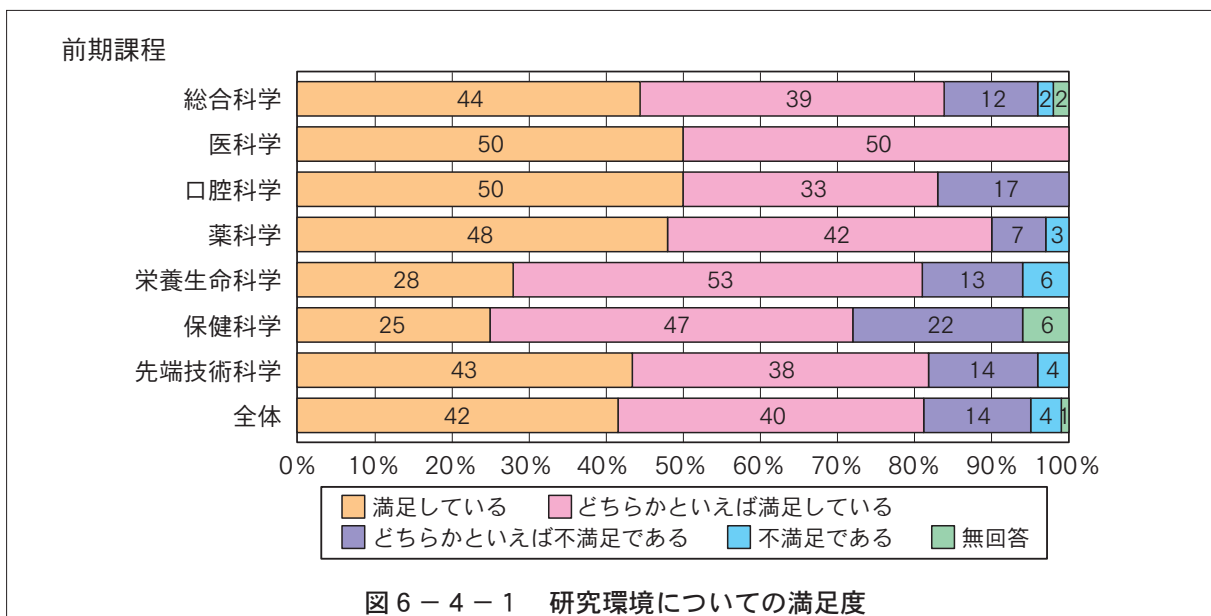
図6-3-11 指導教員とのコミュニケーション



## 6-4 研究環境と所属大学院に対する満足度 (図 6-4-1~図 6-4-6)

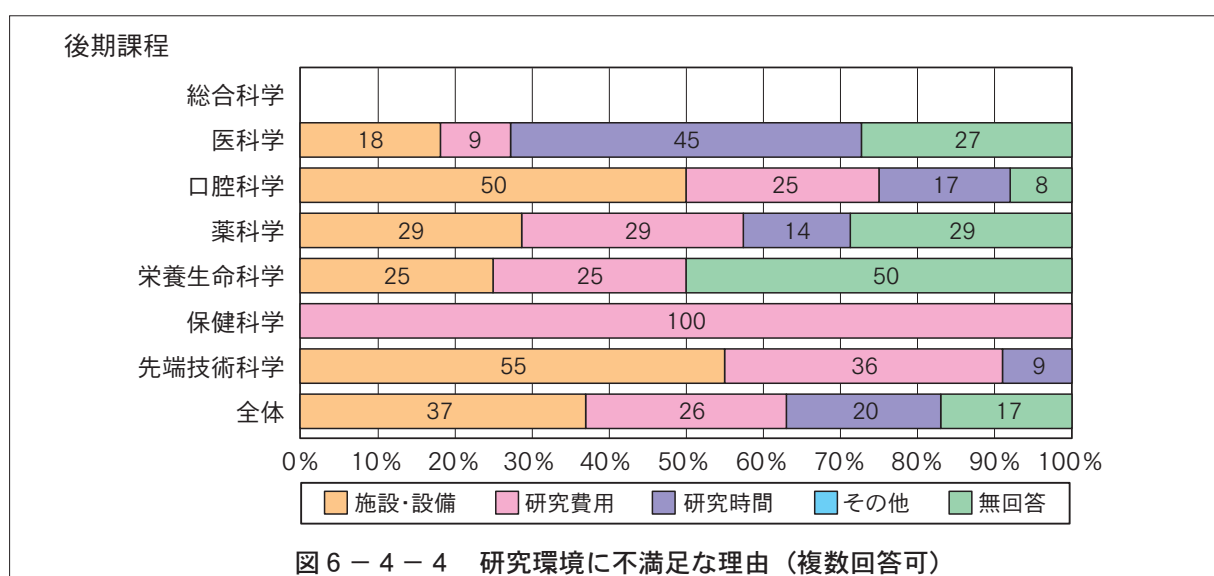
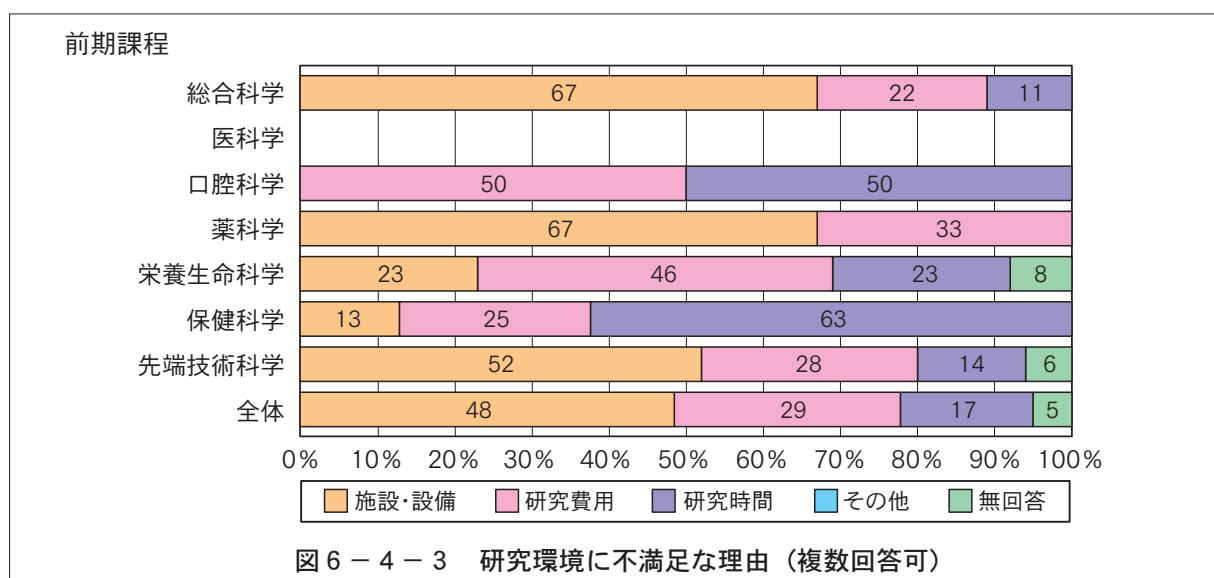
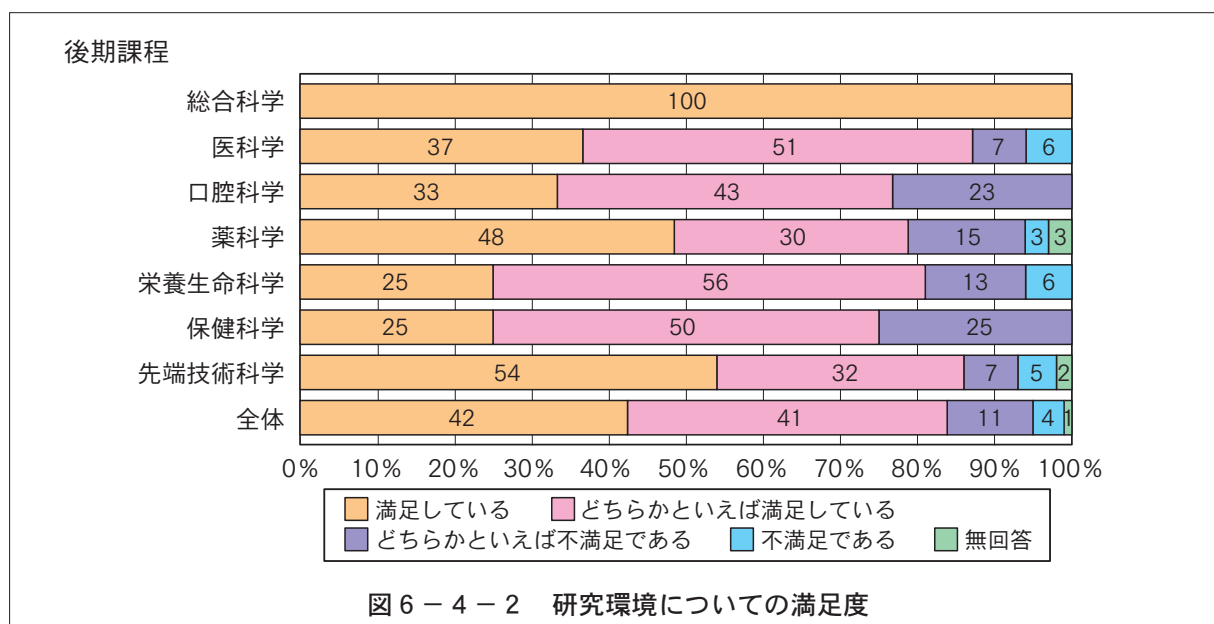
図 6-4-1 より、研究環境についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「満足している」が 42%で最も多く、以下、「どちらかといえば満足している」が 40%、「どちらかといえば不満足である」が 14%、「不満足である」が 4%であった。教育部別に見ると、医科学の満足度が高く、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生を足し合わせると 100%であった。図 6-4-2 より、後期課程の学生でも「満足している」が 42%、「どちらかといえば満足している」が 41%とあった。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で 92%、後期課程 94%であった。

研究環境に満足していない前期課程学生に、その理由を尋ねた設問への回答では、「施設・設備」が 48%で最も多く、以下、「研究費用」が 29%、「研究時間」が 17%であった (図 6-4-3)。全体の傾向と異なるのは、保健科学で、「研究時間」が一番の要因で 63%をあげている。口腔科学でも、「研究費用」、「研究時間」をそれぞれ 50%の学生が回答していた。また栄養生命科学の学生も「研究費用」を





第一の要因（46％）に挙げている。図6-4-4より、研究環境に満足していない後期課程学生にその理由を尋ねた設問への回答は、「施設・設備」が37％、「研究費用」が26％、「研究時間」が20％を挙



げていた。留学生は、不満足と回答する学生が少なかったが、前期課程の学生では「施設・設備」、後期課程では「研究費用」、「研究時間」を理由に挙げていた。

図6-4-5より、所属大学院の満足度についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」と答えた割合が55%で最も高く、以下、「満足している」が39%、「どちらかといえば不満足である」が4%、「不満足である」は1%となっていた。教育部別に見ると、総合科学と口腔科学の満足度が高く、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた割合は100%であった。図6-4-6より、同設問に対する後期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」と答えた割合が最も高く（54%）、以下、「満足している」が39%、「どちらかといえば不満足である」が5%となっており、前期課程とほぼ同様な分布を示した。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で97%、後期課程98%であった。

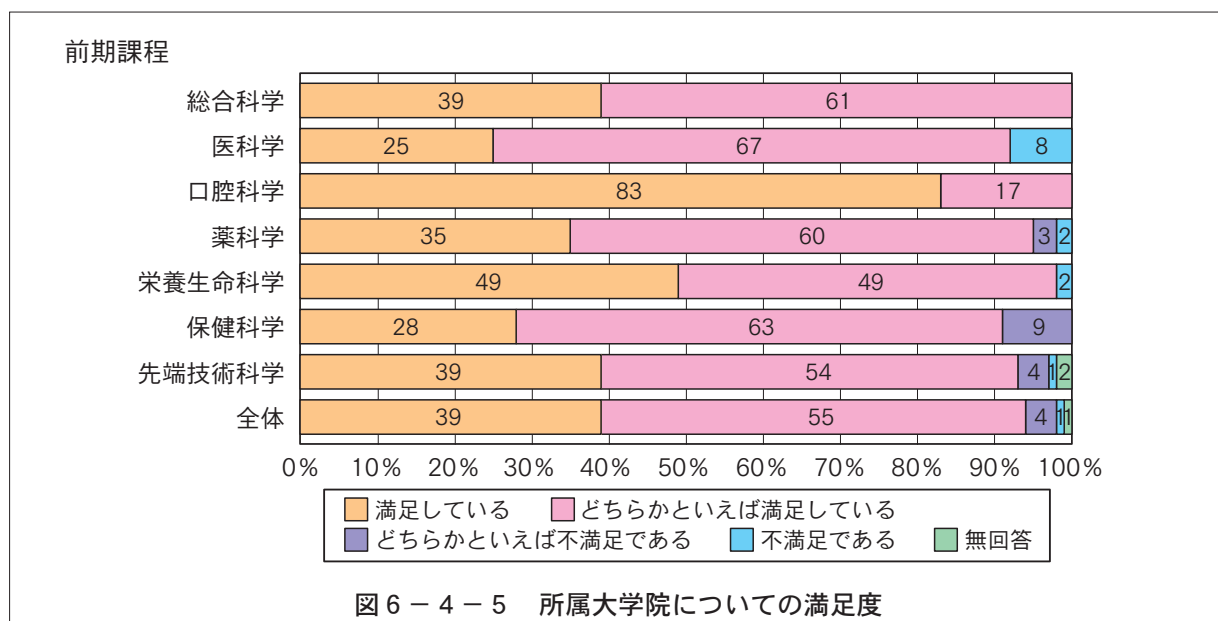


図6-4-5 所属大学院についての満足度

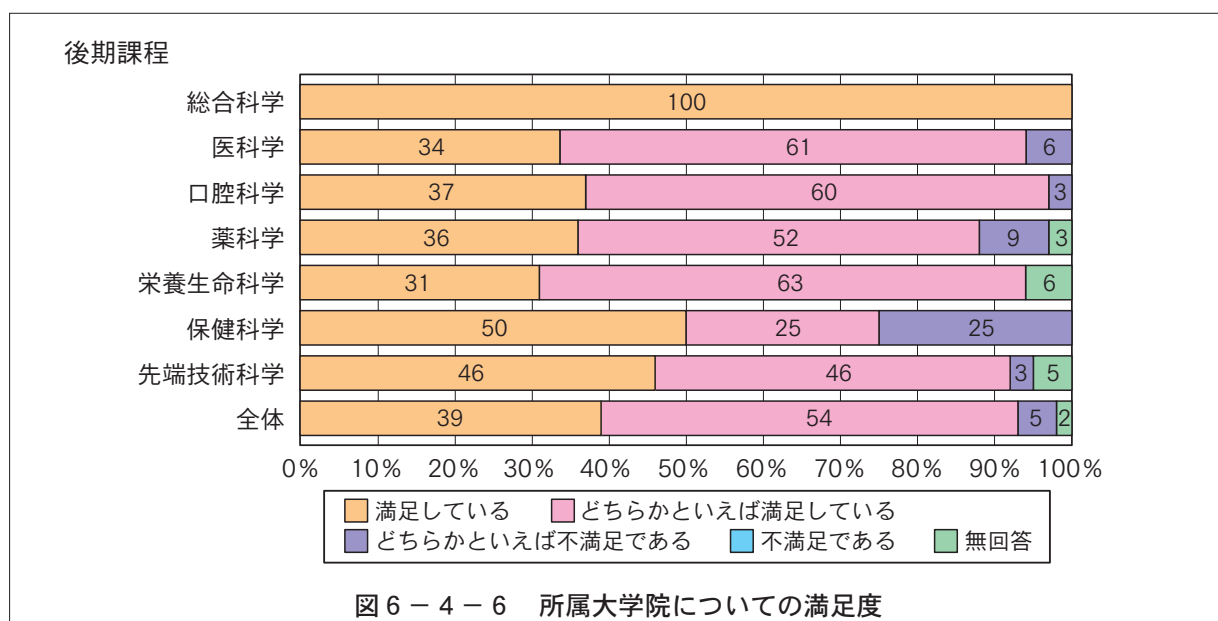
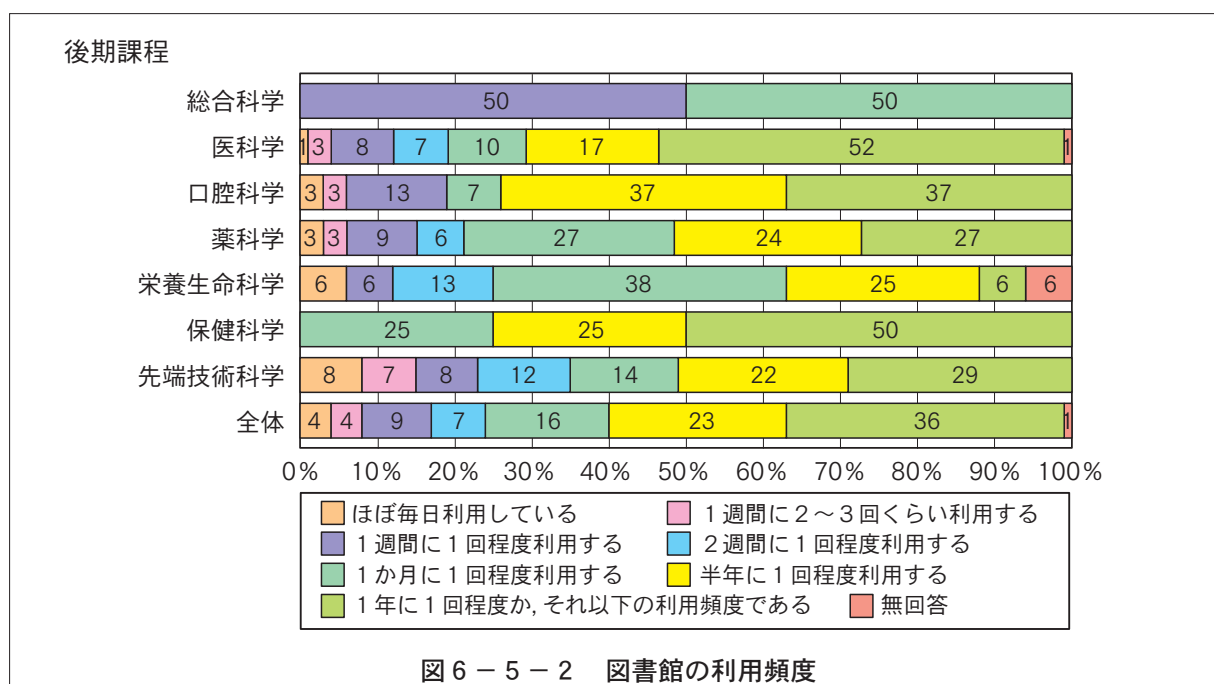
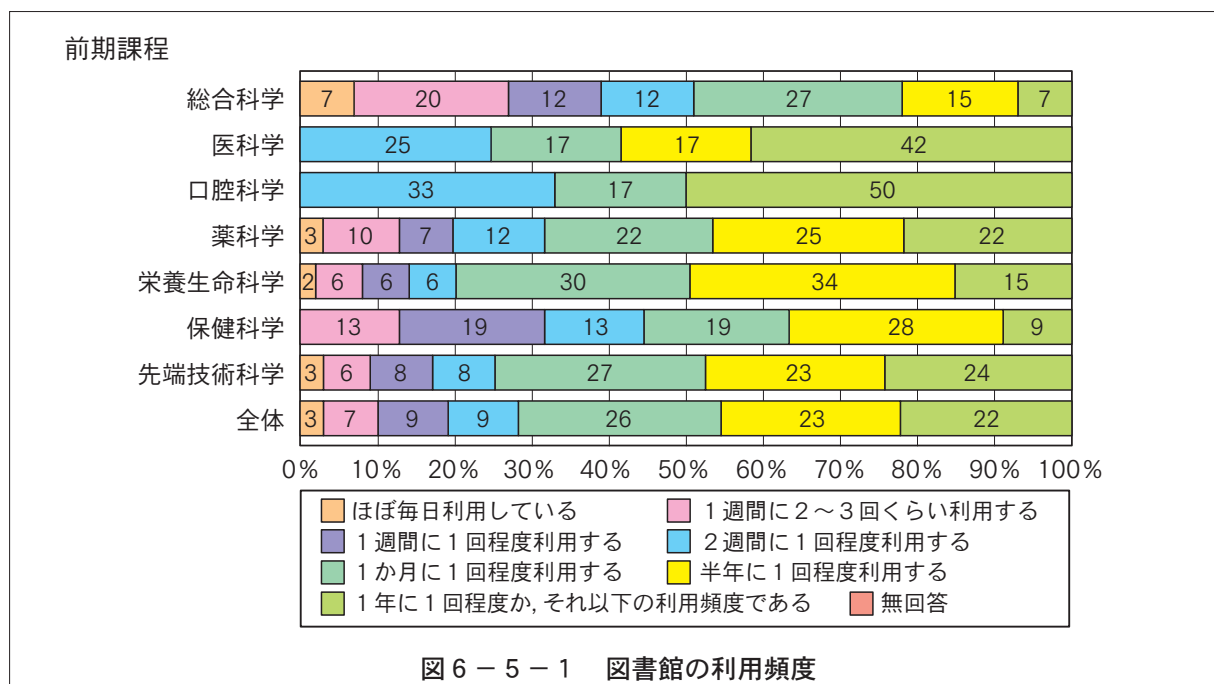


図6-4-6 所属大学院についての満足度

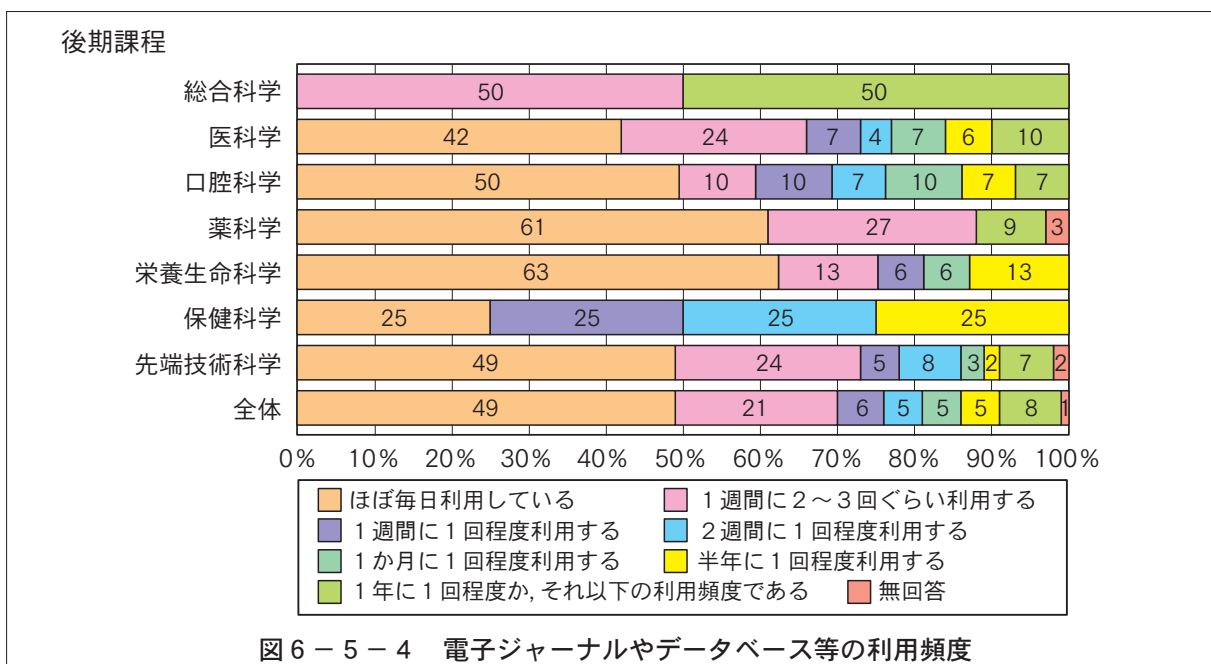
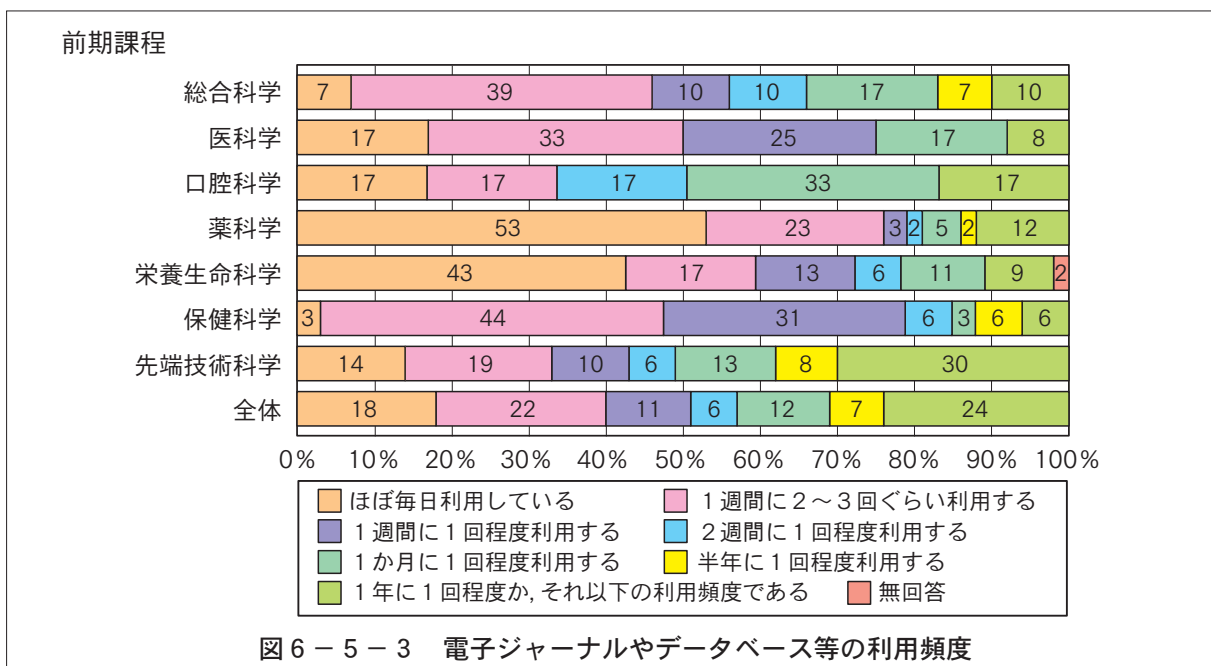
## 6-5 図書館の利用状況 (図6-5-1~6-5-6)

図書館を1週間に1回以上利用する学生は前期課程で19%、後期課程で17%であり、一昨年の第5回調査結果に比べると前期課程で6%、後期課程で3%、多くなっている。利用頻度が週2~3回以上利用する学生の割合が高い教育部は、前期課程は総合科学、保健科学、後期課程は先端技術である。一方、前期課程では口腔科学、後期課程では医科学、保健科学の学生は一年に1回以下とほとんど利用しない学生の割合が約半分を占めている。(図6-5-1、図6-5-2)。

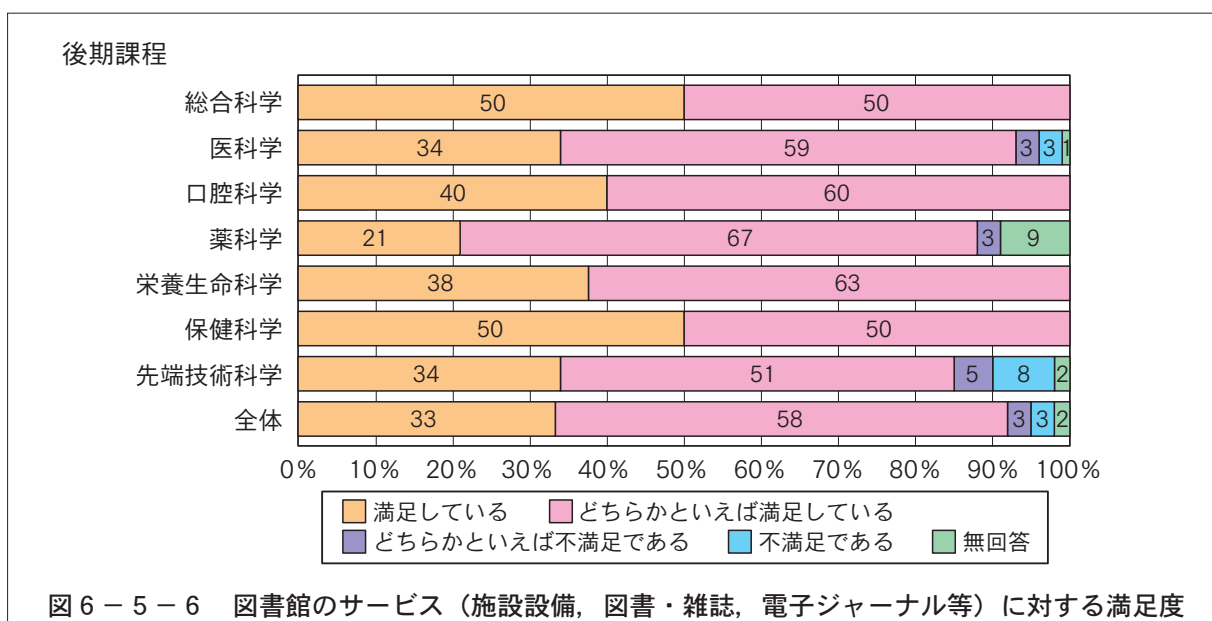
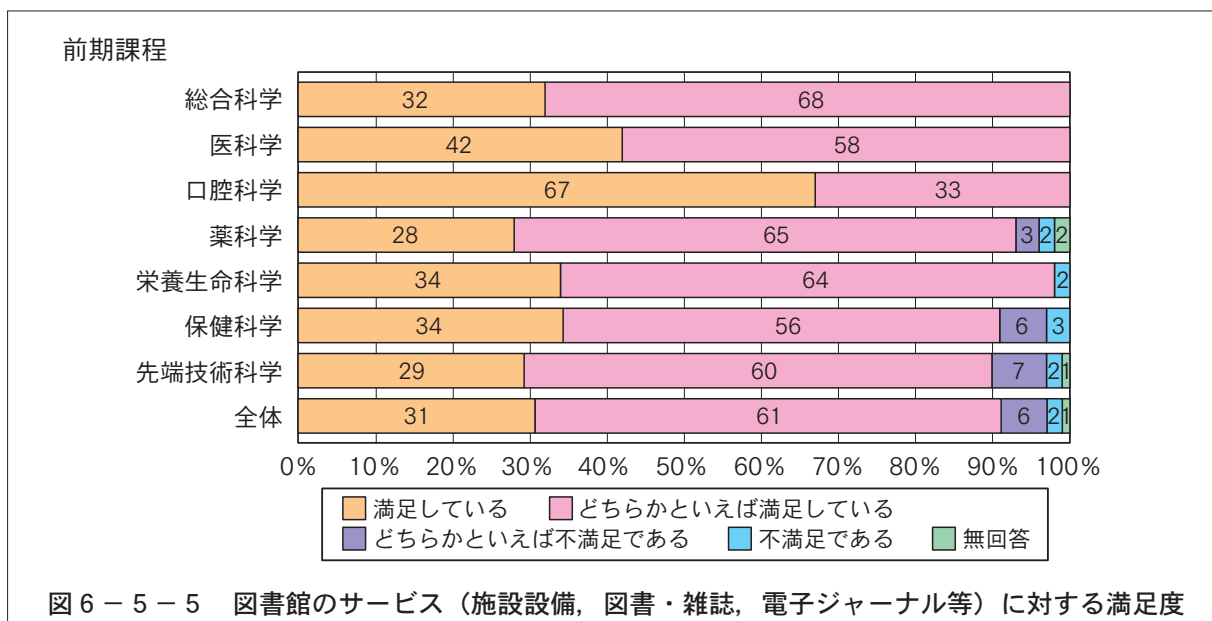


電子ジャーナルやデータベース等利用についての質問では1週間に1回以上利用する学生が、前期課程で51%、後期課程で76%であり、電子ジャーナルやデータベース等の利用は研究活動を行う上で重要となっていることが理解できる(図6-5-3、図6-5-4)。

また、図書館のサービスに対する満足度も前期課程で92%、後期課程で91%の学生がある程度満足し



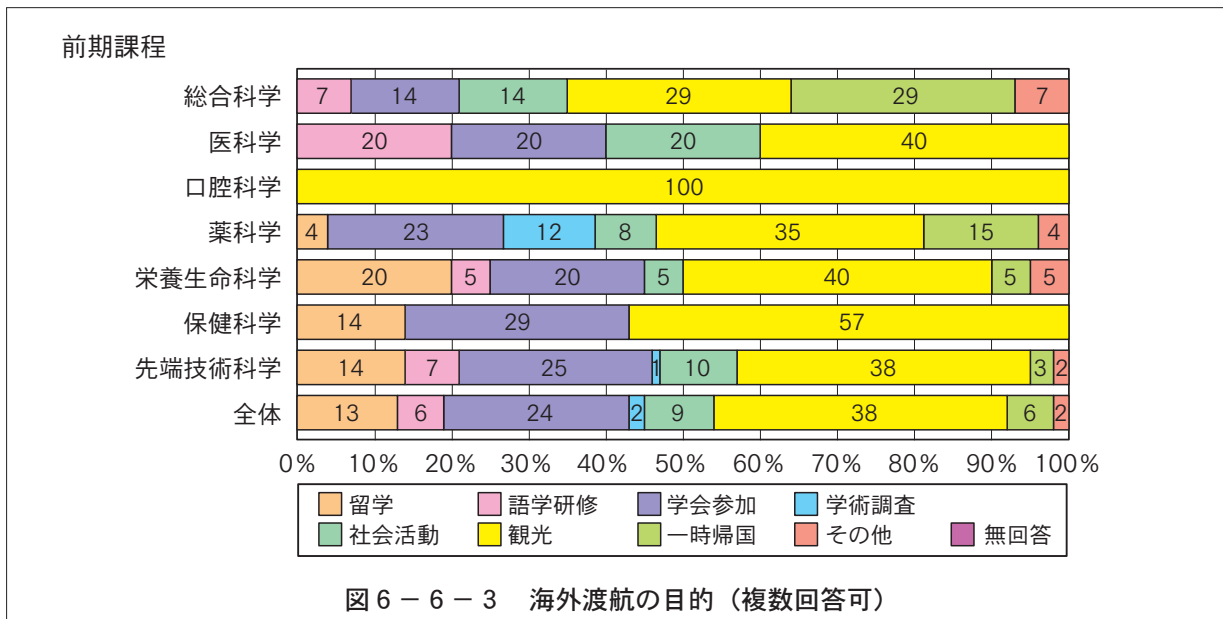
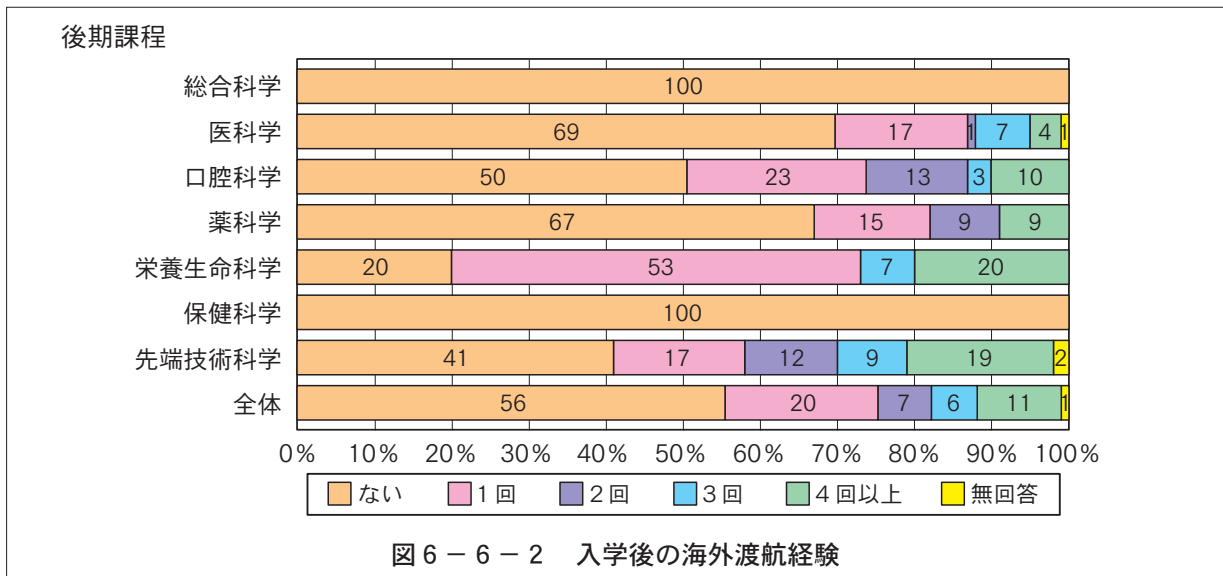
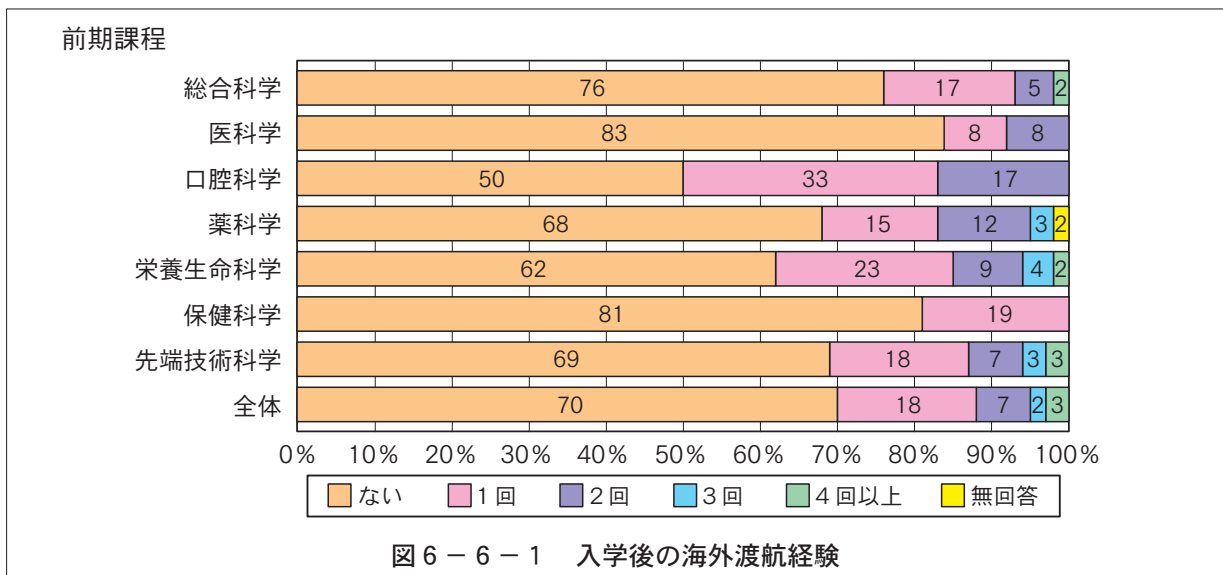
ており、図書館が提供するサービスとして学生からの評価も高い(図6-5-5, 図6-5-6)。インターネットを利用した文献検索は大学院生の日々の研究活動に必要不可欠のものとしてすでに定着しており、学生の自立的な研究活動を支援するためにも、インターネットで閲覧可能な学術雑誌の維持や、閲覧できるデータベースの年限の拡張、とさらなる拡充を含めた図書館ウェブサイトの継続的な整備が望まれる。また、学生が快適にウェブサイト検索を行えるためのハード面、ソフト面での充実も必要であろう。なお、留学生を対象としたアンケート調査結果でも電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度や図書館のサービスに対する満足度についても日本人学生とほぼ同様の回答が得られており、日本人学生と留学生の図書館利用に関する利用状況や整備ニーズに大きな差異はないと考えられる。



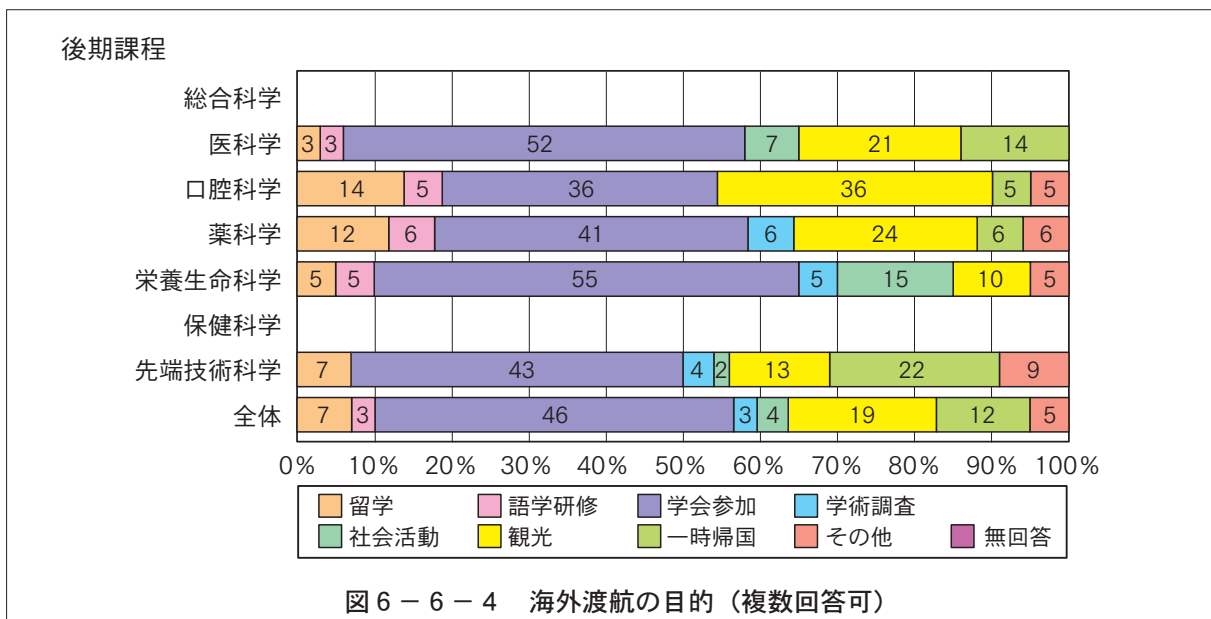
## 6-6 海外渡航の経験と英会話 (図 6-6-1 ~ 6-6-10)

入学後の海外渡航経験については、前期課程全体で70%の学生が「ない」と答えている。さらに、海外渡航経験のある学生でも1回の学生が18%である(図 6-6-1)。これは第4回調査(平成24年度)、第5回調査(平成26年度)の数値がそれぞれ70%、19%及び74%、17%であり、渡航歴が増加しているとはいえない状況である。一方、後期課程の学生では「ない」と答えた学生は全体で56%となっており、半数近くの学生が1回以上、海外渡航経験を有することがわかる(図 6-6-2)。また、栄養生命科学、先端技術は渡航歴のない学生の割合が半分以下であることがわかる。

海外渡航の目的についての回答では前期課程では観光目的38%、次いで学会参加が24%、留学が13%である。これに対して、後期課程学生では全体の46%が学会活動、19%が観光、7%が留学と回答している(図 6-6-3, 図 6-6-4)。国際学会での発表など海外の学会参加を大学院の早い時期に経験することは研究意欲を高めるだけでなく、国際的に活動できる人材を育成する上で重要である。その意味でこれまでの調査でも減少した前期課程学生の学会参加を目的とした海外渡航の割合が、依然と



して減少したままになっていることは、その原因についてきちんと検討する必要がある。経済変化など社会的要因も影響していると考えられるが、特に前期課程学生が学会参加を目的とした海外渡航を支援

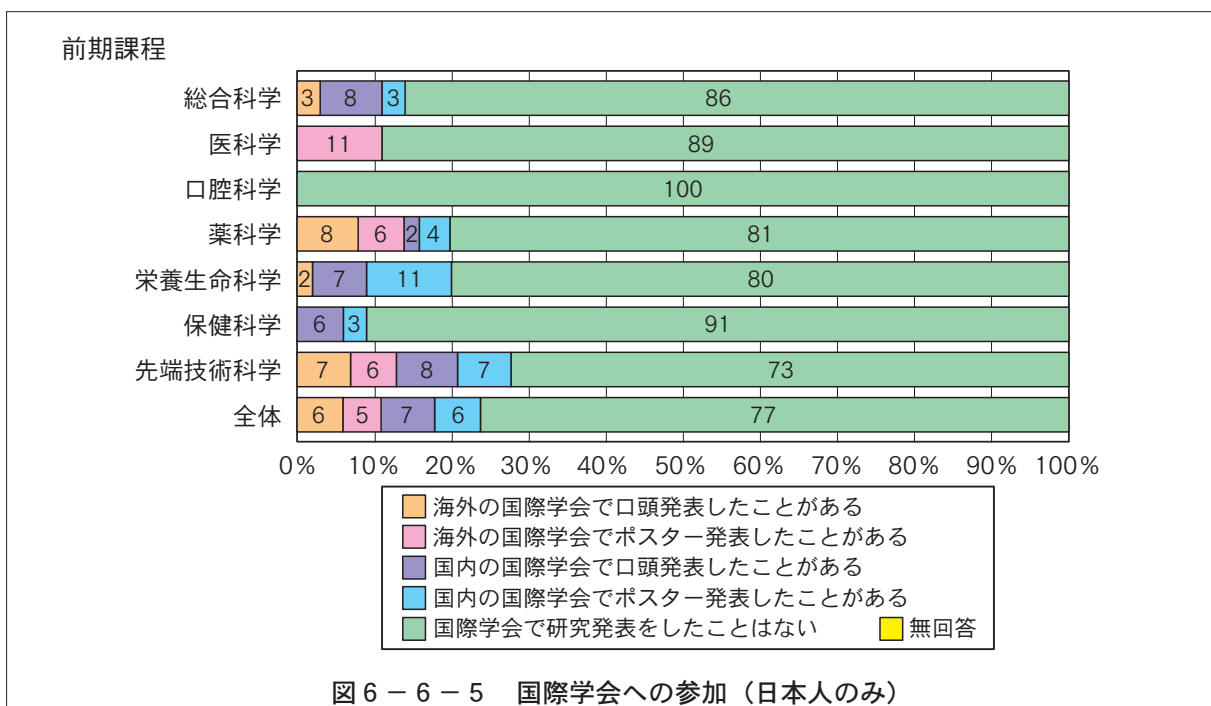


するシステムを検討する必要がある。

国内外での国際会議での発表経験を問う質問では前期課程では全体の77%，後期課程でも全体の59%が「国際学会で研究発表をしたことがない」と答えている（図6-6-5，図6-6-6）。これは第5調査と比べて，前期課程で5%，後期課程で13%もの増加であり，ともに国際学会への参加が低調となってきたことを示している。国際的に通用する有能な人材を育成するため，特に後期課程の学生においては国際学会への発表を支援する方策も必要であろう。

英会話能力に関する質問では前期課程では全体でも66%の学生が「できない」か「あまりできない」と答えている（図6-6-7）。後期課程でも全体で55%の学生が「できない」か「あまりできない」（図6-6-8）であり，第5回調査とあまり変化しておらず，依然として本学の日本人学生が英会話を苦手としていることが窺い知れる。

一方，英会話についての学習状況は前期・後期課程学生とも「何もしていない」という学生がそれぞれ42%，47%であり，多数の学生は語学修得に努力をしていないことがわかる（図6-6-9，図6-



後期課程

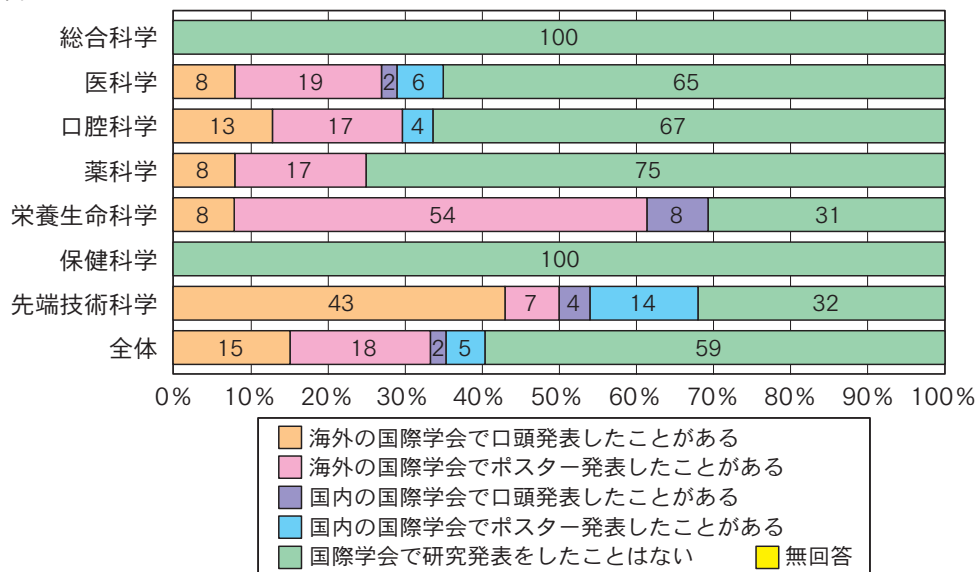


図 6 - 6 - 6 国際学会への参加（日本人のみ）

前期課程

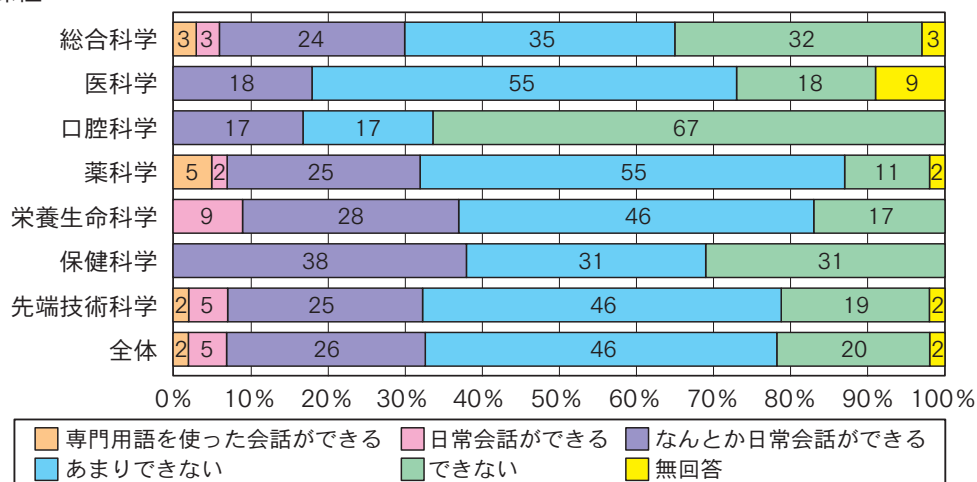


図 6 - 6 - 7 英会話（日本人のみ）

後期課程

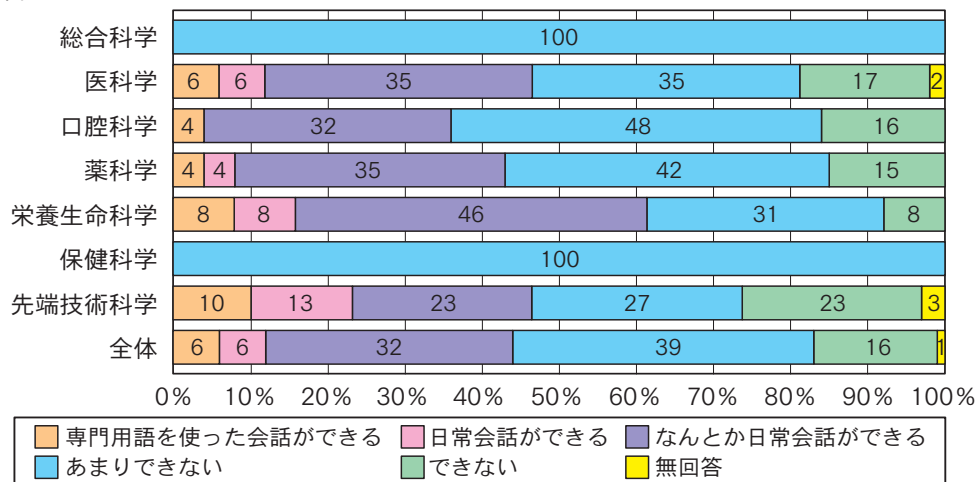
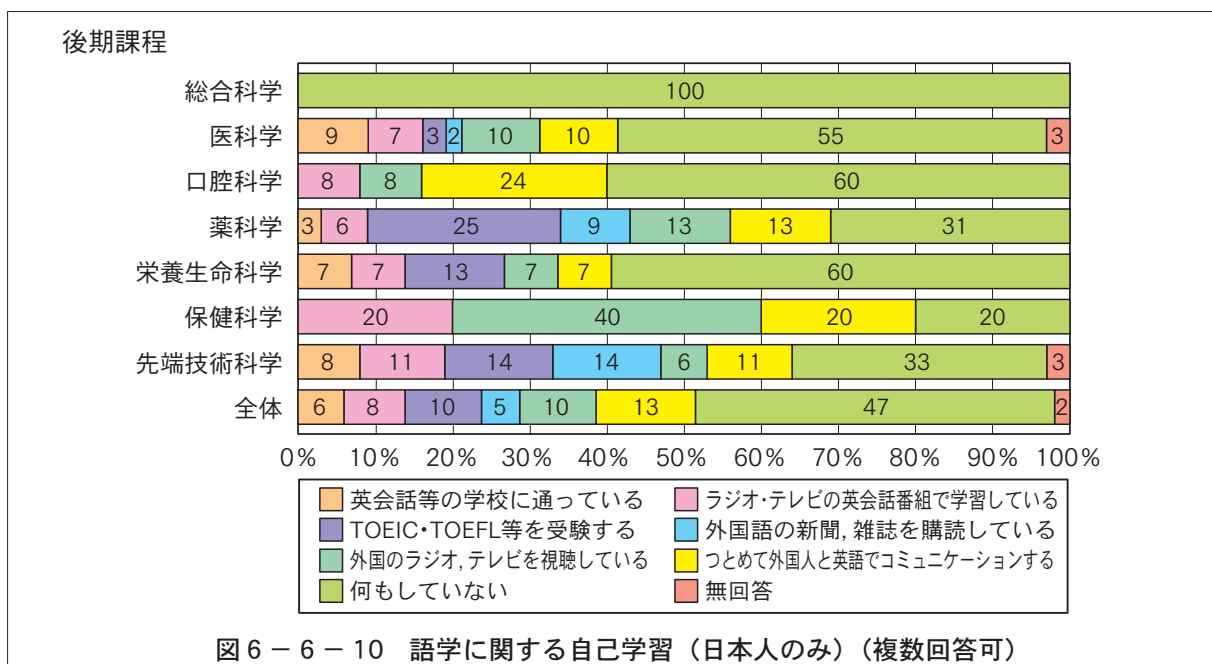
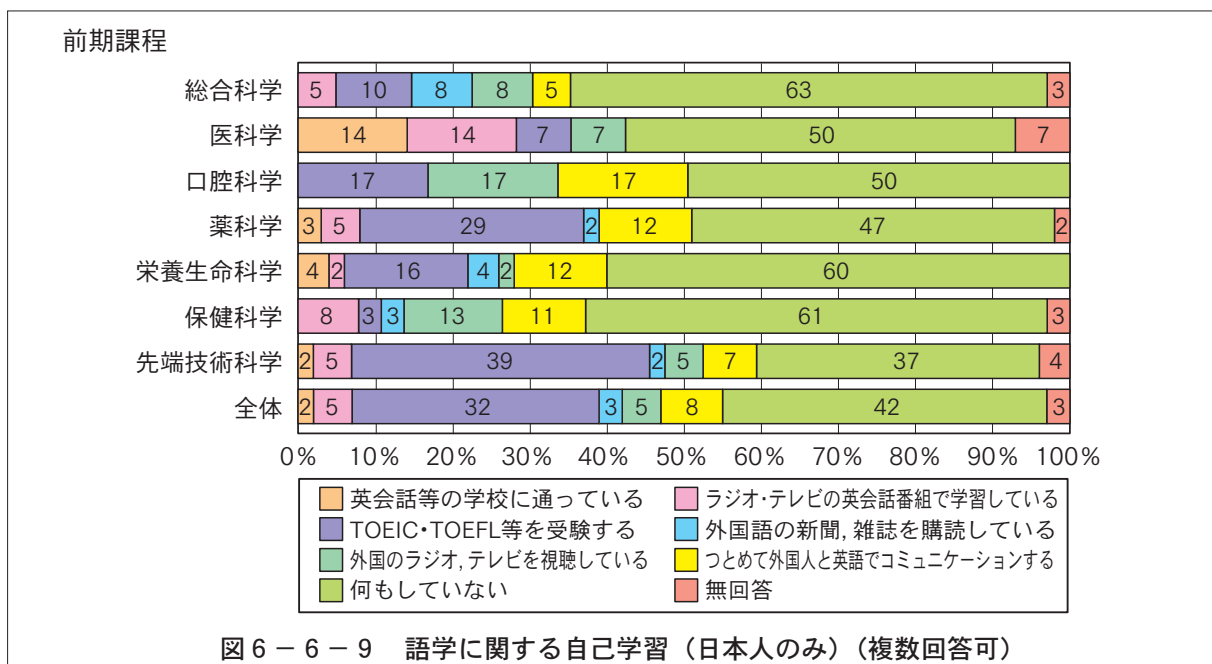


図 6 - 6 - 8 英会話（日本人のみ）

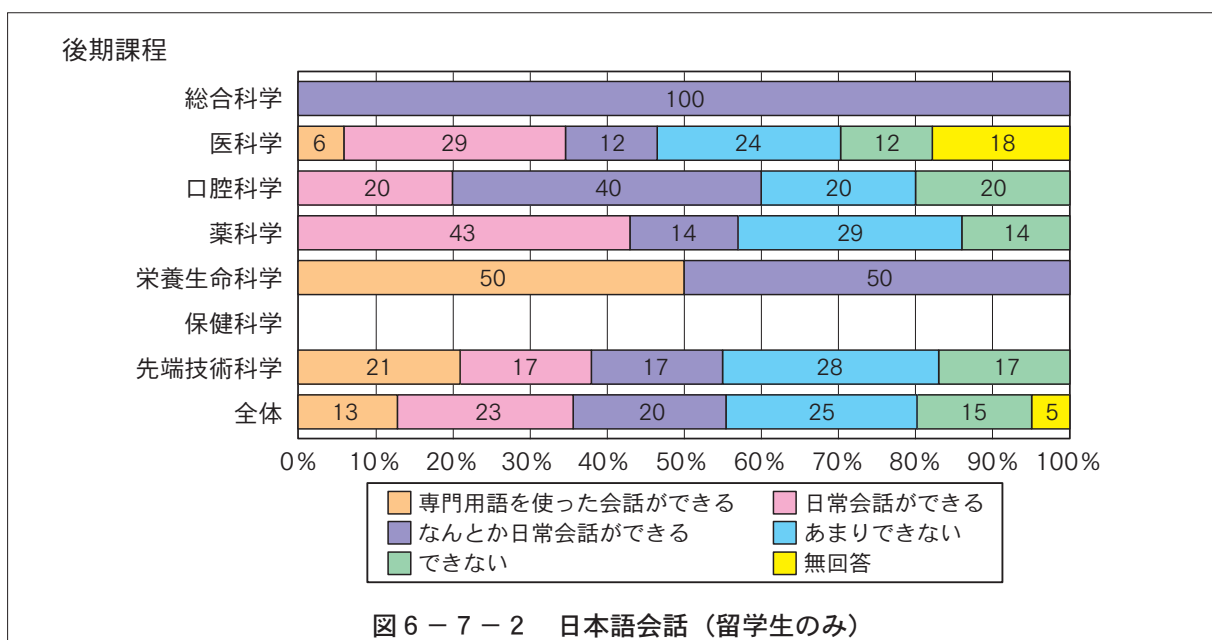
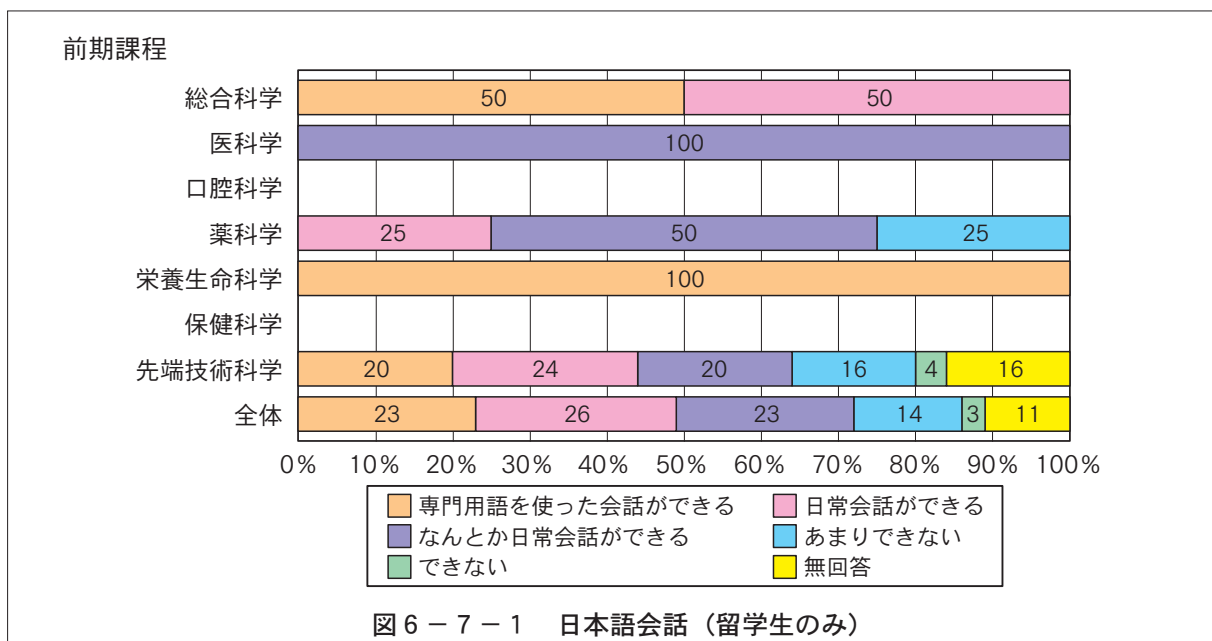




6-10)。語学の学習内容としては前期課程ではTOEICやTOEFLの受験が中心であり、実際に外国人と触れ合わないで学習するケースがほとんどである。一方、後期課程では外国人とのコミュニケーション、ラジオ・テレビの英会話番組、外国のラジオ・テレビの視聴、英会話学校の通学など多様な方法で学習を行っていることがわかる。語学の学習努力を行っていない学生を減らすためには、国際学会への参加を義務化するなどの、きっかけづくりを含め、英語による教育カリキュラムの整備、大学院生が個人的に語学学習しやすくするための経済的援助、学内の留学生との交流など多面的な対策を検討する必要がある。

## 6-7 日本語会話 (図 6-7-1 ~ 6-7-6)

前期課程では72%の留学生、後期課程では56%が「なんとか日常会話ができる」以上の回答となっている(図6-7-1, 図6-7-2)。なお、前期課程の回答者は35名で、その内25名は先端技術科



学であり、各教育部別のデータの分析は不能である。今後の国際化の発展に伴って、留学生自身の日本語習得にたよることなく、事務手続き等、英語によって学生のサポートを可能とする体制の整備が必須である。

前期課程では78%、後期課程では84%の留学生が日本語コースを「受講している」あるいは「以前受講したことがある」、「今後受講する予定である」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる（図6-7-3、図6-7-4）。

また、日本語コースの満足度については前期課程、後期課程ともに100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、受講生の評価が高いことがわかる（図6-7-5、図6-7-6）。留学生の日本語学習において本学で開講されている「日本語コース」が重要な役割を果たしており、今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。

前期課程

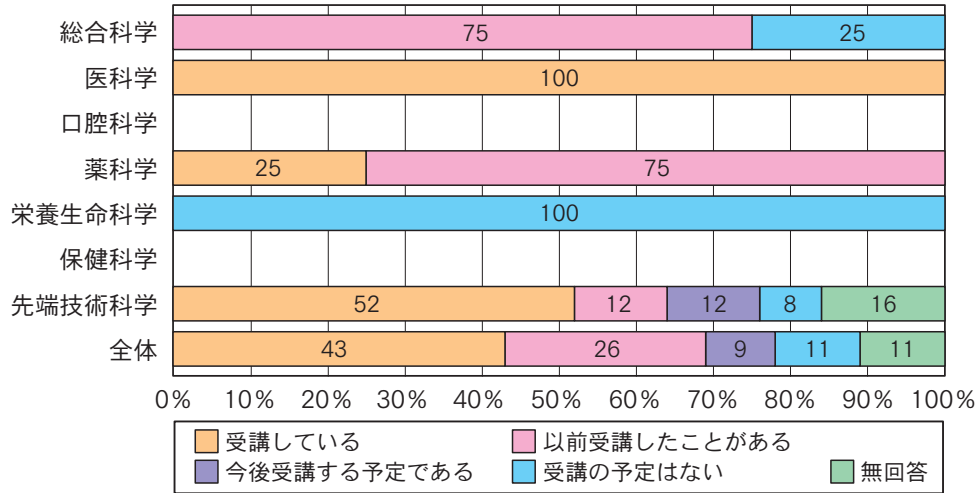


図 6-7-3 日本語コースの受講（留学生のみ）

後期課程

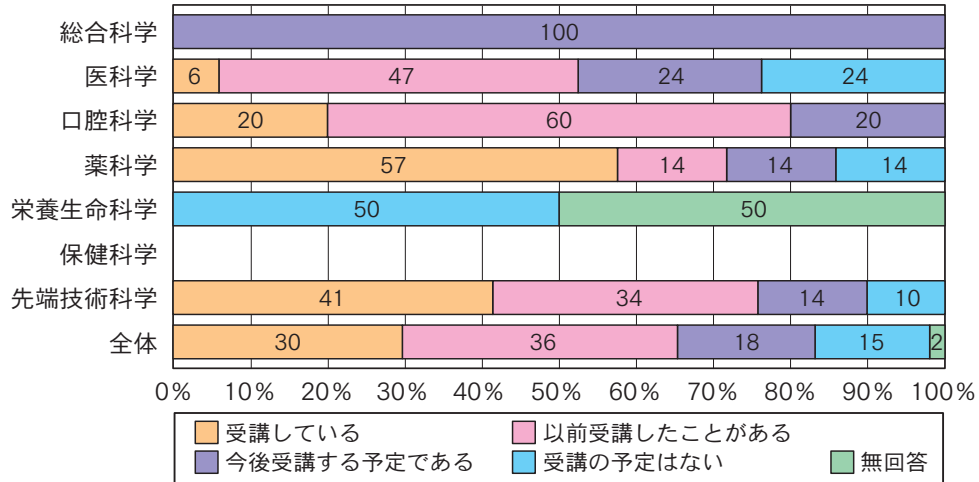


図 6-7-4 日本語コースの受講（留学生のみ）

前期課程

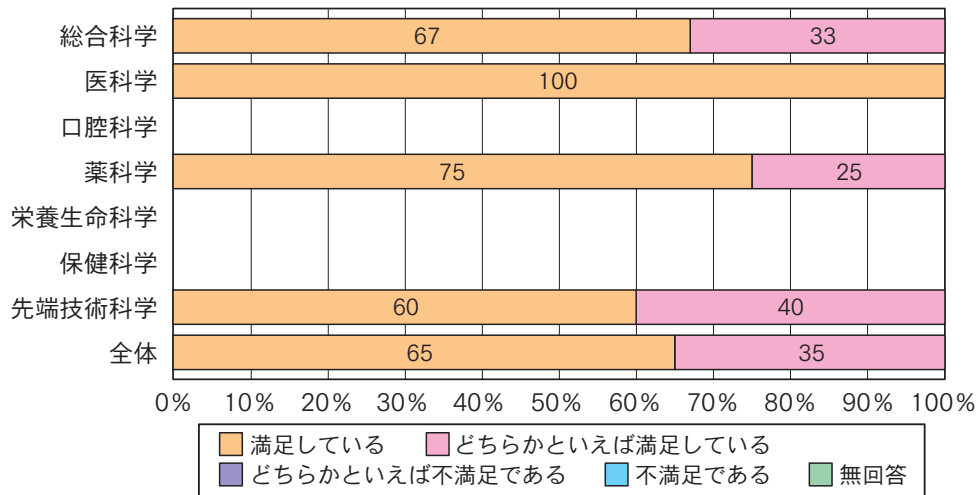
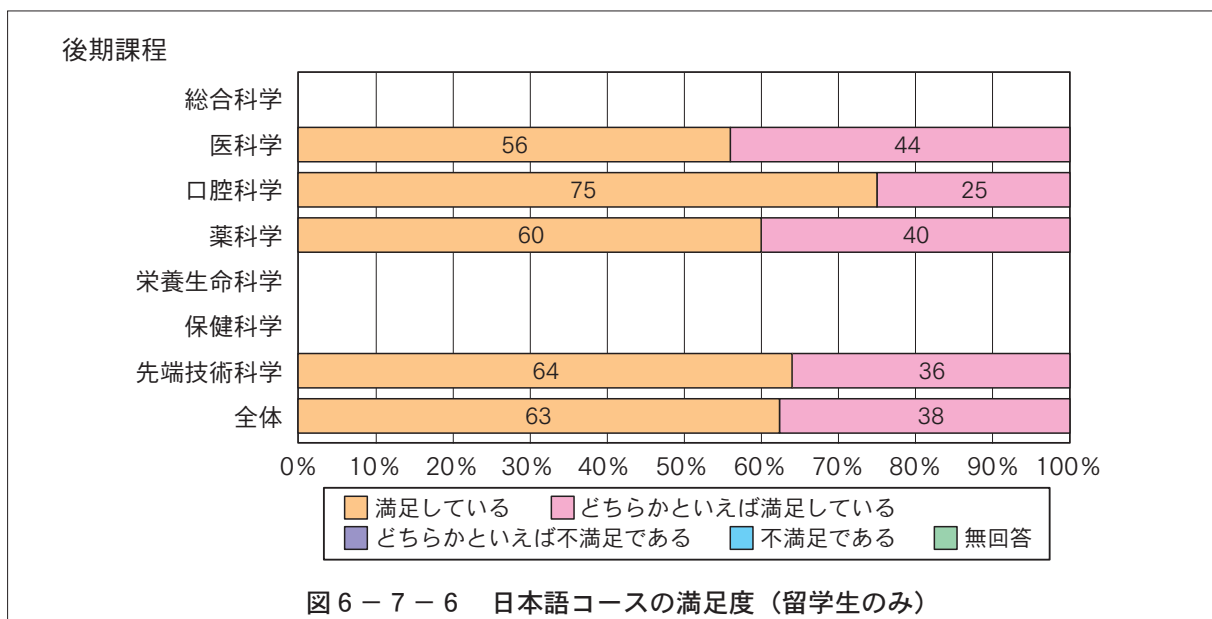


図 6-7-5 日本語コースの満足度（留学生のみ）

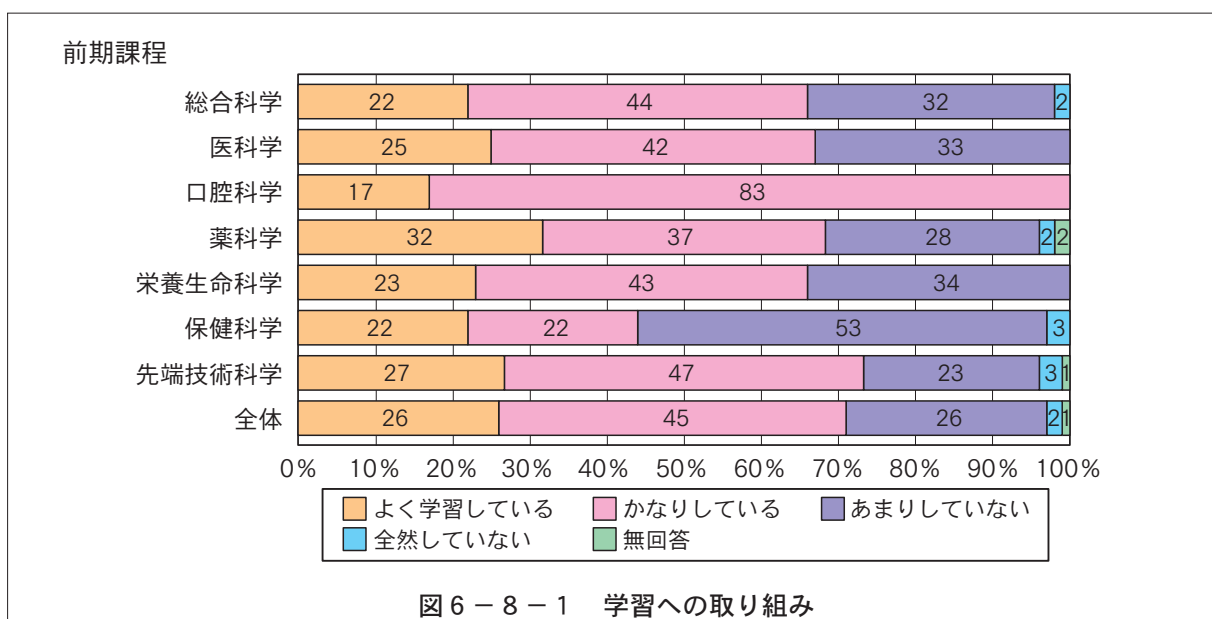


### 6-8 学習への取組みと本学の教育への期待 (図 6-8-1~6-8-8)

大学院での学習への取組み状況についての質問に対して、「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した学生は前期課程全体で71%，後期課程全体75%である(図6-8-1, 図6-8-2)。これは第5回調査の62%および79%に比べると前期課程では増加して、後期課程では減少している。教育部別では前期課程の口腔科学の学生のほとんどがよく学習していると答えているのに対して、前期課程の保健科学では50%を超える学生が「あまりしていない」、「全然していない」と回答しており、学習意欲がやや低いことが案じられる。

一方、留学生は、前期課程、後期課程ともに94%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており、学生全体の数値に比べて大きく上回っており、一般学生の学習意欲を高めるための取組みが急務と言える(図6-8-3, 図6-8-4)。

「あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか」として、6種類の選択肢を選んでもらった設問では前期課程、後期課程ともほぼ均等に意見が分かれた。これは第5回調査でも同じ結果が得られて



後期課程

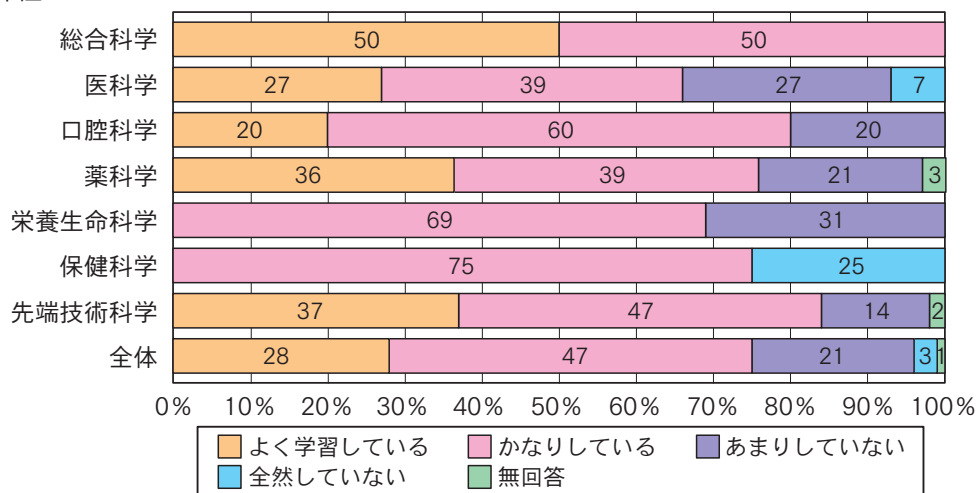


図 6 - 8 - 2 学習への取り組み

前期課程

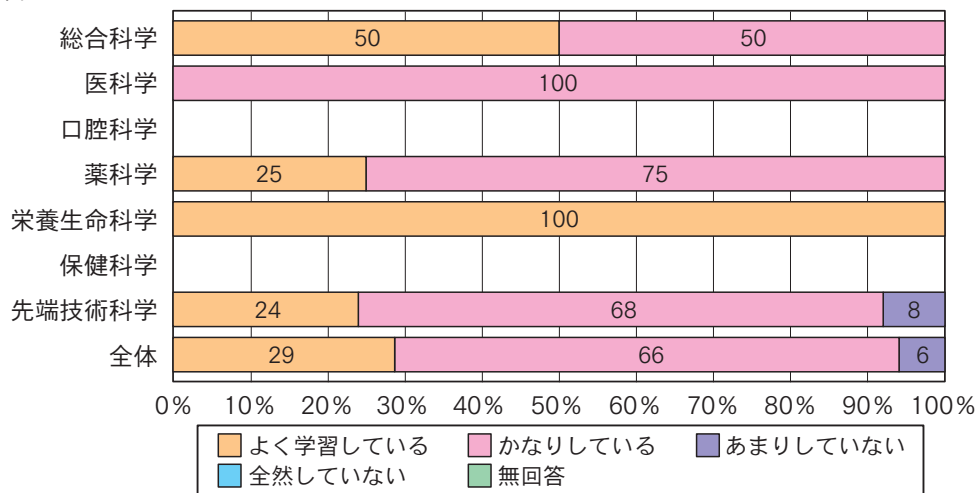


図 6 - 8 - 3 学習への取り組み (留学生のみ)

後期課程

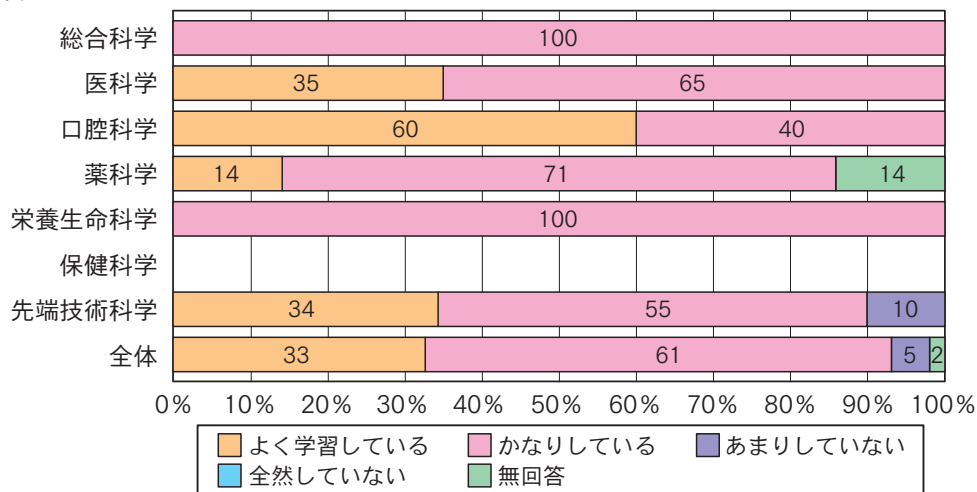
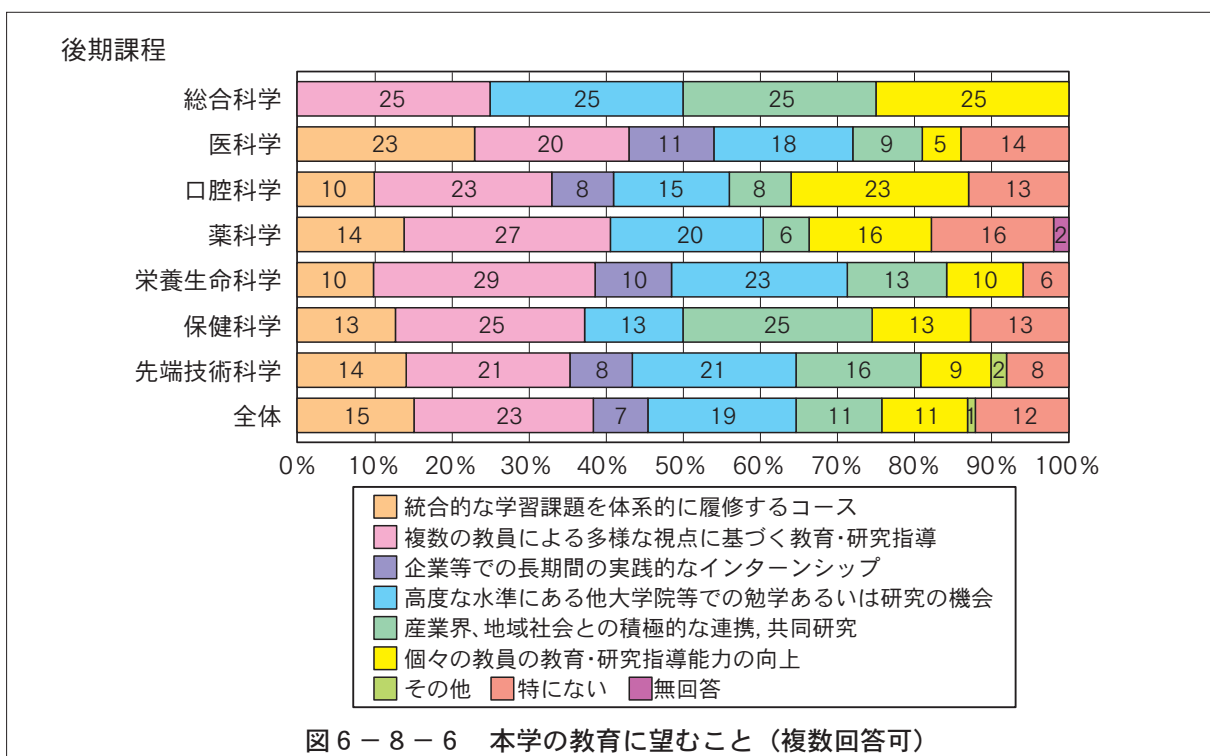
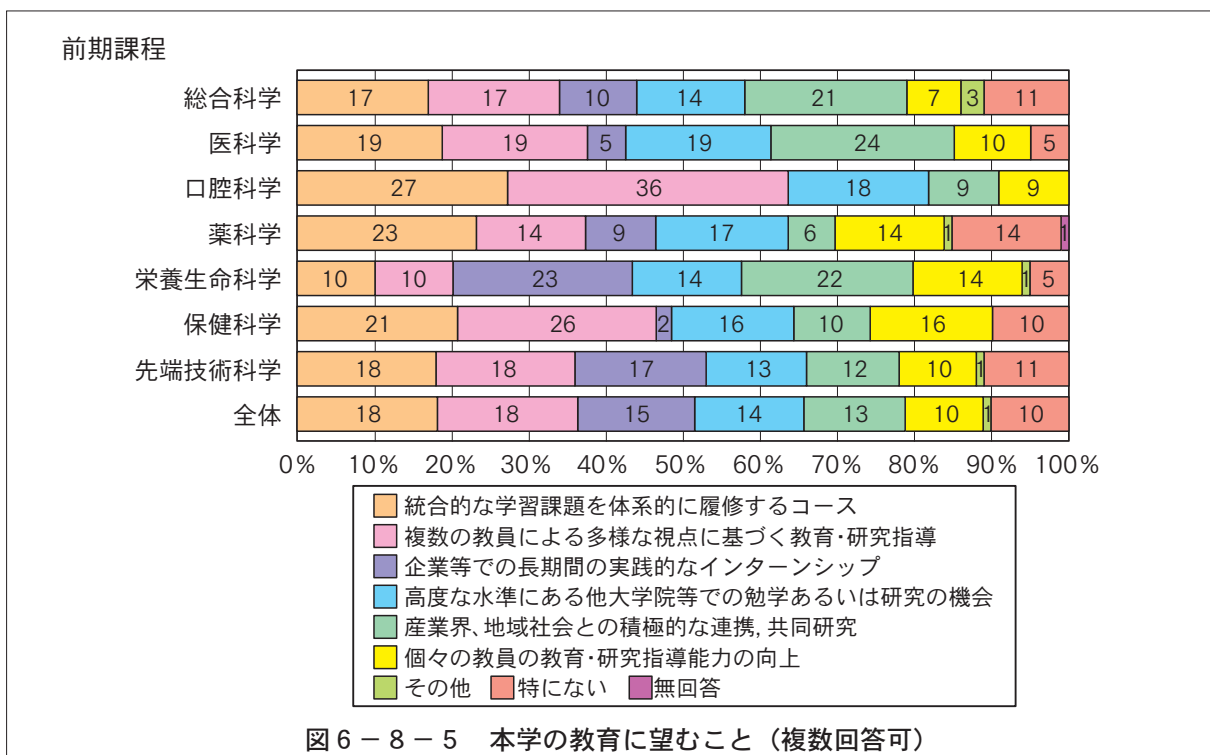


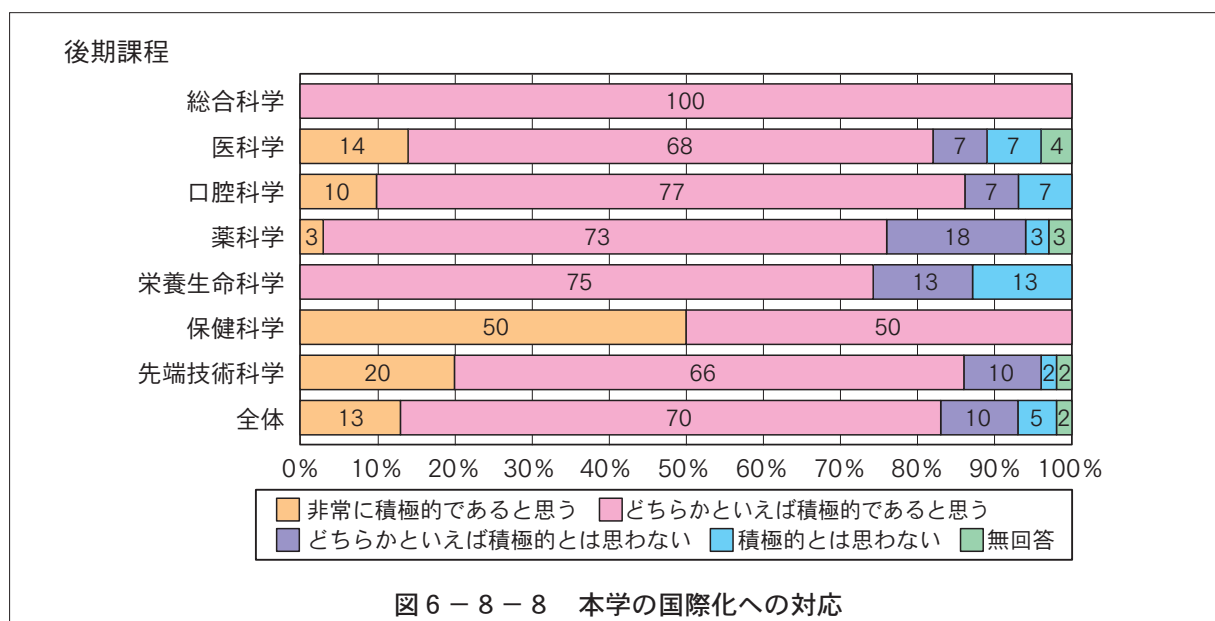
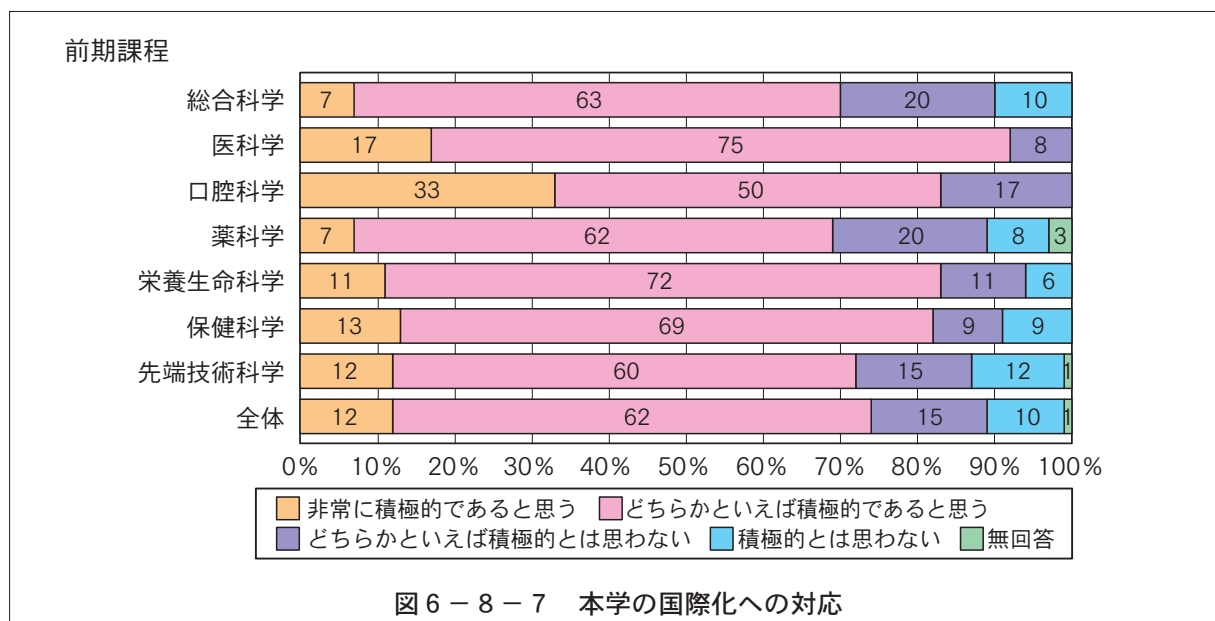
図 6 - 8 - 4 学習への取り組み (留学生のみ)



おり、選択肢の内容から学生ごとにニーズが異なると考えられ、学生毎のきめ細かい対応を図る必要があると考えられる（図 6-8-5、図 6-8-6）。

本学の国際化への対応については、前期課程の 74%、後期課程の 84%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と回答しており、本学の国際化を進めるための取組みについてある程度大学院生は評価している（図 6-8-7、図 6-8-8）。また、留学生に注目した場合には前期課程の 85%、後期課程の 94%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えている。こうした結果は第 5 回調査とほぼ同じであり、本学が行っている国際化への対応は大学院生にある程度浸透していると考えられる。一方、学生側は英会話習得に向けての学習努力や国際

学会における発表経験など、大学側に比べて十分な対応がなされているとは言い難い。さらに、各教育部において、教育カリキュラムの組織的展開を強化し、国際的に通用する質の高い大学院教育の提供を目指さなければならない。大学院生の大学の国際化への対応の評価が直接大学生自身の努力や学会経験につながるよう、さらなる改善が必要である。

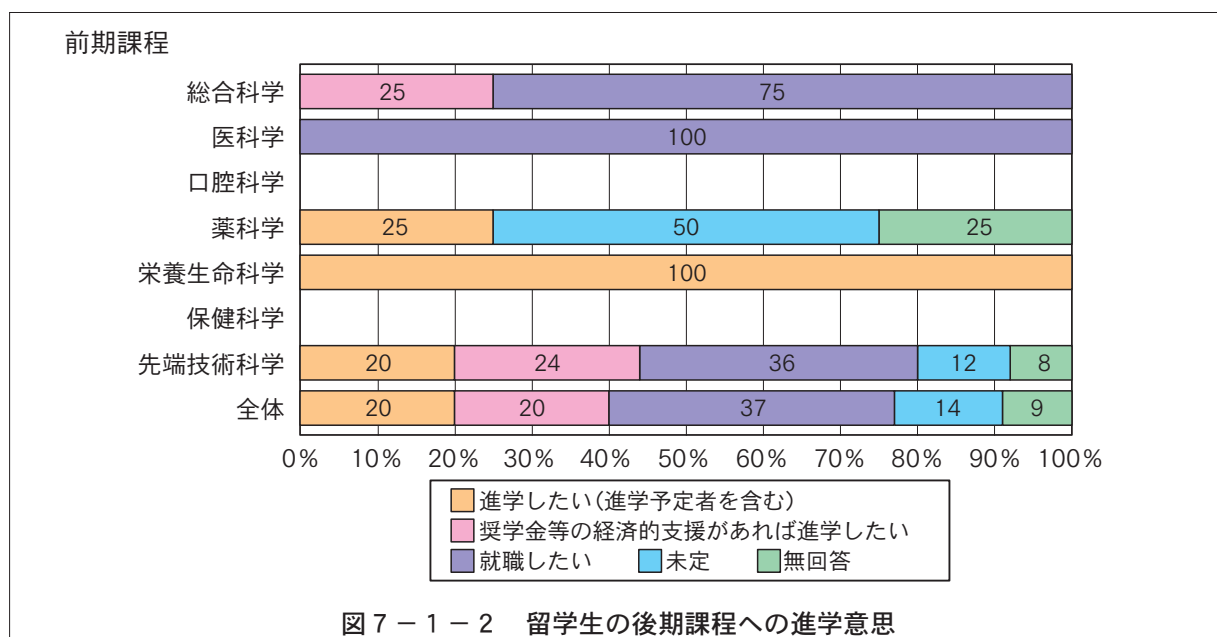
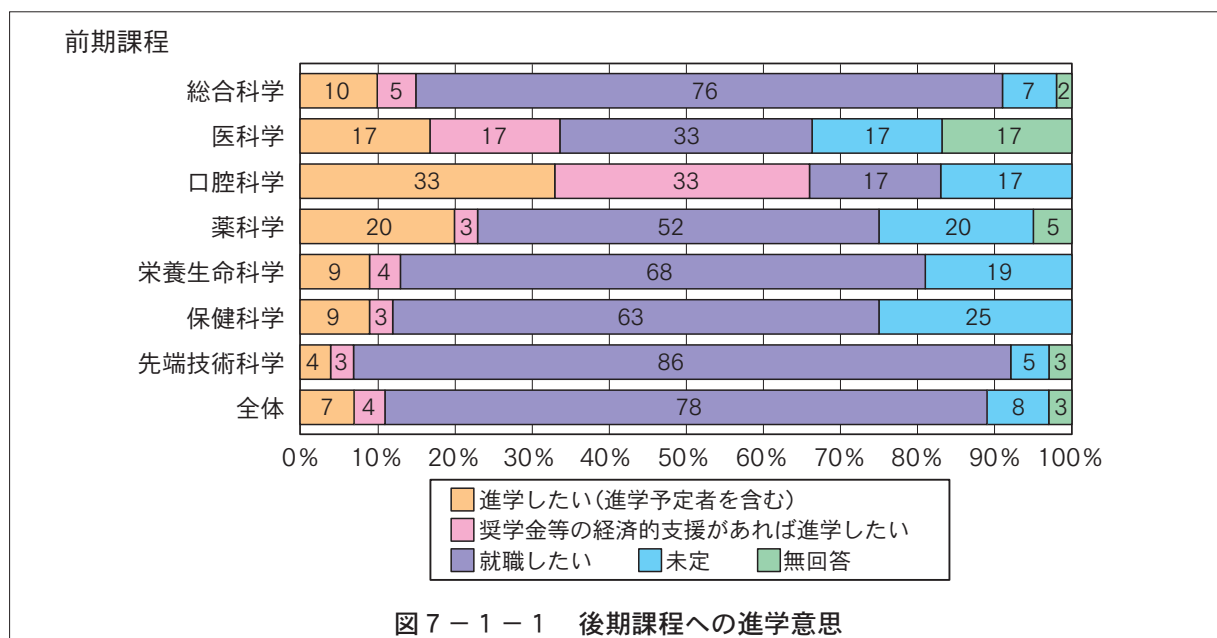


## 第7章 進路選択・就職について

### 7-1 後期課程への進学意思 (図7-1-1, 図7-1-2)

前期課程学生の後期課程への進学意思は全般的に高いとは言えない。口腔科学が質問項目 No.74 に対する「進学したい」との回答では最も高く 33%強に達している。次いで、薬科学で 20%であった。しかしながら「経済的支援があれば進学したい」との回答と併せると口腔科学では 66%, 医科学で 34%, 薬科学で 23%, 総合科学で 15%に達するので、経済的な問題が解決されれば進学を考える前期課程の学生は決して少なくないと考えるのが妥当である。

また先端技術科学の 86%をはじめ、総合科学・栄養生命科学・保健科学等の各教育部はいずれも 60～80%が「就職したい」と回答しており、全体での割合は 78%に及んでおり多くの学生の考える自身のキャリア展開に関する意識が伺われる。第5回調査時と比較すると、全体的な傾向に大差は見られな





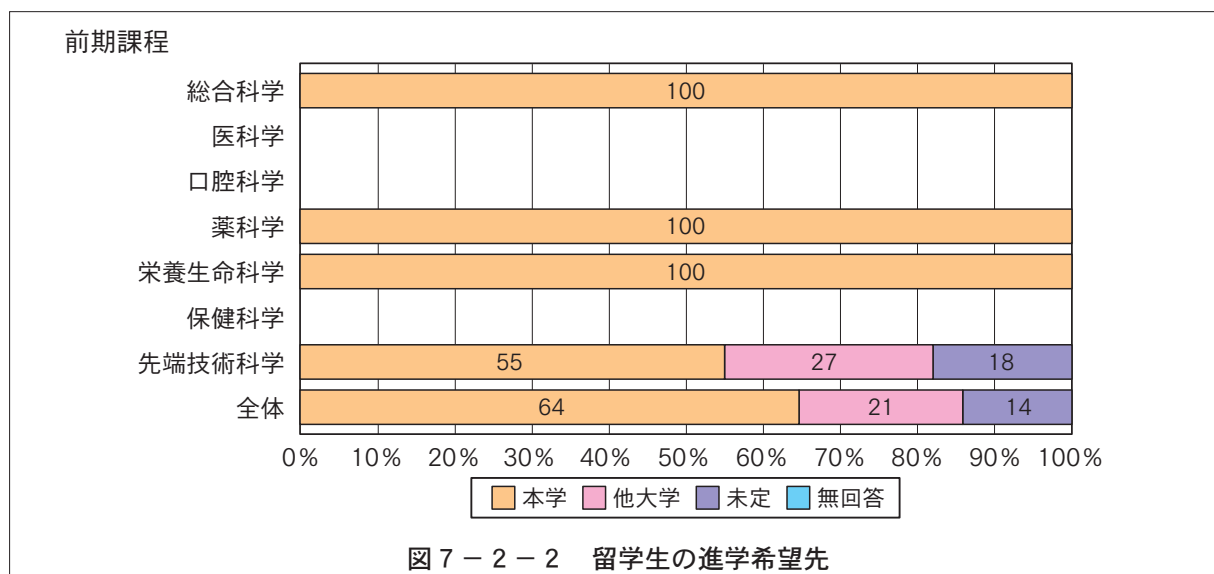
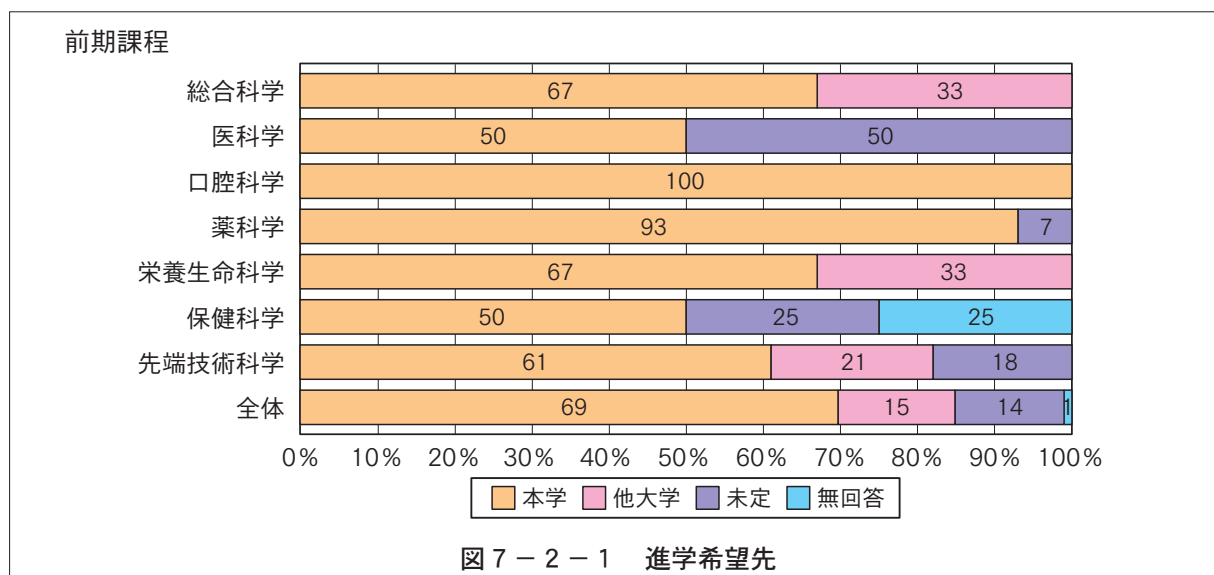
いため学生の進学意識に関しては一般的に変化はないことが想像される。項目7-3で後述するが、先端技術科学の前期課程院生の大半は企業等の技術職や研究職を目指していることから、就職希望者が圧倒的に多い傾向にある。

なお留学生の場合、全体として「進学したい」20%、「経済的支援があれば進学したい」20%であり、日本人学生に比べ進学意欲を持つ学生が多い。

## 7-2 進学希望先 (図7-2-1, 図7-2-2)

前項目で進学意思(「進学したい」「経済的支援があれば進学したい」)を示した学生(71名)の進学希望先大学院調査である。全体で69%が本学の、また15%が他大学の後期課程に進学することを希望している。口腔科学では、全員が本学の後期課程への進学を希望している。調査では未定の学生が若干目に付くところで全体では14%に登り、今後何らかの対策は必要かも知れない。

留学生の場合、64%が本学の、また21%が他大学の後期課程を希望している。



### 7-3 就職希望職種 (図7-3-1～図7-3-4)

図7-3-1は、項目7-1で「就職したい」「未定」と答えた前期課程の学生(584名)の就職希望職種である。前期課程の場合、前出の図7-1-1より分かるように、「就職したい」あるいは「未定」と答えた学生の比率は、高い順に先端技術科学(91%)・保健科学(88%)・栄養生命科学(87%)・総合科学(83%)・薬科学(72%)・医科学(50%)・口腔科学(34%)である。各教育部における主な希望職種は、それぞれ、先端技術科学：技術職60%(第5回調査時58%)、企業等の研究職22%(第5回調査時18%)、保健科学：専門職(医師等)43%(第5回調査時60%)、栄養生命科学：専門職(医師等)27%(第5回調査時19%)、企業等の研究職25%(第5回調査時19%)、総合科学：専門職(医師等)28%(第5回調査時19%)、公務員19%(第5回調査時15%)、技術職13%(第5回調査時12%)、事務職11%(第5回調査時15%)、薬科学：企業等の研究職39%(第5回調査時57%)、技術職22%(第5回調査時17%)、医科学：企業等の研究職17%(第5回調査時22%)、教育職17%(第5回調査時11%)、専門職(医師等)17%(第5回調査時0%)、口腔科学：企業等の研究職50%(第5回調査時33%)となっている。

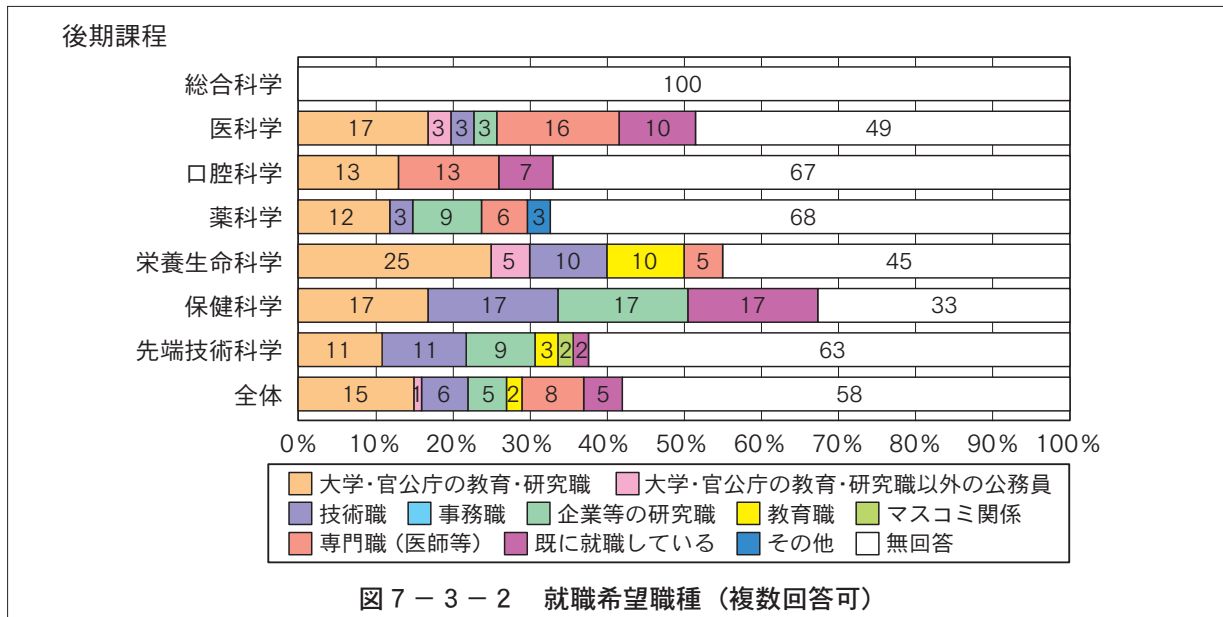
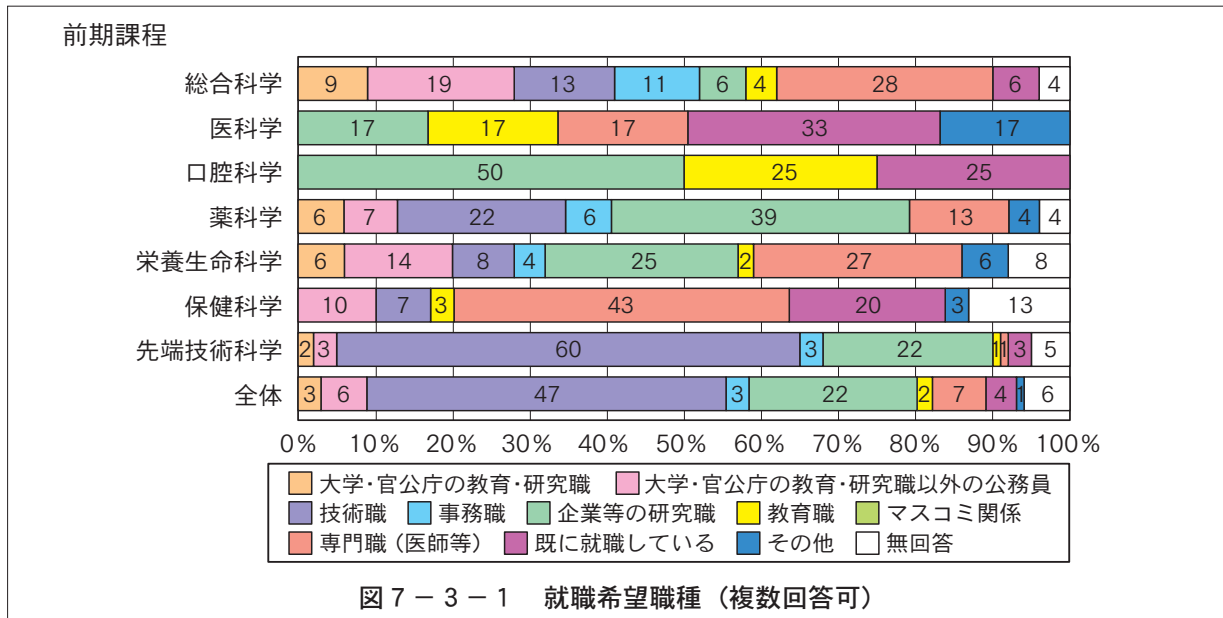
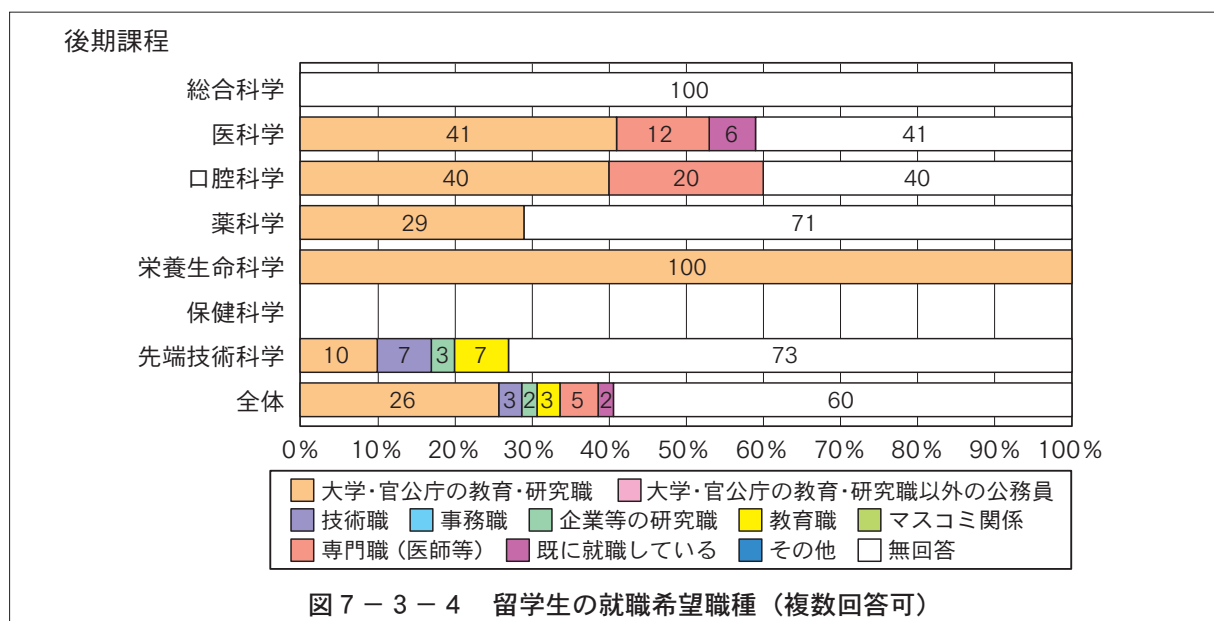
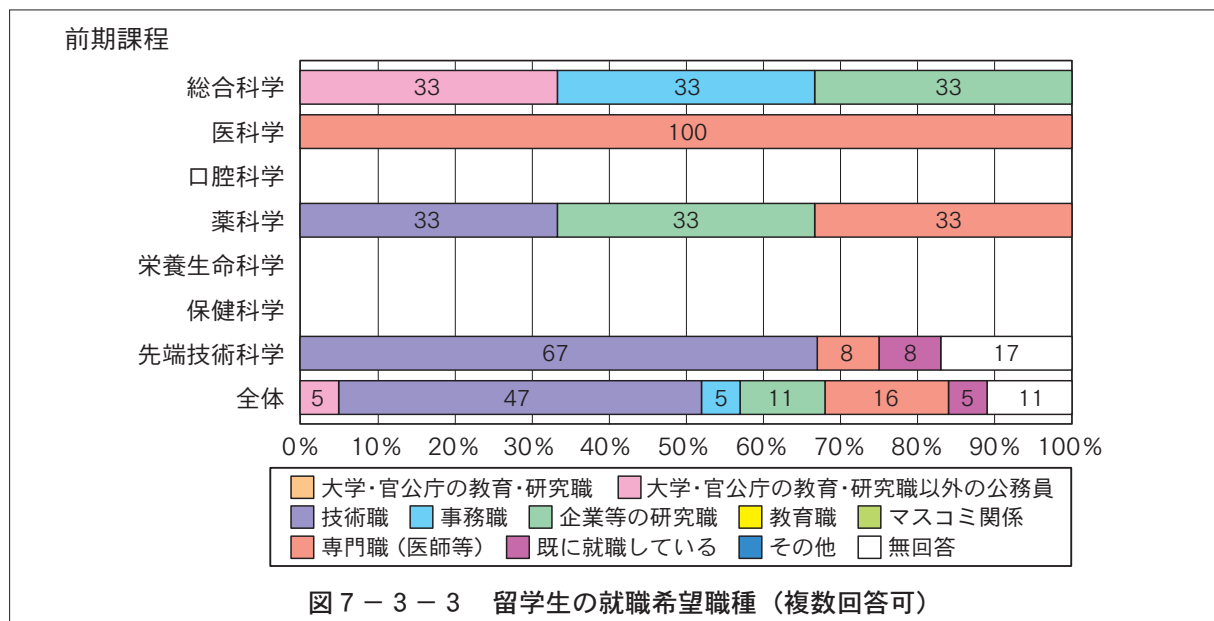


図7-3-2は後期課程の学生に就職希望職種を尋ねたものである。全回答者（215名）の57.5%が無回答であった。全体では、大学・官公庁の教育・研究職（15%）を希望しているものが比較的多いが、専門職（医師等）（8%）、技術職（6%）、企業等の研究職（5%）、教育職（2%）に分散している。

留学生に関しては、前期課程の回答者は19名（総合科学3名、医科学1名、薬科学3名、先端技術科学12名）であり、後期課程の回答者は62名（総合科学1名、医科学17名、口腔科学5名、薬科学7名、栄養生命科学2名、先端技術科学30名）である。前期課程では技術職47%が最も多く、専門職16%、企業等の研究職が11%、事務職5%、公務員5%と続いている。後期課程では無回答が60%を占めるが、26%が大学・官公庁の教育・研究職を志望している。



## 7-4 進路選択の要件 (図7-4-1～図7-4-4)

図7-4-1は前期課程の院生に進路選択で重視する要件を尋ねたもので3個以内の複数回答結果である。教育部全体では「就職先の将来性・安定性」が29%と最高であり、「収入」(24%)、「能力を發揮できること」(15%)、「勤務地の地理的条件」(13%)が続いている。全ての教育部においてほぼ同様の傾向が見られるが、医科学では「能力を發揮できること」(25%)が、また口腔科学でも「能力を發揮できること」(31%)が最も重視されているのが特徴的である。

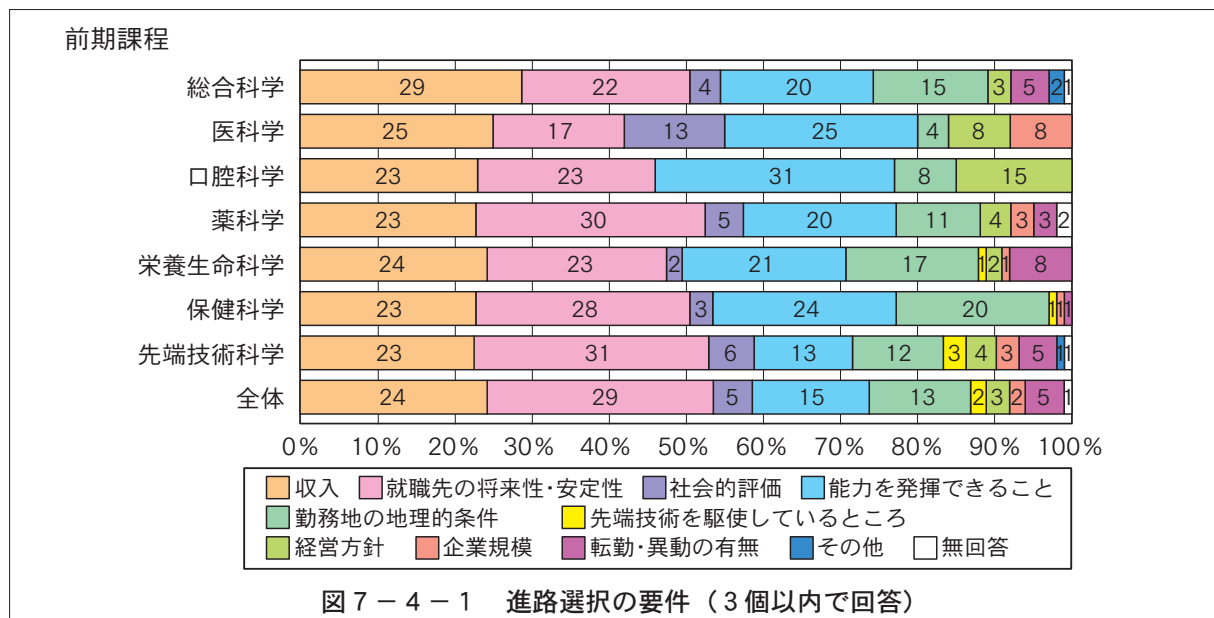
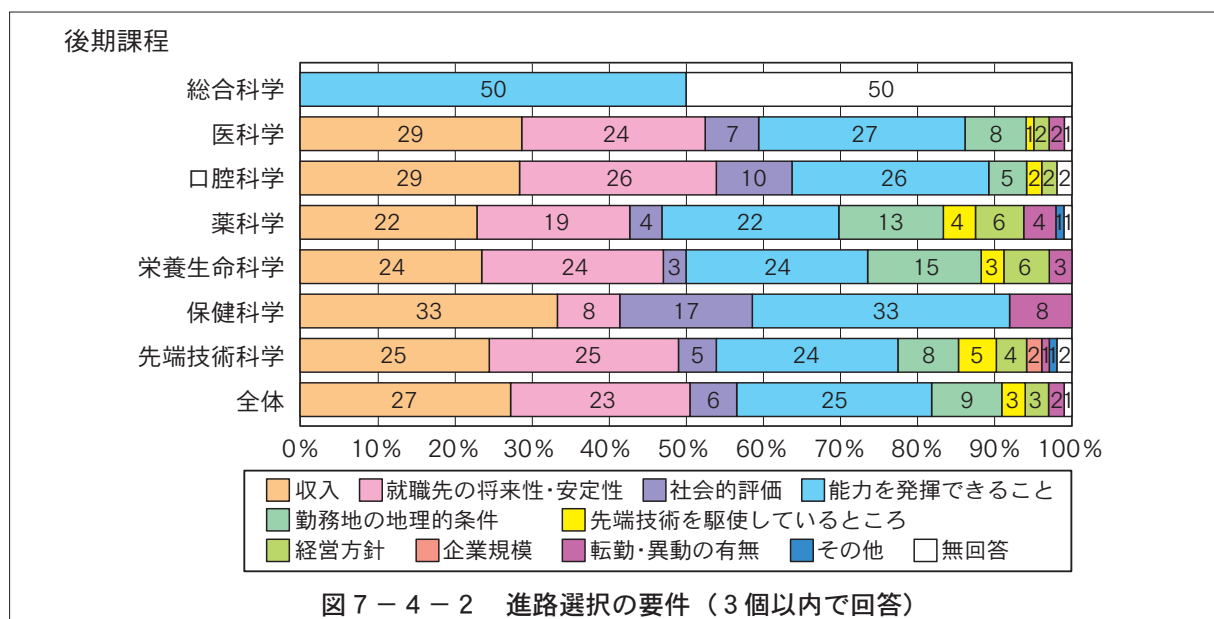


図7-4-2は後期課程の院生に進路選択で重視する要件を尋ねたものである(3個以内で回答)。全体的には「収入」(27%)、「能力を發揮できること」(25%)、「就職先の将来性・安定性」(23%)の3点が主要要件であり、「勤務地の地理的条件」(9%)、「社会的評価」(6%)等が続いている。

全体として、前期課程では「就職先の将来性・安定性」や「収入」が、また後期課程では「収入」や「能力を發揮できること」が主要要件である。留学生においては、前・後期課程とも「能力を發揮できること」、「収入」、「就職先の将来性・安定性」が主要要件となっている。



前期課程

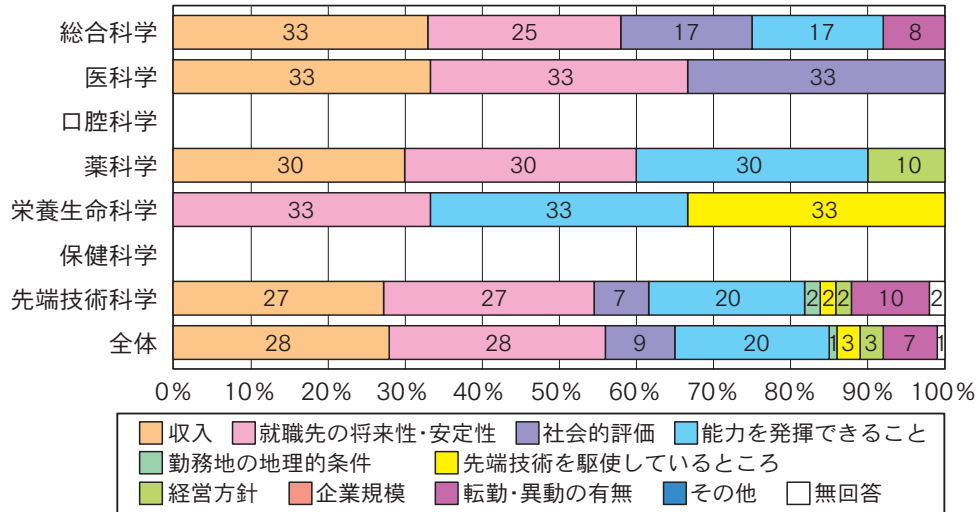


図 7-4-3 留学生の進路選択の要件 (3個以内で回答)

後期課程

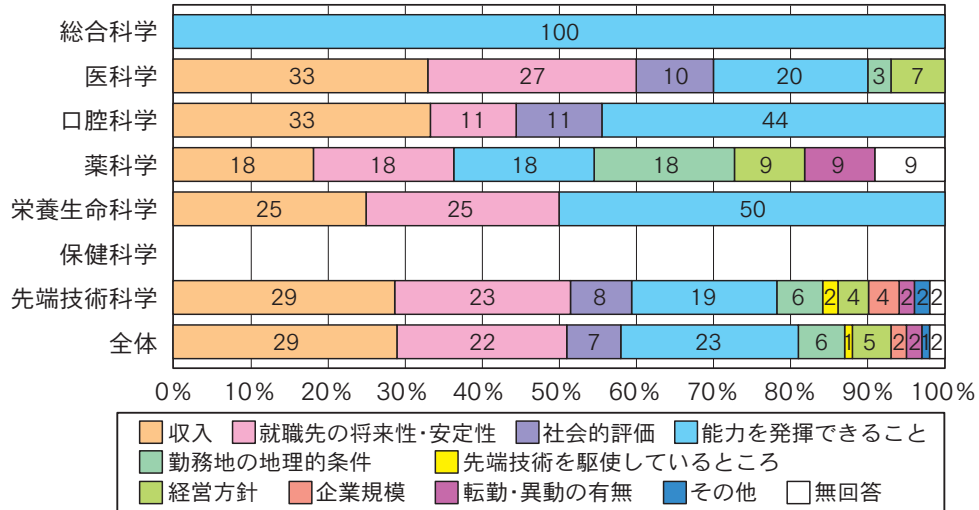
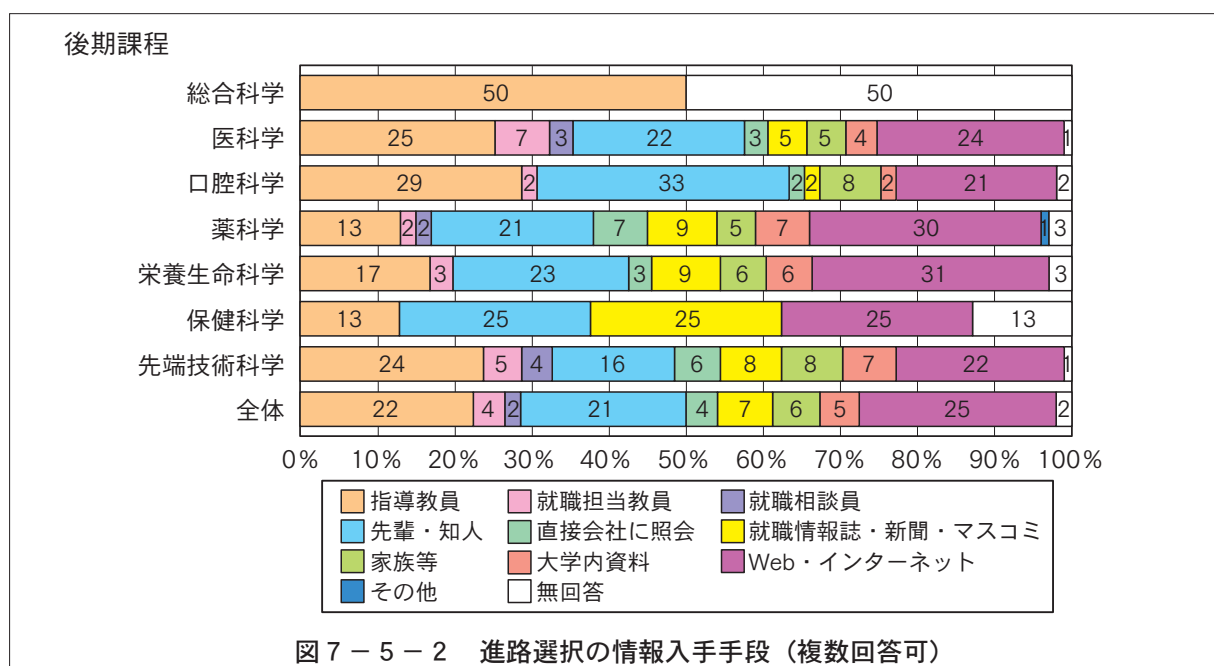
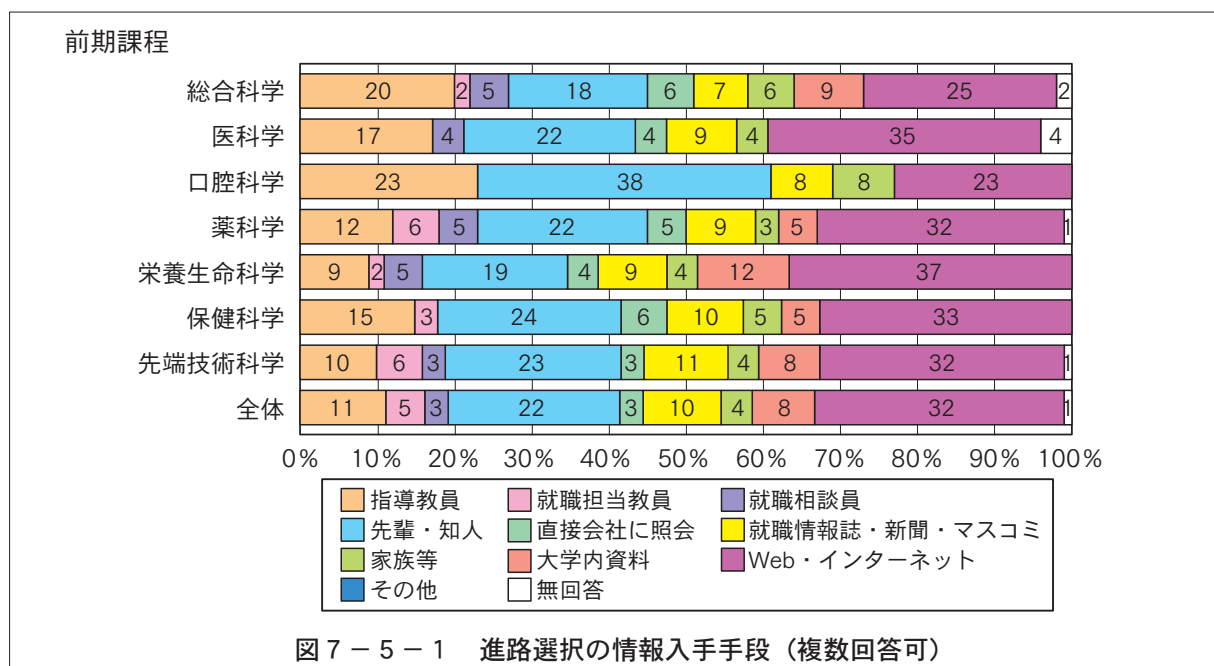


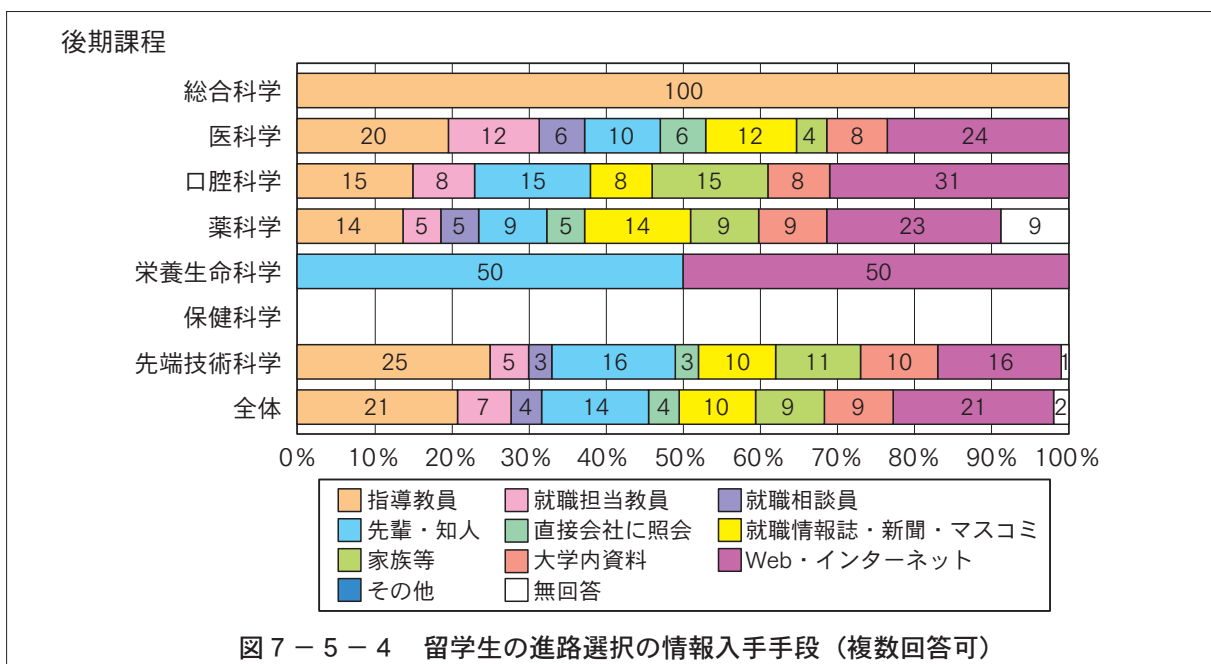
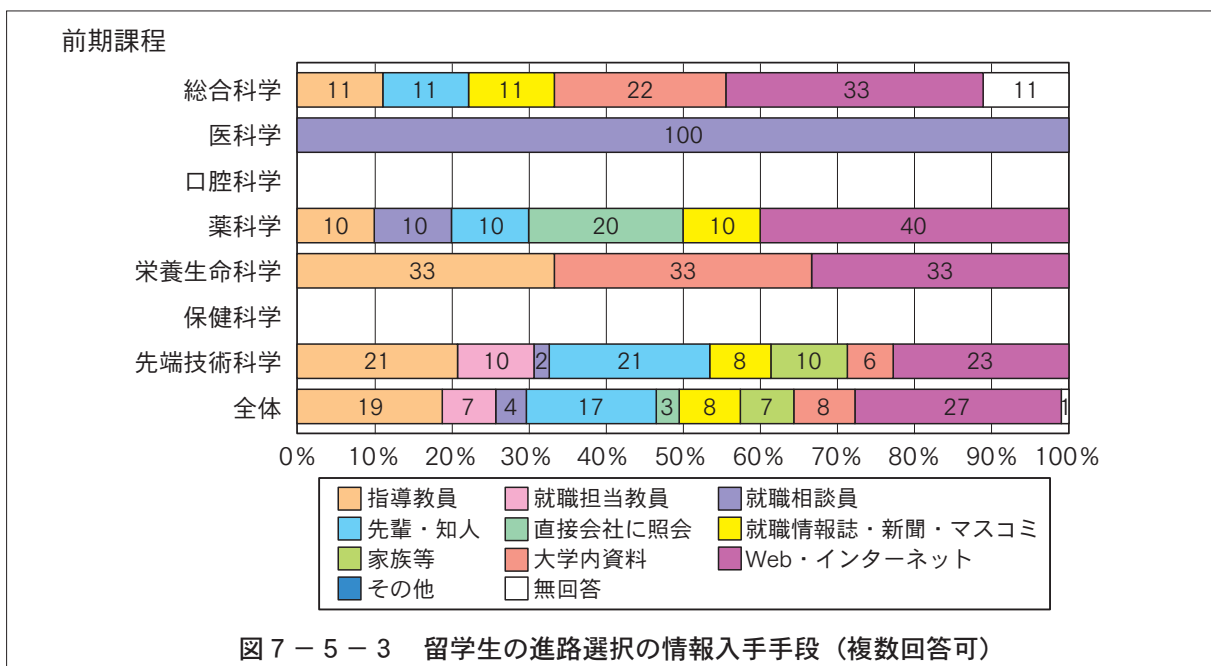
図 7-4-4 留学生の進路選択の要件 (3個以内で回答)

## 7-5 進路選択の情報入手手段 (図7-5-1～図7-5-4)

進路情報の入手手段で目立つのは Web・インターネットと先輩・知人である。インターネットの利用率は、前期課程で32%，後期課程で25%と、ともに最高比率を占めているが先輩・知人も前期課程で22%，後期課程で21%になっている。前期課程では、Web・インターネット，先輩・知人に次いで指導教員（11%），就職情報誌・新聞・マスコミ（10%）の順になっている。

大学院生の場合，専門性の高さから指導教員の役割が高いと想像される。アンケート結果からも，後期課程学生は前期課程学生に比べ「指導教員」からの情報入手の割合が22%と2倍になっている。ただし，この調査は複数回答可であり，Web・インターネット，指導教員，就職情報誌・新聞・マスコミならびに先輩・知人等も含めて，総合的に情報入手していると思われる。留学生においても全体としては同様の傾向が見られたが，指導教員のウエイトが高くなっている様に思える。





## 7-6 キャリア支援室の利用状況（図 7-6-1～図 7-6-4）

本学大学院生は、前期課程で50%が、後期課程で87%がキャリア支援室を「利用したことがない」と回答している（図 7-6-1, 7-6-2）。第5回調査結果と同様に低い利用率であるが、前期課程全体では第5回調査と比較して、利用者（現在も利用している，以前に利用したことがある）は47%と18ポイント増でありキャリア支援室の存在が知られてきた事の現れである様にも考えられる。

本学大学院の学生は、専門性の高い資格を求められる専門職（医師等）や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く、そうした求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が多い。この傾向は蔵本地区の医療系教育部で比較的顕著ではあるが、栄養生命科学や薬科学に於いては「現在も利用している」と「以前に利用したことがある」を併せると、栄養生命科学で35ポイント増、薬科学で21ポイント増とキャリア支援室を利用する学生が増えて来ている。

前期課程

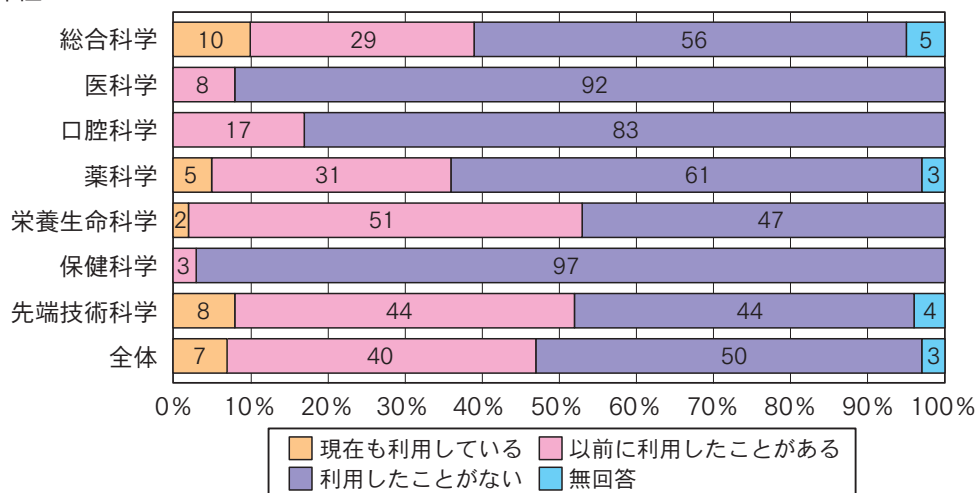


図 7-6-1 キャリア支援室の利用状況

後期課程

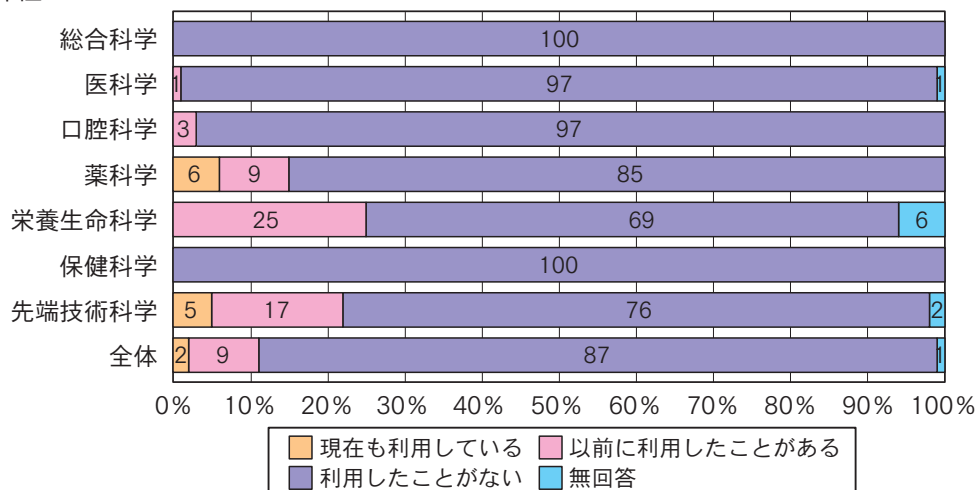


図 7-6-2 キャリア支援室の利用状況

前期課程

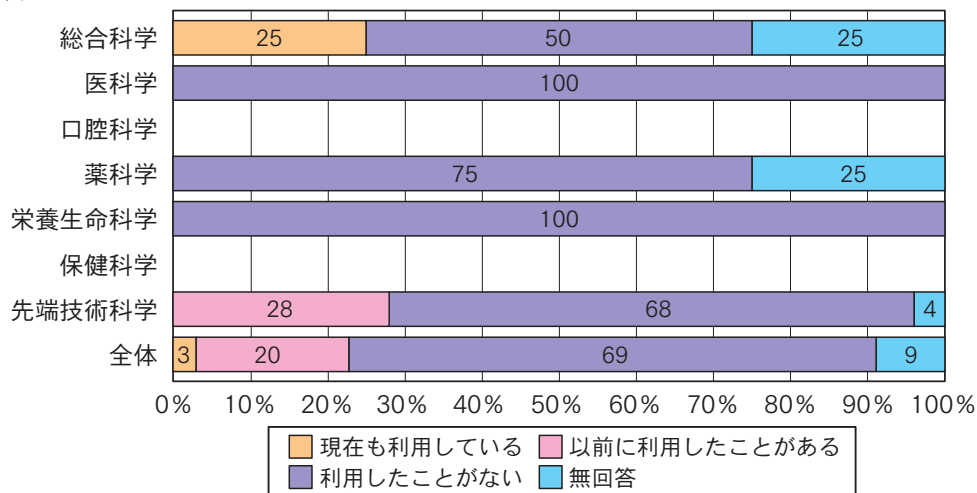
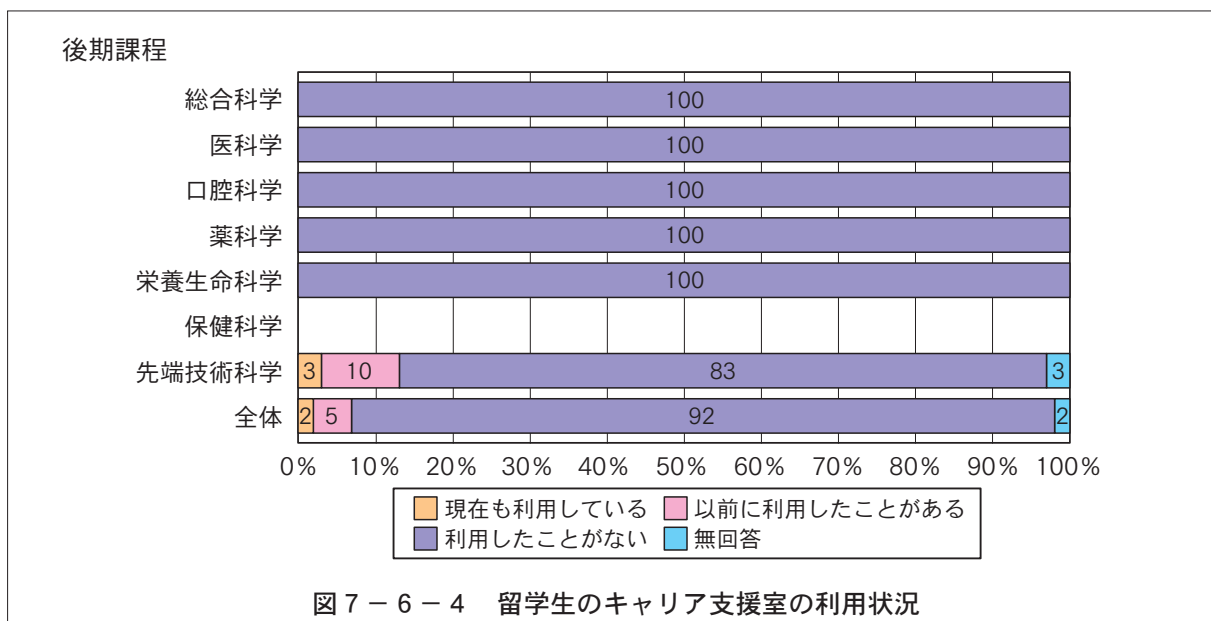


図 7-6-3 留学生のキャリア支援室の利用状況





口腔科学・医学科では第5回調査に比して利用率は数ポイント減であるが著しいものではない。総合科学及び先端技術科学の院生は、それぞれ10ポイント増、19ポイント増なので、キャリア支援室の提供する就職ガイダンスや企業説明会にかなり参加している実態から、キャリア支援室を直接利用したという意識は増していると思われるし、実質的な利用率はかなり高いと思われる。

前期課程の留学生の場合、「現在も利用している」「以前に利用したことがある」とする回答は、第5回調査より7ポイント上昇しており、後期課程の場合、利用率は1ポイント減少している。

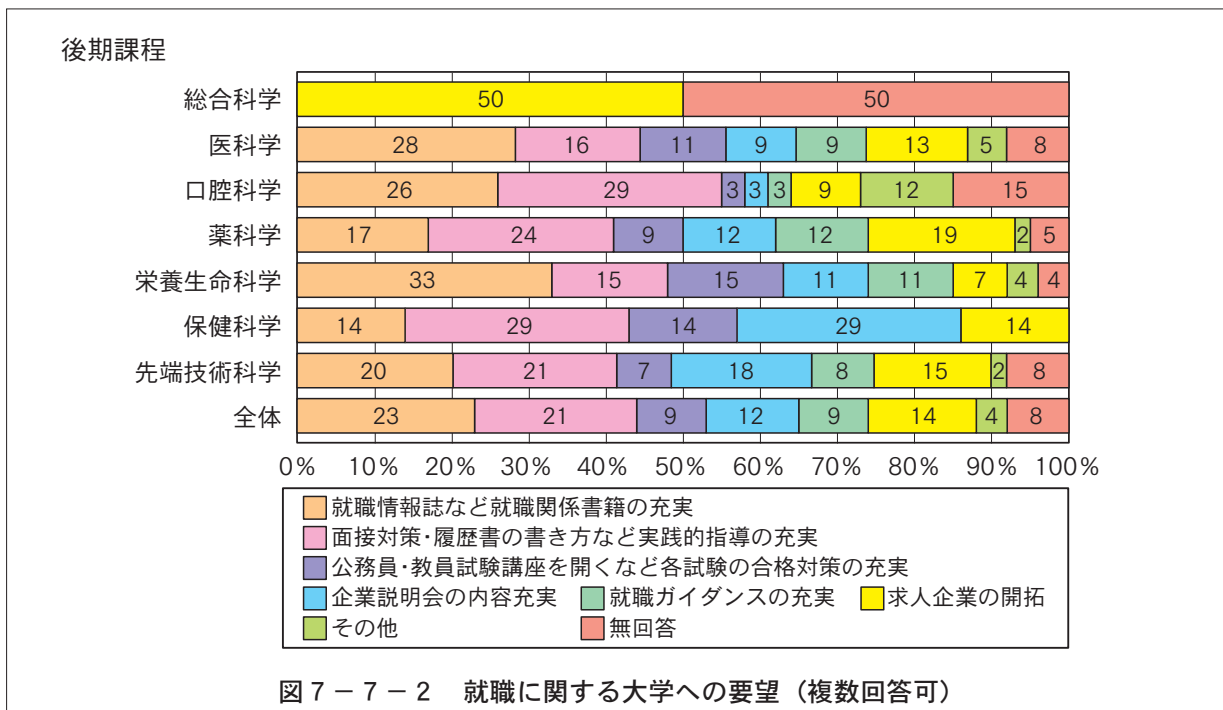
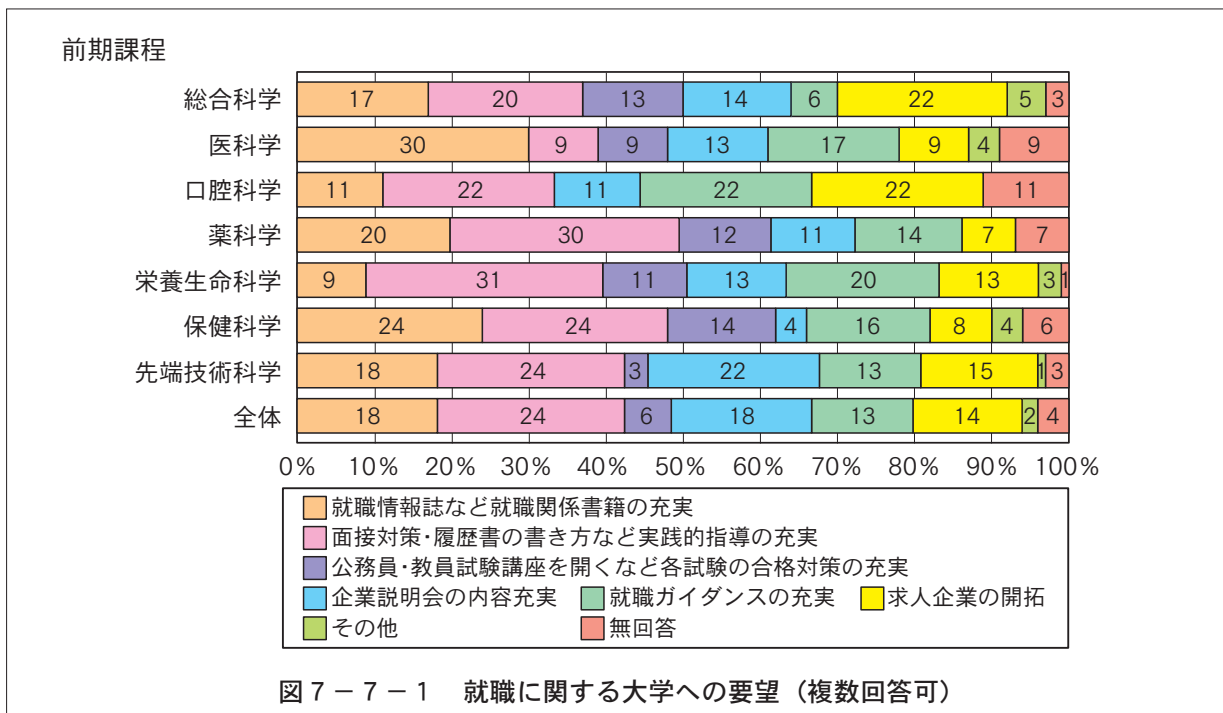
利用率が若干上昇傾向にあるのは各部局においても院生の学修ガイダンス等におけるキャリア支援室の周知が随分徹底して来た事の現れではないかと考えられる。

## 7-7 就職に関する大学への要望 (図7-7-1~図7-7-4)

本質問・要望(複数回答)については延べ1,403件を数え、全体として、すべての回答項目について要望が寄せられている。ただし、前項目7-6で示されたように、キャリア支援室の利用状況は伸びつつあるが多数であるとは未だ言い難い状況である。しかしながら、これほど多くの要望件数が寄せられているということは、キャリア支援室ならびにそのサービス内容が大学院生に対して適切なものであるが周知が不十分な面があると想像されるので、キャリア支援室およびそのサービス内容についてのさらなる周知が必要である。つまり、キャリア支援室側から見ると、今回の回答項目の多くはいずれもキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであり、広く学生・院生の参加を呼びかけているものである。周知が徹底すれば学生にとって非常に貢献度の高い情報提供となると考えられる。

以下に各要望に対する現状と対応等についてそれらの概略を示す。

要望1(就職関係書籍): 多種多様な就職関係書籍をキャリア支援室に備えており部数も増えている。借り出しも可能であり良く使われている。要望2(面接対策・履歴書の書き方): 面接対策・履歴書の書き方指導等は支援室の主業務の一つであり、専門のキャリアカウンセラー等による就職相談や就職ガイダンス等で繰り返し提供している。蔵本地区でも平日毎日開室し、毎週木曜日の夜間(繁忙期は隔週水曜日も)にキャリアカウンセラー二人を配置している。熱心に参加する学生が増加している。要望3(試験対策): 試験対策については各部局での対応が求められる。なお、キャリア支援室と徳島大学生協の共催により、本学では公務員講座を開講している。また集団面接や筆記試験に対してはキャリア支援室で独自のガイダンスを企画しており支援に勤めている。要望4&5(企業説明会&就職ガイダンス): 年

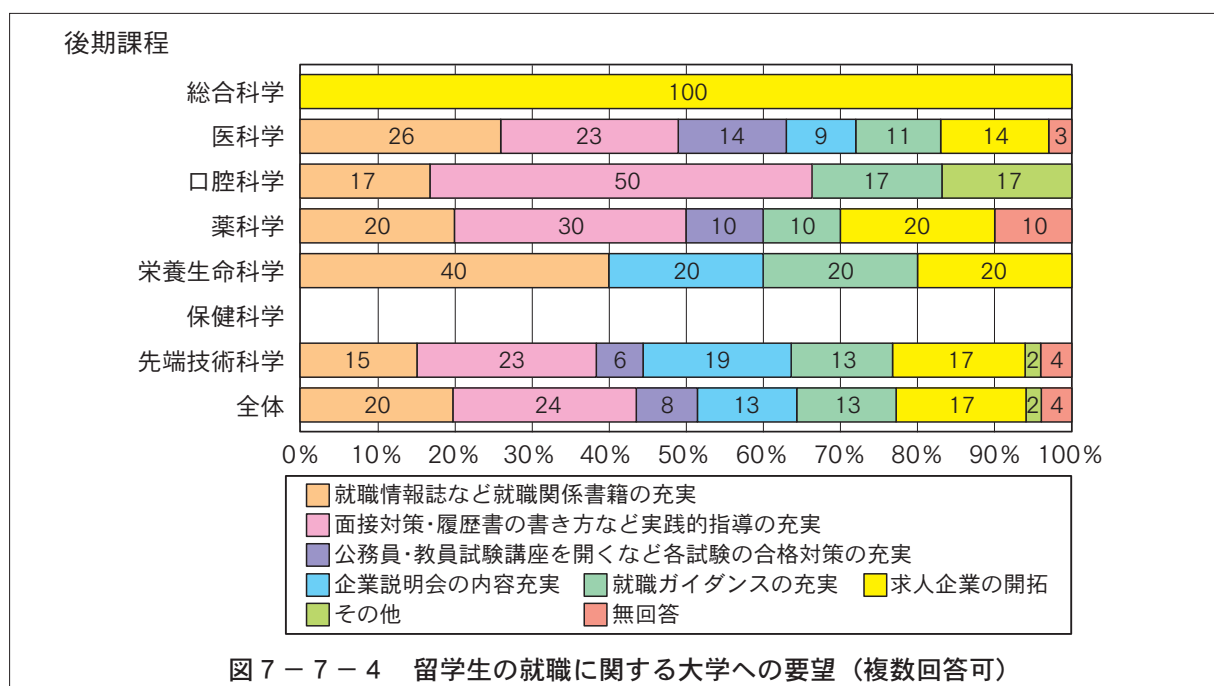
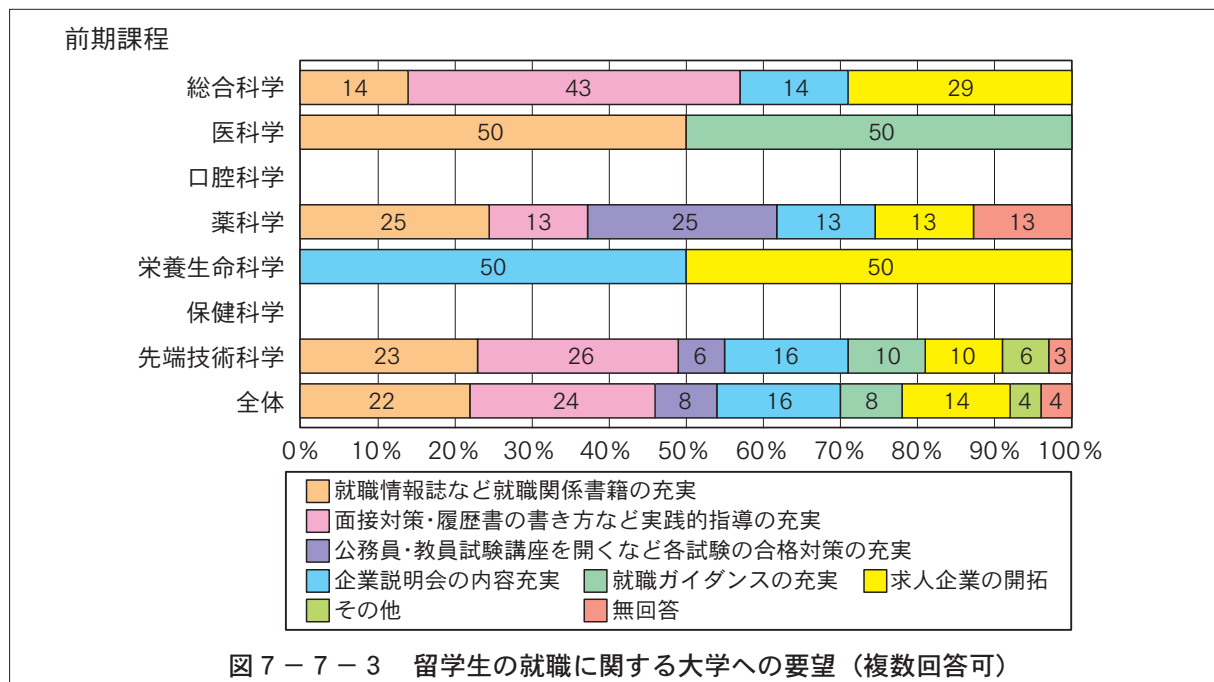


間を通じて充実した内容のガイダンス等を提供している。要望6（企業開拓）：各教育部ならびにキャリア支援室での継続的な努力により徐々に受入れ企業等が増加しつつある。また平成26年度からキャリア支援室に常勤の就職コーディネーターを配置し、名刺交換会などに出向き、幅広い業界の企業開拓に力を注いでいる。また今年度から雇用主アンケートを実施しており、企業側の求める学生像をより詳しく把握することで学生に対する教育面からもキャリア支援室としての支援に於いても、よりきめの細かい学生支援に勤めて行く方針である。

十分とは言えないかもしれないが、学生に対する周知も大分なされている印象を持っており、今後は、学生のみならず、教職員に対しても、キャリア支援室の業務内容をこれまで以上に広く周知することが必要であると考えられる。

留学生については、回答数が少ないために部局によっては要望内容に偏りがみられるものの、総じて

前期課程・後期課程ともに、日本人学生の場合と同様な傾向が見られる。



以上の分析結果をもとに、以下に、①後期課程への進学意思と進学希望先、②就職希望職種と進路選択要件、③就職情報の入手手段、④キャリア支援室の利用状況、⑤就職に関する大学への要望の5項目について、それらのまとめを示す。

① 後期課程への進学意思と進学希望先

前期課程学生の後期課程への進学意思は全般的に高いとは言えない。口腔科学が質問項目 No.74 に対する「進学したい」との回答では最も高く 33%強に達している。次いで、薬科学で 20%であった。しかしながら「経済的支援があれば進学したい」との回答と併せると口腔科学では 66%、医科学で 34%、薬科学で 23%、総合科学で 15%に達するので、経済的な問題さえ解決されれば進学を考えたいと思っている前期課程の学生は決して少なくないと考えるのが妥当である。

また先端技術科学の 86%をはじめ、総合科学・栄養生命科学・保健科学等の各教育部はいずれも

60～80%が「就職したい」と回答しており、全体での割合は78%に及んでおり多くの学生の考える自身のキャリア展開に関する意識もしっかりした物でちゃんとビジョンを持っている事が伺われる。先端技術科学の前期課程学生の大半は企業等の技術職や研究職を目指していることから、就職希望者が圧倒的に多い傾向にある。なお留学生の場合、全体として40%が進学意思を有しており、日本人学生に比べ進学意欲を持つ学生が多い。

進学希望先大学院は、全体で69%が本学の、また15%が他大学の後期課程に進学することを希望している。特に口腔科学では、全員が本学の後期課程への進学を希望している。留学生の場合、64%が本学の、また21%が他大学の後期課程を希望している。

## ② 就職希望職種と進路選択要件

前期課程の場合、各教育部における主な希望職種とその割合は、それぞれ、総合科学：専門職（医師等）28%、公務員19%、技術職13%、事務職11%、医科学：企業等の研究職17%、教育職17%、専門職（医師等）17%、口腔科学：企業等の研究職50%、教育職25%、薬科学：企業等の研究職39%、技術職22%、栄養生命科学：専門職（医師等）27%、企業等の研究職25%、公務員14%、技術職8%、教育・研究職6%、保健科学：専門職（医師等）43%、先端技術科学：技術職60%、企業等の研究職22%等となっている。後期課程の場合、全体では、大学・官公庁の教育・研究職（15%）の希望が比較的多いが、専門職（医師等）（8%）、技術職（6%）、企業等の研究職（5%）、教育職（2%）に分散している。留学生の場合、前期課程では技術職が47%と最も多い。後期課程では、26%が大学・官公庁の教育・研究職を志望している。

前期課程学生の進路選択で重視する要件は、教育部全体では「就職先の将来性・安定性」が29%と最高であり、「収入」（24%）、「能力を発揮できること」（15%）、「勤務地の地理的条件」（13%）が続いている。全ての教育部においてほぼ同様の傾向が見られるが、医科学、口腔科学では「能力を発揮できること」（それぞれ25%、31%）が最も重視されているのが特徴的である。後期課程学生が進路選択で重視する主要要件は、全体的には「収入」（27%）、「能力を発揮できること」（25%）、「就職先の将来性・安定性」（23%）の3点である。全体として、前期課程では「就職先の将来性・安定性」や「収入」が、また後期課程では「収入」、「能力を発揮できること」、「就職先の将来性・安定性」が主要要件である。留学生においては、前・後期課程とも「収入」、「就職先の将来性・安定性」、「能力を発揮できること」が主要要件となっている。

## ③ 就職情報の入手手段

進路情報の入手手段で目立つのはWeb・インターネットと先輩・知人である。インターネットの利用率は、前期課程で32%、後期課程で25%と、ともに最高比率を占めているが先輩・知人も前期課程で22%、後期課程で21%になっている。前期課程では、Web・インターネット、先輩・知人に次いで指導教員（11%）、就職情報誌・新聞・マスコミ（10%）の順になっている。

大学院生の場合、専門性の高さから指導教員の役割が高いと想像される。アンケート結果からも、後期課程学生は前期課程学生に比べ「指導教員」からの情報入手の割合が22%と2倍になっている。ただし、この調査は複数回答可であり、Web・インターネット、指導教員、就職情報誌・新聞・マスコミならびに先輩・知人等も含めて、総合的に情報入手していると思われる。留学生においても全体としては同様の傾向が見られたが、指導教員のウエイトが高くなっている様に思える。

## ④ キャリア支援室の利用状況

第5回調査結果と同様に利用率はあまり高いとは言えないが利用率が伸びているのが伺える。本学大学院の学生は、専門性の高い資格を求められる専門職（医師等）や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く、そうした求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が多い。この傾向は蔵本地区の医療系教育部で比較的顕著ではあるが、栄養生命科学や薬科学に於いては「現在も

利用している」と「以前に利用したことがある」を併せると、栄養生命科学で35ポイント増、薬科学で21ポイント増とキャリア支援室を利用する学生が増えて来ている。総合科学及び先端技術科学の院生は、それぞれ10ポイント増、19ポイント増なので、キャリア支援室の提供する就職ガイダンスや企業説明会にかなり参加している実態から、キャリア支援室を直接利用したという意識は増していると思われるし、実質的な利用率はかなり高いと思われる。利用率が上昇傾向にあるのは各部局においても院生の学修ガイダンス等におけるキャリア支援室の周知が随分徹底して来た事の現れではないかと考えられる。

#### ⑤ 就職に関する大学への要望

就職関係書籍、面接対策・エントリーシート等の書き方、試験対策、企業説明会&就職ガイダンス、ならびに企業開拓等に関する要望が延べ1,403件寄せられているが、その多くは既にキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであり、広く学生の参加を呼びかけているものである。今後、学生への周知を徹底させるために、教職員に対してもキャリア支援室の業務内容を周知するとともにガイダンス等で学生に連絡していただく等の対策を講じる必要があると思われる。

## 第8章 教育部の現状と課題

### 8-1 総合科学教育部

総合科学教育部で回答が得られたのは、前期課程在学者87名中41名（回収率47%）、後期課程に在学者13名中2名（回収率15%）であった。本教育部の回収率は、口腔科学の前期課程を除けば、第4回調査以来最も低く、この結果を分析して全体について推測するには不十分である。後期課程においては2名の回答のみだったので、以下特に断らない限りは、前期課程についてのみの言及とする。

最初に「出身・学歴等」について。徳島県の出身者が44%であり、第3回調査以降でも高率を示している。徳島大学出身者は63%であった。留学生についてみると、後期課程も含めて回答した5名全員が外国の大学・大学院の卒業・修了であった。社会人・留学生の比率は25%で、社会人が突出して多い医科学・口腔科学・保健科学を除けば、かなりの高率を示している。

「家族・住居・通学」について。年収は、500万円未満の家庭が47%を占めている。居住区分は、32%が自宅、63%がアパート・マンションであり、他の教育部と似た状況にある。アパート・マンション居住者の住居費についてみると、93%が5万円以下である。生計を共にする配偶者・子供の有無は、83%が両者とも無であった。また、90%に子供がなかった。通学方法は、73%が自転車で、自転車が大半を占めるのは他の教育部（医科学、口腔科学を除く）と同様であった。通学所要時間は15分以内が61%で、1時間以上の者は5%であった。

「収入・支出」について。親等からの援助を除く収入金額は、61%が3万円未満、20%が3～5万円未満であった。全体的には親等からの援助が求められる数字だと思われるが、一方親等からの援助を全く受けていない学生が24%いた。また、支出の方は、3～7万円未満が61%を占めている。奨学金に目を転じると、29%が現在受給中であった。受給していないし希望しないという回答も56%あるのだが、現在受給を希望するが受給されていないが15%あった。これは口腔科学・医科学に次ぐ高率である。アルバイトは59%が行っている。将来返済義務のある奨学金よりアルバイトに頼ろうとする傾向がうかがえるのではないとも思われ、気になるところである。アルバイトの目的には、生活費や学費のためと学会参加のためを合わせると50%であるが、レジャー・旅行費のためと日常の娯楽・嗜好品等購入のためを合わせても29%であった。

「健康状態」について。睡眠時間は、4～6時間未満が33%、6～8時間未満が63%であり、比較的良好と言える。身体症状は、時々あると常にあるが71%いた。現在の悩みや不安については6%がないと回答しているのであるが、他の種々の悩みを抱えている状況がうかがえる。悩みごとの相談相手は、38%が友人、25%が家族であった。それに比べると、教員の10%、総合相談部門の5%は低いのではないか。精神状態については、充実していると普通が63%であるが、なんとなく不安も20%いた。生活・学業の基本である身体的・精神的不安定さへの対応の充実が求められる。

「学生生活上の問題」について。カルトのような集団への勧誘を受けたと10%が回答しており、他の教育部と比べて高い数字で注意を要する。また、16%が迷惑行為を受けたとしている。なお、24%が総合相談部門の存在を知らないと回答しており、周知をはからなくてはならない。一方、総合相談部門を利用したことがあるは17%で、その全員が満足あるいはどちらかといえば満足と回答している。盗難等の被害については5%が盗難被害ありと回答している。交通事故は、27%が加害・被害のどちらかの経験があり、引き続き対策が求められる。違法薬物の使用は、あると回答した者はいなかった。事務室の対応については88%が満足あるいはどちらかといえば満足と回答している。

「修学状況」について、本学の教育理念の知識の有無については39%があまり知らないあるいは知らな

いと回答している。一方、教育理念を知っていると回答した者のうち、92%が教育理念や教育方針で教育を受けていると回答している。とにかく、教育理念をより多くの学生に理解させる必要がある。教育課程については95%が満足と答えている。進学した理由としては、出身大学だからと希望する研究分野があるからがともに23%で一番多かった。授業の内容や進め方への満足度については、98%が満足していると回答している。研究活動時間はばらつきが多い。研究指導時間は61%が90分未満であり、第5回調査より研究指導時間が減少していることがうかがえ、この点はさらにつっこんだ調査が必要ではないか。指導内容と進め方については97%が満足していると回答している。指導テーマについても同様の回答結果であった。大学院に相応しいレベルの教育が行われているかについては、全員が行われていると回答しており、第5回調査で10%あった行われていないとの回答がなくなっている。指導教員とのコミュニケーションについても92%がとれていると回答している。上記2問に対し、14%の学生は指導環境については必ずしも満足していない回答であった。理由としては施設・設備が67%で、第5回調査時から改善がなされていないことがうかがえる。全体としては、なぜか全員が満足と回答している。図書館利用については各教育部ともにばらつきがある。図書館利用の必要性が低い学生もいるだろうから、必要のある学生にとって充実した図書館であるかは、別途調査が必要であろう。電子ジャーナルやデータベースの利用に関しても同様である。図書館の全体的なサービスの満足度については、全員が満足であった。教育部にふさわしい学習については、あまりしていないあるいはしていないとの回答が34%ある。先の指導に対する満足度の回答と齟齬するようであり、つっこんだ調査が必要である。入学後の海外渡航経験については、76%がないと回答している。また、経験者の29%は留学生の一時帰国である。各教育部に共通する傾向であるが、もっと海外渡航の経験を積むことはできないかと思われる。海外の国際学会での口頭発表経験者は1名だけであった。英会話のレベルについては、なんとか日常会話ができるというレベルに達しているのが、30%であった。一方で、語学力を高めるために何もしていないとの回答が63%であった。留学生の日本語での会話については、日常会話ができる以上のレベルだと全員回答している。徳島大学の日本語コースには3名受講経験があり、皆満足と回答している。全学生での将来のために徳島大学の教育に何を望むかとの問いでは、やはり様々な事柄に希望が寄せられていた。

「進路選択・就職について」について。76%が就職希望であった。15%いた進学希望者のうち、67%は本学への進学希望であった。就職希望者の希望職種は多岐に亘るが、28%が専門職を希望しているのがやや目立つ。進路選択で重視するものについては、収入、就職先の将来性・安定性、能力を発揮できることの順に多かった。進路情報についてはWeb・インターネット、指導教員、知人・先輩の順で多い。一方就職担当教員・就職相談員と回答したのは合わせて7%に過ぎなかった。また、キャリア支援室は56%が利用していない。Web・インターネットや知人・先輩からどれほど信頼できる情報が得られているかの検証が必要である。併せて、キャリア支援室の利用を促す方策も求められる。

## 8-2 医科学教育部

医科学教育部の前期課程大学院在籍者は15名でこのうち12名からアンケートに対する回答が得られ、回収率は80.0%であった。この中に留学生は1人存在する。後期課程には204名の大学院生が在籍し（留学生23名を含む）、このうち71名からアンケートが回収できた（回収率34.8%）。留学生に関しては23名中17名からアンケートが回収され、回収率は73.9%となっている。アンケート回収率は前期課程では全体の平均を上回っていたが、後期課程では下回っていたことから、アンケートに積極的に参加してもらうためにアナウンスを行ってアンケートの目的を理解してもらうと共にアンケート内容を簡素化する必要がある。

### 1. 本調査の対象者について

前期課程大学院生の67%は徳島県出身で、次いで四国（徳島県以外）、中国、近畿が各々8%となっている。後期課程では徳島県出身者が48%で、次いで日本以外が16%、四国（徳島県以外）が14%となっている。大学院生の中で本学出身者の割合は前期課程で67%、後期課程で37%であり、前期課程では本学出身者の割合が本学以外よりもやや多かった。社会人大大学院生の割合は前期課程で67%、後期課程で58%となっており、割合が高い傾向にある。恐らく医師免許を有する大学院生が多いことがその理由と思われる。

### 2. 家族・住居・通学について

前期課程大学院生の年収は750万円～1,000万円未満が58%と最も多く次いで1,000万円～1,500万円未満と250万円未満が17%、1,500万円以上が8%となっている。これに対して後期課程では年収250万円未満の大学院生が28%と最多で、次いで500万円～750万円未満が25%、1,000万円～1,500万円未満が23%となっている。後期課程で年収250万円未満の大学院生の割合が高いのは留学生の数が多いためと考えられる。

住居区分では前期課程大学院生の25%、後期課程では35%が自宅から通学している。自宅あるいはアパート／マンションから通学している大学院生は前期課程で92%、後期課程で97%となっている。

住居費については月4万円未満の家賃を払っている大学院生が前期課程、後期課程ともに22%を占めている。逆に月6万円以上の住居費を支払っている大学院生は前期課程で55%であり後期課程では46%となっている。前期課程、後期課程ともに大学院生の約半数が高額の住居費を支払っているのは、医師免許を取得した学生が多いこと、社会人大大学院生が多いこと、家族や子供がいるケースが多いため住居スペースを確保する必要があることなどが理由と思われる。

通学方法については、前期課程では自動車が50%、徒歩が25%、自転車が17%であり、後期課程では自動車が42%、自転車が34%、徒歩が18%となっている。前期課程、後期課程を通じて、通学方法に自動車を使う割合が他の教育部（後期課程の総合科学と保健科学を除く）よりも多い傾向がみられた。実際に通学時間に関する調査結果では、前期課程の33%が15分未満であり、この割合は他教育部に比べて低く、居住地が大学の近くではないことがわかる。逆に後期課程では15分未満が48%で、後期課程の大学院生の半数近くは蔵本地区に居住していると思われる。

### 3. 収入・支出について

前期課程では30万円以上の収入を得ている大学院生が42%と最多であり、次いで3万円未満が25%であり、収入額は個人差が大きい。高収入の大学院生が多い理由の一つには社会人大大学院生が多いことが挙げられる。後期課程でも同様な傾向がみられ、30万円以上が49%であった。一方で、月収3万円未満も4%存在した。医師免許を有する社会人大大学院生が多数を占めるが、留学生が一定の割合で存在することで収入額が二極化していると考えられる。

親からの仕送りを受けず、経済的に自立している大学院生の割合は前期課程で92%、後期課程で85%である。仕送りを受けている大学院生は、前期課程で20万円以上が8%、後期課程では20万円未満の仕送りを受けている大学院生は15%である。仕送りを受けている前期課程の大学院生の数は、第5回調査よりも減少している。

月あたりの平均支出額は前期課程で10～15万円未満が33%と最も多く、次いで15～20万円未満と3～5万円未満が17%であり、後期課程では10～15万円未満が24%であり、次いで15～20万円未満が21%、7～10万円未満が18%であった。7万円以上の支出額の割合は、前期課程で82%、後期課程で89%であり他の教育部（口腔科学を除く）と比べて支出額が多いようである。これは医科学教育部大学院生の収入を反映しており、その背景には社会人大大学院生が多いことと後期課程大学院



生の多くが医師免許を取得しているという特殊な状況と関係すると思われる。

奨学金受給者／受給希望者の割合は前期課程34%，後期課程で43%と他の教育部と比べて低く，医学科の大学院生の収入額が高いことが理由と思われる。

アルバイトに従事している大学院生は前期課程で25%，後期課程で38%であり，週あたりの時間は前期課程では全員が15時間未満であり，後期課程では15時間未満が48%で15時間以上が49%であった。アルバイトの目的は生活費／学費が最も多く，前期課程では40%，後期課程では86%であった。アルバイト収入は前期課程では3万円未満が33%，5～7万円未満が33%，15万円以上が33%であり，後期課程では15万円以上が56%であり，3万円未満は19%であった。前期課程，後期課程ともに15万以上のアルバイトによる収入の割合は他の教育部よりも高かった。

アルバイトに関わるトラブルは前期課程ではなかったが，後期課程では客とのトラブルが4%，雇業者との意見の不一致が15%あった。

#### 4. 健康状態について

睡眠時間が6時間以上は前期課程では50%，後期課程では55%であり，約半数の大学院生の睡眠時間は6時間未満である。後期課程の6%の大学院生で睡眠時間が4時間未満であるのは問題である。健康のみならず安全管理の観点からも6時間以上の睡眠時間を確保することが望まれる。

気になる症状があると回答した大学院生は前期課程で67%，後期課程で56%であり，症状の内容については頭痛，めまい・立ちくらみ，腹痛・嘔気，生理痛・生理不順など多岐であった。

精神的な問題（悩みや不安）に関しては，前期課程では身体的不調が最も多く，次いで経済状態であり，後期課程では勉学が最も多く，次いで就職や進路，経済状態であった。これらの悩みの相談相手は，前期課程，後期課程ともに，家族が最も多く，次いで友人であり，誰にも相談しない大学院生が前期課程で40%，後期課程で10%であった。総合相談部門（学生相談室），保健管理部門などの学内の相談窓口は利用されていないので，活用されるような努力が望まれる。

現在の精神状態については，前期課程で59%，後期課程で73%の大学院生が気分は普通あるいは充実していたが，前期課程で42%，後期課程で24%の大学院生が，なんとなく不安，落ち込みやすい，やる気がでないなどの問題を抱えていた。前期課程で25%，後期課程で4%が喫煙者であり，飲酒については，飲酒しないが，前期課程で42%，後期課程で35%であり，たまに飲酒するが，前期課程で17%，後期課程で46%であった。1週間に3日以上飲酒するが，前期課程8%，後期課程で4%みられたので，これらの大学院生は健康への配慮が必要と思われる。

健康管理・総合相談センターの認識については，前期課程で15%，後期課程で22%が存在を知らず，前期課程で38%，後期課程で24%が存在を知っているが行かなかった。健康の管理や相談に関して，健康管理・総合相談センターが有効に活用されるための方策が必要と思われる。

#### 5. 学生生活上の問題点について

迷惑行為を受けたことについては，80%以上の大学院生は受けたことはないが，前期課程では，8%がいたずら電話を受けたことがあり，8%が大学内でアカハラを受けたことがあり，後期課程では，7%が大学内でアカハラを受けたことがあり，3%がいたずら電話を受けたことがあった。アカハラを受けた時の相談者としては，前期課程では，友人，家族，総合相談部門（学生相談室）が各々33%であり，後期課程では，友人が29%，家族，教員，学務（教務）係が各々14%，誰にも相談しないが29%であった。これらの迷惑行為に対する支援窓口として学生相談室が設置されているが，利用したことがあるのは，前期課程で17%，後期課程で13%であり，その存在を知らなかったは，前期課程で58%，後期課程で46%であった。総合相談部門（学生相談室）を利用した場合については，前期課程の全員が満足あるいはどちらかといえば満足であり，総合相談部門（学生相談室）の積極的および有効な活用が望まれる。

盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがあるかについては、前期課程では、盗難（盗み）、痴漢に遭ったのが各々8%あり、後期課程では、盗難（盗み）、痴漢に遭ったのが各々3%、1%であった。交通事故の被害者あるいは加害者になったことがあるのは、前期課程で50%、後期課程で42%であった。交通事故では加害者と同時に被害者にもなり得るので、交通マナーを遵守する教育を徹底する必要がある。法律上禁止されている薬物の使用はみられなかった。

大学事務室の対応への満足度については、満足あるいはどちらかといえば満足であるが、前期課程で84%、後期課程で85%であり、不満足あるいはどちらかといえば不満足であるが、前期課程で17%、後期課程で16%であった。

## 6. 修学状況について

医科学教育部の教育理念や教育方針を知っているかについて、前期課程で83%、後期課程で42%が良くあるいはだいたい知っていた。後期課程では54%が大学院教育の理念や目標をあまりあるいは全く知らなかったことから、大学院で何を学び将来にどのように繋げていくのかを周知させる必要があると思われる。

医科学教育部の教育理念や教育目標を知っている大学院生の多く（前期課程で60%、後期課程で90%）は教育理念や教育目標に沿った教育が行われていると考えているが、前期課程では30%が教育理念や教育目標に沿った教育が行われていないと考えていた。大学院教育課程についての満足度では、前期課程では75%、後期課程では84%が満足あるいはどちらかといえば満足であったが、前期課程で16%、後期課程で13%が不満足あるいはどちらかといえば不満足であった。第5回調査に比べて教育理念や教育目標に沿った教育であると考えていない前期課程の大学院生の割合が増加していることから、どのような点が教育理念や教育目標と沿わずに問題であるのかを明らかにして対策を講じる必要があると思われる。

大学院に相応しいレベルで教育が行われていると思いますかについて、前期課程では全員、後期課程では94%が充分あるいはある程度のレベルで行われていると考えていた。

医科学教育部の大学院に入学した理由については、前期課程では、出身大学だからが23%と最も多く、次いで希望する研究部があるからが19%、指導教員に勧められたからと地元の大学だからが各々12%、後期課程では、希望する研究部があるからが25%と最も多く、次いで出身大学だからと指導教員に勧められたからが各々16%、研究環境が整っているためが11%であった。現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたかについては、徳島大学卒業者において、前期課程では78%、後期課程では94%が第一志望として医科学教育部に進学していた。他大学卒業者においては、前期課程では67%が第一志望、17%が第二志望であり、後期課程では89%が第一志望、7%が第二志望であった。

大学院で勉学することによってあなたの目指すものは何ですかについて、前期課程では、高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人が58%で最も多く、次いで確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員が33%であり、後期課程では、高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人との回答が51%と最も多く、次いで創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者が24%、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員が10%であった。

受講している授業の内容や進め方についての満足度については、満足あるいはどちらかといえば満足しているが前期課程では83%、後期課程では87%であり、不満足あるいはどちらかといえば不満足が前期課程では16%、後期課程では12%であった。

授業以外の自分で行う週あたりの研究活動の時間については、前期課程では、90分～5時間未満が33%で最も多く、次いで5～10時間未満、20～40時間未満が各々25%であり、後期課程では、60時間以上が24%で最も多く、次いで40～60時間未満が20%、90分～5時間未満が14%、30分～90分未満が13%、30分未満が10%であった。研究活動に使う時間は後期課程が前期課程に比べて

多い傾向であった。

研究の直接の指導教員が誰であるかについては、前期課程では、教授が58%で最も多く、次いで助教が17%、准教授、講師が各々8%であり、後期課程では、教授が33%で最も多く、次いで講師が22%、准教授が21%、助教が18%であった。

指導教員から研究指導を週何時間受けているかについては、前期課程では、30分未満が42%で最も多く、次いで30～90分未満が33%、90分～5時間が25%であり、後期課程では、30～90分未満が35%で最も多く、次いで90分～5時間未満が27%、30分未満が25%、5～10時間未満が10%であった。

研究指導の内容や進め方の満足度については、満足あるいはどちらかといえば満足しているが、前期課程で84%、後期課程で89%であり、不満足あるいはどちらかといえば不満足であるは、前期課程で17%、後期課程で9%であった。

研究テーマに対する満足度については、満足あるいはどちらかといえば満足しているが、前期課程では全員、後期課程で96%であり、不満足あるいはどちらかといえば不満足であるは、後期課程で4%であった。

指導教員とコミュニケーションがとれているかについては、前期課程では、充分あるいはある程度取れているのが、前期課程で75%、後期課程で86%であり、あまり取れていないのが、前期課程で25%、後期課程で11%であった。前期課程において指導教員と大学院生のコミュニケーションを改善する努力が望まれる。

研究環境に対する満足度については、前期課程では全員、後期課程では88%が満足あるいはどちらかといえば満足しているが、後期課程では、13%が不満足あるいはどちらかといえば不満足であった。後期課程での不満足の理由としては、研究時間が45%で最も多く、次いで施設・設備が18%、研究費用が9%であった。

所属している教育部に対する満足度については、前期課程で92%、後期課程で95%が、満足あるいはどちらかといえば満足であったが、前期課程では、8%が不満足であり、後期課程では、6%がどちらかといえば不満足であった。

図書館をどのくらいの頻度で利用するかについては、前期課程では、1年に1回以下の利用頻度であるが42%で最も多く、次いで2週間に1回程度の利用が25%、1か月に1回程度の利用と半年に1回程度の利用が各々17%であった。後期課程では、1年に1回以下の利用頻度であるが52%で最も多く、次いで半年に1回程度の利用が17%、1か月に1回程度の利用が10%、1週間に1回程度の利用が8%、2週間に1回程度の利用が7%であり、前期課程、後期課程ともに、図書館の利用頻度は低いようである。

これに対して、図書館が提供する電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度については、ほぼ毎日利用しているが、前期課程で17%、後期課程で42%であり、1週間に1回以上利用するが、前期課程で58%、後期課程で31%であった。図書館が提供する電子ジャーナルやデータベース等の重要性が浮き彫りになっている。

これを反映して図書館が提供するサービスに対する満足度については、前期課程では全員、後期課程では93%が、満足あるいはどちらかといえば満足であった。

入学後での海外渡航の経験については、前期課程では、経験がないのが83%で最も多く、1回と2回が各々8%であり、後期課程では、経験がないのが69%で最も多く、次いで1回が17%、3回が7%、4回以上が4%であった。

海外渡航の目的については、前期課程では、40%が観光で最も多く、次いで語学研修、学会参加、社会活動が各々20%であり、後期課程では、学会参加が52%で最も多く、次いで観光が21%、一時帰

国が14%，社会活動が7％であった。

国際学会において自身で研究発表をしたことがあるかについては，前期課程では，研究発表をしたことがないが89％で最も多く，次いで海外の国際学会でポスター発表をしたことがあるが11％であった。後期課程では，研究発表をしたことがないが65％で最も多く，次いで海外の国際学会でポスター発表をしたことがあるが19％，海外の国際学会で口頭発表をしたことがあるが8％，国内の国際学会でポスター発表をしたことがあるが6％であった。

英会話はどの程度できるかについては，前期課程では，あまりできないが55％で最も多く，次いで，できないとなんとか日常会話ができるが各々18％であり，後期課程では，なんと日常会話ができるとあまりできないが各々35％で最も多く，できないが17％，専門用語を使った会話ができると日常会話ができるが各々6％であった。

語学力を高めるために何をしているかについては，前期課程では，何もしていないが50％で最も多く，次いで英会話等の学校に通っているとラジオ・テレビの英会話番組で学習しているが各々14％，TOEIC，TOEFL等を受験すると外国のラジオ，テレビを視聴しているが各々7％であった。後期課程では，何もしていないが55％で最も多く，次いで外国のラジオ，テレビを視聴しているのとつとめて外国人と英語でコミュニケーションするが各々10％，英会話等の学校に通っているが9％，ラジオ・テレビの英会話番組で学習しているが7％であった。

留学生が日本語会話をどの程度できるかについては，前期課程では，回答者1名がなんと日常会話ができるであり，後期課程では，日常会話ができるが29％，次いであまりできないが24％，できないとなんとか日常会話ができるが各々12％であった。

徳島大学が開講する日本語コースを受講していますかについては，前期課程では，回答者1名が受講していたが，後期課程では，以前受講したことがあるが47％で最も多く，次いで今後受講する予定であると受講する予定はないが各々24％，受講しているが6％であった。日本語コース受講者の満足度については，前期課程では回答者1名が満足していたが，後期課程では，満足しているが75％，どちらかといえば満足しているが25％であった。

所属している大学院に相応しい学習をしていますかについては，前期課程では，かなり学習しているが42％で最も多く，次いであまりしていないが33％であり，よく学習しているが25％，後期課程でも，かなり学習しているが39％で最も多く，次いでよく学習しているがと，あまりしていないが各々27％，全然していないが7％であった。同じ質問について，留学生の場合は，前期課程では回答者1名がかなり学習しているであったが，後期課程では，かなり学習しているが65％，よく学習しているが35％であった。

あなたの将来のために本学の教育に何を望みますかについては，前期課程では，産業界，地域社会との積極的な連携，共同研究が24％で最も多く，次いで，統合的な学習課題を体系的に履修するコース，複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導，高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会が各々19％，個々の教員の教育・研究指導能力の向上が10％であり，後期課程では，統合的な学習課題を体系的に履修するコースが23％で最も多く，次いで複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導が20％，高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会が18％，企業等での長期間の実質的なインターンシップが11％，産業界，地域社会との積極的な連携，共同研究が9％であった。

本学は国際化への対応について積極的であると思いますかについては，どちらかといえば積極的であると思うが，前期課程で75％，後期課程で68％であり，非常に積極的であるが，前期課程で17％，後期課程で14％であった。

## 7. 進路選択・就職について

修士・博士前期課程の大学院生が博士（後期）課程への進学を考えているかについては、就職したいが33%で最も多く、次いで、進学したい、奨学金等の経済的支援があれば進学したい、未定が各々17%であった。進学する場合に進学先が本学か他大学かについては、本学が50%であり、未定が50%であった。

就職する場合に希望職種は何であるかについては、前期課程では、既に就職しているが33%で最も多く、次いで、企業等の研究職、教育職、専門職（医師等）が各々17%であり、後期課程では、無回答が49%で最も多く、次いで、大学・官公庁の教育・研究職が17%、専門職（医師等）が16%、既に就職しているが10%であった。同じ質問について、留学生の場合は、前期課程では、全員（1名）が専門職（医師等）であり、後期課程では、無回答と大学・官公庁の教育・研究職が各々41%で最も多く、次いで専門職（医師等）が12%、既に就職しているが6%であった。

進路選択で重視するものは何ですかについては、前期課程では、収入と、能力を發揮できることが各々25%で最も多く、次いで、就職先の将来性・安定性が17%、社会的評価が13%、経営方針と企業規模が各々8%であり、後期課程では、収入が29%で最も多く、次いで、能力を發揮できることが27%、就職先の将来性・安定性が24%であった。同じ質問について、留学生の場合は、前期課程では、収入、就職先の将来性・安定性、社会的評価が各々33%であり、後期課程では、収入が33%で最も多く、次いで就職先の将来性・安定性が27%、能力を發揮できることが20%、社会的評価が10%、経営方針が7%であった。

進路を考える上での情報入手手段は何ですかについては、前期課程では、Web・インターネットが35%で最も多く、次いで、先輩・知人が22%、指導教員が17%、就職情報誌・新聞・マスコミが9%であり、後期課程では、指導教員が25%で最も多く、次いでWeb・インターネットが24%、先輩・知人が22%であった。同じ質問について、留学生の場合は、前期課程では、全員が就職相談員であり、後期課程では、Web・インターネットが24%で最も多く、次いで、指導教員が20%、就職担当教員と、就職情報誌・新聞・マスコミが各々12%、先輩・知人が10%であった。

キャリア支援室の利用状況については、利用したことがないが、前期課程で92%、後期課程で97%であり、以前に利用したことがあるが、前期課程で8%、後期課程で1%であった。現在も利用している人は皆無であった。特に留学生は全員がキャリア支援室を利用したことがなかった。

就職に関して大学に要望することについては、前期課程では、就職情報誌などの就職関係書籍の充実が30%で最も多く、次いで、就職ガイダンスの充実が17%、企業説明会の内容充実が13%、面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実、公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実、求人企業の開拓が各々9%であり、後期課程では、就職情報誌などの就職関係書籍の充実が28%で最も多く、次いで、面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実が16%、求人企業の開拓13%、公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実が11%、企業説明会の内容充実と、就職ガイダンスの充実が各々9%であった。留学生の場合は、前期課程では、就職情報誌などの就職関係書籍の充実と、就職ガイダンスの充実が各々50%であり、後期課程では、就職情報誌などの就職関係書籍の充実が26%で最も多く、次いで、面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実が23%、公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実と求人企業の開拓が各々14%、就職ガイダンスの充実が11%、企業説明会の内容充実が9%であった。

## 結語

調査結果をより正確に解析するためにはアンケートの回収率を上げることが必要と思われる。質問項目が多岐にわたっており記入が煩雑であることが回収率の低い理由かもしれないので、質問項目を簡略化してアンケートの回収率を引き上げることを検討してもらいたい。また、大学院における研究

理念や教育理念について十分に知らないことや、研究内容に不満を持っている大学院生が存在していることから、大学院の研究理念や教育理念を理解させると共に研究指導を充実させて質の高い大学院教育を実践する必要があると思われる。保健管理・総合相談センターやキャリア支援室などの支援施設についても十分な活用が望まれる。

### 3-3 口腔科学教育部

口腔科学教育部には口腔科学専攻（博士課程）と口腔保健学専攻（博士前期課程と博士後期課程）が設置されている。本調査は口腔保健学専攻の博士前期課程（以後、前期課程）の大学院生13人中6人（1年生1人、2年生5人）（回収率46.2%）と、同じく博士後期課程および口腔科学専攻（以後、後期課程）の大学院生61人中30人（回収率49.2%）から回答を得た。留学生は後期課程に9人おり、そのうち回答が得られたのは5人（回収率55.6%）であった。いずれの回収率も第5回調査よりも低く、回を重ねるごとに低くなっている。また今回の回収率は、前期課程は全教育部の中で最も低く、後期課程は平均よりもわずかに高かった。

第1章の「本調査の対象者について」をみると、前期課程は学生の17%が徳島県出身であり、17%が徳島大学卒業者である。これらは第5回調査と同様、7教育部中で最も低い割合であった。社会人大学院生は83%であり、第5回調査よりも高く、全教育部中最も高い割合であった。口腔科学の前期課程は社会人学生が圧倒的に多いという特徴をもつ。一方、後期課程の学生の40%は徳島県出身であり、47%は徳島大学出身で全教育部中最も高い割合であった。社会人学生は23%であり、第5回調査よりも2倍以上増えた。また、17%は留学生であり、第5回調査から9%減少した。社会人大院生と留学生の占める割合は薬科学と類似していた。

第2章の「家族・住居・通学について」の結果から、前期課程の家庭の年間所得は50%が250～500万円未満である。後期課程にはばらつきがあり、年間所得250万円未満の割合が24%で最も高い。一方、1,500万円以上の家庭も14%あり、これは第5回調査と同様、全教育部中で最も高い割合であった。住居は、両課程ともに3分の2の学生はアパート・マンションで家族と別居している。住居費は、前期課程の75%は4～5万円未満であるが、後期課程の住居費にはばらつきがあり、65%の学生は6万円未満のアパートなどに居住している。前期課程の半数と後期課程の6割は未婚であり、両課程ともに17%が子供をもつ。授業や研究時、後期課程の3分の2は配偶者が子供の世話をしている。通学方法は、前期課程は自転車、自動車、バス・JR、後期課程学生は徒歩、自転車、自動車とまちまちである。通学時間は、前期課程の3分の2の学生は1時間以上であり、3分の1は2時間以上かかる。一方、後期課程の7割強は30分未満であり、さらに半数強は15分未満である。

第3章の「収入・支出について」の結果から、前期課程の8割強は親等からの援助はなく、1か月の平均収入額は20～30万円未満であり、1か月の平均支出額はまちまちで、3分の2が10～20万円未満である。一方、後期課程の6割強は親等からの援助はなく、2割強は7～10万円未満の援助がある。1か月の平均収入額はまちまちであり、後期課程の1か月の平均支出額はまちまちであり、6割弱は7～15万円未満である。奨学金受給は、前期課程の半数と後期課程の8割が希望し、実際に17%と47%が受給している。後期課程の6割弱はアルバイトをし、前期課程学生はしていない。後期課程のアルバイトの目的は、約6割が「生活費や学費のため」と「学会参加のため」であり、7割が週平均5～15時間未満従事し、約4割は月平均10～15万円未満の収入を得ている。しかし、3割弱の学生はアルバイトにおいて「客とのトラブル」と「雇用者との意見の不一致」などのトラブルを経験し、この割合は第5回調査よりも高かった。

第4章の「健康状態について」から、睡眠時間が4時間未満の学生は皆無であった。4～6時間未満

の割合が最も多く、前期課程の半数と後期課程の6割弱であった。前期課程の3分の2と後期課程学生の6割には気になる身体症状が「時々」あり、「常にある」のは後期課程の7%であった。前期課程の現在の悩みや不安はさまざま、勉強(27%)と就職や進路(27%)の割合が高く、ついで、経済状態(18%)であった。後期課程でも、経済状態(21%)、勉強(16%)、就職や進路(16%)の割合が高かった。そして両課程ともに、相談相手は家族(50%, 45%)と友人(38%, 39%)の割合が高く、総合相談部門(学生相談室)の利用はなかった。現在の精神状態は、前期課程学生は「いろいろする」と「なんとなく不安」がともに20%であり、後期課程学生は「なんとなく不安」が17%、「落ち込みやすい」が10%であった。前期課程学生の6割弱と後期課程学生の3割強は保健管理・総合相談センターがあることを知らず、両課程ともに1割強が健康診断以外で利用したことがある。

第5章の「学生生活上の問題点について」から、後期課程学生の13%は「いたずら電話」(7%)、「大学内でのアカハラ」(3%)と「その他」(3%)の迷惑行為を受けた。アカハラを受けた割合は第5回調査の結果(6%)よりも減少した。後期課程の1割は総合相談部門(学生相談室)を利用して、その対応に満足しているが、前期課程の半数と後期課程の半数弱は学生相談室を知らなかった。犯罪被害は後期課程学生の3%が盗難に遇っており、前期課程の3分の1と後期課程学生の2割弱は交通事故の経験があり、被害者の場合が多かった。後期課程の無回答(3%)を除くと、両課程の学生に違法薬物の使用経験はない。第5回調査では後期課程の3%に使用経験があったので、今回改善したと考えられる。大学事務室の対応には口腔科学の学生はおおむね満足している。

第6章「修学状況について」から、前期課程の半数と後期課程の6割強は所属教育部の教育理念や教育方針を理解しており、前期課程の全員と後期課程の8割強はその理念や方針に沿って教育が実践されていると感じていて、ほとんどが教育課程に満足し、大学院に相応しい教育が実践されていると感じている。一方、後期課程の1割の学生は教育課程に不満足で、同じく3%は相応しい教育が実践されていないと感じている。両課程とも大学院入学理由はさまざまであり、「希望する研究分野があるから」がともに3割前後で最も割合が高かった。卒業大学にかかわらず前期課程全員と、後期課程のほとんどは第一志望に所属できている。

研究活動と研究指導については、前期課程の半数が週に5～10時間未満の授業外の研究活動を行い、8割強は教授から直接指導を受け、3分の2は指導時間が週30～90分未満であった。一方、後期課程学生の4割が10～40時間未満の授業外の研究活動を行い、3分の1は教授から研究指導を受け、4割強は指導時間が週90分～5時間未満であった。両課程のほとんどは研究指導や研究テーマに対して満足し、指導教員とのコミュニケーションもおおむねとれている。研究環境に対してもおおむね満足が得られているが、施設・設備、研究費用や研究時間の点で前期課程の17%と後期課程の23%は不満足であった。また、所属大学院に対してもおおむね満足が得られていた。

図書館の利用について、前期課程の半数の利用頻度は「1年に1回程度かそれ以下」で、他の教育部に比べて利用頻度が少ない。電子ジャーナルやデータベース等の利用も3分の1は「月に1回程度」であり、全員が図書館のサービスにおおむね満足している。一方、後期課程学生の図書館利用は「半年に1回程度」(37%)、「1年に1回程度かそれ以下」(37%)の割合が多く、第5回調査よりも利用頻度は減少している。電子ジャーナルやデータベース等は半数が「ほぼ毎日利用」しており、全員が図書館のサービスにおおむね満足している。

両課程とも半数の学生に入学後の海外渡航の経験がある。このうち留学や語学研修、学会発表を目的としたものは後期課程の55%であり、第5回調査よりも増加した。後期課程の3分の1には国際学会での発表経験がある。英会話能力は、前期課程の84%と後期課程の64%は「あまりできない」または「できない」にもかかわらず、前期課程の半数と後期課程の6割は語学に関する自己学習を何もしていない。一方、留学生の日本語会話能力は、後期課程の6割は「日常会話ができる」または「なんとか日常会話

ができる」と回答し、全員が日本語コースの受講経験や受講予定があり、受講者全員が日本語コースにおおむね満足していた。

学習への取り組みとして、前期課程の全員、後期課程の8割と留学生全員が相応しい学習をしており、学習意欲は十分高い。将来のために本学教育に望むことは、両課程とも「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」の割合が高く、さらに後期課程では「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」の割合も高かった。

また、前期課程の8割強と後期課程の9割弱は本学の国際化への対応はおおむね積極的であると回答した。国際化への積極的対応を継続するためにも大学院生は英会話能力を向上させ、国際学会での発表など経験を積むことが肝要であり、一方、教育部は学生に数多く機会を作ることが大事である。

第7章「進路選択・就職について」の結果、前期課程の3分の1は本学口腔科学の後期課程への進学を希望している。一方、17%は企業等の研究職や教育職への就職を希望している。後期課程学生も留学生も、大学などの教育・研究職や専門職への希望が多かった。進路選択の要件として、両課程も留学生も「能力発揮の場」、「収入」、「就職先の将来性・安定性」をあげる割合が多く、進路選択の情報入手手段として「先輩や知人」の割合が多く、7教育部中最も多かった。次いで「指導教員」の割合が多く、キャリア支援室は前期課程の17%と後期課程の3%だけが利用していて、留学生を含む両課程のほとんどの大学院生は支援室を利用したことがない。就職に関しては、両課程ともに「面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実」や「就職ガイダンスの充実」、「求人企業の開拓」、「就職情報誌など就職関係書類の充実」について大学へ要望している。

以上を総括すると、以下の課題が挙げられる。

1. 研究指導体制下のハラスメントは減少したが0ではないので、FD活動などを通じて予防策を継続する。また、生じた場合の相談支援体制としての相談室利用やメンター制度の周知を図る。
2. 保健管理・総合相談センターの利用者が少ないので、大学院生に対する周知徹底とセンターの利便性向上を図る。
3. 国際的能力を有する人材の育成および本学国際化の継続的推進のため、英語・英会話能力向上プログラムや国際学会プレゼンテーション技術向上プログラムなどの教育カリキュラムの多様化を図る。
4. キャリア支援室は就職希望の大学院生の要望を考慮して対処し、さらに利便性を高める。

前期課程の社会人大学院生の割合は第4回調査(38%)、第5回調査(67%)、今回調査(83%)と増えている。生活実態の特徴をより明確化するためには一般大学院生と社会人大学院生を分けて分析することが望ましいと考え、今後の検討課題としたい。

## 8-4 薬科学教育部

薬科学教育部は、薬学専攻と創薬科学専攻の2専攻からなり、薬剤師養成のための専門教育を目的とする薬学部薬学科(6年制)と、創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を目的とする薬学部創製薬科学科(4年制)それぞれの特徴を継続した学部・大学院一貫教育により、新規医薬品の創製から医療現場での医薬品の適正使用に至る広範な分野の専門知識と高い研究能力を有する人材の養成を目指している。今回のアンケート調査対象者は創薬科学専攻博士前期課程70名(うち留学生4名)、同専攻博士後期課程35名(うち留学生7名)、医療生命薬学専攻博士後期課程1名、薬学専攻博士課程7名の合計113名であり、留学生は全体で11名と第5回調査(4名)から増加している。回答者は創薬科学専攻前期課程60名、同専攻博士後期課程27名、医療生命薬学専攻博士後期課程1名、薬学専攻博士課程5名であった。前期課程全体でのアンケート回収率は85.7%(第5回調査:86.7%)、後期課程全体でのアンケート回収率は76.7%(第5回調査:64.6%)で、回収方法を工夫したことにより回収率が



高上した。回答者の出身地については、四国4県の出身者が前期課程で32%（うち徳島県：20%）、後期課程で30%（うち徳島県：15%）であった。また、全回答者の中で留学生の占める割合は、前期課程で5%、後期課程で21%となっている。

第2章「家族・住居、通学」より、家庭の年間所得は第5回調査と大きな違いはなく、前期課程では500～1,000万円未満が52%（第5回調査59%）、1,000万円以上が13%（第5回調査12%）であった。住居費については、前期課程では「3万円～4万円未満」が37%で最も多かったが、第5回調査（58%）から減少し、その分「3万円以下」が31%（第5回調査8%）と大きく増加した。後期課程でも、「3万円～4万円未満」が最も多かった（33%）が、第5回調査（42%）からは減少し、一方、「3万円未満」が21%に増加しており（第5回調査15%）、学生は住居費を切り詰めている様子がみられた。通学方法としては「自転車」（前期課程：70%、後期課程：52%）が、通学時間としては「15分未満」（前期課程：77%、後期課程：61%）が、それぞれ両課程ともに最も多かった。幸いにもここ数年、通学途中での重大な交通事故は発生していないが、交通安全についての意識喚起等は継続して実施する必要がある。

第3章「収入・支出」については、親等からの援助額は前期課程で28%、後期課程で64%の学生が「全くない」と答えており、両課程ともに第5回調査（前期課程12%、後期課程53%）から増加していた。奨学金については、前期課程で57%、後期課程で42%の学生が「現在受給中であるが、更に希望する」と答えている。その一方で、「現在受給していないし、希望もしない」と回答した学生が、前期課程で33%、後期課程で42%となり、二極化が見られた。アルバイトをしている前期課程の学生は35%であり、第5回調査（23%）から増加していた。後期課程では18%（第5回調査26%）の学生がアルバイトをしていると回答した。アルバイト収入は前期課程で「3万円未満」（57%）、後期課程で「5～7万円未満」（50%）がそれぞれ最も多かった。両課程での収入の差は、アルバイト従事時間数の差（前期課程：10時間未満が71%、後期課程：10時間以上が50%）によると思われる。なお、アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した前期課程の学生は58%であり、第5回調査を25ポイント上回った。一方、後期課程では同回答が50%と、第5回調査（67%）を下回ったが、依然として学生を取り巻く経済状況が厳しいことには変わりがない。前期課程であるか後期課程であるかにかかわらず、大学院生への経済的支援は今後とも大学全体として取り組むべき重要課題の一つである。

第4章「健康状態」について、前期課程で「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と答えた学生は49%であり、第5回調査（50%）と同じ結果であったが、第5回調査で最も多かった「頭痛」（13%）に加え、「腹痛・嘔気」、「生理痛・生理不順」、「アトピー・アレルギー」がそれぞれ19%と、症状の多様化がみられた。後期課程では61%の学生が「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と答えているが、症状の内容は「腹痛・嘔気」、「下痢・便秘」、「動悸・不整脈」、「めまい・立ちくらみ」、「生理痛・生理不順」と様々であった。大学院生は研究室で過ごす時間がかなりの割合を占める（後述）ことから、生活リズムの乱れや運動不足等についてきめ細かい指導の必要性が感じられる。また、精神状態については、「充実している」あるいは「気分は普通」と答えたのは前期課程が61%、後期課程が70%であり、第5回調査結果を前期課程では2ポイント、後期課程では7ポイントそれぞれ僅かではあるが上回った。悩みごとの主たる要因は、前期課程、後期課程ともに「勉強」と「就職や進路」となっている。これらの悩みについては、いつの時代でもつきまとう悩みであるが、「生き甲斐や目標」と回答した学生も少数ではあるが、留意しておく必要がある。悩みごとの相談相手を問う設問では、前期課程では「友人」（46%）、後期課程では「家族」（38%）との答えが最も多かった。一方、「誰にも相談しない」という回答も前期課程で10%、後期課程で15%だったことから、保健管理・総合相談センターの存在やサービス内容を学生に周知徹底し、精神面を含めた健康維持管理を目的とした本センターの有効利用を促す取り組みを進めていく必要がある。

第5章「学生生活上の問題点」について、前期課程で8%、後期課程で6%の学生が何らかの迷惑行為（「大学内でアカハラを受けた」、「飲酒を強要された」、「カルトのような集団への勧誘を受けた」）を受けたと答えている。この結果は、第5回調査と同じであり、充実した学生生活のためには、学生生活上の問題点に関して一層の注意喚起を行い、教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。また、前期課程で27%、後期課程で39%の学生が「総合相談部門（学生相談室）を知らない」と答えていることから、総合相談部門との緊密な連携のもとに、学生生活支援に係る啓発活動と指導を今後も継続的に進めていく必要がある。

第6章「修学状況」については、前期課程、後期課程ともに51%が薬科学教育部の教育理念や教育方針を「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と答えており、教育課程に対する満足度は、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生が前期課程89%、後期課程78%であった。教育理念や教育方針の入学前周知に努め、入学後には学生の満足度が100%となるよう、教育部全体での取り組みと教員個々の不断努力が求められる。授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、40時間以上が前期課程で62%、後期課程で63%と、大学全体の平均（前期課程：28%、後期課程：48%）を大きく上回っており、他の教育部に比べて研究活動時間が長い。研究を直接指導している教員については、前期課程では「教授」、「准教授・講師」、「助教」がそれぞれ31－34%と分担して行われている。一方、後期課程では「教授」が59%であった。研究指導の内容や進め方については、前期課程で88%、後期課程で85%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えており、両課程とも第5回調査（前期課程：92%、後期課程93%）よりポイントを下げている。研究テーマへの満足度については、前期課程では92%、後期課程では87%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答している。全体として薬科学教育部に満足していますかとの設問については、前期課程で95%、後期課程で88%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えており、修学状況は高い満足度が維持されているが、後期課程では第5回調査より5ポイント下げている点は留意する必要がある。研究環境について「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生は、前期課程で90%、後期課程では78%となった。研究環境に不満足な理由としては、前期課程では「施設・設備」が67%と最も多かったが、後期課程では「施設・設備」は29%と第5回調査（50%）よりポイントを下げたが、代わって「研究費」が29%（第5回調査0%）と大幅に増加し、研究費確保の厳しい状況が学生アンケートにも反映した結果となっている。図書館については、前期課程で53%、後期課程で61%の学生が電子ジャーナルやデータベースを「ほぼ毎日利用している」と答えており、第5回調査結果（前期課程：52%、後期課程：61%）同様、利用頻度が高い。また、図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対して、前期課程で93%、後期課程で88%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えており、満足度は高い。なお、WEB上で閲覧可能な雑誌の質ならびに量の維持や拡充、利用価値の高い検索ツールの導入などは、大学全体として取り組むべき重要課題の一つであり、情報関連技術の進歩に対して遅滞なく迅速に対応することが望まれる。入学後に海外渡航経験があると回答した学生は、前期課程で30%、後期課程で33%あり、第5回調査より前期課程では12ポイント上回っていたが、後期課程では逆に25ポイント下回っていた。海外渡航の目的として「学会参加」は、前期課程では23%と、「観光」（35%）に次いで多かったのに対し、後期課程では41%と最も多かった。国際学会での発表経験については、前期課程で20%、後期課程で25%の学生があると回答しているが、第5回調査より後期課程で27ポイント下回っていた。また、語学力を高めるために何をしていますかとの日本人学生への設問に対して「何もしていない」と答えた学生は、前期課程で47%と、依然半数近い学生が外国語修得の努力をしていないことが窺えるが、一方、後期課程では31%と、第5回調査（54%）から大幅に減少している。薬科学教育部では前期課程において、薬学英語特論を必修科目として開講し

ているが、教育内容の点検等も含め、語学力強化への積極的な取り組みが望まれる。なお、本学の国際化への対応についての設問に対して、前期課程で69%、後期課程で76%の学生が「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答し、第5回調査（前期課程：62%、後期課程：64%）より増加していた。今後も国際化への取り組みをさらに加速していくことが望まれる。

第7章「進路選択・就職」では、前期課程学生の後期課程への進学希望者は20%であり、第5回調査（21%）と変わっていない。就職を希望する学生の希望職種としては「企業等の研究職」が39%で最も多く、次いで「技術職」の22%となっている。後期課程学生の就職希望職種としては「大学・官公庁の教育・研究職」（12%）が最も多く、次いで「企業等の研究職」が9%であった。一方、68%の学生が本質問については無回答であり、進路の選択に悩んでいる様子が窺える。進路選択の情報入手手段としては両課程とも「Web・インターネット」との回答（前期課程：32%、後期課程：30%）が最も多く、情報源として中心的役割を果たしている。一方、本学のキャリア支援室を利用したことがありますかとの設問に対しては、前期課程で61%、後期課程で85%の学生が「利用したことがない」と答えている。薬科学教育部では、独自の組織的な就職支援に加え、キャリア支援室とも連携した蔵本地区での就職支援の強化を図っているところであるが、今後も学生のニーズに応じたきめ細かい就職支援に、より一層努力する必要がある。

最後に、本調査より明らかとなった薬科学教育部の現状と課題を総括する。

1. 昨今の社会情勢も踏まえ、大学院生を対象とした経済的支援体制の充実が喫緊の重要課題である。経済的理由が大学院への進学を妨げることがないように、充実した就学支援体制の構築が望まれる。
2. 研究・教育の現状には概ね学生は満足しているが、修学環境の改善に向けた継続的な取り組みが求められる。
3. 研究室で多くの時間を過ごす大学院生の心身の健康を保持増進するため、保健管理・総合相談センターとの緊密な連携による学生支援体制のより一層の強化が望まれる。また、迷惑行為に関する注意喚起を徹底するとともに、教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。
4. 就職支援に関しては、教育部およびキャリア支援室が行っている様々な活動への学生の積極的な参加や利用の啓発・促進に努めるとともに、学生の多様化するニーズにきめ細かく対応する支援体制の一層の強化が望まれる。
5. 学生のニーズという視点からの新しい教育システムの構築を目指し、他教育部とも連携した国際化への一層の取組強化が望まれる。

以上の課題の克服に向けて、今後鋭意努力していかねばならない。

## 8-5 栄養生命科学教育部

栄養生命科学教育部において、前期課程在籍者は57人で、回答率は82.5%であった。留学生は1名で未回答である。後期課程在籍者は39人で回答率は41%、留学生は2名で1名から回答を得ている。

「本調査の対象者」について、前期課程では、徳島県出身者の割合が30%で最も多かった。後期課程では、徳島県出身者と四国県内出身者の割合がともに19%で、最も多かった。出身大学別に見ると、前期課程では、徳島大学出身者が74%と多かった。後期課程では、徳島大学大学院修士・博士前期課程が50%で最も多かった。「社会人か留学生か」については、後期課程では、留学生が13%であった。

「家族・住居・通学について」の設問の「住居区分」では、前期課程では、全体でアパート・マンションが68%、次いで自宅（家族と同居）が32%となっていた。後期課程では、アパート・マンションが75%で一番多く、次いで自宅（家族と同居）が19%となっていた。

「住居費」に関しては、前期課程では、4～5万円未満が38%で一番多く、次いで3～4万円未満が

25%となっている。後期課程では、3～4万円未満が38%で一番多く、次いで4～5万円未満、5～6万円未満が同率でそれぞれ23%となっている。

「配偶者・子供の有無」については、前期課程では96%が「配偶者・子供ともなし」となっている。後期課程では「配偶者・子供ともなし」が88%となっている。

「通学方法」では、前期課程では自転車通学が64%と一番多く、次いで自動車13%となっている。後期課程では、自転車通学が53%と一番多く、次いで徒歩、バイクがそれぞれ13%となっている。「通学時間」に関しては、前期課程では、15分未満が70%、後期課程では、15分未満が75%であった。

「収入・支出」については、前期課程では、49%が親等からの援助を除く平均収入額は3万円未満、28%が3～5万円未満である。97%の学生が10万円未満の収入となっている。後期課程では、収入額3～5万円未満、10～15万円未満の割合がそれぞれ25%で最も高くなっており、収入10万円未満では、50%であった。

「親等からの援助」に関しては、前期課程では、23%が親等からの援助が全くなく、58%が10万円未満の援助を受けている。後期課程では、56%が親等からの援助が全くなく、32%が10万円未満の支援を受けている。

「奨学金の希望」においては、前期課程では、34%が奨学金を受給しているが更に希望している。後期課程では、奨学金を受給しているが更に希望する割合が50%と全教育部で2番目に高い。

「アルバイト」については、前期課程では、68%の大学院生がアルバイトを行っている。後期課程では、31%がアルバイトをしていると答え、前期課程に比較して半分の割合となっている。アルバイトの目的は、生活費や学費のためが前期課程では32%であるのに対し、後期課程では27%とやや低い。「アルバイトに関するトラブル」については、前期課程では、全体の94%にトラブルは見られない。後期課程では、アルバイトでのトラブルの経験はなかった。

「健康状態について」に関する設問の「睡眠時間」においては、前期課程では「6～8時間未満」が62%、「4～6時間未満」が34%であった。前期課程の学生は6時間未満が38%となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。後期課程では、「6～8時間未満」が38%、「4～6時間未満」が56%であり、前期課程と同様に睡眠不足の傾向が見られた。

「気になる症状」において、「ある」と答えた学生は、前期課程は61%、後期課程では63%であった。主な症状は、前期課程は頭痛、めまい・立ちくらみ、生理痛・生理不順、アトピー・アレルギー、後期課程は、下痢・便秘、アトピー・アレルギーであった。

「主な悩みや不安」は、前期課程では「就職や進路」が26%、「勉学」が12%の順であった。後期課程は、「勉学」23%、「就職や進路」が17%の順であった。悩み事は、前期課程の約5～7割、後期課程の約6割の学生が友人もしくは家族に相談するとしており、悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなど、適切な対処行動をとっていることが推測される。主な悩みが「就職・進路や勉学」であるため、「教員」が相談相手となりやすいとも考えられるが、第5回調査同様、後期課程の学生は教員に相談する者が14%、前期課程では7%と少なかった。また「悩みを誰にも相談しない」という学生が、前期課程、後期課程それぞれ10%、14%であった。相談相手としての「保健管理・総合相談センターの総合相談部門や保健管理部門の利用」は少なく、より学生が気軽に相談できる場所として利用されることが望ましい。

「現在の精神状態」として、前期課程では58%の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられるが、41%は何らかの精神的症状を持っていた。症状別では「何となく不安」、「落ち込みやすい」が多かった。後期課程では、66%の学生が「充実している」または「気分は普通」と回答し、精神的症状を持っている学生は前期課程より低かった。

前期課程、後期課程において、「保健管理部門に健康診断のため行ったことがある」と回答した学生は

それぞれ61%、72%であった。一方で、「保健管理部門があることを知らなかった」と回答した学生が前期課程で8%見られたが、後期課程はいなかった。

「学生生活上の問題点」の設問では、前期課程では、「大学内でセクハラを受けた」のが1名、「アカハラを受けた」が3名、「飲酒を強要された」が2名であった。後期課程では、「アカハラを受けた」が3名であった。

「総合相談部門」は、前期課程で23%、後期課程で38%の学生が「知らない」と回答している。「利用したことがある」と回答した前期課程の学生は、「満足である」と「どちらかといえば満足である」をあわせて100%であった。

「大学事務室の対応への満足度」に関して、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた回答は前期課程で90%、後期課程で100%であった。

「修学状況について」に関する設問の「教育理念・方針と教育に対する満足度」は、所属する教育部の教育理念や教育方針について、「良く知っている」、「だいたい知っている」と答えた人の割合は、前期課程で59%、後期課程で56%であり、ほぼ同じであった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程、後期課程ともに89%が「思う」と答えている。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は26%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生(62%)と合わせて88%であった。一方、「どちらかといえば不満足である」は11%となっている。後期課程も全体の88%がほぼ満足している(「満足している」19%、「どちらかといえば満足している」69%)。

大学院に相応しいレベルの授業については、前期課程では「充分に行われている」が47%、または「ある程度行われている」が40%となっている。後期課程もほぼ同様で、「充分に行われている」が19%、「ある程度行われている」が69%となっていた。「あまり行われていない」、「全く行われていない」の合計は、前期課程13%、後期課程12%であった。

「授業の内容や進め方」に対して、前期課程では、「満足している」23%、「どちらかといえば満足している」72%で、あわせて95%であった。後期課程では、「満足している」13%、「どちらかといえば満足している」81%とあわせて94%であった。「どちらかといえば不満足である」は6%であった。

「本学を選んだ理由と目的」において、前期課程の学生の主な入学理由は、「希望する研究分野があるから」が21%、「出身大学だから」が18%、「継続して就学するため」が17%となっている。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」が最も多く21%、「指導教員に勧められたから」が18%、次に「出身大学だから」が15%となっている。

「大学院での勉強で目指すもの」では、前期課程では「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」49%、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」40%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」9%の順であった。後期課程では、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員」が31%で最も多く、次に「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」と「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」がそれぞれ25%だった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」は、前期課程では「20～40時間未満」が26%、「40～60時間未満」が36%、「60時間以上」が13%となっている。後期課程では、「40～60時間未満」31%、「60時間以上」25%であり、「60時間以上」では、前期課程より高くなっていた。

研究指導としては、前期課程において、教授から指導を受ける院生の割合は36%で最も多く、後期課程でも教授が44%と最も多かった。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」の設問で、前期課程では「30分～90分未満」が34%と最も多く、「90分～5時間未満」が30%、「30分未満」が19%の順となっている。後期

課程では、「90分～5時間未満」が38%と最も多く、「30分未満」が31%、「30～90分未満」が19%、「5～10時間未満」が6%となっている。

「研究指導の内容や進め方について」の設問に対する前期課程の回答は、「どちらかといえば満足している」が最も多く49%、「満足している」の38%と合わせると、87%であった。後期課程の回答は、「満足している」38%と「どちらかといえば満足している」44%をあわせて82%であり、以下、「どちらかといえば不満足である」、「不満足である」の順となっており、前期課程と比較して不満足と答えた人の割合が高かった。

論文のテーマについての満足度では、前期課程、後期課程とも、「満足している」、「どちらかといえば満足している」をあわせた人の割合が90%を超えていた。

「指導教員とのコミュニケーションに関する」設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」が66%、「充分とれている」が23%、「あまりとれていない」が6%となっている。同じ設問に対して、後期課程では「ある程度とれている」が56%、「充分とれている」が25%で、「あまり取れていない」が19%であった。

「研究環境に対する満足度」においては、前期課程では、研究環境に「どちらかといえば満足している」53%、「満足している」28%、「どちらかといえば不満足である」が13%となっている。後期課程では、研究環境に、「どちらかといえば満足している」56%、「満足している」25%で、前期課程と同程度であった。

「研究環境に満足していない理由」を尋ねた設問では、前期課程では「研究費用」が46%、「施設・設備」「研究時間」がともに23%であった。

「所属教育部に対する満足度」の設問では、前期課程学生は、「どちらかといえば満足している」、「満足している」がともに49%であった。後期課程学生は、「どちらかといえば満足している」が63%、「満足している」が31%となっていた。

「電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度」は、前期課程で「ほぼ毎日利用している」の43%が最も多く、次に「1週間に2～3回利用する」が17%であった。後期課程では、「ほぼ毎日利用している」が63%と高かった。図書館サービスに対する満足度は、前期課程で「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計で98%、後期課程では100%と高くなっていた。

「国際学会での研究発表」に関して、「あり」の割合が前期課程では20%、後期課程では70%で、後期課程で高くなっていた。

「語学についての学習状況」は前期課程では「何もしていない」が60%であった。後期課程学生は、「ラジオ・テレビの英会話番組」、「外国人とのコミュニケーション」等がそれぞれ7%、「何もしていない」が60%であった。前期課程、後期課程ともに約4割の学生は語学修得に努力していた。

「進路選択・就職について」に関する設問の中で、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは9%で、「奨学金等の援助があれば進学したい」4%とあわせて13%である。一方、87%が、「未定」「就職したい」と答えた。前期課程の学生の就職希望職種は、「大学、官公庁の教育・研究職」および「大学、官公庁の教育・研究職以外の公務員」20%、「企業等の研究職」および「専門職（医師など）」が52%であった。後期課程の就職希望職種は「大学、官公庁の教育・研究職」と「専門職（医師など）」をあわせて30%であった。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「収入」24%、「就職先の将来性・安定性」が23%で、次いで「能力を発揮できること」21%、「勤務地の地理的条件」17%で、これらの4項目が主要件になっていた。後期課程では、「収入」、「就職先の将来性・安定性」、「能力を発揮できること」がそれぞれ24%で同率だった。

「進路選択の情報の入手手段」について、前期課程では、「Web・インターネット」37%、「先輩・知

人」19%、「大学内資料」12%の順であった。後期課程では、一番多いのは、「Web・インターネット」が31%、「先輩・知人」が23%であった。

「キャリア支援室利用状況」については、前期課程は過去の利用も含めてキャリア支援室の利用は53%で、前回の18%よりかなり増えたが、47%は利用していなかった。後期課程は、69%の人で利用がなかった。大学院生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いためにキャリア支援室を利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、明らかになった問題点と課題は、前回の調査とほとんど変わりが無いが

1. 健康面や精神面支援の充実
2. 前期課程における国際学会への参加の促進
3. 語学学習の支援
4. 就職支援の充実

等が挙げられた。

## 8-6 保健科学教育部

保健科学教育部では、前期課程在籍者は58人、回答者は32人、回答率は55.2%であった。後期課程在籍者は18人で、回答者は4人、回答率は22.2%であった。留学生の在籍者はいない。第5回調査の回収率と比較すると、前期課程ではほぼ横ばい、後期課程では約16%低下した。両課程とも社会人が多く、指導教員経由での依頼のため、回答しづらさや返却しづらい問題もあると考える。電子メールやWeb上での回答等、回収方法の工夫を考える必要がある。

第1章「本調査の対象者について」では、回答者の出身地は、前期課程では「徳島県」出身者が50%で、第5回調査とはほぼ同様であった。次いで徳島県以外の「四国」(22%)、「近畿」(13%)の順であった。後期課程では、「徳島県」が75%、その他が25%で、第5回調査と比較し、徳島県の割合が増加している。回答者の出身大学(大学院)は、前期課程では「徳島大学」が72%で、第5回調査とは大きく変化していない。後期課程は75%が「徳島大学」であった。社会人が占める割合は、前期課程44%、後期課程75%であり、後期課程では全教育部の中で社会人学生の割合が最も高い。

第2章「家族・住居・通学について」の「家庭の収入」では、前期課程は500万円未満が47%と半数近く、後期課程は、500～750万円未満が50%、750～1,000万円未満が50%であった。

「住居区分」では、前期課程で最も多かったのが、「アパート・マンション(家族と別居)」で63%、次いで「自宅(家族と同居)」が38%で、第5回調査とはほぼ同様の傾向であった。後期課程は全員が「自宅(家族と同居)」であった。

「婚姻状況」は、前期課程では「配偶者なし・子供なし」が78%で、第5回調査より12%減少している。「配偶者あり・子供あり」は19%で、授業や研究をしているとき、子供の世話をしているのは、「配偶者」と「親や親戚」を合せると44%で、家族や親戚の協力を得られていると言える。後期課程の「配偶者なし・子供なし」は75%であった。

「通学方法」は、前期課程では、「自転車」通学が50%で最も多く、次いで「自動車」が38%、「徒歩」が6%であった。後期課程では、「自動車」が75%で、この割合は社会人学生が多くいることと関連している。

「通学時間」は、前期課程では、「15分未満」が53%、「15分～30分未満」が22%で「30分以内」が8割近い一方で、13%が「2時間以上」と回答しており、県外の学生は通学に長い時間を費やしている。後期課程は「15分～30分未満」が50%であった。

第3章「収入・支出について」の「1か月の平均収入額」については、前期課程では37%の学生が5万円未満の収入であるが、41%は20万円以上の収入を得ている。後期課程では、75%の大学院生に「30万円以上」の収入があった。

「親等からの援助」は、前期課程の50%が全くないと答えており、第5回調査とほぼ同様である。「3万円未満」、「3～5万円未満」がそれぞれ13%であった。後期課程は、社会人学生の割合と同じ75%が援助が全くないと回答していた。

「1か月の平均支出額（授業料支出は除く）」は、前期課程で「3～5万円未満」が最も割合が高く31%、次いで「7～10万円未満」が25%であり、65%が支出を10万円未満に抑えていた。後期課程では、75%が「3～5万円未満」で、他の研究部に比べ5万円未満の割合が高かった。

「奨学金」について、前期課程では、「現在奨学金を受けている」(31%)と「将来的に奨学金を希望する」(3%)を合わせると全体の34%が奨学金を希望しているが、第5回調査より漸減している。一方、後期課程では、75%が奨学金を希望しており、第5回調査と比較すると、社会人学生であっても奨学金を希望する割合が増加している。

「現在アルバイトをしているか」では、前期課程では、アルバイトをしている割合は26%で、74%はアルバイトをしていなかった。前期課程のアルバイトをしているもののうち、「アルバイトの従事時間」は、50%が週に10時間未満で、20時間を越えるものは13%であった。アルバイトの目的は、生活費や学費、学会参加のためが46%で約半数であった。「アルバイトの収入額」は、3～5万円未満が最も多く38%、次いで7～10万円未満が25%であった。全体の51%が5万円未満であったが、10～15万円も13%であり、他の教育部に比べアルバイトによる収入額は多い傾向がある。「アルバイトのトラブル」はなかった。また、後期課程でアルバイトをしていたのは、25%であった。

第4章「健康状態について」では、「睡眠時間」は前期課程で「4～6時間未満」が53%で「4時間未満」をあわせると56%が6時間未満であり、教育部の中でも睡眠時間が少ない傾向があった。後期課程では「6～8時間未満」が75%であった。「気になる症状」については、前期課程では「時々ある」が44%、「常にある」が22%で、7割弱が何らかの気になる症状を感じていた。症状として最も多かったのは「頭痛」で36%であり、睡眠時間の短さとの関連が考えられる。次いで「腹痛・嘔気」、「めまい・立ちくらみ」、「アトピー・アレルギー」がそれぞれ14%であった。後期課程も同様に75%が気になる症状を抱えており、全員が「頭痛」の症状があると回答していた。

「主な悩みと不安」については、前期課程では全教育部の中で何らかの悩みや不安を抱えている割合が最も高く97%で、内訳は「勉学」が26%で第5回調査と同様であった。次いで「身体的不調」、「就職や進路」がそれぞれ14%であった。後期課程では、25%が「勉学」と「身体的不調」を回答していた。

「相談相手」は、前期課程は、「友人」が46%、「家族」が33%、「教員」が15%で、教員に相談する割合は教育部の中で最も多かった。後期課程は、「友人」、「家族」とともに33%で、教員は0%であった。

現在の「精神状態」は、前期課程では「気分は普通」が30%で最も多い一方で、「なんとなく不安」、「落ち込みやすい」がそれぞれ17%、「いらいらする」と「やる気がでない」がそれぞれ10%で、精神状態への支援の必要性が高い。後期課程では、「気分は普通」が75%であった。

「保健管理・総合相談センター」を利用したことがあると回答したのは前期課程で62%であったが「保健管理・総合相談センター保健管理部門があることを知らなかった」学生は24%で、知らなかった学生の割合が増加傾向にある。後期課程では、利用したことがある学生は1人で、全教育部の中で最も少なかった。

第5章「学生生活上の問題点」で、「迷惑行為を受けたことがあるか」では、前期課程の79%が受けたことはなかったが、12%が「いたずら電話」、3%が「インターネットによる誹謗・中傷を受けた」、



「カルトのような集団への勧誘」を受けていた。また、9%が「盗難」や「痴漢」にあったことがあると回答していた。さらに、37%が交通事故の被害者または加害者、その両方になったことがあると回答している。迷惑行為への予防と事後対応の検討や交通事故防止への対策が必要である。後期課程では、75%が迷惑行為を受けていなかったが、同じく75%が交通事故の被害者または被害者と加害者の両方になったことがあると回答していた。法律上禁止されている薬物はすべての学生が使用していなかった。

「総合相談部門（学生相談室）の利用」について、「利用したことがある」学生は前期課程で3%、「知らない」と回答した学生が59%であった。また、利用した学生は対応について「どちらかといえば不満足である」と回答しており、認知度の向上も含めて検討課題である。

「大学事務室の対応満足度」は、「満足している」と「どちらかといえば満足である」を合わせた割合は、前期課程で85%、後期課程は100%であった。

第6章「修学状況について」の「教育理念・方針と教育に対する満足度」では、前期課程において、「教育理念や教育方針を知っている」割合は、「良く知っている」「だいたい知っている」の合計が56%、後期課程が75%で、どちらも第5回調査より減少している。教育理念や教育方針に沿った教育を受けていると「思う」は、前期課程で94%、後期課程が67%で、いずれも第5回調査より減少していた。教育課程の満足度は、前期課程では、「満足している」「どちらかといえば満足している」が82%、「どちらかといえば不満足である」「不満足である」が16%であった。後期課程は、「満足している」「どちらかといえば満足している」が50%であった。「大学院に相応しい教育」では、前期課程において、「充分に行われている」が34%で第5回調査より減少している。「あまり行われていない」と「全く行われていない」は12%であった。後期課程では、「充分に行われている」と「ある程度行われている」の合計が75%であった。

「本学を選んだ理由と目的」では、前期課程では「希望する研究分野があるから」が最も多く28%、次いで「出身大学だから」が23%であった。「研究環境が整っているため」は3%、「希望する就職先がなかったから」は0%であった。後期課程では、「希望する研究分野があるから」と「就職等将来を考慮して」が29%で等しい割合であった。徳島大学出身者において、前期課程に第一志望で入学した学生は91%、後期課程は100%であった。徳島県以外の出身者は、前期課程に第一志望で入学した学生が63%、後期課程は100%であった。

「大学院での勉学により目指すもの」については、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が72%と最も高かったが、第5回調査と比較すると減少している。後期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」と「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」がそれぞれ50%であった。保健科学は、看護学、医用検査学、医用情報科学の3領域から構成されており、修了後は、各領域で医療人として活躍することが多いため、「高度な専門知識・能力を持つ、高度専門職業人」「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」の回答頻度が高いと思われる。

「授業の内容や進め方」について、「満足している」「ある程度満足している」と回答した学生は、前期課程で82%、後期課程では100%であった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」について、前期課程では「90分～5時間未満」が最も多く34%、「5～10時間未満」と「10～20時間未満」がそれぞれ16%であったが、9%は「90分未満」であった。後期課程では「5時間～10時間未満」が50%であった。

「研究を直接指導している教員」について、「教授」と回答した学生は、前期課程では94%で教育部の中で最も割合が高かった。後期課程では75%であった。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」について、前期課程では「30分～90分未満」が38%で最も多く、次いで「30分未満」が34%、「90分～5時間未満」が19%であった。後期課程では「30～90分未満」が75%であった。学年によって差が生じている可能性がある。

「研究指導の内容や進め方についての満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程が81%、後期課程は75%で、第5回調査より減少している。

「修士論文の研究テーマに関する満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、97%で、第5回調査より増加している。「博士論文の研究テーマに関する満足度」については全員が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答していた。

「指導教員とのコミュニケーション」について、前期課程では「充分とれている」「ある程度とれている」72%で、第5回調査より減少している。「まったくとれていない」学生はいなかった。後期課程では「充分とれている」が75%であった。

「研究環境の満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で72%、後期課程は75%であった。「研究環境に満足していない理由」について、前期課程では「研究時間」が63%、次いで「研究費用」が25%であった。後期課程は「研究費用」であった。

「所属大学院の満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で91%、後期課程では75%であり、前期課程の9%と後期課程の25%は「どちらかといえば不満足である」と回答しており、改善が望まれる。

「図書館の利用頻度」について、前期課程では「半年に1回程度利用する」学生が最も多く28%、次いで「1週間に1回程度利用する」と「1か月に1回程度利用する」が19%であった。後期課程では「1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である」が50%であった。社会人で家庭を持ち就労している学生にとって、利用しにくい状況であると推測される。

「電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度」について、前期課程では「1週間に2～3回利用する」学生が最も多く、44%、次いで「1週間に1回程度利用する」が31%であった。後期課程では「ほぼ毎日」「1週間に1回程度利用する」「2週間に1回程度利用する」「半年に1回程度利用する」がそれぞれ25%ずつであった。

「図書館のサービスに対する満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で90%、後期課程で100%であった。

「入学後の海外渡航の経験」について、「ない」と回答した学生は、前期課程で81%、後期課程は100%であった。前期課程で海外渡航の経験のある者のうち、「留学」と「学会参加」目的が43%、残りの57%は「観光」であった。

「国際学会への参加」について、前期課程の91%、後期課程では100%が「国際学会で発表をしたことがない」と回答した。課程在籍中の国際学会参加の推進が課題といえる。

「英会話能力」について、「できない」「あまりできない」と回答した学生は前期課程で62%、後期課程では100%が「あまりできない」と回答した。「語学に関する自己学習」について、「何もしていない」と回答した学生は、前期課程で61%、後期課程で20%であった。前期課程の学生の英会話能力向上に向けた取り組みが必要である。

「大学院での学習への取り組み」について、「よく学習している」「かなりしている」と回答した学生は前期課程では44%、後期課程では75%で、第5回調査と比較して減少傾向にあり、特に前期課程は全教育部の中で最下位である。要因を調査・分析し、早急に環境要因と個人要因の両側面から改善や支援に取り組む必要がある。

「本学の教育に望むこと」について、前期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」が最も多く26%、次いで「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が21%であった。後期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」と「産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究」が25%であった。学生のニーズに配慮したカリキュラムやシラバスの検討が望まれる。

「本学の国際化への対応」について、「非常に積極的であると思う」「どちらかといえば積極的であると

思う」と回答した学生は、前期課程で82%、後期課程で100%であった。前期課程では第4回調査と比べ増加し、第5回調査とほぼ同様であった。

第7章「進路選択・就職について」では、前期課程で「就職したい」学生が63%で最も多く、「後期課程への進学意思」があるのは12%であった。また、「未定」は25%であった。後期課程への進学意志のある学生のうち、本学を希望しているのは50%であった。前期課程で就職を希望する者のうち、43%が「専門職（医師等）」と回答した者が最も多かった。「進路選択で重視する要件」は、前期課程では「就職先の将来性・安定性」が最も多く28%、次いで「能力を発揮できること」が24%、「収入」が23%、「勤務地の地理的条件」が20%であり、これらの4項目が主要件になっていた。後期課程では、「収入」と「能力を発揮できること」がともに33%であった。

「進路選択の情報の入手手段」は、前期課程では、「Web・インターネット」が最も多く33%、次いで「先輩・知人」が24%、「指導教員」は15%であった。後期課程では、「先輩・知人」「就職情報誌・新聞・マスコミ」「Web・インターネット」がそれぞれ25%であった。

「キャリア支援室の利用状況」については、前期課程は97%が、後期課程の全員がキャリア支援室を利用したことがない、と回答しており、第5回調査と全く同様の結果であった。保健科学教育部の大学院生は専門性の高い免許や資格を持ち、比較的限定された業種へ就職することが多いためと推測される。

「就職に関する大学への希望」は前期課程では「就職情報誌など就職関係書籍の充実」と「面接対策・履歴書の書き方などの実践的指導の充実」が同率で24%、次いで「就職ガイダンスの充実」が16%であった。後期課程では「面接対策・履歴書の書き方などの実践的指導の充実」と「企業説明会の内容充実」が同率で29%であった。専門性の高い業種への就職支援の充実が望まれる。

以上を踏まえ、以下の5点を今後の課題としてあげた。

#### 1. アンケートの回収率を上げること

今回の調査は、前回の第5回に比較し低下した。大学院生の学生生活を広く正確に把握するには、メールやWeb上での回答を可能にするなど、社会人で遠方の学生が回答しやすいようなシステムの工夫が必要である。

#### 2. 分野・コース毎の特徴を明確にした分析と支援

本教育部には、3領域の学生が在籍し、それぞれ大学院進学の目的や経緯、進路への考え方が異なる傾向にある。専攻の特性をふまえて分析することが、今後の細やかな支援の改善につながると考える。

#### 3. 心身の健康への支援

本調査対象者は前期課程の学生の睡眠時間が短く、両課程ともに7割前後が頭痛などの気になる症状を抱えながら修学している。心身共に良好な状態で学修・研究活動に取り組めるような支援が必要で、そのためには認知度や利用頻度の低い保健管理・総合相談センター利用の周知を図る必要がある。

#### 4. 研究環境と所属大学院の満足度の向上

研究環境が十分ではないと考える学生は、研究時間と研究費用の不足を課題としてあげていた。保健科学教育部の学生の中に社会人学生の割合が高いことが背景として考えられるため、研究と就業との両立への助言・指導等の支援が必要である。また、少数ではあるが大学院に対してどちらかという不満と回答した学生も存在していることから、満足度を上げるための取り組みを検討し、大学側として可能な事案について、対応していく必要がある。

#### 5. 国際学会への積極的な参加への支援

国際学会で発表したことがないと答えた学生の割合が前期課程、後期課程ともに多く、大学院の国際化に向けて国際学会への積極的な参加の支援を強化する必要がある。国内の国際学会での発表は少数ながらあるものの、海外の国際学会での発表は皆無であった。渡航費用や英会話能力などの課題があるが、資金獲得や英語能力の向上への支援に早急に取り組む必要がある。

## 8-7 先端技術科学教育部

先端技術科学教育部の学生数は、前期課程が671人、後期課程が131人であり、今回の調査における学生の回答割合は、前期課程が71.2%、後期課程が45%である。

第1章「本調査の対象者について」より、前期課程の出身地は、徳島県34%、近畿32%、徳島以外の四国13%、中国11%と徳島県と近隣府県の占める割合が極めて高くなっている。後期課程では徳島25%、近畿18%、徳島以外の四国5%となっている。また、本学出身者の割合は、前期課程で91%と高い割合となっているが、後期課程では、本学出身者が24%で、5%が国内他大学・大学院、29%が徳島大学大学院修士・博士前期課程出身となっている。社会人と留学生の割合は、前期課程でそれぞれ2%、5%と極めて少数である傾向は変わらないが、後期課程では、それぞれ、8%、49%と大変増加している。

第2章「家族・住居・通学」より、住居は、家族と別居したアパート・マンションが、前期課程で67%、後期課程で53%、自宅が前期課程で28%、後期課程で22%となっている。後期課程においては、配偶者がある家庭が21%になっており、これが後期課程における自宅の割合を引き上げている要因になっていると推定される。さらに後期課程では国際交流会館が19%をしめ、国際交流会館が留学生の住居として大きな役割を果たしている。通学方法は、自転車前期課程64%、後期課程52%と最も多く、前期課程では、次いで徒歩、バイク、自動車の順である。後期課程では、自転車の次は徒歩、自動車、バイク、バス・JRの順となっている。15分未満の通学時間の割合は、前期課程で71%、後期課程では59%である。

第3章「収入・支出について」より、平均収入月額、前期課程では、3万円未満が52%と最も多く、収入額の増加とともに割合が減少する傾向がある。後期課程でも、3万円未満が31%と最も多いが、3万円以上から30万円以上まで、広く分布している。また、親等からの援助について前期課程でみると、全くないと3万円未満の援助が18%と29%で第5回調査(24%と23%)とほぼ同じである。後期課程では、54%の学生が全く援助を受けていないと回答している。奨学金については、「受給中であるが、更に希望する」割合が、前期課程で41%、後期課程で63%と高くなっている。また、「現在受給していないが希望する」ものの割合は前期課程で6%、後期課程で22%とほぼ変化がなく、前期に比べて増加している。両課程において、奨学金をより充実させる必要があり、特に、後期課程の徳島大学ゆめ奨学金制度をさらに充実させなければならない。

アルバイトは、前期課程で58%、後期課程で31%の学生が従事している。第5回調査時には、前期課程で50%、後期課程で21%と増加している。アルバイト従事時間数は10時間未満の学生は前期課程で54%、後期課程で61%である。また、アルバイトの目的も生活費や学費のためが最も多く、前期課程では40%だが、後期課程では52%となっており、前期課程よりもより手厚いサポートが必要であることがわかる。また、アルバイトにおいて、前期課程の22%、後期課程の17%の学生はトラブルに遭遇している。特に前期課程の3%の学生が事故・ケガを経験しており、内容などの把握が必要である。

第4章「健康状態について」より、気になる症状が、「時々ある」と「常にある」の割合が前期課程で37%、後期課程で63%になっており、特に後期学生の割合が高い。主な悩みや不安については、前期課程においては就職や進路、後期課程では勉学や経済状態が最も多くなっているものの多岐にわたっており、個々人の悩みに応じた多様な対応が必要とされている。相談相手としては、友人や家族に相談する割合が高くなっている。しかし、誰にも相談しないものも前期課程13%、後期課程14%程度存在しており、深刻な状態になる前に、学生相談室や教員等に早期に容易に相談できることを周知する必要がある。

現在の精神状態については、普通または充実していると回答した割合が、前期課程で69%、後期課程

で71%あり、残りの学生は、なんとなく不安、やる気が出ない、いらいらする、落ち込みやすい等精神状態に問題を抱えている。この傾向は、第5回調査とほぼ同じ割合ではあるものの引き続き対策が必要であると考えられる。保健管理・総合相談センターがあることを知らない学生が未だ前期課程で3%、後期課程13%おり、特に後期課程には多いことから、ガイダンスなどで留意して周知する必要がある。

第5章「学生生活上の問題点について」より、迷惑行為は前期課程で84%、後期課程で86%が迷惑行為を受けたことはないと回答しており、第5回調査とほぼ同じ結果となっていた。第3回調査からカルト集団からの勧誘が項目に加わっているが、問題となっている迷惑行為の中では前期課程で4%、後期課程で3%の学生が被害を受けており、注意喚起および対策が必要である。また、アカハラも前期課程で2%、後期課程で3%の学生が受けたと回答している。

犯罪被害については、前期課程では18%の学生が何らかの被害を受けており、後期課程でも10%が被害を受けている。事件の中では盗難が最も多く、「現金・貴重品の常時携行」、「自転車の施錠」等盗難予防の周知徹底に努める必要がある。交通事故については、前期課程で33%、後期課程で27%が被害者・加害者のいずれかに関わっており、交通安全に関する教育と周知徹底をする必要がある。また、違法薬物使用については前期課程において7名、後期課程において1名が経験ありと答えており、看過できない。

大学事務室の対応は、どちらかといえば不満足と不満足を合わせた割合が前期課程では15%、後期課程では9%となっており、概ね満足していることがわかる。

第6章「修学状況について」より、教育部の教育理念や教育方針は、前期課程でだいたい知っているものを含めて41%、後期課程では59%の割合でしか知られておらず、周知方法を再度検討する必要がある。教育課程、教育レベル、授業の内容や進め方に対しては後期課程の満足度がやや高い傾向が見られるが、両課程において、90%以上の満足度が得られている。

本学への進学理由は、前期課程では第5回調査と類似しており、「出身大学（40%）」が最も多く、「就職等将来を考慮（17%）」、「継続して修学（14%）」、「希望する研究分野（13%）」と続いている。後期課程では、「出身大学（21%）」が最も多く、「希望する研究分野」（20%）、「研究環境が整っているため」、「継続して修学」、「指導教員の勤め」が13%となっている。また、本学出身者は、本学の大学院を第1志望とする割合は、前期課程では85%第5回調査とほぼ同じであるが、後期課程は77%と第5回調査の95%から大きく減少した。他大学卒業者では、前期課程で61%と第5回調査の53%から増加し、後期課程で43%が第1志望と、第5回調査の88%から大きく減少していた。

研究活動の1週間平均時間として、20時間以上と回答した割合は前期課程では54%、後期課程では78%である。また1日8時間、5日間とすると40時間程度は研究時間に確保できるが、40時間未満と回答した割合は前期課程では74%、後期課程では44%もあった。前期課程では、1週間の研究活動が週90分以下の学生が9%と第5回調査よりも増加している。研究活動が生活の中心であるはずの大学院生が十分に研究をしていないというのはなぜか、健康面・心の状態も含めて至急調査し、対策を講じる必要がある。また、直接的に研究指導を受けている教員は、後期課程では、78%が教授、14%が准教授と、教授の割合は前期課程（56%）よりも多い。研究指導を受ける時間は、前期課程では第5回調査とほとんど変わらず、週30分未満の割合が22%、30～90分未満が39%、90分～5時間未満は33%、それ以上は6%である。後期課程でも、30分未満の割合が19%、30～90分未満が42%、90分～5時間未満は24%、それ以上は15%と第5回調査と全体的な傾向はほぼ変わらない。研究指導、研究論文のテーマ及び指導教員とのコミュニケーション、研究環境、大学院に対する満足度は、前期課程、後期課程、留学生ともに比較的高い満足度となっている。しかし、指導教員との「コミュニケーションがあまりとれていない」、「まったくとれていない」学生が前期課程で17%、後期課程で4%が存在している。学生の研究時間や指導時間が短いことと、コミュニケーションの指導時間の確保などの関連など、今後

要因を解析し、改善に取り組む必要がある。研究環境の満足度は、前期課程で81%、後期課程で86%と比較的高いが、満足していない学生からは施設・設備、研究費を理由としてあげる学生が多く、これらの学生の研究環境の充実も今後の課題である。

海外渡航経験は、1回以上経験した学生が、前期課程では31%、後期課程では、57%となっている。渡航目的は、前期課程では観光が最も多く、38%となっているものの、留学、語学研修、学会参加、学術調査、社会調査をあわせて57%、後期課程では56%となっていた。国際会議での発表は、前期課程で28%、後期課程で68%が経験しており、後期課程では第5回調査よりも増加している。特に学会参加への資金援助、特に前期課程の学生への援助をより充実し、早くからより多くの学生が参加できるように支援する体制の充実が引き続き必要である。

英会話については、前期課程において、何とか日常会話ができるレベル以上と回答した割合は32%で、後期課程は46%である。TOEIC、TOEFL等の受験等語学力の向上に努めている割合は前期課程で59%、後期課程で64%であり、より実践的なコミュニケーションの機会を増やす必要があると考えられる。

第7章「進路・就職について」より、前期課程の学生は7%ほどしか後期課程に進学を考えていない。また、就職希望職種としては、前期課程で技術職、企業等の研究職が前回とほぼ同様の60%、22%となっていた。後期課程では、63%が無回答を選択しており、大多数は将来について確固たるキャリアが描けていないためであり、これについては後期課程の学生を増やす上でも大きな課題である。進路選択で重要視しているのは、前期課程の学生は就職先の将来性・安定性、収入をあげており、後期課程では、将来性、安定性の他、収入、能力を発揮できることなどを挙げている。進路の情報入手先は、Web・インターネットが前期課程で32%、後期課程で22%と最も多くなっている。前期課程では先輩・知人(23%)や就職情報誌マスコミ等(11%)より、指導教員(10%)や就職担当教員(6%)の割合が低くなっている。一方、後期課程では、指導教員も24%と先輩・知人(16%)と同程度重要となっていた。キャリア支援室は前期課程は44%が、後期課程では76%が利用したことがないと回答している。一方、就職支援に対する要望は多く、研究面のみならず、就職の面でも教員と学生、キャリア支援室とのコミュニケーションが十分に取れていないことがうかがい知れる。

本調査から明らかにされた問題点と課題を列挙すると以下のとおりである。

特に次の点は重点的に行う必要があると思われる。

1. 学生の研究時間が少ない。要因を明らかにし、学生の学習意欲を高めるための大学院教育カリキュラムや指導を充実させる。
  2. 違法薬物使用者がいる。違法薬物の有害性、厳罰化を周知するなどの啓発活動を徹底する。
  3. 学生の経済状況が厳しい。特に博士後期課程の学生には、奨学金制度や学会発表を行う上での支援制度を充実させる。
  4. 博士前期課程の学生の博士後期課程への進学意欲が低い。1.3.の項目も含め、進学の障害となることへの対策を十分に検討すること。
  5. 海外での学会発表が少ない。学会発表のための支援制度を充実させる。
- その他に下記の点にも取り組むこと。
6. 教育部の教育理念や教育方針の周知徹底。
  7. 研究環境のさらなる充実。
  8. 学生の多様な悩みやハラスメントに対応するためのシステムの充実とその周知徹底。
  9. 交通安全教育の実施と交通安全に関する周知徹底。

## (特記) 留学生の現状と課題

留学生の現状と課題をアンケートの関連項目から検討する。本学大学院在籍の留学生は157名であり、前期課程で59名、後期課程で98名である。第5回調査と比較して計4名が減少し、前期課程では4名の増加、後期課程では8名の減少になる。留学生の割合は前期課程では6%、後期課程では19.3%である。留学生の回答率は前期課程で55.9%、後期課程で61.2%であり、第5回調査と比較して前期課程、後期課程とも大幅増加になっている。

留学生の住居区分では、前期課程では6%が自宅、51%がアパート・マンション、31%が国際交流会館に居住していたが、後期課程では21%が自宅、51%がアパート・マンション、20%が国際交流会館に居住していた。後期課程の留学生のうち、総合科学では全員、医科学では47%が自宅に居住していた。住居費用については全体として居住費は、3万円未満が前期及び後期課程ともに64%であり、3万円～4万円未満が前期課程で18%、後期課程で28%であった。留学生の半数以上は3万円未満の居住費で生活していた。

収入については、前期課程の1か月の平均収入は6割強が5万円未満、さらに3割弱は3万円未満であり、多くは奨学金等の受給による収入と考えられる。後期課程の6割強が10万円未満、25%が10～15万円未満の収入を得ており、第5回の結果とほぼ同様であった。親等からの援助額については、前期課程の37%は親等からの援助が全くなく、後期課程の66%が親等からの援助はなく、24%が5万円未満の援助である。留学生の経済状況がよいとはいえない。アルバイトについては、前期課程の37%がアルバイトをしているが、これは第5回の調査の結果(38%)とほぼ同じである。後期課程の18%がアルバイトを行い、この割合は第5回の調査の結果(22%)よりも4%減少している。アルバイトの収入金額は、第5回調査の結果と同じく、すべて7万円未満である。

留学生の健康状況については、前期・後期課程ともに気になる身体症状が「ある」とした学生は71%、84%である。これまでの調査同様、健康面の問題や不安に対する支援のニーズがあると思われる。また、主な悩みは、「勉強」、「就職や進路」、「経済状態」の悩みが多くなっている。悩み事を多くの学生が友人、家族、教員などの誰かに相談していることが分かる。留学生では何らかの症状を持っているのは2割弱で、精神的健康は良好な学生が多いと思われるが、保健管理・総合相談センターの認知度が低く、大学院生への周知が緊急の課題であり、国際センターと連携しながら対応していく必要があると思われる。

教育課程に「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が、前期課程で94%、後期課程90%である。大学院に相応しいレベルの教育が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が、前期課程で97%、後期課程92%と第5回調査と同程度であった。本学を選んだ理由と目的について、両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合が前期課程が32%、後期課程が27%と最も多かった。

留学生の研究活動については、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程では72%、後期課程では88%となる。また、指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は前期課程、後期課程ともに「30～90分未満」と回答した学生の割合(前期課程:37%、後期課程:41%)が最も多かった。研究指導の内容や進め方については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で94%、後期課程92%である。論文の研究テーマに関する満足度は、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で94%、後期課程で97%である。指導教員とのコミュニケーションに関する設問では、「充分とれている」または「ある程度とれている」と回答した学生の割合が、前期課程、後期課程ともに91%である。研究環境に「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で92%、後期課程94%である。所属大学院に対して、「満足している」または「どちらかといえば満足している」

と回答した学生の割合が、前期課程で97%、後期課程98%である。

日本語会話に関しては、前期課程では72%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答をしているのに対して、後期課程では56%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答となっている。前期課程では78%、後期課程では84%の留学生が日本語コースを「受講している」、「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる。また、日本語コースの満足度については、前期課程で、後期課程ともに100%「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、受講生の評価が高いことがわかる。留学生の日本語学習において本学で開講されている「日本語コース」が重要な役割を果たしており、今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。

大学院での学習への取組み状況についての質問に対して、留学生は前期課程、後期課程ともに94%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており、学生全体の数値に比べて大きく上回っており、一般学生の学習意欲を高める良い影響が期待できる。

本学の国際化への対応については、前期課程の85%、後期課程の94%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えており、第5回調査と比較してやや評価(前期課程77%、後期課程92%)が高くなっている。こうした結果は、本学が行っている国際化への対応は大学院生にある程度浸透していると考えられるが、さらなる改善が必要である。

進学選択に関して、全体として「進学したい」が20%、「経済的支援があれば進学したい」が20%であり、日本人学生に比べ進学意欲を持つ学生が多い。進学希望者の64%は、本学の博士(後期)課程を希望し、21%が他大学を希望している。進路情報の入手手段については、留学生は日本人学生と同様、目立つのはWeb・インターネットである。後期課程の留学生は、教育・研究職志望が高く、収入、就職先の将来性・安定性、能力を発揮できることが進路選択の主要件である。また、キャリア支援室の利用状況については、前期課程の留学生の場合、「現在も利用している」「以前に利用したことがある」とする回答は、第5回調査より7ポイント上昇しており、後期課程の場合、利用率は1ポイント減少している。利用率を高める工夫が必要であると思われる。

## 今後の課題

本学では、第3期中期目標期間中に350人以上の外国人留学生を受入れる目標を立てている。また、「徳島大学改革プラン」においても、外国人留学生を日本に定住させることを目標に、日本語教育を更に充実させて学部留学生を増加させ、外国人留学生の在籍者率を3%から6%に引き上げる目標を掲げ、さらに、日本人学生のグローバル化教育を推進するため、海外派遣を倍増する目標も掲げている。これらの目標を達成するためには、

1. 経済状況は恵まれてない留学生に対する住宅(日本人学生との混住型)、奨学金や授業料免除制度の拡充、TA、RA制度の活用などを含むさらなる支援を充実し、安心して勉学できる環境を整備する必要があると思われる。
2. 日本人学生の国際化意識の向上および異文化体験、英語能力、コミュニケーション能力の向上を強化する必要があると思われる。また、留学生の日本文化体験、日本語能力を向上するため、日本人学生と留学生との交流の場を整備する必要があると思われる。
3. キャリア支援室と国際センターが連携しながら、留学生の日本国内就職支援を強化する必要がある。などが考えられる。



## 第9章 総括と提言

大学院生を対象とした学生生活実態調査は、大学院生の就学及び生活の実情を的確に把握し、大学として支援する事項を見出すことが主な目的である。今回（第6回）の調査は、本学大学院に在籍する1,480名（前期課程971名（うち留学生59名）、後期課程509名（うち留学生98名））を対象に行い、全体のアンケート回収率は60%と、これまでの50%台から僅かではあるが高上した。しかし、本調査目的である学生の生活実態を正確に把握するためには、一層の回収率の高上が求められる。

第6回調査の結果は、2年前に実施した第5回調査から数値の変動はあるものの、傾向は大きくは変わっていない。教育部間で結果にバラつきがあるが、本調査の目的である大学院生の支援に大学全体としてどう活かすかという観点から、以下に総括と提言を取りまとめた。

### 1. 経済状態について

学生を取り巻く経済状態は依然として厳しいことが窺われる。特に後期課程の学生は、いずれの教育部においても半数以上が保護者等からの経済的支援を受けておらず、全体の割合は68%と前期課程23%と比べ高く、収入面での独立傾向が強い。そのことが、後期課程で奨学金希望者が64%と、希望者が第5回調査から減少した前期課程（48%）よりも高く、また、アルバイトを「生活費や学費のため」と回答した学生の割合が、後期課程（58%）の方が前期課程（40%）よりも多いという結果に繋がっていると思われる。アルバイトに25時間以上従事している学生の割合が、後期課程では11%（前期課程：1%）もあり、学業への支障が危惧される。経済的に援助が必要な学生が学業に専念する時間を持つことができる支援の構築は、大学院の充実に向けて取り組むべき継続的重要課題の一つである。

### 2. 健康状態について

身体的健康については、約半数の学生が「気になる症状がある」と回答しており、その割合は前期課程より後期課程の方が、また男性より女性の方が、それぞれ多く、ともに第5回調査より増加している。精神的健康については、約3割の学生が不安などの何らかの精神的不調感を持っている。悩みや不安の多くは、「勉学」、「就職」、「経済状態」といった学生特有の問題である。この様にこれまで同様、健康面・精神面の問題に対する支援のニーズが高いと思われるが、悩みや不安の相談相手は身近な友人や家族が主であり、総合相談部門（学生相談室）や保健管理部門の利用は依然として低調である。健康状態を適確に把握し早期に対処していくためにも、専門家による支援が重要であることから、支援窓口として保健管理・総合相談センターを気軽に利用してもらう体制整備に加え、指導教員が学生の変調を一早く把握し、必要に応じて学生に当センターの利用を促すことも必要であろう。

### 3. 生活上の問題点について

ハラスメント（「セクハラ」、「アカハラ」、「飲酒強要」）は、残念ながら今回の調査においても皆無とはならず、引き続き適切な予防啓発活動が望まれる。支援窓口となる総合相談部門（学生相談室）の利用率は増加しているが、一方で認知率は低下していることから、学生への周知を促す一層の工夫と、多様な事例に対応できる支援体制を充実させていくことが必要である。

違法薬物使用の経験が「ある」と回答した学生が9名いたことから、今後も引き続き違法薬物使用撲滅に向けた啓蒙活動を強化する必要がある。

### 4. 修学状況について

前期・後期課程ともに、授業および研究指導に対して高い満足度が維持されており、教員との意思疎通も良好で、全体として教育部に90%以上が満足している結果が得られた。今後も学生の高い満足度が維持されるように、努力を継続することが求められる。研究環境に対する不満としては、「施設・

設備]、「研究費用」が多いが、改善にあたっては、大学の財政事情が今後更に厳しくなる中で、教員の研究費獲得への一層の努力が必要となるであろう。

図書館の利用頻度は教育部間で大きなばらつきがあるが、図書館のサービスに対して両課程ともに90%以上が満足しており、学生からの評価が高い。中でも日々の研究活動に必要な不可欠なものとして学生の利用頻度が高い電子ジャーナルやデータベースの充実は、学生の自律的な研究活動を支援するためにも望まれる。

大学の国際化への取組みは学生から評価を受けているが、一方で、学生の英会話習得に向けた学習努力や、海外渡航経験、国際学会における発表経験などは低調に推移しており、学生の国際化意識は高いとは言えない。国際的に通用する有能な人材育成に向け、グローバル化教育の整備・推進、国際学会への発表支援などを組織的に強化していくことが求められる。

#### 5. 進路・就職について

前期課程から後期課程への進学を希望する学生は、多いとは言えない。後期課程への進学を促すためには、経済的支援や修了後の就職先の開拓など学生が安心して進学できる環境整備を進めていくことが必要である。

大学院生のキャリア支援室の利用率は第5回調査から増加しているが、「利用したことがない」との回答が両課程とも半分以上あり、まだ十分に活用されていない。学生の就職希望先は高度な専門職、研究職、技術職など教育部間で異なるが、就職に関する学生の要望の多くにキャリア支援室は対応できることから、キャリア支援室は各教育部と連携してサービス内容の周知に、より一層努めていくことが望まれる。

#### 6. 留学生について

留学生の学習への良好な取組み状況や教育課程への高い満足度を維持し、大学院の国際化を加速していくためには、日本人学生と同様にニーズの高い経済的支援と健康面に関する支援の一層の対策に加えて、修学・生活支援となる日本語学習の充実と英語による学生への各種サポート体制の整備が必要である。

# あ と が き

平成17年度から隔年で行われている大学院生を対象とした生活実態調査は、今回で6回目となります。調査は継続性の観点から、文言の変更を除いてほぼ同じ内容（項目）で行われて来ています。前回（第5回）調査からは大きな変化が見られていませんが、このことは大幅な改善も、社会的要因による急激な影響もないことを示しています。本調査も開始から10年を超えますが、これまで各回の調査においても、それぞれ前回調査と大きな変化はみられていないという結果ですので、今後は前回からの急激な変化に注目するだけでなく、より長い期間で変化の傾向を把握していくことも必要ではないかと思えます。また、アンケート調査では、多数の声に注目が行き、少数の声が埋もれてしまいがちですが、少数だが切実な問題を抱えている学生の声を見逃さず、拾い上げていくことが重要です。それこそが本調査の本質だと思います。

毎回、調査回収率が問題として挙がり、回収率向上の方策として、調査項目の絞り込みや調査時期、回収方法などの実施方法の工夫や改善が指摘されますが、アンケート結果を基に、学生に目に見える形で改善をフィードバックしていくことが最も有効な解決策ではないかと思えます。学生がアンケートに回答することに意義を見出してくれるように、調査結果を活かす取り組みを進めていくことが、今後の大きな課題です。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただいた大学院生諸君、調査・分析、報告書の執筆を担当された委員の先生方およびご協力頂いた事務職員の皆様に深く感謝します。

学生生活支援室長

滝 口 祥 令

第6回

# CAMPUS LIFE

キャンパスライフ

## 大学院生生活実態調査報告書

### 徳島大学

平成29年3月



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。(平成26年3月26日)

- ・認定評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
- ・認定期間：7年間(平成26年4月1日～平成33年3月31日)

